

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
運動と健康 a	佐久間 彩	1
運動と健康 b	能代 時矢	2
運動と健康 c	平野 陸	3
運動と健康 d	平野 陸	4
日本国憲法 a	古屋 等	5
日本国憲法 b	古屋 等	6
日本国憲法 c	古屋 等	7
日本国憲法 d	古屋 等	8
日本国憲法 e	古屋 等	9
キリスト教の精神と文化II a	小幡 幸和	10
キリスト教の精神と文化II b	野口 良哉	12
キリスト教の精神と文化II c	結城 敏也	14
キリスト教の精神と文化II d	舘野 真	16
キリスト教の精神と文化II e	鈴木 光	18
キリスト教の精神と文化II f	小幡 幸和	19
キリスト教の精神と文化II g	野口 良哉	21
キリスト教の精神と文化II h	山中 俊克	23
キリスト教の精神と文化II i	舘野 真	24
キリスト教の精神と文化II j	鈴木 光	26
キリスト教の精神と文化II k	小幡 幸和	27
キリスト教の精神と文化II l	野口 良哉	29
キリスト教の精神と文化II m	結城 敏也	31
キリスト教の精神と文化II n	舘野 真	33
キリスト教の精神と文化II o	鈴木 光	35
倫理学 a	銭谷 秋生	36
倫理学 b	銭谷 秋生	37
心理学 b	林 雅子	38
心理学 c	林 雅子	40
教育学	柳橋 晃	42
カウンセリングとメンタルヘルス a	水柿 義之	44
カウンセリングとメンタルヘルス b	水柿 義之	46
対人関係の心理学 a	水柿 義之	48
対人関係の心理学 b	水柿 義之	50
対人関係の心理学 c	水柿 義之	52
歴史学	藤野 真拳	54
グローバリゼーションを考える	林 寛一	55
教育と人権	古屋 等	56
共に生きる	池田 幸也	57

ジェンダーの現在 b	友野 清文	58
ジェンダーの現在 a	中島 美那子／石塚 美也	60
家族を考える	友野 清文	61
貨幣論 a	栗原 正樹	62
貨幣論 b	栗原 正樹	63
データサイエンスI b	有澤 正樹	64
データサイエンスI c	小貫 哲平	65
データサイエンスI d	小貫 哲平	67
地域を学ぶ a	川又 啓蔵	69
生命科学 a	野澤 恵	71
生命科学 b	野澤 恵	72
生命倫理	柳橋 晃	73
災害と人間 a	川又 啓蔵	75
災害と人間 b	川又 啓蔵	77
災害と人間 c	川又 啓蔵	79
はじめての統計学	有澤 正樹	81
宇宙の探究 b	野澤 恵	83
汎用的スキルA a	田原 真人	84
汎用的スキルA b	田原 真人	86
食と文化	荒田 梨紗	88
汎用的スキルC a	阿部田 恭子	90
汎用的スキルC b	阿部田 恭子	91
問題解決演習A	菅野 弘久	92
問題解決演習C	廣水 乃生	93
異文化間コミュニケーション	Dzyabko, Yuliya	95
英語文学概論A	菅野 弘久	96
児童文学(英語圏)	菅野 弘久	98
英語学概論C	Dzyabko, Yuliya	99
コミュニケーション概論	Dzyabko, Yuliya	101
ホスピタリティ論	澤井 萌	102
グローバルイングリッシュ	野田 知子	104
児童文化I Pe	宮崎 麻子	106
言語教育I Pe	渡邊 洋子	107
言語教育II Pe	渡邊 洋子	109
発達障害学 Pc	久保 愛恵	111
地域社会研究I Pe	鈴木 克彦	112
地域社会研究II Pe	鈴木 克彦	113
特別支援教育 Pe	椎木 久夫	114
東洋史	松浦 史明	115

西洋史	中田 潤	116
歴史学A	藤野 真拳	117
観光地理学	薄井 晴	118
社会学A	勝山 紘子	119
社会学B	勝山 紘子	120
歴史学B	藤野 真拳	121
民俗学	清水 博之	122
日本史A	藤野 真拳	124
日本史B	藤野 真拳	125
ヨーロッパの歴史と文化B	勝山 紘子	126
地誌	薄井 晴	127
法学 a	古屋 等	128
法学 b	古屋 等	129
サステナビリティ入門	廣水 乃生	130
生命と倫理	銭谷 秋生	132
人間と哲学	銭谷 秋生	133
人権と教育	古屋 等	134
社会学 a	勝山 紘子	135
社会学 b	勝山 紘子	136
生活と政治	林 寛一	137
ジェンダー福祉論	吉田 滋	138
障害者・障害児心理学	望月 珠美	140
社会病理学	渡邊 健蔵	142
心理福祉特講B	渡邊 健蔵	143
愛と死の人間学	佐々木 徹	144
人間観と倫理A	佐々木 徹	146
人間観と倫理B	佐々木 徹	147
社会福祉発達史A	田家 英二	148
社会福祉発達史B	田家 英二	150
福祉心理学	望月 珠美	152
学習・言語心理学	生駒 忍	154
高齢者福祉I	池田 幸也	156
高齢者福祉II	池田 幸也	157
社会保障I	藤島 稔弘	158
社会保障II	藤島 稔弘	159
ファミリーソーシャルワーク論I	吉田 滋	160
ファミリーソーシャルワーク論II	吉田 滋	161
刑事司法と福祉B	高橋 活夫	162
福祉教育論I	望月 珠美	164

福祉教育論II	望月 珠美	166
医学概論	大平 裕子	168
マーケティング論I	澤端 智良	169
マーケティング論II	田口 尚史	170
流通システム論	田口 尚史	171
流通経営論	田口 尚史	172
入門簿記論	栗原 正樹	173
基礎簿記論	栗原 正樹	174
応用簿記論	竹内 翼	175
会社簿記論	竹内 翼	177
財務会計論I	栗原 正樹	179
財務会計論II	栗原 正樹	180
公共経営特講	野口 通	181
行政学	林 寛一	182
マーケティングコミュニケーション論	澤端 智良	183
中小企業経営論	椎名 則夫	184

科目コード	10030	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	運動と健康 a				
担当者	佐久間 彩				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜5限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	16. 振り返り用紙と応答(reflection paper)	
授業の概要					
健康を維持・増進し、心身の状態を整え、健康な心身を保つための方法のひとつに運動があります。本授業では、健康を適切に維持・増進するために必要な運動に関する正しい知識を学ぶことを目標とします。					
キーワード					
スポーツ 筋力トレーニング 有酸素性運動 高齢者 子ども 女性					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	1. 健康を維持・増進するために必要な運動に関する理論および実践方法について正しい知識を習得することができる。 2. 講義で学んだことを日常生活で生かす方法を考え、実践することができる。				
評価方法	期末テスト	評価割合	40%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業の内容を踏まえて自身の健康や運動に関する行動を分析し、自分の健康状態や体力の水準を理解し、それを改善する手立てを構築できる				
評価方法	毎授業行う小レポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
小レポートの記述状況で評価する。					
評価割合	20%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象としない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象としない。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	1. 授業概要の説明 2. 健康に関わる運動プログラムの紹介 3. 健康と体重の関係 4. 健康と体力・運動との関係 5. 健康寿命と運動の関係 6. 栄養と運動 (1) 7. 栄養と運動 (2)・救急処置 8. レジスタンストレーニング (1) 9. レジスタンストレーニング (2) 10. 有酸素運動 11. 運動と疲労 12. 幼児・児童の運動 13. 女性の運動 14. 高齢者の運動 15. まとめ
使用テキスト	適宜資料を配布します
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	配布した資料について理解を深めてください。 日頃から自分の身体・健康・運動に興味を持つとともに、ニュース等で運動やスポーツに関する情報に触れるよう心がけてください。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください
授業時間外の連絡手段	学務部に連絡、もしくはメールで連絡 (sakuma_aya@icc.ac.jp; ○を@に変えて送信してください)
留意事項	特になし。

科目コード	10030	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	運動と健康 b				
担当者	能代 時矢				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜4限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>「運動」が「身心の健康」に与える影響を多角的な視点から捉え、解説する。 また、運動および健康と関わりの深い「体力」の概念、トレーニング方法および評価方法を解説し、 運動を通して身心の健康を実現するためのノウハウを学ぶ。</p>					
キーワード					
運動、身心の健康、体力					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で扱った運動および健康に関する基礎的な知識について、概ねの内容を理解し、解答することができる。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験、自身の専門性等をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	各授業時ミニレポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が授業時ミニレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。 他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、厳重注意の対象とする。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティアム					
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時ミニレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要の説明 2. 健康と日本における健康づくり 3. 運動と生活習慣病① 4. 運動と生活習慣病② 5. 運動生理学① 6. 運動生理学② 7. 健康づくり運動の理論① 8. 健康づくり運動の理論② 9. 体力学 10. 体力測定と評価 11. 健康づくり運動の実際 12. 救急処置 13. 運動と心の健康増進 14. 運動と栄養 15. まとめ 定期試験
使用テキスト	授業で使用する資料は、IC-UNIPA上に配信する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業前には、その回のテーマの資料に目を通し、そのテーマの内容に関する不明な点や疑問点を見つけておくことが望ましい(60分)。 授業後は、配付資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。 参考資料・文献については、必要に応じて授業内で紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	学務部に連絡してください。
留意事項	PC等の端末の持参を推奨します。

科目コード	10030	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	運動と健康 Ⅰ				
担当者	平野 陸				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜3限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
「運動」が「心身の健康」に与える影響を多角的な視点から捉え、解説する。運動が心身の健康に及ぼす効果の理論的な背景を踏まえ、効果的なトレーニング方法および評価方法を解説し、運動を通して心身の健康を実現するためのノウハウを学ぶ。					
キーワード					
運動、心身の健康、体力					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で扱った運動および健康に関する基礎的な知識について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験、自身の専門性等をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	各授業時ミニレポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が授業時ミニレポートの記述内容によって認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象としない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時ミニレポートの記述内容によって認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回：授業概要の説明 第2回：運動と体力(1) 第3回：運動と体力(2) 第4回：体力の測定 第5回：運動と脳機能 第6回：運動経験と身体機能 第7回：加齢と体力 第8回：運動と生活習慣病(1) 第9回：運動と生活習慣病(2) 第10回：運動と筋 第11回：運動とエネルギー供給 第12回：栄養摂取と運動 第13回：運動と疲労 第14回：運動と環境 第15回：まとめ 定期試験
使用テキスト	授業で使用する資料は、IC-UNIPA上に配信する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業前には、その回のテーマ資料に目を通し、そのテーマの内容に関する不明な点や疑問点を見つけておくことが望ましい(60分)。 授業後は、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。 参考資料・文献については、必要に応じて授業内で紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	学務部に連絡してください。
留意事項	PC等の端末の持参を推奨します。

科目コード	10030	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	運動と健康 d				
担当者	平野 陸				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜4限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
「運動」が「心身の健康」に与える影響を多角的な視点から捉え、解説する。運動が心身の健康に及ぼす効果の理論的な背景を踏まえ、効果的なトレーニング方法および評価方法を解説し、運動を通して心身の健康を実現するためのノウハウを学ぶ。					
キーワード					
運動、心身の健康、体力					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で扱った運動および健康に関する基礎的な知識について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験、自身の専門性等をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	各授業時ミニレポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が授業時ミニレポートの記述内容によって認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象としない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が授業時ミニレポートの記述内容によって認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象としない。ただし、授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回：授業概要の説明 第2回：運動と体力(1) 第3回：運動と体力(2) 第4回：体力の測定 第5回：運動と脳機能 第6回：運動経験と身体機能 第7回：加齢と体力 第8回：運動と生活習慣病(1) 第9回：運動と生活習慣病(2) 第10回：運動と筋 第11回：運動とエネルギー供給 第12回：栄養摂取と運動 第13回：運動と疲労 第14回：運動と環境 第15回：まとめ 定期試験
使用テキスト	授業で使用する資料は、IC-UNIPA上に配信する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業前には、その回のテーマ資料に目を通し、そのテーマの内容に関する不明な点や疑問点を見つけておくことが望ましい(60分)。 授業後は、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい(90分)。 参考資料・文献については、必要に応じて授業内で紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	学務部に連絡してください。
留意事項	PC等の端末の持参を推奨します。

科目コード	10036	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	日本国憲法 a				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜4限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なります。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。</p>					
キーワード					
憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。					
評価割合	5%				
▼実践的ボランティア					
該当なし					
評価割合	0%				
▼公正性					
法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。					
評価割合	5%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 近代憲法の意義 3 現代憲法の特質 4 国民主権の原理 5 前文と平和主義 6 第9条と戦争放棄 7 基本的人権の観念 8 基本的人権の種類 9 基本的人権の限界 10 精神的自由権Ⅰ 11 精神的自由権Ⅱ 12 経済的自由権Ⅰ 13 経済的自由権Ⅱ 14 受益権・社会権 15 違憲審査 16 定期試験
使用テキスト	上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第5版〕（成文堂）2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分でなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	10036	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	日本国憲法 b				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	月曜1限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なります。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。</p>					
キーワード					
憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。					
評価割合	5%				
▼実践的ボランティア					
該当なし					
評価割合	0%				
▼公正性					
法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。					
評価割合	5%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 近代憲法の意義 3 現代憲法の特質 4 国民主権の原理 5 前文と平和主義 6 第9条と戦争放棄 7 基本的人権の観念 8 基本的人権の種類 9 基本的人権の限界 10 精神的自由権Ⅰ 11 精神的自由権Ⅱ 12 経済的自由権Ⅰ 13 経済的自由権Ⅱ 14 受益権・社会権 15 違憲審査 16 定期試験
使用テキスト	上野彦彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第5版〕（成文堂）2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分でなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	10036	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	日本国憲法 Ⅱ				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜1限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
<p>国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なります。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。</p>					
キーワード					
憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。					
評価割合	5%				
▼実践的ボランティア					
該当なし					
評価割合	0%				
▼公正性					
法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。					
評価割合	5%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 近代憲法の意義 3 現代憲法の特徴 4 国民主権の原理 5 前文と平和主義 6 第9条と戦争放棄 7 基本的人権の観念 8 基本的人権の種類 9 基本的人権の限界 10 精神的自由権Ⅰ 11 精神的自由権Ⅱ 12 経済的自由権Ⅰ 13 経済的自由権Ⅱ 14 受益権・社会権 15 違憲審査 16 定期試験
使用テキスト	上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第5版〕（成文堂）2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分でなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	10036	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	日本国憲法 d				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜2限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なります。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。</p>					
キーワード					
憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。					
評価割合	5%				
▼実践的ボランティア					
該当なし					
評価割合	0%				
▼公正性					
法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。					
評価割合	5%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 近代憲法の意義 3 現代憲法の特徴 4 国民主権の原理 5 前文と平和主義 6 第9条と戦争放棄 7 基本的人権の観念 8 基本的人権の種類 9 基本的人権の限界 10 精神的自由権Ⅰ 11 精神的自由権Ⅱ 12 経済的自由権Ⅰ 13 経済的自由権Ⅱ 14 受益権・社会権 15 違憲審査 16 定期試験
使用テキスト	上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第5版〕（成文堂）2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分でなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	10036	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	日本国憲法 e				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜3限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>国家は何のために存在するのか、憲法は何を目標にするのかを、私たちの権利や自由、すなわち人権を通じて学んでいきます。国家はそもそも、私たちの権利や自由を守るために、私たちの社会契約、すなわち憲法の制定を通じて創造された、と考えられています。しかし、私たち現代に生きる人間にとって、そのような認識は実際には希薄かもしれません。でも、自分たちの権利や自由を守るためには、憲法を守ることが大事であることはお分かりいただけるでしょう。私たちの人権も、他の人々に対して悪影響を及ぼさないように、その行使に一定の制限があることが、憲法自身によって「公共の福祉」という言葉によって宣言されています。その制約の程度は、人権の種類によって異なります。では、人権にはどのような種類があり、どの程度、保障されることになるのでしょうか。また、それらが他の人々や、法律などの国家権力によって不当に侵害されることになった場合には、どのように救済されるべきなのでしょうか。以上のようなことを学んでいくことが、この授業の主なテーマです。</p>					
キーワード					
憲法、統治権、基本的人権、国民主権、三権分立、法の支配、平和主義、個人の尊重、法の下での平等、公共の福祉、自由権、参政権、社会権、違憲審査					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	憲法と基本的人権や国家権力との関わりについて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	基本的人権はその社会的な影響力や平等で民主的な国家の形成のために、法律による一定の制約を受けることについて、「公共の福祉」の原理と関連づけて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。					
評価割合	5%				
▼実践的ボランティア					
該当なし					
評価割合	0%				
▼公正性					
法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。					
評価割合	5%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 近代憲法の意義 3 現代憲法の特徴 4 国民主権の原理 5 前文と平和主義 6 第9条と戦争放棄 7 基本的人権の観念 8 基本的人権の種類 9 基本的人権の限界 10 精神的自由権Ⅰ 11 精神的自由権Ⅱ 12 経済的自由権Ⅰ 13 経済的自由権Ⅱ 14 受益権・社会権 15 違憲審査 16 定期試験
使用テキスト	上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第5版〕（成文堂）2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分でなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II a				
担当者	小幡 幸和				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜2限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	08 協同学修 11 討論 16 振り返り課題と応答		
授業の概要					
<p>・聖書を引用した世界の様々な著名人の言葉や生き様について記したテキストを通して、現代世界において必要とされるグローバル・リテラシー（世界とその人々を知るために知っておくべき基本的教養）の一つとしての聖書やキリスト教精神について学びます。なお、テキストの英語部分については、必要に応じて教員が授業の中で和訳・解説をします。また、テキストの英語リーディング部分を少人数のグループ内で読んでもらうことがあります。</p> <p>・キリスト教の観点から現代世界の諸問題（いのちの大切さ、利他の精神、差別、社会の分断、暴力と平和、等）を考察し、混迷する現代にあって他者と共に生きる意味を考察します。</p> <p>・キリスト教の祝祭（クリスマス、イースター）の聖書的・歴史的・文化的意味を学びます。</p> <p>・テーマによっては、授業中にグループでの話し合いの時間を持つことがあります。また、授業に関連した考察や話し合いの記録等を振り返り課題として毎回の授業後に書いてもらいます。</p>					
キーワード					
世界の著名人による聖書引用、世界のキリスト教文化、暴力と平和、差別、キリスト教の祝祭					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けたキリスト教精神・文化や付随する社会問題について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。				
評価方法	定期試験、振り返り課題	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	定期試験、振り返り課題	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がリアクション・シートや学期末試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティアム					
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がリアクション・シートや学期末試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや発表、筆記試験等において、深刻な人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動が見られる場合には、厳重注意のうえ減点の対象とするので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	【第01回】	オリエンテーション・序論：聖書の言葉と世界の著名人 テキスト：Ch.1 ジャスティン・ビーバー
	【第02回】	いのちの大切さ テキスト：Ch.12 J.K.ローリング（「ハリー・ポッター」作者）
	【第03回】	聖書の言葉とaltruism（利他主義） テキスト：Ch.2 ビル・ゲイツ（参考：Ch.23 テッド・ターナー）
	【第04回】	聖書の言葉を引用するスポーツ選手 テキスト：Ch.3 ウサイン・ボルト、Ch.11 ネイマール （参考：Ch.6 マニー・パッキョ）
	【第05回】	キリスト教と医療 テキスト：Ch.26 日野原重明、Ch.16 ケント・プラントリー
	【第06回】	アフリカ精神とキリスト教 テキスト：Ch.27 タボ・ムベキ、Ch.25 ワンガリ・マータイ
	【第07回】	アメリカ合衆国の人種差別問題から考える（1） テキスト：Ch.13 チャドウィック・ボーズマン
	【第08回】	アメリカ合衆国の人種差別問題から考える（2） テキスト：Ch.5 ジェレミー・リン
	【第09回】	キリスト教と対話の精神（宗教間対話を例に） テキスト：Ch.21 ダライ・ラマ
	【第10回】	キリスト教と時間概念 テキスト：Ch.24 エディ・レッドメイン（参考：Ch.8 リッチ・フローニング）

	<p>【第11回】 キリスト教の視点から考える暴力と平和1：暴力の多様な理解 テキスト：Ch. 10 マライア・キャリー</p> <p>【第12回】 キリスト教の視点から考える暴力と平和2：平和の多様な理解 テキスト：Ch. 4 緒方貞子（参考：Ch. 20 マハトマ・ガンディー）</p> <p>【第13回】 クリスマスの様々な意味聖書にみる苦しみの意味 テキスト：Ch. 9 池江璃花子、Ch. 22 ヴィクトール・フランクル</p> <p>【第14回】 聖書にみる苦しみの意味 テキスト：Ch. 9 池江璃花子、Ch. 22 ヴィクトール・フランクル</p> <p>【第15回】 イースターの意味、キリスト教と愛の精神、授業全体の振り返り テキスト：Ch. 19 英国ウィリアム王子</p> <p>定期試験</p>
使用テキスト	<p>【テキスト】 Harris G. Ives、上野尚美、村上美保子、小幡幸和『聖書を引用する世界の著名人：TOEFL iBT 形式で学ぶ英語とグローバルリテラシー』開拓社、2021年。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この他に授業で使うレジメやその他の資料はオンライン（PDF）、または紙媒体で配布します。 ・教員の説明補助としてパワーポイントを使用します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、各授業回の下に記されているテキスト該当章の日本語部分を読んでください。テキストの英語部分も授業理解の助けになります。また、分からない用語等を調べてください（60分）。 ・授業後、テキストや授業の解説を振り返りながら課題に取り組むと共に、テキストにない関連事項について自主学修を通じ知見を深めるてください（60分）。 ・参考文献としては『聖書』（新共同訳）をお薦めするほか、授業の中で適宜紹介します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り課題については翌週の授業でコメントし、内容の一部を匿名で紹介することがあります。 ・デバイスの持参を推奨します。

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II b				
担当者	野口 良哉				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜2限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	基本的に17. 発問と回答だが、部分的に09. 実地調査(フィールドワーク)を含む		
授業の概要					
【授業形態ガイドライン・レベルⅢおよびⅡ】 課題研究型					
前半(8回)は、言わば聖書概説と聖書味読で、一般教養として最低限知っておくべき聖書に関する基礎知識を修得しつつ、実際に、旧新約聖書から主な箇所を読み解き、実生活に適用する。後半(6回)は、言わば教会史概観とキリスト教概論で、最初に教会史(キリスト教史)を概観し、続いて、現代社会に少なからず影響を与えたキリスト者の生き様を通して、そこに具現化された聖書思想、生きたキリスト教精神を学ぶ。 ※なお、前半と後半の間に1回、キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持つ。					
キーワード					
一般教養としての聖書、生き方としてのキリスト教、スクールモットー「Peace, Truth, LOVE」、差別と人権、愛と奉仕、いのちと賜物、苦難と犠牲、正義とゆるし、人生と共生、世界とアジア					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で取り上げた内容を的確に理解し、それに関する基本的な知識を問う設問に解答することができる。※評価Aの基準で書く。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	80%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で取り上げた内容について、自主学修を通して自ら考察し、それを論理的に表現することができる。※評価Aの基準で書く。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	20%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしないが、学修に主体的に取り組む姿勢がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動などによる経験的知見がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
授業中の言動や筆記試験の記述等において、人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く姿勢やカンニング行為などがあった場合は、減点や嚴重注意などの処分の対象になることがあり得るので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
聖書やキリスト教に関する知見を深めるという観点により、大学チャペルへの出席を大いに推奨したい。ただし、チャペルへの欠席がマイナス評価につながることはない。					
評価割合	0%				

授業計画	前半(8回)： 聖書概説および聖書味読
	<ol style="list-style-type: none"> 1 聖書の構成/聖書の原語 2 聖書の年代/聖書の主題 3 旧約聖書と新約聖書の関係/聖書の区分(ジャンル) 4 聖書の歴史的流れ(History&Story) 5 聖書味読1： 旧約聖書①原初史物語(天地創造～バベルの塔)と“十戒” 6 聖書味読2： 旧約聖書②諸書(「ヨブ記」～「雅歌」) 7 聖書味読3： 新約聖書①イエスのたとえ話(タラントン、良きサマリア人、放蕩息子など) 8 聖書味読4： 新約聖書②イエスと出会った人々(ザアカイ、カナンの女、貧しいやもめ等) <p>※ 9 学園記念館訪問(学園の歴史展示見学など)</p>
	<p>後半(6回)： 教会史概観およびキリスト教概論</p> <ol style="list-style-type: none"> 10 教会史概観1(キリスト教史：アウグスチヌス、ルター、バルト、リック・ウォレンなど) 11 教会史概観2(三大教派：カトリック教会、東方正教会、プロテスタント諸教会など) 12 キング牧師[差別と人権]、マザー・テレサ[愛と奉仕] ※[]内はテーマ 13 田原米子[いのち]、水野源三[苦難]、星野富弘[賜物] 14 コルベ神父[犠牲]、杉原千畝[正義]、ダミアン神父[共生] 15 レーナ・マリア[人生]、新垣勉[ゆるし]、藤崎るつ記[アジア]
定期試験	<p><授業パターン></p> <p>基本的に、毎回の授業は下記のクラス・パターンで行なわれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 讃美歌・・・毎回一曲、歌の解説に続いて、讃美歌やゴスペルを歌う 2 黙想・・・授業への備えとして、自分を見詰め直すべく静かなひとときを過ごす 3 今週の一節・・・短い時間だが、聖書の名言(およびその解説)に聴く 4 授業・・・まずは講義を聴き、主体的・積極的に授業に参加する <p>・『聖書』を使用。※何訳でもかまわないが、旧新約聖書が望ましい。最低でも新入生に無料配布されるギデオン聖書(新約聖書)を持ってきてほしい。</p> <p>・授業で使用するレジュメや資料は全てこちらで印刷・配布する。また、毎回の授業は主にパワーポイント(PPT)を使用し、授業後にUNIPA上でも閲覧できるようにする。</p>
使用テキスト	

<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>シラバスを参考に、事前にその授業のテーマについて下調べをし、その回の授業に出席することが望ましい。また、配布されたレジュメや資料および自分のノートを用いて復習し、理解を深めてほしい。願わくば、さらなる自主学修を通して、得た学びを深化・発展させ、自分の人生に活かしていただきたい。</p> <p>推奨参考文献・・・詳細は授業で指示 『ゼロからの聖書』大島力(幻冬舎) 『一番わかりやすいキリスト教入門』月本昭男監修(東洋経済新報社) など</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡をしていただきたい。安心できる良き学びの場となるように！</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>基本的に、キアラ館のチャプレン室にいるので、対面では大学チャペル前後などの訪問を歓迎する。その他、メール(ng448@icc.ac.jp)でも対応可。</p>
<p>留意事項</p>	<p>『キリスト教の精神と文化Ⅱ』(後期)各時限5クラスのうち、どのクラスの履修を希望するか、『キリスト教の精神と文化Ⅰ』(前期)の授業内(7月頃)で希望調査を行なう予定。但し、各クラスに定員があるため、希望するクラスに入れない場合もあるので、あらかじめ了承いただきたい。</p>

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II 。				
担当者	結城 敏也				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜2限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	11 討論 16 振り返り		
授業の概要					
<p>宗教としての「キリスト教」は、西ヨーロッパ文明を介して、現在の世界の在り方に大きな影響を与えています。「キリスト教」（あるいは「キリスト教」文明と他の文明の軋轢を）理解することは、世界の現状を読み解くためには欠かせない鍵となっています。ここでは、宗教としてのキリスト教を、他宗教と比較しながら、現代文明を読み解くための一助となる知識を獲得することを目的とします。</p> <p>「宗教」としての「キリスト教」が歴史の流れの中でどのような機能を果たしてきたのかを概観する。「キリスト教」が及ぼした影響をを外側から規定しようとするもの、別な言い方をすれば高度な組織体としてのキリスト教会・キリスト教を基盤とする文明が歴史に及ぼした影響を考察する。政治の流れの中で、宗教家たちは様々な扱いを受け、利用され、旗頭に挙げられ、あるいは自分が持つごく狭い常識の中ではぐくまれた「正しさ」に拘泥し、他者に対する悪影響を及ぼすこともある。この講義では、宗教と文明とのかかわりを考察する。</p>					
キーワード					
宗教 キリスト教 ユダヤ教 イスラム 世界理解 現代世界の源泉					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	キリスト教がどのように今の姿になったか。キリスト教をベースとすると西ヨーロッパ文明がどのように形成されたかを把握する。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもって教育の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。				
評価方法	レポート	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
受講者は単に講義資料をファイルするだけでなく、授業をもとに講義内容をまとめたノートを作成し、知識を各自に適合して方法で系統的に整理することを推奨する。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
評価対象とはしない。しかしながら、現代世界の状況を把握するためには重要な事項でもあるので、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、不公正な言動がある場合、また、カンニングなどの不正行為は減点や嚴重注意の対象となる。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「宗教」と「文明」 2. ユダヤ教とその発展 3. キリスト教発生前後の宗教的状況 4. キリスト教の成立 5. ローマ帝国の国教として 1 6. ローマ帝国の国教として 7. 教会と修道院 8. 教会と修道院 2 9. 十字軍 10. 教会分裂 11. 宗教改革 12. プロテスタント宗教改革と近代的教育制度 13. キリスト教と植民地支配 あるいは 「宣教」 14. 宗教と政治の問題 15. まとめ
使用テキスト	資料などはICUNIPAの掲示にファイルとして添付する。

<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>予習のポイント(30分～90分) icunipaの資料に目を通し、わからない単語など調べておく。 講義の対象となる時代背景などを高校の世界史教科書とか通史などを通読して把握しておく。</p> <p>復習のポイント(30分～90分) 講義内容をもとに、自分なりにノートをまとめてみる。ノートの提出は求めない。</p> <p>参考文献 (ごく一般的な教科書的なもの) 「キリスト教の歴史 増補新版」 斎藤正彦 新教出版社 2011 (ヨーロッパと日本のキリスト教についてより詳しく知りたいならば) 「キリスト教史」 藤代泰三 講談社学術文庫 2017 (西欧のキリスト教の歴史について詳しく知りたい場合には) キリスト教の2000年史 ポール ジョンソン 共同通信社 1999</p> <p>タミム・アンサーリー 「イスラームから見た『世界史』」 紀伊國屋書店 飯山陽 著 「イスラム教の論理」 新潮新書 ウィリアム・H・マクニール 「世界史」 上・下 中公文庫 浅野 典夫 ものがたり宗教史 (ちくまプリマー新書)</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>キリスト教の2000年史は入手困難かもしれないが、通読をお勧めする。 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>メール</p>
<p>留意事項</p>	<p>呼吸器系の疾患を抱えています。症状悪化の場合に講義が聞き取りにくくなる場合があります。ご了承下さい。</p>

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II d				
担当者	館野 真				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜2限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	11. ディスカッション 16. 振り返り用紙と応答 18. その他		
授業の概要					
本講義は、聖書の読解、および、聖書に関連する歴史や学問的アプローチの学びを通して、キリスト教を根本的に理解することを目標とします。又、キリスト教の教えの実生活への適用や、宗教のカルト化の問題などのテーマも取り扱いつつ、キリスト教と現代に生きる私たちとの関わりを考察します。					
キーワード					
神、主イエス・キリスト、キリスト教、信仰、聖書、神の愛、宗教の健全性、宗教のカルト化					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記、および適宜照会し、それを自ら主体的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。				
評価方法	1. 学期末筆記試験 2. 小テスト（毎週）	評価割合	80%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。				
評価方法	1. 学期末筆記試験 2. グループディスカッション	評価割合	20%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とすることはしない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不正な言動がある場合は減点や嚴重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は厳禁。					
評価割合	0%				
▼その他					
この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。					
評価割合	0%				

授業計画	第一部	
	第01回	オリエンテーション・キリスト教の神
	第02回	民イスラエルの歴史と、メシア（キリスト）待望の背景
	第03回	メシア（キリスト）の出現
	第04回	キリストの教え（聖書の解釈）の原則
	第二部	
	第05回	キリストによる教え（1）山上の垂訓
	第06回	キリストによる教え（2）十字架の上のことは
	第07回	キリストによる教え（3）姦淫の女と主イエス
	第08回	キリストによる教え（4）カイザルのものはカイザルへ
	第09回	キリストによる教え（5）善きサマリア人のたとえ話
	第三部	
	第10回	秘跡（サクラメント）と聖礼典（1）洗礼
	第11回	秘跡（サクラメント）と聖礼典（2）聖餐
	第12回	聖書への学問的アプローチ（本文批判、翻訳 etc.）
第13回	信仰義認（使徒パウロ、マルティン・ルター、宗教改革）	
第14回	聖霊のはたらき	
第15回	総括、質疑応答	
使用テキスト	定期試験 テキスト：聖書（新約と旧約、両方が読めるもの）デジタル媒体可 授業資料：基本、パワーポイントのスライドを毎回使用する。	
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	基本として、毎週の講義時に次週に向けた予習課題をIC-UNIPA上で配布する。この予習課題の内容について次回の講義で、FORMSを使用した小テストを行う。小テストは成績に含まれるので予習を怠らないこと。なお、講義で使用されるパワーポイントスライドもIC-UNIPAで事前に配布するので復習に活用して欲しい。	
障がいのある履修者への対応	真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。	
授業時間外の連絡手段	IC-UNIPA上への掲示、メールによる通信を用います。あるいは学部部、教務部に仲介してもらい対応します。	

留意事項

全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

講義中に行う小テストにはFORMSを使用しますので、インターネットに接続したスマートフォンやパソコン等の準備が難しい場合は、相談してください。

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II e				
担当者	鈴木 光				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜2限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	09. 実地調査 16. 振り返り用紙と応答 ほか		
授業の概要					
<p>キリスト教の基本となる聖書の内容を中心に学びます。 入門的な知識を身につけ、またそれが各自の人生や社会を生きる中でどのように実際的な意味を持つのか、考えを深めていきたいと思ひます。 *講師は実務経験として地域教会の牧師(2006~現在)と保育園長(2011~2022年)があります。その経験を生かして、単なる知識にとどまらない聖書の実践的な適用についても触れていきます。 *AL「09. 実地調査」として、一度キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持ちます。</p>					
キーワード					
聖書、キリストの教え、信仰生活					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ入門的な知識を身につけ、解答できる。 *おもに各授業の終わりにご簡単な小テストを兼ねたりアクションペーパーの提出をもって成績判定する。				
評価方法	リアクションペーパーほか	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で学んだことをもとに各自の考えを深め、アウトプットできる。 *いくつか提示するテーマの内から選んで学期末までに提出するレポートをもって成績判定する。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
原則、評価対象にはしません。ただし、著しく態度が悪い場合は総合的な評価からの減点対象にはなりません。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
評価対象にはしません。					
評価割合	0%				
▼公正性					
評価対象にはませんが、人権侵害、不当な差別、不正行為等が認められた場合は減点や嚴重注意の対象となります。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 オリエンテーションと学びの土台 第2回 旧約聖書のエッセンス 第3回 イエス・キリストと出会った人々 第4回 イエス・キリストの「たとえ話」 第5回 人間は何かからできているか 第6回 イエス・キリストの奇跡 第7回 エリエリレマサバクタニ 第8回 信仰とは？ 第9回 フィールドワーク 学園記念館訪問 第10回 クリスマスと礼拝 第11回 聖書から考える「戦争と平和」 第12回 聖書から考える「家族」「結婚」 第13回 聖書から考える「働くこと」「福祉」「教育」 第14回 神の国と天の国 第15回 まとめ
使用テキスト	1. 『聖書』 *旧約、新約の両方が入っているもの。(新共同訳の続編付きでも構わない) *新共同訳、聖書協会共同訳、口語訳、新改訳、新改訳2017のいずれかを推奨。 2. レジューメや資料は各授業で適宜配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	配布プリントや授業内でのアナウンスを参考に、取り扱う聖書箇所を前もって読んでおいたり(予習)、印象に残ったところは考えを深めておく(復習)よいでしょう。参考文献などは授業内で適宜紹介します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等にご連絡ください。
授業時間外の連絡手段	授業前後で声をかけてもらうか、IC-UNIPAを用いてコメント、メールなどにご連絡ください。
留意事項	特になし

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II f				
担当者	小幡 幸和				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜4限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	08 協同学修 11 討論 16 振り返り課題と応答		
授業の概要					
<p>・聖書を引用した世界の様々な著名人の言葉や生き様について記したテキストを通して、現代世界において必要とされるグローバル・リテラシー（世界とその人々を知るために知っておくべき基本的教養）の一つとしての聖書やキリスト教精神について学びます。なお、テキストの英語部分については、必要に応じて教員が授業の中で和訳・解説をします。また、テキストの英語リーディング部分を少人数のグループ内で読んでもらうことがあります。</p> <p>・キリスト教の観点から現代世界の諸問題（いのちの大切さ、利他の精神、差別、社会の分断、暴力と平和、等）を考察し、混迷する現代にあって他者と共に生きる意味を考察します。</p> <p>・キリスト教の祝祭（クリスマス、イースター）の聖書的・歴史的・文化的意味を学びます。</p> <p>・テーマによっては、授業中にグループでの話し合いの時間を持つことがあります。また、授業に関連した考察や話し合いの記録等を振り返り課題として毎回の授業後に書いてもらいます。</p>					
キーワード					
世界の著名人による聖書引用、世界のキリスト教文化、暴力と平和、差別、キリスト教の祝祭					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けたキリスト教精神・文化や付随する社会問題について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。				
評価方法	定期試験、振り返り課題	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	定期試験、振り返り課題	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がリアクション・シートや学期末試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティアム					
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がリアクション・シートや学期末試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや発表、筆記試験等において、深刻な人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動が見られる場合には、厳重注意のうえ減点の対象とするので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	【第01回】	オリエンテーション・序論：聖書の言葉と世界の著名人 テキスト：Ch.1 ジャスティン・ビーバー
	【第02回】	いのちの大切さ テキスト：Ch.12 J.K. ローリング（「ハリー・ポッター」作者）
	【第03回】	聖書の言葉とaltruism（利他主義） テキスト：Ch.2 ビル・ゲイツ（参考：Ch.23 テッド・ターナー）
	【第04回】	聖書の言葉を引用するスポーツ選手 テキスト：Ch.3 ウサイン・ボルト、Ch.11 ネイマール （参考：Ch.6 マニー・パッキョ）
	【第05回】	キリスト教と医療 テキスト：Ch.26 日野原重明、Ch.16 ケント・プラントリー
	【第06回】	アフリカ精神とキリスト教 テキスト：Ch.27 タボ・ムベキ、Ch.25 ワンガリ・マータイ
	【第07回】	アメリカ合衆国の人種差別問題から考える（1） テキスト：Ch.13 チャドウィック・ボーズマン
	【第08回】	アメリカ合衆国の人種差別問題から考える（2） テキスト：Ch.5 ジェレミー・リン
	【第09回】	キリスト教と対話の精神（宗教間対話を例に） テキスト：Ch.21 ダライ・ラマ
	【第10回】	キリスト教と時間概念 テキスト：Ch.24 エディ・レッドメイン（参考：Ch.8 リッチ・フローニング）

	<p>【第11回】 キリスト教の視点から考える暴力と平和1：暴力の多様な理解 テキスト：Ch. 10 マライア・キャリー</p> <p>【第12回】 キリスト教の視点から考える暴力と平和2：平和の多様な理解 テキスト：Ch. 4 緒方貞子（参考：Ch. 20 マハトマ・ガンディー）</p> <p>【第13回】 クリスマスの様々な意味聖書にみる苦しみの意味 テキスト：Ch. 9 池江璃花子、Ch. 22 ヴィクトール・フランクル</p> <p>【第14回】 聖書にみる苦しみの意味 テキスト：Ch. 9 池江璃花子、Ch. 22 ヴィクトール・フランクル</p> <p>【第15回】 イースターの意味、キリスト教と愛の精神、授業全体の振り返り テキスト：Ch. 19 英国ウィリアム王子</p> <p>定期試験</p>
使用テキスト	<p>【テキスト】 Harris G. Ives、上野尚美、村上美保子、小幡幸和『聖書を引用する世界の著名人：TOEFL iBT 形式で学ぶ英語とグローバルリテラシー』開拓社、2021年。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この他に授業で使うレジメやその他の資料はオンライン（PDF）、または紙媒体で配布します。 ・教員の説明補助としてパワーポイントを使用します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、各授業回の下に記されているテキスト該当章の日本語部分を読んでください。テキストの英語部分も授業理解の助けになります。また、分からない用語等を調べてください（60分）。 ・授業後、テキストや授業の解説を振り返りながら課題に取り組むと共に、テキストにない関連事項について自主学習を通じ知見を深めるてください（60分）。 ・参考文献としては『聖書』（新共同訳）をお薦めするほか、授業の中で適宜紹介します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り課題については翌週の授業でコメントし、内容の一部を匿名で紹介することがあります。 ・デバイスの持参を推奨します。

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II g				
担当者	野口 良哉				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜4限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	基本的に17. 発問と回答だが、部分的に09. 実地調査(フィールドワーク)を含む		
授業の概要					
【授業形態ガイドライン・レベルⅢおよびⅡ】 課題研究型					
前半(8回)は、言わば聖書概説と聖書味読で、一般教養として最低限知っておくべき聖書に関する基礎知識を修得しつつ、実際に、旧新約聖書から主な箇所を読み解き、実生活に適用する。後半(6回)は、言わば教会史概観とキリスト教概論で、最初に教会史(キリスト教史)を概観し、続いて、現代社会に少なからず影響を与えたキリスト者の生き様を通して、そこに具現化された聖書思想、生きたキリスト教精神を学ぶ。 ※なお、前半と後半の間に1回、キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持つ。					
キーワード					
一般教養としての聖書、生き方としてのキリスト教、スクールモットー「Peace, Truth, LOVE」、差別と人権、愛と奉仕、いのちと賜物、苦難と犠牲、正義とゆるし、人生と共生、世界とアジア					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で取り上げた内容を的確に理解し、それに関する基本的な知識を問う設問に解答することができる。※評価Aの基準で書く。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	80%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で取り上げた内容について、自主学修を通して自ら考察し、それを論理的に表現することができる。※評価Aの基準で書く。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	20%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしないが、学修に主体的に取り組む姿勢がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動などによる経験的知見がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
授業中の言動や筆記試験の記述等において、人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く姿勢やカンニング行為などがあった場合は、減点や嚴重注意などの処分の対象になることがあり得るので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
聖書やキリスト教に関する知見を深めるという観点により、大学チャペルへの出席を大いに推奨したい。ただし、チャペルへの欠席がマイナス評価につながることはない。					
評価割合	0%				

授業計画	前半(8回)： 聖書概説および聖書味読
	<ol style="list-style-type: none"> 1 聖書の構成/聖書の原語 2 聖書の年代/聖書の主題 3 旧約聖書と新約聖書の関係/聖書の区分(ジャンル) 4 聖書の歴史的流れ(History&Story) 5 聖書味読1： 旧約聖書①原初史物語(天地創造～バベルの塔)と“十戒” 6 聖書味読2： 旧約聖書②諸書(「ヨブ記」～「雅歌」) 7 聖書味読3： 新約聖書①イエスのたとえ話(タラントン、良きサマリヤ人、放蕩息子など) 8 聖書味読4： 新約聖書②イエスと出会った人々(ザアカイ、カナンの女、貧しいやもめ等) <p>※ 9 学園記念館訪問(学園の歴史展示見学など)</p>
	<p>後半(6回)： 教会史概観およびキリスト教概論</p> <ol style="list-style-type: none"> 10 教会史概観1(キリスト教史：アウグスチヌス、ルター、バルト、リック・ウォレンなど) 11 教会史概観2(三大教派：カトリック教会、東方正教会、プロテスタント諸教会など) 12 キング牧師[差別と人権]、マザー・テレサ[愛と奉仕] ※[]内はテーマ 13 田原米子[いのち]、水野源三[苦難]、星野富弘[賜物] 14 コルベ神父[犠牲]、杉原千畝[正義]、ダミアン神父[共生] 15 レーナ・マリア[人生]、新垣勉[ゆるし]、藤崎るつ記[アジア]
定期試験	<p><授業パターン></p> <p>基本的に、毎回の授業は下記のクラス・パターンで行なわれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 讃美歌・・・毎回一曲、歌の解説に続いて、讃美歌やゴスペルを歌う 2 黙想・・・授業への備えとして、自分を見詰め直すべく静かなひとときを過ごす 3 今週の一節・・・短い時間だが、聖書の名言(およびその解説)に聴く 4 授業・・・まずは講義を聴き、主体的・積極的に授業に参加する <p>・『聖書』を使用。※何訳でもかまわないが、旧新約聖書が望ましい。最低でも新入生に無料配布されるギデオン聖書(新約聖書)を持ってきてほしい。</p> <p>・授業で使用するレジュメや資料は全てこちらで印刷・配布する。また、毎回の授業は主にパワーポイント(PPT)を使用し、授業後にUNIPA上でも閲覧できるようにする。</p>
使用テキスト	

<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>シラバスを参考に、事前にその授業のテーマについて下調べをし、その回の授業に出席することが望ましい。また、配布されたレジュメや資料および自分のノートを用いて復習し、理解を深めてほしい。願わくば、さらなる自主学修を通して、得た学びを深化・発展させ、自分の人生に活かしていただきたい。</p> <p>推奨参考文献・・・詳細は授業で指示 『ゼロからの聖書』大島力(幻冬舎) 『一番わかりやすいキリスト教入門』月本昭男監修(東洋経済新報社) など</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡をしていただきたい。安心できる良き学びの場となるように！</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>基本的に、キアラ館のチャプレン室にいるので、対面では大学チャペル前後などの訪問を歓迎する。その他、メール(ng448@icc.ac.jp)でも対応可。</p>
<p>留意事項</p>	<p>『キリスト教の精神と文化Ⅱ』(後期)各時限5クラスのうち、どのクラスの履修を希望するか、『キリスト教の精神と文化Ⅰ』(前期)の授業内(7月頃)で希望調査を行なう予定。但し、各クラスに定員があるため、希望するクラスに入れない場合もあるので、あらかじめ了承いただきたい。</p>

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II h				
担当者	山中 俊克				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜4限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	17. 発問と回答 18. その他		
授業の概要					
<p>社会福祉の歴史的発展の流れをみるときに、キリスト教が与えた影響は非常に大きいといえます。そしてキリスト教の信仰に基づいて生きた人、あるいはキリスト教信仰により社会福祉の実践に携わってきた人びとの生き方に着目することは、社会福祉とキリスト教との関係だけではなく、キリスト教の基礎となっている聖書について学ぶ機会にもなります。</p> <p>この授業では、まず福祉が対象とする「人」を聖書ではどのようにとらえているのか、キリスト教に基づく人間理解を深めることを目的とします。神の側からみた人間理解といえるでしょう。また、生活していくうえで困難を抱えた人びとを支えたキリスト教社会福祉を実践した人びとのはたらきを通して、生きる意味、他者を支える意味について考察します。</p>					
キーワード					
神、キリスト、聖書、社会福祉、人間理解、信仰、支援、実践					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を獲得、および適宜照会し、それを自ら自主的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。				
評価方法	学期末定期試験	評価割合	80%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断によりキリスト教と社会福祉の関係について考察し、論理的に表現するために知識の系統的整理ができる。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	20%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
評価対象とはしない。しかし、講義内容については生き方や生活課題に関わることであり、学びを履修者各自がそれぞれの生活の中で生かすことができる。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
この授業の成績に関することと、本学のチャペルの出席とのかかわりはない。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>【第01回】 授業のオリエンテーション</p> <p>【第02回】 社会福祉とは何か</p> <p>【第03回】 キリスト教の信仰の意味</p> <p>【第04回】 人間とは何か</p> <p>【第05回】 生と死の問題</p> <p>【第06回】 キリスト教社会福祉実践者（マザーテレサ）</p> <p>【第07回】 キリスト教による人間理解1（ジェンダー）</p> <p>【第08回】 キリスト教による人間理解2（子ども）</p> <p>【第09回】 キリスト教社会福祉実践者（石井十次）</p> <p>【第10回】 キリスト教による人間理解3（障害児・者）</p> <p>【第11回】 キリスト教による人間理解4（家族）</p> <p>【第12回】 キリスト教信仰による生き方（水野源三）</p> <p>【第13回】 キリスト教による人間理解5（高齢者）</p> <p>【第14回】 キリスト教と社会</p> <p>【第15回】 まとめ</p> <p>定期試験</p>
使用テキスト	石居正己・熊澤義宣監修、江藤直純・市川一宏編集、『社会福祉と聖書』、リトン 1998年 聖書
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	日頃からキリスト教あるいは宗教の問題について関心を持ち、それを書物などで調べ深めておくこと効率的な予習となる。各授業ごとにノートや配布または配信されたプリントを使って復習し、自分で調べ考察し、疑問点などがあれば担当教員に直接尋ねて学ぶことを勧める。参考文献などは、適宜提示する。
障がいのある履修者への対応	障がいに応じて可能な限り適切に対応します。事前に学務部等に連絡をして下さい
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーなどで教員が研究室で対応します。連絡先は最初の授業時にお知らせします。
留意事項	全員必修の科目です。キリスト教主義大学の精神の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組んで下さい。

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II i				
担当者	館野 真				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜4限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	11. ディスカッション 16. 振り返り用紙と応答 18. その他		
授業の概要					
本講義は、聖書の読解、および、聖書に関連する歴史や学問的アプローチの学びを通して、キリスト教を根本的に理解することを目標とします。又、キリスト教の教えの実生活への適用や、宗教のカルト化の問題などのテーマも取り扱いつつ、キリスト教と現代に生きる私たちとの関わりを考察します。					
キーワード					
神、主イエス・キリスト、キリスト教、信仰、聖書、神の愛、宗教の健全性、宗教のカルト化					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記、および適宜照会し、それを自ら主体的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。				
評価方法	1. 学期末筆記試験 2. 小テスト（毎週）	評価割合	80%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。				
評価方法	1. 学期末筆記試験 2. グループディスカッション	評価割合	20%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とすることはしない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不正な言動がある場合は減点や嚴重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は厳禁。					
評価割合	0%				
▼その他					
この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。					
評価割合	0%				

授業計画	第一部	
	第01回	オリエンテーション・キリスト教の神
	第02回	民イスラエルの歴史と、メシア（キリスト）待望の背景
	第03回	メシア（キリスト）の出現
	第04回	キリストの教え（聖書の解釈）の原則
	第二部	
	第05回	キリストによる教え（1）山上の垂訓
	第06回	キリストによる教え（2）十字架の上のことば
	第07回	キリストによる教え（3）姦淫の女と主イエス
	第08回	キリストによる教え（4）カイザルのものはカイザルへ
	第09回	キリストによる教え（5）善きサマリア人のたとえ話
	第三部	
	第10回	秘跡（サクラメント）と聖礼典（1）洗礼
	第11回	秘跡（サクラメント）と聖礼典（2）聖餐
	第12回	聖書への学問的アプローチ（本文批判、翻訳 etc.）
第13回	信仰義認（使徒パウロ、マルティン・ルター、宗教改革）	
第14回	聖霊のはたらき	
第15回	総括、質疑応答	
使用テキスト	定期試験 テキスト：聖書（新約と旧約、両方が読めるもの）デジタル媒体可 授業資料：基本、パワーポイントのスライドを毎回使用する。	
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	基本として、毎週の講義時に次週に向けた予習課題をIC-UNIPA上で配布する。この予習課題の内容について次回の講義で、FORMSを使用した小テストを行う。小テストは成績に含まれるので予習を怠らないこと。なお、講義で使用されるパワーポイントスライドもIC-UNIPAで事前に配布するので復習に活用して欲しい。	
障がいのある履修者への対応	真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。	
授業時間外の連絡手段	IC-UNIPA上への掲示、メールによる通信を用います。あるいは学部部、教務部に仲介してもらい対応します。	

留意事項

全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

講義中に行う小テストにはFORMSを使用しますので、インターネットに接続したスマートフォンやパソコン等の準備が難しい場合は、相談してください。

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II j				
担当者	鈴木 光				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜4限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	09. 実地調査 16. 振り返り用紙と応答 ほか		
授業の概要					
<p>キリスト教の基本となる聖書の内容を中心に学びます。 入門的な知識を身につけ、またそれが各自の人生や社会を生きる中でどのように実際的な意味を持つのか、考えを深めていきたいと思 います。 *講師は実務経験として地域教会の牧師(2006~現在)と保育園長(2011~2022年)があります。その経験を生かして、単なる知識にと どまらない聖書の実践的な適用についても触れていきます。 *AL「09. 実地調査」として、一度キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持ちま す。</p>					
キーワード					
聖書、キリストの教え、信仰生活					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ入門的な知識を身につけ、解答できる。 *おもに各授業の終わりにごく簡単な小テストを兼ねたりアクションペーパーの提出をもって成績判定する。				
評価方法	リアクションペーパーほか	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で学んだことをもとに各自の考えを深め、アウトプットできる。 *いくつか提示するテーマの内から選んで学期末までに提出するレポートをもって成績判定する。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
原則、評価対象にはしません。ただし、著しく態度が悪い場合は総合的な評価からの減点対象にはなりません。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
評価対象にはしません。					
評価割合	0%				
▼公正性					
評価対象にはませんが、人権侵害、不当な差別、不正行為等が認められた場合は減点や嚴重注意の対象となります。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 オリエンテーションと学びの土台 第2回 旧約聖書のエッセンス 第3回 イエス・キリストと出会った人々 第4回 イエス・キリストの「たとえ話」 第5回 人間は何かからできているか 第6回 イエス・キリストの奇跡 第7回 エリエリレマサバクタニ 第8回 信仰とは？ 第9回 フィールドワーク 学園記念館訪問 第10回 クリスマスと礼拝 第11回 聖書から考える「戦争と平和」 第12回 聖書から考える「家族」「結婚」 第13回 聖書から考える「働くこと」「福祉」「教育」 第14回 神の国と天の国 第15回 まとめ
使用テキスト	1. 『聖書』 *旧約、新約の両方が入っているもの。(新共同訳の続編付きでも構わない) *新共同訳、聖書協会共同訳、口語訳、新改訳、新改訳2017のいずれかを推奨。 2. レジューメや資料は各授業で適宜配布します。
予習・復習の ポイントと 参考文献・資料等	配布プリントや授業内でのアナウンスを参考に、取り扱う聖書箇所を前もって読んでおいたり(予習)、印象に残ったところは考えを深めておくと(復習)よいでしょう。 参考文献などは授業内で適宜紹介します。
障がいのある 履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等にご連絡ください。
授業時間外の連絡 手段	授業前後で声をかけてもらうか、IC-UNIPAを用いてコメント、メールなどでご連絡ください。
留意事項	特になし

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II k				
担当者	小幡 幸和				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜5限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	08 協同学修 11 討論 16 振り返り課題と応答		
授業の概要					
<p>・聖書を引用した世界の様々な著名人の言葉や生き様について記したテキストを通して、現代世界において必要とされるグローバル・リテラシー（世界とその人々を知るために知っておくべき基本的教養）の一つとしての聖書やキリスト教精神について学びます。なお、テキストの英語部分については、必要に応じて教員が授業の中で和訳・解説をします。また、テキストの英語リーディング部分を少人数のグループ内で読んでもらうことがあります。</p> <p>・キリスト教の観点から現代世界の諸問題（いのちの大切さ、利他の精神、差別、社会の分断、暴力と平和、等）を考察し、混迷する現代にあって他者と共に生きる意味を考察します。</p> <p>・キリスト教の祝祭（クリスマス、イースター）の聖書的・歴史的・文化的意味を学びます。</p> <p>・テーマによっては、授業中にグループでの話し合いの時間を持つことがあります。また、授業に関連した考察や話し合いの記録等を振り返り課題として毎回の授業後に書いてもらいます。</p>					
キーワード					
世界の著名人による聖書引用、世界のキリスト教文化、暴力と平和、差別、キリスト教の祝祭					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けたキリスト教精神・文化や付随する社会問題について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。				
評価方法	定期試験、振り返り課題	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	定期試験、振り返り課題	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がリアクション・シートや学期末試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティアム					
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がリアクション・シートや学期末試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや発表、筆記試験等において、深刻な人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く言動が見られる場合には、厳重注意のうえ減点の対象とするので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	【第01回】	オリエンテーション・序論：聖書の言葉と世界の著名人 テキスト：Ch.1 ジャスティン・ビーバー
	【第02回】	いのちの大切さ テキスト：Ch.12 J.K. ローリング（「ハリー・ポッター」作者）
	【第03回】	聖書の言葉とaltruism（利他主義） テキスト：Ch.2 ビル・ゲイツ（参考：Ch.23 テッド・ターナー）
	【第04回】	聖書の言葉を引用するスポーツ選手 テキスト：Ch.3 ウサイン・ボルト、Ch.11 ネイマール （参考：Ch.6 マニー・パッキャオ）
	【第05回】	キリスト教と医療 テキスト：Ch.26 日野原重明、Ch.16 ケント・プラントリー
	【第06回】	アフリカ精神とキリスト教 テキスト：Ch.27 タボ・ムベキ、Ch.25 ワンガリ・マータイ
	【第07回】	アメリカ合衆国の人種差別問題から考える（1） テキスト：Ch.13 チャドウィック・ボーズマン
	【第08回】	アメリカ合衆国の人種差別問題から考える（2） テキスト：Ch.5 ジェレミー・リン
	【第09回】	キリスト教と対話の精神（宗教間対話を例に） テキスト：Ch.21 ダライ・ラマ
	【第10回】	キリスト教と時間概念 テキスト：Ch.24 エディ・レッドメイン（参考：Ch.8 リッチ・フローニング）

	<p>【第11回】 キリスト教の視点から考える暴力と平和1：暴力の多様な理解 テキスト：Ch. 10 マライア・キャリー</p> <p>【第12回】 キリスト教の視点から考える暴力と平和2：平和の多様な理解 テキスト：Ch. 4 緒方貞子（参考：Ch. 20 マハトマ・ガンディー）</p> <p>【第13回】 クリスマスの様々な意味聖書にみる苦しみの意味 テキスト：Ch. 9 池江璃花子、Ch. 22 ヴィクトール・フランクル</p> <p>【第14回】 聖書にみる苦しみの意味 テキスト：Ch. 9 池江璃花子、Ch. 22 ヴィクトール・フランクル</p> <p>【第15回】 イースターの意味、キリスト教と愛の精神、授業全体の振り返り テキスト：Ch. 19 英国ウィリアム王子</p> <p>定期試験</p>
使用テキスト	<p>【テキスト】 Harris G. Ives、上野尚美、村上美保子、小幡幸和『聖書を引用する世界の著名人：TOEFL iBT 形式で学ぶ英語とグローバルリテラシー』開拓社、2021年。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この他に授業で使うレジメやその他の資料はオンライン（PDF）、または紙媒体で配布します。 ・教員の説明補助としてパワーポイントを使用します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、各授業回の下に記されているテキスト該当章の日本語部分を読んでください。テキストの英語部分も授業理解の助けになります。また、分からない用語等を調べてください（60分）。 ・授業後、テキストや授業の解説を振り返りながら課題に取り組むと共に、テキストにない関連事項について自主学習を通じ知見を深めるてください（60分）。 ・参考文献としては『聖書』（新共同訳）をお薦めするほか、授業の中で適宜紹介します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り課題については翌週の授業でコメントし、内容の一部を匿名で紹介することがあります。 ・デバイスの持参を推奨します。

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II I				
担当者	野口 良哉				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜5限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	基本的に17. 発問と回答だが、部分的に09. 実地調査(フィールドワーク)を含む		
授業の概要					
【授業形態ガイドライン・レベルⅢおよびⅡ】 課題研究型					
前半(8回)は、言わば聖書概説と聖書味読で、一般教養として最低限知っておくべき聖書に関する基礎知識を修得しつつ、実際に、旧新約聖書から主な箇所を読み解き、実生活に適用する。後半(6回)は、言わば教会史概観とキリスト教概論で、最初に教会史(キリスト教史)を概観し、続いて、現代社会に少なからず影響を与えたキリスト者の生き様を通して、そこに具現化された聖書思想、生きたキリスト教精神を学ぶ。 ※なお、前半と後半の間に1回、キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持つ。					
キーワード					
一般教養としての聖書、生き方としてのキリスト教、スクールモットー「Peace, Truth, LOVE」、差別と人権、愛と奉仕、いのちと賜物、苦難と犠牲、正義とゆるし、人生と共生、世界とアジア					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で取り上げた内容を的確に理解し、それに関する基本的な知識を問う設問に解答することができる。※評価Aの基準で書く。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	80%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で取り上げた内容について、自主学修を通して自ら考察し、それを論理的に表現することができる。※評価Aの基準で書く。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	20%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしないが、学修に主体的に取り組む姿勢がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしないが、ボランティア活動などによる経験的知見がフィールドワークでのレポートや学期末筆記試験の論述部分などに顕著に認められる場合、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
授業中の言動や筆記試験の記述等において、人権侵害や差別的発言など著しく公正性を欠く姿勢やカンニング行為などがあった場合は、減点や嚴重注意などの処分の対象になることがあり得るので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
聖書やキリスト教に関する知見を深めるという観点により、大学チャペルへの出席を大いに推奨したい。ただし、チャペルへの欠席がマイナス評価につながることはない。					
評価割合	0%				

授業計画	前半(8回)： 聖書概説および聖書味読
	<ol style="list-style-type: none"> 1 聖書の構成／聖書の原語 2 聖書の年代／聖書の主題 3 旧約聖書と新約聖書の関係／聖書の区分(ジャンル) 4 聖書の歴史的流れ(History&Story) 5 聖書味読1： 旧約聖書①原初史物語(天地創造～バベルの塔)と“十戒” 6 聖書味読2： 旧約聖書②諸書(「ヨブ記」～「雅歌」) 7 聖書味読3： 新約聖書①イエスのたとえ話(タラントン、良きサマリヤ人、放蕩息子など) 8 聖書味読4： 新約聖書②イエスと出会った人々(ザアカイ、カナンの女、貧しいやもめ等) <p>※ 9 学園記念館訪問(学園の歴史展示見学など)</p>
	後半(6回)： 教会史概観およびキリスト教概論 <ol style="list-style-type: none"> 10 教会史概観1(キリスト教史：アウグスチヌス、ルター、バルト、リック・ウォレンなど) 11 教会史概観2(三大教派：カトリック教会、東方正教会、プロテスタント諸教会など) 12 キング牧師[差別と人権]、マザー・テレサ[愛と奉仕] ※[]内はテーマ 13 田原米子[いのち]、水野源三[苦難]、星野富弘[賜物] 14 コルベ神父[犠牲]、杉原千畝[正義]、ダミアン神父[共生] 15 レーナ・マリア[人生]、新垣勉[ゆるし]、藤崎るつ記[アジア]
定期試験	<授業パターン> 基本的に、毎回の授業は下記のクラス・パターンで行なわれる。 <ol style="list-style-type: none"> 1 讃美歌・・・毎回一曲、歌の解説に続いて、讃美歌やゴスペルを歌う 2 黙想・・・授業への備えとして、自分を見詰め直すべく静かなひとときを過ごす 3 今週の一節・・・短い時間だが、聖書の名言(およびその解説)に聴く 4 授業・・・まずは講義を聴き、主体的・積極的に授業に参加する
使用テキスト	・『聖書』を使用。※何訳でもかまわないが、旧新約聖書が望ましい。最低でも新入生に無料配布されるギデオン聖書(新約聖書)を持ってきてほしい。 ・授業で使用するレジュメや資料は全てこちらで印刷・配布する。また、毎回の授業は主にパワーポイント(PPT)を使用し、授業後にUNIPA上でも閲覧できるようにする。

<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>シラバスを参考に、事前にその授業のテーマについて下調べをし、その回の授業に出席することが望ましい。また、配布されたレジュメや資料および自分のノートを用いて復習し、理解を深めてほしい。願わくば、さらなる自主学修を通して、得た学びを深化・発展させ、自分の人生に活かしていただきたい。</p> <p>推奨参考文献・・・詳細は授業で指示 『ゼロからの聖書』大島力(幻冬舎) 『一番わかりやすいキリスト教入門』月本昭男監修(東洋経済新報社) など</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡をしていただきたい。安心できる良き学びの場となるように！</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>基本的に、キアラ館のチャプレン室にいるので、対面では大学チャペル前後などの訪問を歓迎する。その他、メール(ng448@icc.ac.jp)でも対応可。</p>
<p>留意事項</p>	<p>『キリスト教の精神と文化Ⅱ』(後期)各時限5クラスのうち、どのクラスの履修を希望するか、『キリスト教の精神と文化Ⅰ』(前期)の授業内(7月頃)で希望調査を行なう予定。但し、各クラスに定員があるため、希望するクラスに入れない場合もあるので、あらかじめ了承いただきたい。</p>

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II m				
担当者	結城 敏也				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜5限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	11 討論 16 振り返り		
授業の概要					
<p>宗教としての「キリスト教」は、西ヨーロッパ文明を介して、現在の世界の在り方に大きな影響を与えています。「キリスト教」（あるいは「キリスト教」文明と他の文明の軋轢を）理解することは、世界の現状を読み解くためには欠かせない鍵となっています。ここでは、宗教としてのキリスト教を、他宗教と比較しながら、現代文明を読み解くための一助となる知識を獲得することを目的とします。</p> <p>「宗教」としての「キリスト教」が歴史の流れの中でどのような機能を果たしてきたのかを概観する。「キリスト教」が及ぼした影響をを外側から規定しようとするもの、別な言い方をすれば高度な組織体としてのキリスト教会・キリスト教を基盤とする文明が歴史に及ぼした影響を考察する。政治の流れの中で、宗教家たちは様々な扱いを受け、利用され、旗頭に挙げられ、あるいは自分が持つごく狭い常識の中ではぐくまれた「正しさ」に拘泥し、他者に対する悪影響を及ぼすこともある。この講義では、宗教と文明とのかかわりを考察する。</p>					
キーワード					
宗教 キリスト教 ユダヤ教 イスラム 世界理解 現代世界の源泉					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	キリスト教がどのように今の姿になったか。キリスト教をベースとすると西ヨーロッパ文明がどのように形成されたかを把握する。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもって教育の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。				
評価方法	レポート	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
評価対象とはしない。ただし、受講者は単に講義資料をファイルするだけでなく、授業をもとに講義内容をまとめたノートを作成し、知識を各自に適合して方法で系統的に整理することを推奨する。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
評価対象とはしない。しかしながら、現代世界の状況を把握するためには重要な事項でもあるので、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、不公正な言動がある場合、また、カンニングなどの不正行為は減点や嚴重注意の対象となる。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「宗教」と「文明」 2. ユダヤ教とその発展 3. キリスト教発生前後の宗教的状況 4. キリスト教の成立 5. ローマ帝国の国教として 1 6. ローマ帝国の国教として 7. 教会と修道院 8. 教会と修道院 2 9. 十字軍 10. 教会分裂 11. 宗教改革 12. プロテスタント宗教改革と近代的教育制度 13. キリスト教と植民地支配 あるいは 「宣教」 14. 宗教と政治の問題 15. まとめ
使用テキスト	資料などはICUNIPAの掲示にファイルとして添付する。

<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>予習のポイント(30分～90分) icunipaの資料に目を通し、わからない単語など調べておく。 講義の対象となる時代背景などを高校の世界史教科書とか通史などを通読して把握しておく。</p> <p>復習のポイント(30分～90分) 講義内容をもとに、自分なりにノートをまとめてみる。ノートの提出は求めない。</p> <p>参考文献 (ごく一般的な教科書的なもの) 「キリスト教の歴史 増補新版」 斎藤正彦 新教出版社 2011 (ヨーロッパと日本のキリスト教についてより詳しく知りたいならば) 「キリスト教史」 藤代泰三 講談社学術文庫 2017 (西欧のキリスト教の歴史について詳しく知りたい場合には) キリスト教の2000年史 ポール ジョンソン 共同通信社 1999</p> <p>タミム・アンサーリー 「イスラームから見た『世界史』」 紀伊國屋書店 飯山陽 著 「イスラム教の論理」 新潮新書 ウィリアム・H・マクニール 「世界史」 上・下 中公文庫 浅野 典夫 ものがたり宗教史 (ちくまプリマー新書)</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>キリスト教の2000年史は入手困難かもしれないが、通読をお勧めする。 真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>メール</p>
<p>留意事項</p>	<p>呼吸器系の疾患をかかえているため、講義が聴きづらくなることがあります。御容赦ください。</p>

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II n				
担当者	館野 真				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜5限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	11. ディスカッション 16. 振り返り用紙と応答 18. その他		
授業の概要					
本講義は、聖書の読解、および、聖書に関連する歴史や学問的アプローチの学びを通して、キリスト教を根本的に理解することを目標とします。又、キリスト教の教えの実生活への適用や、宗教のカルト化の問題などのテーマも取り扱いつつ、キリスト教と現代に生きる私たちとの関わりを考察します。					
キーワード					
神、主イエス・キリスト、キリスト教、信仰、聖書、神の愛、宗教の健全性、宗教のカルト化					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	講義で取り上げられた、建学の精神であるキリスト教に関する学問的知識を暗記、および適宜照会し、それを自ら主体的にキリスト教について考察する基礎とすることができる。				
評価方法	1. 学期末筆記試験 2. 小テスト（毎週）	評価割合	80%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業内容を自らのものとし、自らの思考と判断をもってキリスト教の問題群に分け入り、自らの考察を論理的に表現するため、知識の系統的整理ができる。				
評価方法	1. 学期末筆記試験 2. グループディスカッション	評価割合	20%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
評価対象とはしない。ただし、受講者には手書きノートの作成が推奨されるので、授業の理解を深め記述力を身に着けるための訓練を主体的にすることになる。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
評価対象とはしない。しかし、講義内容はどれも直接間接に人生の諸問題や社会の諸問題にかかわることなので、取り組み方によっては、受講者各自がそれぞれの生活の中で、生涯、授業で学んだことを生かすことができる。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とすることはない。ただし、授業時の発言などで、深刻な人権侵害、差別容認発言など、キリスト教の精神にも著しく反する不正な言動がある場合は減点や嚴重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は厳禁。					
評価割合	0%				
▼その他					
この授業の成績に関することと、本学チャペルとのかかわりはない。					
評価割合	0%				

授業計画	第一部	
	第01回	オリエンテーション・キリスト教の神
	第02回	民イスラエルの歴史と、メシア（キリスト）待望の背景
	第03回	メシア（キリスト）の出現
	第04回	キリストの教え（聖書の解釈）の原則
	第二部	
	第05回	キリストによる教え（1）山上の垂訓
	第06回	キリストによる教え（2）十字架の上のことは
	第07回	キリストによる教え（3）姦淫の女と主イエス
	第08回	キリストによる教え（4）カイザルのものはカイザルへ
	第09回	キリストによる教え（5）善きサマリア人のたとえ話
	第三部	
	第10回	秘跡（サクラメント）と聖礼典（1）洗礼
	第11回	秘跡（サクラメント）と聖礼典（2）聖餐
	第12回	聖書への学問的アプローチ（本文批判、翻訳 etc.）
第13回	信仰義認（使徒パウロ、マルティン・ルター、宗教改革）	
第14回	聖霊のはたらき	
第15回	総括、質疑応答	
使用テキスト	定期試験 テキスト：聖書（新約と旧約、両方が読めるもの）デジタル媒体可 授業資料：基本、パワーポイントのスライドを毎回使用する。	
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	基本として、毎週の講義時に次週に向けた予習課題をIC-UNIPA上で配布する。この予習課題の内容について次回の講義で、FORMSを使用した小テストを行う。小テストは成績に含まれるので予習を怠らないこと。なお、講義で使用されるパワーポイントスライドもIC-UNIPAで事前に配布するので復習に活用して欲しい。	
障がいのある履修者への対応	真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部等に連絡してください。	
授業時間外の連絡手段	IC-UNIPA上への掲示、メールによる通信を用います。あるいは学部部、教務部に仲介してもらい対応します。	

留意事項

全員必修の科目である。キリスト教主義大学成立の根幹にかかわる授業なので、各自まじめに取り組むこと。

講義中に行う小テストにはFORMSを使用しますので、インターネットに接続したスマートフォンやパソコン等の準備が難しい場合は、相談してください。

科目コード	10051	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	キリスト教の精神と文化II 。				
担当者	鈴木 光				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜5限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	09. 実地調査 16. 振り返り用紙と応答 ほか		
授業の概要					
<p>キリスト教の基本となる聖書の内容を中心に学びます。 入門的な知識を身につけ、またそれが各自の人生や社会を生きる中でどのように実際的な意味を持つのか、考えを深めていきたいと思 います。 *講師は実務経験として地域教会の牧師（2006～現在）と保育園長（2011～2022年）があります。その経験を生かして、単なる知識にと どまらない聖書の実践的な適用についても触れていきます。 *AL「09. 実地調査」として、一度キャンパス内にある学園記念館で、学園の歴史展示を見学し、創立の経緯について学ぶ時を持ちま す。</p>					
キーワード					
聖書、キリストの教え、信仰生活					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ入門的な知識を身につけ、解答できる。 *おもに各授業の終わりにご簡単な小テストを兼ねたりアクションペーパーの提出をもって成績判定する。				
評価方法	リアクションペーパーほか	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で学んだことをもとに各自の考えを深め、アウトプットできる。 *いくつか提示するテーマの内から選んで学期末までに提出するレポートをもって成績判定する。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
原則、評価対象にはしません。ただし、著しく態度が悪い場合は総合的な評価からの減点対象にはなりません。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
評価対象にはしません。					
評価割合	0%				
▼公正性					
評価対象にはませんが、人権侵害、不当な差別、不正行為等が認められた場合は減点や嚴重注意の対象となります。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 オリエンテーションと学びの土台 第2回 旧約聖書のエッセンス 第3回 イエス・キリストと出会った人々 第4回 イエス・キリストの「たとえ話」 第5回 人間は何かからできているか 第6回 イエス・キリストの奇跡 第7回 エリエリレマサバクタニ 第8回 信仰とは？ 第9回 フィールドワーク 学園記念館訪問 第10回 クリスマスと礼拝 第11回 聖書から考える「戦争と平和」 第12回 聖書から考える「家族」「結婚」 第13回 聖書から考える「働くこと」「福祉」「教育」 第14回 神の国と天の国 第15回 まとめ
使用テキスト	1. 『聖書』 *旧約、新約の両方が入っているもの。（新共同訳の続編付きでも構わない） *新共同訳、聖書協会共同訳、口語訳、新改訳、新改訳2017のいずれかを推奨。 2. レジューメや資料は各授業で適宜配布します。
予習・復習の ポイントと 参考文献・資料等	配布プリントや授業内でのアナウンスを参考に、取り扱う聖書箇所を前もって読んでおいたり（予習）、印象に残ったところは考えを深めておくと（復習）よいでしょう。 参考文献などは授業内で適宜紹介します。
障がいのある 履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等にご連絡ください。
授業時間外の連絡 手段	授業前後で声をかけてもらうか、IC-UNIPAを用いてコメント、メールなどにご連絡ください。
留意事項	特になし

科目コード	10111	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	倫理学 a				
担当者	銭谷 秋生				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜6限	履修可能学科等			
関連資格			AL要素	17. 発問と回答	
授業の概要					
<p>「単に生きるのではなく、よく生きることが大切である」という古代ギリシャのソクラテスの言葉とともに本格的な哲学の探究は始まりました。この講義は、「よく生きる」とはどのようなことなのか、また「よく生きようとする人々を守る、正義にかなった社会」とはどのような社会なのかという問題を、原理的なところから考察することで、ソクラテスの問いかけに回答していこうとするものです。</p>					
キーワード					
魂の気づかい、刻まれぬ法としての正義、最大多数の最大幸福、幸福に値すること、自己所有権、類的権利					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で説明を受けた「よき生」や「正義にかなった社会」などの内容をよく理解し、解答することができる。				
評価方法	学期末筆記試験による。	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で取り上げたトピックスについて、自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的に自らの所見を表現できる。				
評価方法	同上	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主学修によって得られた知見の拡大や深化が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただしヴォランティア活動等の実践により深められた知見が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となる。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回：イントロダクション：よく生きることを考えるべき理由 第2回：ソクラテスの問い：魂を氣遣うこと 第3回：ソフィストの問い：事柄を善らしくみせること 第4回：アリストテレスの正義論(1)：刻まれぬ法 第5回：アリストテレスの正義論(2)：その問題性 第6回：功利主義(1)：ベンサム立場 第7回：功利主義(2)：シンガーによる展開および功利主義の問題性 第8回：カントの道徳論(1)：幸福に値すること 第9回：カントの道徳論(2)：定言命法と「目的の国」 第10回：ロールズの正義論(1)：正義の二原理の導出 第11回：ロールズの正義論(2)：正義にかなった社会 第12回：ノージックの正義論(1)：自己所有権 第13回：ノージックの正義論(2)：最小国家論 第14回：ゲワースの類的権利論(1)：権利の導出 第15回：ゲワースの類的権利論(2)：支援国家論 定期試験</p>
使用テキスト	特定のテキストは使用しない。毎回プリントを配布し、それに沿って進める。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、次の回の資料をあらかじめ配布するので、分からない用語などを調べる。 ・資料に関連した事項について自主学修を通して知見を深めることが望ましい。参考文献として次のものを推薦する。 『入門講義 倫理学の視座』新田孝彦著（世界思想社）
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	授業の前後の時間に対応します。曜日・時限等は初回にお知らせします。
留意事項	特になし。

科目コード	10111	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	倫理学 b				
担当者	銭谷 秋生				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜6限	履修可能学科等			
関連資格			AL要素	17. 発問と回答	
授業の概要					
<p>「単に生きるのではなく、よく生きることが大切である」という古代ギリシャのソクラテスの言葉とともに本格的な哲学の探究は始まりました。この講義は、「よく生きる」とはどのようなことなのか、また「よく生きようとする人々を守る、正義にかなった社会」とはどのような社会なのかという問題を、原理的なところから考察することで、ソクラテスの問いかけに回答していこうとするものです。</p>					
キーワード					
魂の気づかい、刻まれぬ法としての正義、最大多数の最大幸福、幸福に値すること、自己所有権、類的権利					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で説明を受けた「よき生」や「正義にかなった社会」などの内容をよく理解し、解答することができる。				
評価方法	学期末筆記試験による。	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で取り上げたトピックスについて、自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的に自らの所見を表現できる。				
評価方法	同上	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主学修によって得られた知見の拡大や深化が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただしヴォランティア活動等の実践により深められた知見が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となる。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回：イントロダクション：よく生きることを考えるべき理由 第2回：ソクラテスの問い：魂を気遣うこと 第3回：ソフィストの問い：事柄を善らしくみせること 第4回：アリストテレスの正義論(1)：刻まれぬ法 第5回：アリストテレスの正義論(2)：その問題性 第6回：功利主義(1)：ベンサム立場 第7回：功利主義(2)：シンガーによる展開および功利主義の問題性 第8回：カントの道徳論(1)：幸福に値すること 第9回：カントの道徳論(2)：定言命法と「目的の国」 第10回：ロールズの正義論(1)：正義の二原理の導出 第11回：ロールズの正義論(2)：正義にかなった社会 第12回：ノージックの正義論(1)：自己所有権 第13回：ノージックの正義論(2)：最小国家論 第14回：ゲワースの類的権利論(1)：権利の導出 第15回：ゲワースの類的権利論(2)：支援国家論 定期試験</p>
使用テキスト	特定のテキストは使用しない。毎回プリントを配布し、それに沿って進める。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、次の回の資料をあらかじめ配布するので、分からない用語などを調べる。 ・資料に関連した事項について自主学修を通して知見を深めることが望ましい。参考文献として次のものを推薦する。 『入門講義 倫理学の視座』新田孝彦著（世界思想社）
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	授業の前後の時間に対応します。曜日・時限等は初回にお知らせします。
留意事項	特になし。

科目コード	10113	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	心理学 b				
担当者	林 雅子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜3限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	15. レポート指導 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
現在の先行きの見えない情勢の中で、不安を抱えている方は少なからずいるでしょう。この授業では、乳幼児期から老年期までの一生の歩みを生涯発達という観点から捉え、心理学的な知見に基づいて考えていきます。乳幼児期から老年期までの自己の発達や対人関係について心理学的な理論を学び、それぞれの時期における発達課題や社会的な問題への理解を深めます。各発達段階における心理社会的発達と環境（社会的影響や文化的要因）の関連を心理学的な理論的基盤をもって考えられるようになることが目的です。これらの講義を通して、受講者の皆さんがこれまで経験してきたことや今現在の自分を理解するだけでなく、将来的な展望への足掛かりを掴むことを目指します。					
授業は講義形式で進みます。ただし、授業で取り上げられる各テーマについて積極的に考える機会を設けるために、授業内で小レポートの執筆課題が課されます。					
キーワード					
生涯発達心理学、アイデンティティ、発達段階、対人関係					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で扱った生涯を通しての発達過程や心理的課題を概ね80%理解し、筆記試験にて解答することができる。				
評価方法	小レポート 学期末筆記試験	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業を踏まえて、今日の社会的問題や課題について、心理学的観点から考え、論理的かつ簡潔に表現することができる。				
評価方法	小レポート 学期末筆記試験	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
意欲的に授業に参加し、心理学的な観点を身に付けようとしているのか、授業内で行う小レポート課題の提出状況によって判断する。学外実習や就職活動等でやむを得ず欠席した場合の対処については、初回授業にて説明する。 なお、授業中に秩序を乱すような行為をした場合は、減点または厳重注意の対象とする。					
評価割合	30%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、学外実習や就職活動等で得られた知見によってレポートや筆記試験の内容の水準が上がったと認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度やレポート、筆記試験の記述で人権侵害・差別的発言等、著しく公正性を欠く言動があった場合、またはカンニング等の不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象とする。					
評価割合	0%				
▼その他					
とくになし					
評価割合	0%				

【第1回】イントロダクション：生涯発達心理学とは何か
授業の進め方や内容、評価方法等について説明し、生涯発達心理学の概要について解説します。
【第2回】発達段階を捉える(1)認知の発達
人が物事をいかに認識し、考えるかという認知能力の発達を学びます。特にピアジェの理論を元に人の思考がどのように発達していくのかを段階ごとに学びます。
【第3回】発達段階を捉える(2)心理社会的発達
人が他者や社会との関わりを通してどのように発達していくのかを、エリクソンの心理社会的発達理論を元に学びます。特に人の生涯にわたる発達について考えていきます。
【第4回】胎児・乳児期の発達
胎児期や乳児期における感覚発達や反射について学びます。
【第5回】幼児期の発達
幼児期に重要な愛着の発達とその後の影響などについて学び、幼児との関わりについて考えます。
【第6回】児童期の発達
学習を通じた児童の道徳観や社会性の発達などについて学び、小学校における教育問題について考えます。
【第7回】青年前期の発達
思春期に生じる心身の発達について学びます。また、発達に従い変化していく他者との関わりについて考えます。
【第8回】青年後期の発達

授業計画	<p>アイデンティティの発達や職業選択などの理論について学び、学生自身の現在について考えていきます。</p> <p>【第9回】成人期（成人前期）の発達 青年から成人への発達の变化について考えます。</p> <p>【第10回】中年期（成人後期）の発達 中年期（成人後期）に生じる“危機”について学ぶ中で、自分自身の将来について考えていきます。</p> <p>【第11回】老年期の発達 老年期における喪失と獲得について考えます。</p> <p>【第12回】発達障害と共に生きる 発達障害を取り上げ、その特徴を理解することを目指します。いかに発達障害と共に生きていくかを考えます。</p> <p>【第13回】対人関係の発達(1) 親子関係から始まり対人関係が発達段階ごとにより変化・発展していくかを考えます。</p> <p>【第14回】対人関係の発達(2) 対人関係の中で生じる危機やトラブルについて学び、他者との関わりという観点から生涯発達を考えます。</p> <p>【第15回】まとめ これまでの講義を概観して生涯発達の各段階における課題や危機についてまとめます。</p> <p>【最終試験】 試験内容や形式については授業内で発表を行います。</p>
使用テキスト	<p>なし 事前にIC-UNIPAに授業資料を掲示するので、各自で印刷またはダウンロードをお願いします。 初回授業のみ、授業内で資料を配布します。</p>
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>【授業中の取り組み】 この授業では生涯における発達の变化について考えていきます。そのため、自分自身の過去、現在、未来についてイメージしながら授業を受けることで、心理学的な理論を身近に感じることができると思われます。</p> <p>【授業外の取り組み】 授業の最後に次回のテーマを予告します。興味のある方は、テーマについて調べてみると次回の授業の理解が早くなると思います。授業後は、小レポートのフィードバックをしたり、配布資料の内容を見返したりして、講義内容の理解を深めていただくようお願いします。</p> <p>また、人の発達に関するテーマは新聞、テレビ、小説、漫画などメディアを問わず描かれています。様々な物事に興味・関心を持って日常生活を送ることも、この授業の事前準備となります。1日30分ほどでも良いので、新聞やテレビのニュースを観る際に、発達や教育という視点から考えてみてほしいと思います。</p> <p>【参考文献・資料等】 授業資料に参考文献を毎回掲載しますので、そちらをご確認ください。</p>
障がいのある履修者への対応	<p>事前に学務部等へご連絡するようお願いします。その上で、可能な限り対応いたします。</p>
授業時間外の連絡手段	<p>初回授業にて連絡用のメールアドレスをお教えしますので、そちらをご利用ください。 または、学務部のほうへお問い合わせをお願いします。</p>
留意事項	<p>受講者数が教室収容可能人数または100名を超える場合、初回授業にて抽選を行い人数調整をします。 また、その際は公平を期すために初回授業以降の登録は認めません。実習や就活等で初回授業に参加できない場合は、事前に連絡をお願いします。 後期に開講されるライフステージの心理学はこの授業と同一の内容です。なるべく人数が収まるよう、日程が調整可能な学生は後期の方を履修してください。</p>

科目コード	10113	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	心理学 c				
担当者	林 雅子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜3限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	15. レポート指導 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>現在の先行きの見えない情勢の中で、不安を抱えている方が少なからずいるでしょう。この授業では、乳幼児期から老年期までの一生の歩みを生涯発達という観点から捉え、心理学的な知見に基づいて考えていきます。乳幼児期から老年期までの自己の発達や対人関係について心理学的な理論を学び、それぞれの時期における発達課題や社会的な問題への理解を深めます。各発達段階における心理社会的発達と環境（社会的影響や文化的要因）の関連を心理学的な理論的基盤をもって考えられるようになることが目的です。これらの講義を通して、受講者の皆さんがこれまで経験してきたことや今現在の自分を理解するだけでなく、将来的な展望への足掛かりを掴むことを目指します。</p> <p>授業は講義形式で進みます。ただし、授業で取り上げられる各テーマについて積極的に考える機会を設けるために、授業内で小レポートの執筆課題が課されます。</p> <p>※前期科目「ライフステージの心理学b」と同一の内容になります。</p>					
キーワード					
生涯発達心理学, アイデンティティ, 発達段階, 対人関係					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で扱った生涯を通しての発達過程や心理的課題を概ね80%理解し、筆記試験にて解答することができる。				
評価方法	小レポート 学期末筆記試験	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業を踏まえて、今日の社会的問題や課題について、心理学的観点から考え、論理的かつ簡潔に表現することができる。				
評価方法	小レポート 学期末筆記試験	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
<p>意欲的に授業に参加し、心理学的観点を身に付けようとしているのか、授業内で行う小レポート課題の提出状況によって判断する。学外実習や就職活動等でやむを得ず欠席した場合の対処については、初回授業にて説明する。</p> <p>なお、授業中に秩序を乱すような行為をした場合は、減点または嚴重注意の対象とする。</p>					
評価割合	30%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、学外実習や就職活動等で得られた知見によってレポートや筆記試験の内容の水準が上がったと認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の態度やレポート、筆記試験の記述で人権侵害・差別的発言等、著しく公正性を欠く言動があった場合、またはカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象とする。					
評価割合	0%				
▼その他					
とくになし					
評価割合	0%				

【第1回】イントロダクション：生涯発達心理学とは何か	
授業の進め方や内容、評価方法等について説明し、生涯発達心理学の概要について解説します。	
【第2回】発達段階を捉える(1)認知の発達	
人が物事をいかに認識し、考えるかという認知能力の発達を学びます。特にピアジェの理論を元に人の思考がどのように発達していくのかを段階ごとに学びます。	
【第3回】発達段階を捉える(2)心理社会的発達	
人が他者や社会との関わりを通してどのように発達していくのかを、エリクソンの心理社会的発達理論を元に学びます。特に人の生涯にわたる発達について考えていきます。	
【第4回】胎児・乳児期の発達	
胎児期や乳児期における感覚発達や反射について学びます。	
【第5回】幼児期の発達	
幼児期に重要な愛着の発達とその後の影響などについて学び、幼児との関わりについて考えます。	
【第6回】児童期の発達	
学習を通じた児童の道徳観や社会性の発達などについて学び、小学校における教育問題について考えます。	
【第7回】青年前期の発達	
思春期に生じる心身の発達について学びます。また、発達に従い変化していく他者との関わりについて考えます。	

<p>授業計画</p>	<p>【第8回】青年期後期の発達 アイデンティティの発達や職業選択などの理論について学び、学生自身の現在について考えていきます。</p> <p>【第9回】成人期（成人前期）の発達 青年から成人への発達の变化について考えます。</p> <p>【第10回】中年期（成人後期）の発達 中年期（成人後期）に生じる“危機”について学ぶ中で、自分自身の将来について考えていきます。</p> <p>【第11回】老年期の発達 老年期における喪失と獲得について考えます。</p> <p>【第12回】発達障害と共に生きる 発達障害を取り上げ、その特徴を理解することを目指します。いかに発達障害と共に生きていくかを考えます。</p> <p>【第13回】対人関係の発達(1) 親子関係から始まり対人関係が発達段階ごとにより変化・発展していくかを考えます。</p> <p>【第14回】対人関係の発達(2) 対人関係の中で生じる危機やトラブルについて学び、他者との関わりという観点から生涯発達を考えます。</p> <p>【第15回】まとめ これまでの講義を概観して生涯発達の各段階における課題や危機についてまとめます。</p> <p>【最終試験】 試験内容や形式については授業内で発表を行います。</p>
<p>使用テキスト</p>	<p>なし 事前にIC-UNIPAに授業資料を掲示するので、各自で印刷またはダウンロードをお願いします。 初回授業のみ、授業内で資料を配布します。</p>
<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>【授業中の取り組み】 この授業では生涯における発達の变化について考えていきます。そのため、自分自身の過去、現在、未来についてイメージしながら授業を受けることで、心理学的な理論を身近に感じることができると考えられます。</p> <p>【授業外の取り組み】 授業の最後に次回のテーマを予告します。興味のある方は、テーマについて調べてみると次回の授業の理解が早くなると思います。授業後は、小レポートのフィードバックをしたり、配布資料の内容を見返したりして、講義内容の理解を深めていただくようお願いします。</p> <p>また、人の発達に関するテーマは新聞、テレビ、小説、漫画などメディアを問わず描かれています。様々な物事に興味・関心を持って日常生活を送ることも、この授業の事前準備となります。1日30分ほどでも良いので、新聞やテレビのニュースを観る際に、発達や教育という視点から考えてみてほしいと思います。</p> <p>【参考文献・資料等】 授業資料に参考文献を毎回掲載しますので、そちらをご確認ください。</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>事前に学務部等へご連絡するようお願いします。その上で、可能な限り対応いたします。</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>初回授業にて連絡用のメールアドレスをお教えしますので、そちらをご利用ください。 または、学務部のほうへお問い合わせをお願いします。</p>
<p>留意事項</p>	<p>とくになし 連絡事項がある場合はIC-UNIPAに掲示しますので、確認をお願いします。</p>

科目コード	10114	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	教育学				
担当者	柳橋 晃				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜2限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	08. 協同学修 11. 討論 16. 振り返り用紙と応答 17. 発問と回答		
授業の概要 この授業は、教育という営みについて、様々な角度から問い直すものです。この授業では、教育の歴史、教育を可能/不可能にするメカニズム、教育の目的や理想（あるべき姿）について、古代から現代まで幅広く取り上げ、教育という営みの奥深さと難しさ、そして、その重要性について丁寧に説明します。そして、クラス全体で、具体的な教育実践を教育問題の科学という視点から考察し、議論を行うことにより、より善い教育を志向する教師たりうための反省的思考を身につけます。					
キーワード 教育思想、教育史、学校、近代教育、公教育、子供中心主義、新教育、善さ、教育問題の科学、尊厳、教育基本法					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で扱った教育の理念・歴史・思想についておおむね理解し、それに関する問いに中間試験と定期試験で80%解答することができる。				
評価方法	・ 中間試験 ・ 定期試験	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った教育の理念・歴史・思想について、論理的に、かつオリジナリティのある形で、中間試験と定期試験で自らの所見を表現することができる。				
評価方法	・ 中間試験 ・ 定期試験	評価割合	60%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業内での発言内容及び発言数をもとに授業への参加点を評価する。授業内容に基づいて発言できているかどうか、また、自分なりに考えた上での発言であるかどうか、を評価の基準とする。					
また、各授業回で提出してもらったコメントシートへの記入内容もまた授業への参加点の評価対象とする。各授業回の内容を自分なりに噛み砕いて、自分自身の言葉で理解できているかどうかを評価の基準とする。					
評価割合	10%				
▼実践的ボランティアリズム					
直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が中間試験や定期試験の記述内容に認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言やコメントシートの記述、中間試験・定期試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1週 オリエンテーション：これまで受けてきた教育体験を振り返る 第2週 教育は必要か：狼に育てられた子どもの逸話やそれに関連する発達論の検討を通して教育の必要性や社会化の意義を考える（グループディスカッション） 第3週 教育をめぐる思想（1）子どもの固有性の発見：ルソー・ペスタロッチ・フレーベルの思想を概観し、保護の対象から教育の対象となったその歴史の経緯を学ぶ 第4週 教育をめぐる思想（2）教科書の誕生から一斉授業の成立へ：コメニウス『世界図絵』、産業革命と授業スタイルの変遷 第5週 教育をめぐる思想（3）学校教育の拡大と教育の合理化：ヘルバルトからデューイへ 第6週 日本の学校教育（1）戦前の教育：学制の成立から大正新教育、そして大政翼賛下の教育へ 第7週 日本の学校教育（2）戦後民主主義と教育の展開：教育基本法に見る教育観と人間観 第8週 日本の学校教育（3）現代の教育問題：いじめ・不登校・子どもの権利条約 第9週 学校教育の問い直し（1）不登校という現象とその思想：不登校概念の変遷と実態、オルタナティブスクールの現在 第10週 学校教育の問い直し（2）保護者のクレーム対応：モンスターペアレント問題をどう乗り越えるか（事例検討のグループディスカッション） 第11週 学校教育の問い直し（3）人権と教育：教師として人権問題について対処する際に踏まえる法律や規範 第12週 現代教育の論点（1）SDGs時代の教育：子どもの貧困と教育に関するこれまでとこれから 第13週 現代教育の論点（2）専門職としての教師：ILO・ユネスコ教師の地位勧告から家庭や地域に対する教師の役割について考える 第14週 現代教育の論点（3）実践記録の役割とその注意点：実践記録（幼児教育におけるエピソード記述を含む）を書く際のポイントと個人情報保護等の注意点について考える（グループディスカッション） 第15週 まとめ：理念としての教育の意義
使用テキスト	授業で使用する資料はすべて印刷・配布します。

<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>授業前には、その回のテーマとなっている人名、事項について調べることが望ましい。 授業後には、配布資料について復習するとともに、資料にない関連事項について自主学習を通じ知見を深めることが望ましい。</p> <p>教科書として以下のものを購入しておくこと。 ・沼野一男他著『教育の原理』（第四版）学文社、2010年。</p> <p>参考資料として次の4点を推薦する。 ・汐見稔幸ほか『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2013年、3,080円。 ・勝野正章ほか『問いからはじめる教育学』有斐閣、2015年、1,980円。 ・北村友人ほか『SDGs 時代の教育』学文社、2019年、3,300円。 ・田嶋一ほか『やさしい教育原理』（第三版）有斐閣、2016年、1980円。 ※その他については、適宜紹介する。</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については授業内でお知らせします。</p>
<p>留意事項</p>	<p>デバイスの持参を推奨します。</p>

科目コード	10115	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	カウンセリングとメンタルヘルス a				
担当者	水柿 義之				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜4限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	振り返り用紙と応答 発問と回答 実験・実技・体験 協同学修		
授業の概要					
<p>悩みがあって親や友人、先生、先輩などに相談した時に、「話してよかった」と思う時もあれば「話さなければよかった」と思う時もありますよね。</p> <p>カウンセリングを学ぶと、誰かに相談された時に、相手が「話してよかった」と感じるようになります。</p> <p>本授業では、カウンセリングを知的だけではなく体験的に理解するためにグループワークやリスニングの演習を行います。</p> <p>メンタルヘルスとは心の健康のことを言います。</p> <p>ストレスを受けると心臓がドキドキしたり、呼吸が苦しくなったり、頭や肩が痛くなったり、眠れなくなったりしますよね。これは自律神経の影響です。</p> <p>また、人間関係において、つい引きこもってしまう、誰かと一緒にいないと不安になる、いつも人を警戒している。これらはトラウマやアタッチメント（愛着）の影響です。</p> <p>本授業では、メンタルヘルスを保つために、自律神経、トラウマ、アタッチメントについて学び、それらを整えるエクササイズを行います。</p> <p>学んだことを日常生活に活かせるように、エクササイズやグループワークをたくさん行います。</p>					
キーワード					
カウンセリング、メンタルヘルス、ストレス、アタッチメント、自律神経、トラウマ、ポリヴェーガル理論					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	カウンセリングとメンタルヘルスの知識を身につけている。				
評価方法	期末レポート	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	自身のメンタルヘルスについて思考し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	期末レポート	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や、レポート作成の際、引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどの不正行為があった場合は減点の対象となる。					
評価割合	0%				
▼その他					
遅刻や早退、私語、内職、頻繁な退出などは減点の対象となる。事情がある場合は前もって伝えること。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 自律神経の基本 第3回 自律神経を整えるエクササイズ 第4回 対人緊張から安心へ 第5回 安心を感じるグループワーク 第6回 トラウマの理解 第7回 トラウマの解消 第8回 カウンセリングとは 第9回 リスニングのグループワーク① 第10回 アタッチメントの理解 第11回 アタッチメントの修復① 第12回 アタッチメントの修復② 第13回 アタッチメントの修復③ 第14回 リスニングのグループワーク② 第15回 リソースのエクササイズ
使用テキスト	授業で使用する資料はIC-UNIPAで配布します。各自ダウンロード・印刷してください。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	復習：授業の感想や質問を記入する。(10分) 予習：他の学生の感想や質問に目を通す。(15分) 参考図書 「今ここ」神経系エクササイズ 浅井咲子
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	連絡はIC-Mail：アドレス mizugaki_yoshiyuki@icc.ac.jp

留意事項

受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。

①デバイスの持参を推奨します。

②受講希望者多数の場合は履修者の選出を行います。
上位学年から優先的に選出します。その他の学年は抽選を行います。選出結果は、IC-UNIPAの「クラスプロフィール」の「授業資料」に掲載します。履修者選出の結果、履修が認められなかった学生は履修登録を取り消してください。

③エクササイズやグループワークを行います。
コミュニケーションや人間関係が苦手な人も歓迎します。緊張を緩和する方法を教えるのでコミュニケーションの練習になります。

④期末レポートについて
各授業時のレポートの集積が期末レポートになります。次時の授業時にコメントします。

科目コード	10115	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	カウンセリングとメンタルヘルス b				
担当者	水柿 義之				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜2限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	振り返り用紙と応答 発問と回答 実験・実技・体験 協同学修		
授業の概要					
<p>悩みがあって親や友人、先生、先輩などに相談した時に、「話してよかった」と思う時もあれば「話さなければよかった」と思う時もありますよね。</p> <p>カウンセリングを学ぶと、誰かに相談された時に、相手が「話してよかった」と感じるようになります。</p> <p>本授業では、カウンセリングを知的だけではなく体験的に理解するためにグループワークやリスニングの演習を行います。</p> <p>メンタルヘルスとは心の健康のことを言います。</p> <p>ストレスを受けると心臓がドキドキしたり、呼吸が苦しくなったり、頭や肩が痛くなったり、眠れなくなったりしますよね。これは自律神経の影響です。</p> <p>また、人間関係において、つい引きこもってしまう、誰かと一緒にいないと不安になる、いつも人を警戒している。これらはトラウマやアタッチメント（愛着）の影響です。</p> <p>本授業では、メンタルヘルスを保つために、自律神経、トラウマ、アタッチメントについて学び、それらを整えるエクササイズを行います。</p> <p>学んだことを日常生活に活かせるように、エクササイズやグループワークをたくさん行います。</p>					
キーワード					
カウンセリング、メンタルヘルス、ストレス、アタッチメント、自律神経、トラウマ、ポリヴェーガル理論					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	カウンセリングとメンタルヘルスの知識を身につけている。				
評価方法	期末レポート	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	自身のメンタルヘルスについて思考し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	期末レポート	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や、レポート作成の際、引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどの不正行為があった場合は減点の対象となる。					
評価割合	0%				
▼その他					
遅刻や早退、私語、内職、頻繁な退出などは減点の対象となる。事情がある場合は前もって伝えること。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 自律神経の基本 第3回 自律神経を整えるエクササイズ 第4回 対人緊張から安心へ 第5回 安心を感じるグループワーク 第6回 トラウマの理解 第7回 トラウマの解消 第8回 カウンセリングとは 第9回 リスニングのグループワーク① 第10回 アタッチメントの理解 第11回 アタッチメントの修復① 第12回 アタッチメントの修復② 第13回 アタッチメントの修復③ 第14回 リスニングのグループワーク② 第15回 リソースのエクササイズ
使用テキスト	授業で使用する資料はIC-UNIPAで配布します。各自ダウンロード・印刷してください。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	復習：授業の感想や質問を記入する。(10分) 予習：他の学生の感想や質問に目を通す。(15分) 参考図書 「今ここ」神経系エクササイズ 浅井咲子
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	連絡はIC-Mail：アドレス mizugaki_yoshiyuki@icc.ac.jp

留意事項

受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。

①デバイスの持参を推奨します。

②受講希望者多数の場合は履修者の選出を行います。
上位学年から優先的に選出します。その他の学年は抽選を行います。選出結果は、IC-UNIPAの「クラスプロフィール」の「授業資料」に掲載します。履修者選出の結果、履修が認められなかった学生は履修登録を取り消してください。

③エクササイズやグループワークを行います。
コミュニケーションや人間関係が苦手な人も歓迎します。緊張を緩和する方法を教えるのでコミュニケーションの練習になります。

④期末レポートについて
各授業時のレポートの集積が期末レポートになります。次時の授業時にコメントします。

科目コード	10116	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	対人関係の心理学 a				
担当者	水柿 義之				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜3限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	振り返り用紙と応答 発問と回答 実験・実技・体験 協同学修		
授業の概要					
青年期は対人関係が難しい時期です。人といても気を遣ってしまったり、本当の気持ちを隠すようになってしまいます。人といても安心できなくなることもあります。本授業では青年期における対人関係の心理学を学びます。					
①昔話（三年寝太郎、一寸法師、瓜子姫、飯くわぬ女、桃太郎）の心理学的解釈をもとに、心が子どもから大人に成長する過程を考察します。					
②エクササイズを通して、自分とつながる方法、怒りの感情との付き合い方、価値観を整理する方法、思い込みから抜け出す方法などを学びます。					
③グループワークを通して、対人緊張の緩め方、初めて話す人と打ち解ける方法などを学びます。					
キーワード					
対人関係、青年期、社会性の発達、自己実現、怒り、昔話、グループワーク、思い込み					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で扱った内容の理論的・体験的学習を通して、対人関係の心理学の知識を身につけている。				
評価方法	期末レポート	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業における経験を踏まえて、自身の対人関係について思考し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	期末レポート	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や、レポート作成の際、引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどの不正行為があった場合は減点の対象となる。					
評価割合	0%				
▼その他					
遅刻、早退、私語、内職、頻繁な退出などは減点の対象となる。事情がある場合は前もって伝えること。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 乳幼児期の心理：三年寝太郎 第3回 中身とつながるエクササイズ 第4回 児童期の心理：一寸法師 第5回 コミュニケーションのグループワーク 第6回 青年期の心理：瓜子姫 第7回 青年期の葛藤のエクササイズ 第8回 オトナの心理：飯くわぬ女 第9回 カラを柔らかくするグループワーク 第10回 オトナから大人へ：桃太郎 第11回 怒りの仕組み 第12回 怒りと上手につき合うエクササイズ 第13回 大人として出会うグループワーク 第14回 心の魔法を解くエクササイズ 第15回 コーピングのグループワーク
使用テキスト	授業で使用する資料はIC-UNIPAに登録します。各自ダウンロードや印刷をしてください。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	復習：授業の感想や質問を記入する。（10分） 予習：他の学生の感想や質問に目を通す。（15分） 参考図書 見られる自分～マザコンと自立の臨床発達心理学 鈴木研二
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	mizugaki_yoshiyuki@icc.ac.jp

留意事項

受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。

①デバイスの持参を推奨します。

②受講希望者多数の場合は履修者の選出を行います。上位学年から優先的に選出します。その他の学年は抽選を行います。選出結果は、IC-UNIPAの「クラスプロフィール」の「授業資料」に掲載します。履修者選出の結果、履修が認められなかった学生は履修登録を取り消してください。

③エクササイズやグループワークを行います。コミュニケーションや人間関係が苦手な人も歓迎します。緊張を緩和する方法を教えるのでコミュニケーションの練習になります。

④期末レポートについて
各授業時のレポートの集積が期末レポートになります。次時の授業時にコメントします。

科目コード	10116	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	対人関係の心理学 b				
担当者	水柿 義之				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜3限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	振り返り用紙と応答 発問と回答 実験・実技・体験 協同学修		
授業の概要					
青年期は対人関係が難しい時期です。人といても気を遣ってしまったり、本当の気持ちを隠すようになってしまったりします。人といても安心できなくなることもあります。本授業では青年期における対人関係の心理学を学びます。					
①昔話（三年寝太郎、一寸法師、瓜子姫、飯くわぬ女、桃太郎）の心理学的解釈をもとに、心が子どもから大人に成長する過程を考察します。					
②エクササイズを通して、自分とつながる方法、怒りの感情との付き合い方、価値観を整理する方法、思い込みから抜け出す方法などを学びます。					
③グループワークを通して、対人緊張の緩め方、初めて話す人と打ち解ける方法などを学びます。					
キーワード					
対人関係、青年期、社会性の発達、自己実現、怒り、昔話、グループワーク、思い込み					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で扱った内容の理論的・体験的学習を通して、対人関係の心理学の知識を身につけている。				
評価方法	期末レポート	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業における経験を踏まえて、自身の対人関係について思考し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	期末レポート	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や、レポート作成の際、引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどの不正行為があった場合は減点の対象となる。					
評価割合	0%				
▼その他					
遅刻、早退、私語、内職、頻繁な退出などは減点の対象となる。事情がある場合は前もって伝えること。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 乳幼児期の心理：三年寝太郎 第3回 中身とつながるエクササイズ 第4回 児童期の心理：一寸法師 第5回 コミュニケーションのグループワーク 第6回 青年期の心理：瓜子姫 第7回 青年期の葛藤のエクササイズ 第8回 オトナの心理：飯くわぬ女 第9回 カラを柔らかくするグループワーク 第10回 オトナから大人へ：桃太郎 第11回 怒りの仕組み 第12回 怒りと上手につき合うエクササイズ 第13回 大人として出会うグループワーク 第14回 心の魔法を解くエクササイズ 第15回 コーピングのグループワーク				
使用テキスト	授業で使用する資料はIC-UNIPAに登録します。各自ダウンロードや印刷をしてください。				
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	復習：授業の感想や質問を記入する。（10分） 予習：他の学生の感想や質問に目を通す。（15分） 参考図書 見られる自分～マザコンと自立の臨床発達心理学 鈴木研二				
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。				
授業時間外の連絡手段	mizugaki_yoshiyuki@icc.ac.jp				

留意事項

受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。

①デバイスの持参を推奨します。

②受講希望者多数の場合は履修者の選出を行います。上位学年から優先的に選出します。その他の学年は抽選を行います。選出結果は、IC-UNIPAの「クラスプロフィール」の「授業資料」に掲載します。履修者選出の結果、履修が認められなかった学生は履修登録を取り消してください。

③エクササイズやグループワークを行います。コミュニケーションや人間関係が苦手な人も歓迎します。緊張を緩和する方法を教えるのでコミュニケーションの練習になります。

④期末レポートについて
各授業時のレポートの集積が期末レポートになります。次時の授業時にコメントします。

科目コード	10116	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	対人関係の心理学 c				
担当者	水柿 義之				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜4限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	振り返り用紙と応答 発問と回答 実験・実技・体験 協同学修		
授業の概要					
青年期は対人関係が難しい時期です。人といても気を遣ってしまったり、本当の気持ちを隠すようになってしまいます。人といても安心できなくなることもあります。本授業では青年期における対人関係の心理学を学びます。					
①昔話（三年寝太郎、一寸法師、瓜子姫、飯くわぬ女、桃太郎）の心理学的解釈をもとに、心が子どもから大人に成長する過程を考察します。					
②エクササイズを通して、自分とつながる方法、怒りの感情との付き合い方、価値観を整理する方法、思い込みから抜け出す方法などを学びます。					
③グループワークを通して、対人緊張の緩め方、初めて話す人と打ち解ける方法などを学びます。					
キーワード					
対人関係、青年期、社会性の発達、自己実現、怒り、昔話、グループワーク、思い込み					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で扱った内容の理論的・体験的学習を通して、対人関係の心理学の知識を身につけている。				
評価方法	期末レポート	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業における経験を踏まえて、自身の対人関係について思考し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	期末レポート	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等がレポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や、レポート作成の際、引用元を示さずに他者の文章をそのままコピーするなどの不正行為があった場合は減点の対象となる。					
評価割合	0%				
▼その他					
遅刻、早退、私語、内職、頻繁な退出などは減点の対象となる。事情がある場合は前もって伝えること。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 乳幼児期の心理：三年寝太郎 第3回 中身とつながるエクササイズ 第4回 児童期の心理：一寸法師 第5回 コミュニケーションのグループワーク 第6回 青年期の心理：瓜子姫 第7回 青年期の葛藤のエクササイズ 第8回 オトナの心理：飯くわぬ女 第9回 カラを柔らかくするグループワーク 第10回 オトナから大人へ：桃太郎 第11回 怒りの仕組み 第12回 怒りと上手につき合うエクササイズ 第13回 大人として出会うグループワーク 第14回 心の魔法を解くエクササイズ 第15回 コーピングのグループワーク
使用テキスト	授業で使用する資料はIC-UNIPAに登録します。各自ダウンロードや印刷をしてください。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	復習：授業の感想や質問を記入する。（10分） 予習：他の学生の感想や質問に目を通す。（15分） 参考図書 見られる自分～マザコンと自立の臨床発達心理学 鈴木研二
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	mizugaki_yoshiyuki@icc.ac.jp

留意事項

受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。

①デバイスの持参を推奨します。

②受講希望者多数の場合は履修者の選出を行います。上位学年から優先的に選出します。その他の学年は抽選を行います。選出結果は、IC-UNIPAの「クラスプロフィール」の「授業資料」に掲載します。履修者選出の結果、履修が認められなかった学生は履修登録を取り消してください。

③エクササイズやグループワークを行います。コミュニケーションや人間関係が苦手な人も歓迎します。緊張を緩和する方法を教えるのでコミュニケーションの練習になります。

④期末レポートについて
各授業時のレポートの集積が期末レポートになります。次時の授業時にコメントします。

科目コード	10117	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	歴史学				
担当者	藤野 真拳				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜2限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	07、発表 08、協同学修 10、資料調査課題		
授業の概要					
幕末維新期の人物について学びます。社会の変革期に生きた人物から、現代を生きる我々はどういうことを学べるのか、または学べないのか。彼らが残した歴史資料（史料）を直接読みながら考えていきます。また、受講者各人がその人物について学んだことを発表してもらう機会を設けます。					
キーワード					
幕末維新・徳川斉昭・近藤勇・坂本龍馬・吉田松陰・大久保利通・岩倉具視・江藤新平					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けた歴史上の人物の基本的な理念・思想・歴史についておおむね理解している。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	課題に対して適切なレポートや発表を作成することができる。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象としないが、発表準備の過程などで積極的に活動している学生、または協同学修に極端に非協力的な学生に対しては、思考力・判断力・表現力の評価項目において加点・減点を行う。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象としないが、他者の発表内容がレポート等にうまく反映されていた場合は、思考力・判断力・表現力において加点する。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不平等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や 嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：幕末維新と人物、史料について、グループ（または担当者決め） 第3回：坂本龍馬 第4回：近藤勇 第5回：徳川斉昭 第6回：吉田松陰 第7回：大久保利通 第8回：岩倉具視 第9回～14回：グループ発表 第15回：まとめ ※レポート
使用テキスト	授業で使用する資料はすべてユニパやチームスで共有するので、各自、自分のPCなどにダウンロードするか印刷した上で授業に臨んでください。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業後に理解が及ばなかった点を参考文献等を通して学習する（90分） 参考文献は授業内で指示する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。
留意事項	特になし。

科目コード	10127	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	グローバリゼーションを考える				
担当者	林 寛一				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜3限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>グローバリゼーションの定義は難しいのですが、ここでは、ヒト・モノ・カネ・企業・情報など、国境を越える移動が活発となり、地球規模での一体化が進んでいること、つまり、地球上の各地点での相互連結性が強化される広範な社会的プロセスである、と理解しておいてください。政治的、経済的、文化的な境界、あるいは国境の存在感が以前よりも希薄に感じたり、逆にそうした動きに反発してナショナリズムやポピュリズムのイデオロギーや運動が噴出するの不安を感じたりもしています。この授業では、経済、政治、文化、エコロジー、イデオロギーといった多次元の社会のダイナミズムから、グローバリズムについて広く学び、その実態に迫りたいと考えています。</p>					
キーワード					
グローバリゼーション、資本主義、市場経済、自由主義、ナショナリズム、ポピュリズム、格差、民主主義、エコロジー、文化、情報					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ基本的な知識・技能について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。				
評価方法	学期末筆記試験又は課題・レポート	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修等によって得た知識や経験を踏まえて考察し、かつ論理的又は簡潔に自らの所見を表現できる。				
評価方法	学期末筆記試験又は課題・レポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末筆記試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末筆記試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や学期末筆記試験等の記述において人権侵害・差別的な発言など著しく公正性に欠ける言動等があった場合は、減点や厳重処分の対象となるので注意する。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 グローバリゼーションとは何か？ 第3回 グローバリゼーションと歴史 (1) 第4回 グローバリゼーションと歴史 (2) 第5回 グローバリゼーションと経済 (1) 第6回 グローバリゼーションと経済 (2) 第7回 グローバリゼーションと政治 (1) 第8回 グローバリゼーションと政治 (2) 第9回 グローバリゼーションと文化 (1) 第10回 グローバリゼーションと文化 (2) 第11回 グローバリゼーションとエコロジー (1) 第12回 グローバリゼーションとエコロジー (2) 第13回 グローバリゼーションとイデオロギー 第14回 グローバリゼーションと未来 第15回 まとめ 定期試験
使用テキスト	マンフレッド・B・スティガー、櫻井公人・櫻井純理・高島正晴訳『新版グローバリゼーション』岩波書店、2010年。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業前は、その回のテーマのわからない用語を調べておくこと (60分)。 授業後は、その回の授業について復習するとともに、関連事項についても自主学修を通じて知見を深めることが望ましい (60分)。 参考文献および参考資料については、必要に応じて、その回の授業で伝える。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますが、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	初回の授業等でお知らせします。
留意事項	特になし

科目コード	10131	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	教育と人権				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜3限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
<p>人権とは各人の自由の保障を通じて個人の人格を伸張することに本質があります。そこでは、人間相互の平等が前提とされていますが、現実には経済的・社会的な格差が存在しています。性別や国籍、障害の有無などによる区別が典型といえるでしょう。そのため、すべての人が等しく教育と労働の機会が保障されるように、さまざまな法律や命令などが整備されています。この授業では、これらの法律や命令などを憲法の人権の観点から考察することを通じて、教育と労働をめぐって生じている現代的な課題について考察することを目的としています。</p>					
キーワード					
人権、自由権、社会権、教育の機会均等、勤労の権利・義務、労働基本権					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	人権尊重の本質に関する理解に基づいて、自由権と社会権の相互関係を説明することができる。日本国憲法の教育権や労働基本権が、法律によりどのように保障されているかを具体的な事例と関連づけて考察することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	教育および労働の機会均等を憲法の平等主義の観点から考察でき、これらをめぐる現代的課題を教育や労働をめぐる法制度を通じて検討することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
教育や労働をめぐり社会で生じるさまざまな問題に関心を持ち、その原因を法的に分析し、解決策を自ら検討しようとする態度を身に付ける。					
評価割合	5%				
▼実践的ボランティア					
該当なし					
評価割合	0%				
▼公正性					
教育をめぐると子どもや親の自由と国家的な一定水準の確保、契約締結をめぐると労働者の保護と企業による営業の自由を対立関係として捉えることができる。					
評価割合	5%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス-授業説明と法の学び方- 2 法とは何か-法と権利の相互関係- 3 人権の誕生とその類型-自由権と社会権- 4 人権と国際的保障-個人主義と普遍性- 5 明治憲法における教育と労働 6 日本国憲法による教育と労働 7 教育の機会均等(第26条第1項) 8 教育をめぐると法制度 9 教育権をめぐると親(教師)と国家 10 教育をめぐると自治と行政 11 勤労の権利および義務(第27条) 12 勤労条件に関する諸基準(第27条第2項)-その1- 13 勤労条件に関する諸基準(第27条第2項)-その2- 14 労働基本権の保障(第28条)-労働組合法・労働関係調整法- 15 労働をめぐるとさまざまな問題 16 定期試験
使用テキスト	必要に応じて参考資料を印刷して配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分でできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	10133	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	共に生きる				
担当者	池田 幸也				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜2限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	08:協同学修 11:討論 17:発問と回答		
授業の概要					
<p>「共に生きる」という社会の実現が叫ばれて久しい。身近な地域社会における生活課題から人類の生存に関わる地球的規模の課題に至るまで「共に生きる社会」を阻む課題は多岐にわたる。この講座では、現代社会における多様な社会課題を取上げ、未来を生きるわたしたち自身が創る社会のための参加と協働の意義と方法を考察する。</p> <p>また、講義を通して各自が関心を寄せるテーマを見出し、その課題へのアクションを誘うことをめざす。このために必要な情報提供は毎時間行う。</p>					
キーワード					
現代社会 ボランティア コミュニティ 福祉 教育 国際 差別 偏見 格差 平和 環境 文化 NPO NGO 参加 協働 市民社会					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	講義で取り上げたテーマについての知識の獲得と理解の深化と、共に生きる社会をめざす市民の役割と意義を説明できる。				
評価方法	試験	評価割合	80%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	講義で取り上げたテーマを基礎に、現代社会における地球規模から地域社会における課題の改善に取り組む方法、組織のマネジメント、参加と協働の実践に向けた思考力を身に付ける。				
評価方法	毎時間のリアクションシート及び試験	評価割合	20%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、各回の講義のテーマへの関心・意欲・態度をふりかえりシートの記述などから把握する。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、講義で取り上げたテーマへの関心を寄せる活動を見出した場合は、実践的な取り組みに挑むことを推奨する。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価の対象とはしない。講義の根底を貫く人類にとっての価値である人権の理解を前提に各テーマの学修を深める。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第01回】 人類と現代社会の課題 【第02回】 近代社会の誕生とボランティア 【第03回】 ボランティアと人権 【第04回】 アメリカの人種問題と公民権運動 【第05回】 家族とボランティア活動 【第06回】 障がい者とボランティア活動 【第07回】 障がい者観を問い直すボランティア活動 【第08回】 ホームレスの自立支援とボランティア活動 【第09回】 途上国支援とボランティア活動 【第10回】 人権擁護とボランティア活動 【第11回】好きなことを生かすボランティア活動 【第12回】 多文化共生とボランティア活動 【第13回】 福祉・医療施設とボランティア活動 【第14回】 学校・社会教育施設とボランティア活動 【第15回】 まちづくりとボランティア活動 まとめ試験
使用テキスト	池田幸也『ボランティア論』『市民社会の創造』発行：大学図書出版 2022年 第2版 ISBN978-4-907166-81-6
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	教科書をベースに毎回の講義テーマについて取上げるので、講義の前には教科書の該当箇所を熟読して予習する。講義の後には、疑問や課題を整理し、調べ学習を通して復習に努める。参考文献や資料は毎回の講義で必要に応じて提示する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、あらかじめ学務課等にご相談ください。
授業時間外の連絡手段	初回の講義でお知らせします。
留意事項	* テキストに基づき講義を展開するので、あらかじめ購入し、毎時間持参すること。 * 「共に生きる社会」をめざすわたしたちの参加をテーマに初回から最終回まで全体を貫くストーリーがあるので、できる限り欠席しないようにすること。

科目コード	10134	科目ナンバリング	LA10C36K	主な使用言語	日本語
授業名	ジェンダーの現在 b				
担当者	友野 清文				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜3限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	07. 発表 08. 協同学修 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
みなさんはこれまでの生活の中で「女／男だから～しなさい／してはいけません」ということを言われたことはないでしょうか。あるいは一般論として「女／男は～である（べき）」という言葉を読んだり聞いたりしたことはないでしょうか。そしてその時どう感じたでしょうか。人は何らかの性のあり方を持っていますが、そのあり方は生まれつきの要素と同時に、社会的・文化的要素によっても影響を受けます。ジェンダーは、性のあり方を社会的・文化的側面から考える視点です。 この授業では、家族・学校・地域・社会などの場面で、ジェンダーがどのように意識され機能するかについて、みなさんの体験を踏まえて共に考えていきます。					
キーワード					
sex/gender/sexuality、性別役割分業、equality/equity、性的多様性					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業の内容を踏まえて、ジェンダーをめぐる諸課題について理解し、説明することができる。				
評価方法	授業でのリアクションペーパー 期末レポート	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	ジェンダーの視点を踏まえて、現在の生活と将来の生き方について、自分なりに考え選択していかうとする姿勢を持つ。またジェンダーの視点から、社会問題を捉え、自分の意見を持てるようにする。				
評価方法	授業でのリアクションペーパー 期末レポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしないが、自ら参考資料や文献を参照したり、周囲の人と意見交換をしたりしていることが、リアクションペーパーや学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がリアクションペーパーや学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ジェンダーの問題は、社会的問題であると同時に個人的問題でもあるため、相互の存在を認め合い、人権を尊重する姿勢を大切にすることを求めたい。そして自分とは異なる意見に耳を傾けるようにお願いしたい。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 イントロダクション 授業のねらいと概要 【第2回】 ジェンダーとは ジェンダーに関わる経験の振り返り・共有 【第3回】 性の多面性・多様性 【第4回】 「性差」と「個人差」・ジェンダーステレオタイプ 【第5回】 家族とジェンダー（1） 性別役割分業 【第6回】 家族とジェンダー（2） 三歳児神話と子育て 【第7回】 家族とジェンダー（3） 「選択的夫婦別姓」・「同性婚」 【第8回】 学校とジェンダー（1） 隠れたカリキュラム 【第9回】 学校とジェンダー（2） 男女共学と別学 【第10回】 歴史の中のジェンダー（1） 近代社会の「人間」とは 【第11回】 歴史の中のジェンダー（2） フェミニズム運動 【第12回】 これからの課題（1） 男性のあり方 【第13回】 これからの課題（2） トランスジェンダー 【第14回】 これからの課題（3） ジェンダー主流化 【第15回】 まとめ 期末レポート
使用テキスト	指定しない
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前には、その回のテーマに関わるテーマについて調べる。ネット検索だけではなく、可能な限り文献にあたる。（60分） ・授業後は、授業の内容について整理し、自分の考えをまとめることが望ましい。（30分）
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	質問などがあればメールでお願いします。（アドレスは授業開始時に伝えます）

留意事項

特になし

科目コード	10134	科目ナンバリング	LA10C36K	主な使用言語	日本語
授業名	ジェンダーの現在 a				
担当者	中島 美那子、石塚 美也				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜4限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答 17. 発問と回答		
授業の概要					
社会・文化的な性のありようをジェンダーといいます。本授業では、ジェンダーに関する基礎知識を学びます。ジェンダーの概念を客観的に捉えつつ、受講者が自らの見方・考え方を確立していくことができるように、できるだけ身近な事象を取り上げます。担当教員は臨床心理の実務経験を持つことから、そこから得た学びも共有したいと思います。					
キーワード					
ジェンダー、LGBTQ+、男らしさ・女らしさ、DV					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	ジェンダー、LGBTQ+、DV等に関するさまざまな理論や現在の動向について知見を深め、概ね80%の内容を解答することができる。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	日頃、自明のこととして捉えてきたことが、いかにジェンダーの影響を受けているかについて考えを深め、これらのことを自らの今後の課題としてとらえ、その解決策を示すことができる。				
評価方法	リアクションペーパーおよび学期末筆記試験	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業終了時に取り組む「振り返りシート」において、明確な主体的学修や気づきの記述がある。					
評価割合	10%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等で深まったと思われる知見等が学期末筆記試験の内容に認められたときには、上記「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。しかし、振り返りシートや学期末筆記試験での人権侵害や差別的発言等は減点の対象とする。本授業では性的少数者や男女の公平性について論じることが多くあるため、注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 sex, gender, sexuality (1) 性は女と男の2つか (中島美那子) 【第2回】 sex, gender, sexuality (2) 多様な性の世界 (中島美那子) 【第3回】 「女らしさ」「男らしさ」を考える一子どもの育ち・教育の視点からー (中島美那子) 【第4回】 ジェンダーのこれまでー行政の視点からー (石塚美也) 【第5回】 ジェンダーを身近に考えるー市民アンケート結果をもとにー (石塚美也) 【第6回】 ジェンダーと政治 (石塚美也) 【第7回】 LGBTQについてー性同一性障害・トランスジェンダーを中心にー (石塚美也) 【第8回】 ダイバーシティとジェンダーのこれから (石塚美也) 【第9回】 昭和時代とジェンダー (1) 戦前、戦中そして戦後 (中島美那子) 【第10回】 昭和時代とジェンダー (2) 女性の置かれた立場 (中島美那子) 【第11回】 キャリア形成とジェンダー (中島美那子) 【第12回】 恋愛・結婚とジェンダー (中島美那子) 【第13回】 DV・デートDVの現状と課題 (中島美那子) 【第14回】 男性学入門 (中島美那子) 【第15回】 子育て・介護とジェンダー (中島美那子) 定期試験
使用テキスト	中島美那子・塩原慶子『地域に生きる女たち』（溪水社、2022年）
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	事前学修として、自分の生活の中にあるジェンダーについて意識してみることをお勧めします。事後学修としては、授業で得た知識や気づきを確実なものとするための振り返りを行ってください。参考文献・資料に関しては、授業の中で適宜紹介します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは授業担当者に相談してください。事前の相談も受け付けます。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応します（中島のみ）。石塚先生と連絡が取りたい時は、学務部に相談してください。
留意事項	特になし。

科目コード	10135	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	家族を考える				
担当者	友野 清文				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜4限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	07. 発表 08. 協同学修 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
みなさんにとって「家族」とは何でしょうか。経験の中で家族のイメージはあるにしても、「家族とは何か」について説明することは難しいかもしれません。「家族の役割・機能」についても同様でしょう。家族の姿は時代や社会によって大きく異なっており、これからも変わっていきます。例えば、子育ては現在では家族の中心的機能（役割）とされていますが、これは近代社会になってから強調されたことでした。この授業では家族の歴史を振り返りながら、現在と将来の家族のあり方を一緒に考えていきます。					
キーワード					
家族 歴史 多様化 家庭教育					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業の内容を踏まえて、家族の歴史と現状、家族をめぐるとる諸課題について理解し、説明することができる。				
評価方法	授業でのリアクションペーパー 期末レポート	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	家族の問題に関心を持ち、これからの家族のあり方について自分なりに考えていこうとする姿勢を持つ。また将来自分自身が家族を築く選択をした場合、どのような家族にしたいのかを思い描けるようにする。				
評価方法	授業でのリアクションペーパー 期末レポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしないが、自ら参考資料や文献を参照したり、周囲の人と意見交換をしたりしていることが、リアクションペーパーや学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がリアクションペーパーや学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。家族のあり方は多様であり、「正しい家族」は存在しないことから、個人のプライバシーに配慮し、互いの存在と人権を尊重しながら、自由な意見交換をしよう願いたい。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 インTRODクシヨン 授業のねらいと概要 第2回 家族とは何か 第3回 家族の歴史（1）：前近代の家族 第4回 家族の歴史（2）：近代家族の成立 第5回 家族の歴史（3）：現代社会の家族 第6回 子どもと家族（1）：育児のあり方 第7回 子どもと家族（2）：家庭教育 第8回 子どもと家族（3）：学校教育と家族 第9回 結婚と家族（1）：晩婚化・非婚化 第10回 結婚と家族（2）：選択的夫婦別姓・同性婚・事実婚 第11回 家族をめぐるとる課題（1）：DV 第12回 家族をめぐるとる課題（2）：児童虐待 第13回 家族をめぐるとる課題（3）：離婚と親権 第14回 家族のこれから（1）：多様化 第15回 家族のこれから（2）：社会の中の家族 学期末レポート
使用テキスト	指定しない
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	・授業前には、その回のテーマに関わるテーマについて調べる。ネット検索だけでなく、可能な限り文献にあたる。（60分） ・授業後は、授業の内容について整理し、自分の考えをまとめることが望ましい。（30分）
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	質問などがあればメールでお願いします。（アドレスは授業開始時に伝えます）
留意事項	特になし

科目コード	10136	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	貨幣論 a				
担当者	栗原 正樹				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜2限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	11. 討論	
授業の概要					
<p>この授業では「貨幣」すなわち、「お金」について考えていく。貨幣については、貨幣論をはじめ、多くの学問で議論されてきた。この授業では、貨幣をもう少し抽象的に「お金」と捉え、様々な学問分野の知識を横断的に取り扱う学際的な内容を取り扱う。多くの人がお金をたくさん持っている、たくさん稼ぐことは良いことだと考えているが、なぜ良いと思うのか、お金にはどのような価値があるのかについては、あまり考えていない。また、従来の教育の場において、お金のことを教えるのは暗黙裡に避けられてきており、多くの学生が社会に入ってから自分の体験の中で、お金に関する知識や制度を学んでいくことになっていく。この授業では、その「お金」と向き合い、お金の価値といった概念的なテーマから、税金などのお金に関連する諸制度を学んでいく。お金と向き合うことによって、お金で出来ることは何か、働くことの意味は何か、また、どの程度働けば暮らしていけるのかなど、学生が人生の中において、お金とどのように関わっていくのが良いのかを考えるきっかけとなるだろう。</p> <p>ただし、この授業では、投資の仕方やお金の稼ぎ方自体を取り扱うわけではないので、注意してもらいたい。</p>					
キーワード					
お金、株、投資、為替、税金、保険、リスクマネジメント					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことが出来る。				
評価方法	学期末試験	評価割合	90%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのでもなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。				
評価方法	学期末試験	評価割合	10%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
特になし					
評価割合	0%				
▼公正性					
特になし					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>[第01回] ガイダンス及びお金との付き合い方について</p> <p>[第02回] お金はいくらあれば足りるか①</p> <p>[第03回] お金はいくらあれば足りるか②</p> <p>[第04回] お金の価値①</p> <p>[第05回] お金の価値②</p> <p>[第06回] お金はどのようにして稼ぐか①</p> <p>[第07回] お金はどのようにして稼ぐか②</p> <p>[第08回] お金と税金①</p> <p>[第09回] お金と税金②</p> <p>[第10回] リスクマネジメント①</p> <p>[第11回] リスクマネジメント②</p> <p>[第12回] 金融資産について知る①</p> <p>[第13回] 金融資産について知る②</p> <p>[第14回] まとめ①</p> <p>[第15回] まとめ②</p> <p>定期試験</p>
使用テキスト	レジュメを使用する。Teamsに事前にアップロードするので、各自でそれをダウンロードして使用する。なお、紙媒体又はタブレット等の資料形態は各自の自由とする。 ただし、スマホで閲覧しながらの履修はメモをとることが難しいため学習効果の観点から推奨しない。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける(90分)。授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい(90分)。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。
留意事項	授業中に提出を受ける課題については、次の授業でコメントします。

科目コード	10136	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	貨幣論 b				
担当者	栗原 正樹				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜2限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	11. 討論		
授業の概要					
<p>この授業では「貨幣」すなわち、「お金」について考えていく。貨幣については、貨幣論をはじめ、多くの学問で議論されてきた。この授業では、貨幣をもう少し抽象的に「お金」と捉え、様々な学問分野の知識を横断的に取り扱う学際的な内容を取り扱う。多くの人がお金をたくさん持っている、たくさん稼ぐことは良いことだと考えているが、なぜ良いと思うのか、お金にはどのような価値があるのかについては、あまり考えていない。また、従来の教育の場において、お金のことを教えるのは暗黙裡に避けられてきており、多くの学生が社会に入ってから自分の体験の中で、お金に関する知識や制度を学んでいくことになっていく。この授業では、その「お金」と向き合い、お金の価値といった概念的なテーマから、税金などのお金に関連する諸制度を学んでいく。お金と向き合うことによって、お金で出来ることは何か、働くことの意味は何か、また、どの程度働けば暮らしていけるのかなど、学生が人生の中において、お金とどのように関わっていくのが良いのかを考えるきっかけとなるだろう。</p> <p>ただし、この授業では、投資の仕方やお金の稼ぎ方自体を取り扱うわけではないので、注意してもらいたい。</p>					
キーワード					
お金、株、投資、為替、税金、保険、リスクマネジメント					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことが出来る。				
評価方法	学期末試験	評価割合	90%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのでもなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。				
評価方法	学期末試験	評価割合	10%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象ではないが、上記の思考力・判断力・表現力の評価対象となる場合がある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
特になし					
評価割合	0%				
▼公正性					
特になし					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>[第01回] ガイダンス及びお金との付き合い方について</p> <p>[第02回] お金はいくらあれば足りるか①</p> <p>[第03回] お金はいくらあれば足りるか②</p> <p>[第04回] お金の価値①</p> <p>[第05回] お金の価値②</p> <p>[第06回] お金はどのようにして稼ぐか①</p> <p>[第07回] お金はどのようにして稼ぐか②</p> <p>[第08回] お金と税金①</p> <p>[第09回] お金と税金②</p> <p>[第10回] リスクマネジメント①</p> <p>[第11回] リスクマネジメント②</p> <p>[第12回] 金融資産について知る①</p> <p>[第13回] 金融資産について知る②</p> <p>[第14回] まとめ①</p> <p>[第15回] まとめ②</p> <p>定期試験</p>
使用テキスト	レジュメを使用する。Teamsに事前にアップロードするので、各自でそれをダウンロードして使用する。なお、紙媒体又はタブレット等の資料形態は各自の自由とする。 ただし、スマホで閲覧しながらの履修はメモをとることが難しいため学習効果の観点から推奨しない。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける(90分)。授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい(90分)。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。
留意事項	授業中に提出を受ける課題については、次の授業でコメントします。

科目コード	10137	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	データサイエンスI b				
担当者	有澤 正樹				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	月曜4限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	18. その他		
授業の概要					
<p>多くの人がスマートフォンを携帯している現代社会では、携帯基地局利用履歴や GPS による所在データ、電子決済による利用店舗や購買データ、Web 検索による個人の趣味趣向データなど、これらのデータをつなぎ合わせれば、個人が丸裸にされるほどのあらゆるデータが散散的に蓄積されている。また人だけではなく IoT (Internet of Things ; 自動車や家電製品などのあらゆるモノがネットワークを通じてクラウドサービスに接続されること。) は、あらゆるものの利用データや環境データの収集を可能としている。近年、上述のように本来それぞれの目的でバラバラに収集されたデータ (ビッグデータ) の分析から、何らかの新しい知見を得るためにデータサイエンスが注目されている。またこのような中、文部科学省は学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ適切に理解し活用する基礎的な能力を育成することを目的として、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 (リテラシーレベル) を推進している。この科目では事実上の認定テキストを用いて教養としてのデータサイエンスの概要を講義する。</p>					
キーワード					
ICT、AI、ビッグデータ、統計学、オペレーションズ・リサーチ、情報倫理、セキュリティ、プライバシー					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	社会におけるデータ・AI 利活用の現状と展望、および、その留意点を理解する。				
評価方法	小テスト+定期試験	評価割合	20%+80%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	データを読む、説明する、扱うためのデータリテラシーを修得する。				
評価方法	「知識・技能」と合わせて評価する。	評価割合	0%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
教科書節末等を実施する簡単な小テストに取り組み、遅滞なく提出する。(「知識・技能」と合わせて評価する。)					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしないが、課題作成において不正行為があった場合は、減点や失格の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>- 社会におけるデータ・AI 利活用 -</p> <p>【第01回】社会で起きている変化 (1) … ビッグデータ、ICT</p> <p>【第02回】社会で起きている変化 (2) … AI</p> <p>【第03回】社会で活用されているデータ</p> <p>【第04回】データとAIの活用領域</p> <p>【第05回】データ・AI利活用のための技術 (1) … さまざまなデータ解析</p> <p>【第06回】データ・AI利活用のための技術 (2) … データ解析の関連話題</p> <p>【第07回】データ・AI利活用のための技術 (3) … パターン認識、AI</p> <p>【第08回】データ・AI活用の現場</p> <p>【第09回】データ・AI利活用の最新動向</p> <p>- データリテラシー -</p> <p>【第10回】データを読む</p> <p>【第11回】データを説明する</p> <p>【第12回】データを扱う</p> <p>- データ・AI 利活用における留意事項 -</p> <p>【第13回】データ・AI を扱う上での留意事項 (1) … ELSI、AI 倫理</p> <p>【第14回】データ・AI を扱う上での留意事項 (2) … アカウンタビリティ、公平性、事例紹介</p> <p>【第15回】データを守る上での留意事項</p> <p>定期試験</p>				
使用テキスト	北川源二郎、竹村彰通 編 『データサイエンス入門 教養としてのデータサイエンス』 講談社、2021年				
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	特に予習は必要としないが、世の中の ICT や AI などに関連する話題に関心をもってメディアに接すること。 参考資料：文部科学省 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度				
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。				
授業時間外の連絡手段	Teams の当該科目チーム内 (投稿)、またはメール (maa@icc.ac.jp)、もしくはオフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時限等については UNIPA で確認すること。				
留意事項	出席は Teams 内の出席確認フォーム (Forms) から入力していただくため、Teams にアクセス可能なデバイス (スマートフォン等) を携帯すること。また、小テストは Teams 上での「クイズ形式 (Forms)」で実施予定のため、前述のスマートフォン、もしくはタブレットや PC 等のデバイスを携帯すること。				

科目コード	10137	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	データサイエンスI c				
担当者	小貫 哲平				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜1限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	10 資料調査課題		
授業の概要					
<p>私たちの日常や社会活動は情報技術や通信網の利用が不可欠となっています。本講義では現代の大学生が知っておくべき情報通信技術の教養とそれらの社会的背景および将来展望について講義をします。</p> <p>社会の発展の過程の歴史とこれからの展望について学習します。（社会におけるデータAIの活用） データとは何かを学び、特に数値データを取り扱うための統計学など初等的な数学をExcelを用いて実習します。（データリテラシー） データ主導なAIモデル（深層学習など）の基礎を学習し、その活用法も学びます。（データ・AI活用における留意事項）</p> <p>※政府は、AI戦略2019において「数理・データサイエンス・AI」を推奨しており、文系・理系を問わず、すべての大学生が、初級レベルの「数理・データサイエンス・AI」を習得することが目標として掲げられました。このような流れを受けて、拠点大学を中心とした数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムから2020年にモデルカリキュラムが策定され「数理・データサイエンス・AI」の体系的な教育プログラムを文部科学大臣が認定及び選定して奨励する制度が創設されました。本科目では、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度のリテラシーレベルを体系的に扱い学が入門的な講義と実習を行います。</p>					
<p>高等学校 情報科 授業資料 生徒向け 情報I 情報II</p>					
キーワード					
情報リテラシー、情報リスク、情報技術（IT）、情報通信技術（ICT）、データサイエンス、人工知能（AI）					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	社会における情報技術や進歩、そのリスクやそのセキュリティについて理解する。 また、大規模データの活用や人工知能についても理解する。				
評価方法	レポート提出	評価割合	20%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容を理解することにより、ICTおよびAIに関する問題を考察し、論理的に表現することができる。				
評価方法	学期末試験	評価割合	80%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象としない。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象としない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象としない。					
評価割合	0%				
▼その他					
特に無し					
評価割合	0%				

授業計画	第01回：講義のガイダンス 第02回：社会で起きている変化 第03回：社会で活用されているデータ 第04回：データとAIの活用領域 ICTサービス、AIサービスに触れる 第05回：データとAIのための技術 ICTサービス、AIサービスに触れる 第06回：データ・AI活用の現場 ICTサービス、AIサービスに触れる 第07回：データ・AI活用の最新動向 ICTサービス、AIサービスに触れる 第08回：まとめ 第09回：Excel データを読む（数理統計） 第10回：Excel データを読む（数理統計） 第11回：Excel データを説明する（グラフ作成） 第12回：Excel データを説明する（グラフ作成） 第13回：Excel データを扱う（データ取得） 第14回：Excel データを扱う（データ取得） 第15回：データとAIの活用における留意事項 期末試験
使用テキスト	『教養としてのデータサイエンス』（講談社）9784065238097
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	基本的に、上記のテキストを元に講義を行います。テキストを予習復習に用いてもらいます。

障がいのある履修者への対応	学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	Teams掲示板を用いて連絡を受け付けます
留意事項	googleアカウント および Bingアカウント （無料で個人で作成できるもの）を持っていると、理解が深まります。

科目コード	10137	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	データサイエンスI d				
担当者	小貫 哲平				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜2限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	10 資料調査課題		
授業の概要					
<p>私たちの日常や社会活動は情報技術や通信網の利用が不可欠となっています。本講義では現代の大学生が知っておくべき情報通信技術の教養とそれらの社会的背景および将来展望について講義をします。</p> <p>社会の発展の過程の歴史とこれからの展望について学習します。（社会におけるデータAIの活用） データとは何かを学び、特に数値データを取り扱うための統計学など初等的な数学をExcelを用いて実習します。（データリテラシー） データ主導なAIモデル（深層学習など）の基礎を学習し、その活用法も学びます。（データ・AI活用における留意事項）</p> <p>※政府は、AI戦略2019において「数理・データサイエンス・AI」を推奨しており、文系・理系を問わず、すべての大学生が、初級レベルの「数理・データサイエンス・AI」を習得することが目標として掲げられました。このような流れを受けて、拠点大学を中心とした数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムから2020年にモデルカリキュラムが策定され「数理・データサイエンス・AI」の体系的な教育プログラムを文部科学大臣が認定及び選定して奨励する制度が創設されました。本科目では、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度のリテラシーレベルを体系的に扱い学が入門的な講義と実習を行います。</p> <p>高等学校 情報科 授業資料 生徒向け 情報I 情報II</p>					
キーワード					
情報リテラシー、情報リスク、情報技術（IT）、情報通信技術（ICT）、データサイエンス、人工知能（AI）					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	社会における情報技術や進歩、そのリスクやそのセキュリティについて理解する。 また、大規模データの活用や人工知能についても理解する。				
評価方法	レポート提出	評価割合	20%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容を理解することにより、ICTおよびAIに関する問題を考察し、論理的に表現することができる。				
評価方法	学期末試験	評価割合	80%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象としない。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象としない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象としない。					
評価割合	0%				
▼その他					
特に無し					
評価割合	0%				

授業計画	第01回：講義のガイダンス 第02回：社会で起きている変化 第03回：社会で活用されているデータ 第04回：データとAIの活用領域 ICTサービス、AIサービスに触れる 第05回：データとAIのための技術 ICTサービス、AIサービスに触れる 第06回：データ・AI活用の現場 ICTサービス、AIサービスに触れる 第07回：データ・AI活用の最新動向 ICTサービス、AIサービスに触れる 第08回：まとめ 第09回：Excel データを読む（数理統計） 第10回：Excel データを読む（数理統計） 第11回：Excel データを説明する（グラフ作成） 第12回：Excel データを説明する（グラフ作成） 第13回：Excel データを扱う（データ取得） 第14回：Excel データを扱う（データ取得） 第15回：データとAIの活用における留意事項 期末試験
使用テキスト	『教養としてのデータサイエンス』（講談社）9784065238097
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	基本的に、上記のテキストを元に講義を行います。テキストを予習復習に用いてもらいます。

障がいのある履修者への対応	学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	Teams掲示板を用いて連絡を受け付けます
留意事項	googleアカウント および Bingアカウント （無料で個人で作成できるもの）を持っていると、理解が深まります。

科目コード	10140	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	地域を学ぶ a				
担当者	川又 啓蔵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜5限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題		
授業の概要					
【(授業形態ガイドライン レベルⅢ・Ⅱ) 同時双方向型					
<p>当地域・茨城県について、一般論だけでなく事例を通した様々な視点から多角的に学修します。</p> <p>なお、講師は隣県・福島県の出身ですが、自ら経営している会社の営業活動、報道記者・ラジオパーソナリティー（元・Lucky FM茨城放送、現・CRT栃木放送）等の放送実務、東日本大震災復興関連事業〔ソフト事業〕、地域づくり研究者〔地域資源・地域づくり・防災など〕などを通して、県内44市町村全てに向いた経験を生かして、次のような内容で授業を進めます。</p> <p>1. 茨城県の姿を俯瞰し、おおまかに地域の現状を把握する。 2. 特徴的なテーマを通して、地域の姿を考察する。 3. 現状や課題を把握することで他地域との比較も可能になり、自らの地域について未来志向の目線を持てるようになる。</p>					
キーワード					
地域、茨城県、県央、県北、鹿行、県南、県西、都心100キロ圏、北関東、都道府県魅力度ランキング、南北問題、南北格差、原発、臨海工業開発、臨海工業地帯、水戸、交通、鉄道、農林水産、農業、水産、海面、内水面、市街地、空洞化、つくば、企業					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	地域についての基本的な知識や考え方について、事例を含め多角的な視点を通して学び、未来志向の目線で、地域課題の解決などを主体的に考えることができる。				
評価方法	学期末課題	評価割合	100%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	なお、学期末課題においては、論文等作成の基本的なルール、論理構成や適切な日本語が使われているかなども評価の対象となります。				
評価方法	学期末課題	評価割合	0%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の災害体験・経験について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の地域貢献活動、社会参加・協働活動等について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、災害について、客観かつ公平性に即した考察や、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。 また、不適切な引用（いわゆる「コピペ」）等については、厳しく対応します（試験における不正行為への対応に準じます）。					
評価割合	0%				
▼その他					
授業への参加（出席）は、最低限の条件であり、履修登録者全員が適切に出席していることを前提とするため、原則として、出席確認は実施しません。 主に学期末課題の評価をもとに成績評定を行います。学期末課題は、実際に授業内で論じられた講義内容を基に論述を展開する必要があるため、出席が不十分な場合、その作成が困難となることもありますので留意してください。					
※ここ数年、コロナ対応、DXを活用した非接触の推進など、出席を取るか否かを含め試行錯誤を続けています。そのため、出席を評価として活用するかについては、状況に応じ、「履修登録している学生との協議を経て」変更する場合があります。					
評価割合	0%				

★地域についての総論★					
【第1回】オリエンテーション・イントロダクション・「地域」の見方・読み方					
【第2回】茨城県の「姿」と「立ち位置」 ※茨城県について俯瞰し考察します。また、これまで直面してきた災害についても論じます。					
【第3回】地域別考察 ※県内5地域（県央、県北、鹿行、県南、県西）ごとにその姿について考察します。					
★テーマ別（特徴〔特長〕や課題別）による茨城県の考察★					
【第4回】都心100キロ圏（県都ベース）という宿命 ※他の北関東2県（栃木・群馬）同様、首都・東京から決して遠くない立地にあることのメリット・デメリットについて考察します。					
【第5回】都道府県魅力度ランキングにおける「低評価」 ※類似評価を受けている他県との比較などを含め、現状と理由などについて考察します。					

<p>授業計画</p>	<p>【第6回】いわゆる「南北問題」「県都スルー型問題」 ※おおむね国道125号を境にそれぞれ南北でみられる格差や、特に交通網において、各地域が独立して東京との最適ルートが存在していることについて考察します。</p> <p>【第7回】地場産業の栄枯盛衰と経産省所管分野による地域形成 ※社会経済環境の変化による地場産業や地域の栄枯盛衰と、原発・臨海工業開発など、主に経産省の所管分野による開発・地域形成などについて考察します。</p> <p>【第8回】県都・水戸市の変遷にみる「社会構造の変化」 ※かつては、旧国鉄による鉄道の要衝として栄えたが、近年、中心市街地の空洞化など都市の衰退に直面する同市について考察します。</p> <p>【第9回】隣県と結びつきが強い地域・市町が存在 ※県央以外の4地域全てでその傾向が見られる現状と課題について考察します。</p> <p>【第10回】つくば開発 ※つくば地域（その周辺圏を含む）について、国内稀に見るケースとなった地域開発、そして現状や影響などについて考察します。</p> <p>【第11回】決して脆弱ではない「交通インフラ」 ※高速道路4路線、全国2位の道路総延長距離、鉄道15路線（停車駅は無いが県内を通過している東北新幹線を含む。）、空港、港湾（国際・重要港湾）など交通インフラは脆弱とはいえないが、「便利なゆえの」影響などについて考察します。</p> <p>【第12回】全国第3位の農業県（産出額ベース）・全国上位の水産業（海面・内水面とも、生産量ベース。） ※恵まれた環境と大市場・東京に近い立地を生かして農業水産業は地場産業の一角を占めているが、その現状や課題について考察する。</p> <p>【第13回】企業活動を通して見る「茨城の姿」-1 ※特徴的な企業行動・活動の実例を通して考察する。（第13・14回それぞれ数社ずつ取り上げます。）</p> <p>【第14回】企業活動を通して見る「茨城の姿」-2 ※特徴的な企業行動・活動の実例を通して考察する。（第13・14回それぞれ数社ずつ取り上げます。）</p> <p>【第15回】まとめ</p> <p>※時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。</p>
<p>使用テキスト</p>	<p>校内（教室内）にはフリーw i f i が整備されていますので、D Xへの適応とペーパーレス、I O T環境の活用という観点からも、テキスト（教科書）は使用せず、授業中は、講義内容に応じてインターネットで学修に必要な情報を検索してください。 ※わからない文言、より知りたい事象など、エビデンスとなり得る情報は、信頼性の問題はありませんがインターネット上にあふれています。そうした信頼性の判断や取捨選択のトレーニングを兼ね、ネット上の情報をテキスト（教科書）として活用してください。</p>
<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>インターネット等を通して、地域についての情報収集等、自主学修を行うことが望まれます。</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応します。なお、授業は、視覚的掲示ではなく話的講義が中心です。</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>メール（kawamata_keizou@icc.ac.jp）または、学務部経由を希望します。</p>
<p>留意事項</p>	<p>前記授業内容にも記しましたが、災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。また、履修登録者の各部学科構成等と授業内容の最適化を図るために、授業計画内容を変更する場合があります。</p>

科目コード	10144	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	生命科学 a				
担当者	野澤 恵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜3限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	17. 発問と応答	
授業の概要					
<p>更科功「美しい生物学講義」をテキストに用いて、最新の生物学について読み解いていきます。これにより、生物学を面白いと感じられる講義を行ないたいと考えています。読み解く順序は、順序は全体の構成上変更することがあります。輪読形式として、受講者をグループに分け、担当する章を事前に予習し、スライドを作り発表してもらいます。テキストの内容に加え、関連する内容を深堀をしてください。</p>					
キーワード					
生物学					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で取り上げたこと、学んだことを80%理解できる				
評価方法	毎回のテキストの解説と解釈などのまとめチェック	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	「美しい生物学講義」に対して自分なりの理解したことを解説する				
評価方法	学期末レポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業への参加状況や提出物の提出状況によって評価する。					
評価割合	10%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回 ガイダンス、第一章 第2回 第二章、第三章 第3回 第四章 第4回 第五章、第六章 第5回 第七章 第6回 第八章、第九章 第7回 第十章 第8回 第十一章、第十二章 第9回 第十三章 第10回 第十四章、 第11回 第十五章 第12回 第十六章 第13回 第十七章 第14回 第十八章、第十九章 第15回 最終回 (みなさんの反応により順番等などは変更の可能性があります)</p>
使用テキスト	更科功「美しい生物学講義」ダイヤモンド社 ISBN 978-4-478-10830-7
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	事前に連絡するテキストの一部の予習を行い、まとめ等を作成してください また、行った講義の復習などをお願いします
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますし、教務、学務に相談してください
授業時間外の連絡手段	教務、学務部等に連絡してください
留意事項	教室に応じた定員としますので、受講者が多すぎるときは初回に抽選となります。その場合、初回欠席者は追加登録できないので注意してください。

科目コード	10144	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	生命科学 b				
担当者	野澤 恵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜4限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	17. 発問と応答	
授業の概要					
<p>更科功「美しい生物学講義」をテキストに用いて、最新の生物学について読み解いていきます。これにより、生物学を面白いと感じられる講義を行いたいと考えています。読み解く順序は、順序は全体の構成上変更することがあります。輪読形式として、受講者をグループに分け、担当する章を事前に予習し、スライドを作り発表してもらいます。テキストの内容に加え、関連する内容を深堀をしてください。</p>					
キーワード					
生物学					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で取り上げたこと、学んだことを80%理解できる				
評価方法	毎回のテキストの解説と解釈などのまとめチェック	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	「美しい生物学講義」に対して自分なりの理解したことを解説する				
評価方法	学期末レポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業への参加状況や提出物の提出状況によって評価する。					
評価割合	10%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回 ガイダンス、第一章 第2回 第二章、第三章 第3回 第四章 第4回 第五章、第六章 第5回 第七章 第6回 第八章、第九章 第7回 第十章 第8回 第十一章、第十二章 第9回 第十三章 第10回 第十四章、 第11回 第十五章 第12回 第十六章 第13回 第十七章 第14回 第十八章、第十九章 第15回 最終回 (みなさんの反応により順番等などは変更の可能性があります)</p>
使用テキスト	更科功「美しい生物学講義」ダイヤモンド社 ISBN 978-4-478-10830-7
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	事前に連絡するテキストの一部の予習を行い、まとめ等を作成してください また、行った講義の復習などをお願いします
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますし、教務、学務に相談してください
授業時間外の連絡手段	教務、学務部等に連絡してください
留意事項	教室に応じた定員としますので、受講者が多すぎるときは初回到に抽選となります。その場合、初回欠席者は追加登録できないので注意してください。

科目コード	10145	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	生命倫理				
担当者	柳橋 晃				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜2限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	08. 協同学修 11. 討論 16. 振り返り用紙と応答 17. 発問と回答		
授業の概要					
本講義では、医療倫理、研究倫理の原理と原則を説明すると共に、現代社会における生命倫理的課題をそうした倫理的原理、原則に照らして考察します。生命倫理的課題を考察する際には、受講生同士で議論を行いながら洞察を深めることもあります。最終的には、自ら生命倫理的課題を発見して考察し、そうした課題により善い回答を導き出せることを目指します。					
キーワード					
パターナリズム、インフォームド・コンセント、守秘義務、尊厳死、安楽死、脳死、臓器移植、公衆衛生、人工妊娠中絶、生殖技術、障害、遺伝子操作、エンハンスメント、優生思想、研究倫理、ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、タスキギー事件、ベルモントレポート、動物実験、専門職倫理、H. K. ビーチャー、R. J. レヴァイン					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	生命倫理、研究倫理の原理と原則、そして、生命倫理的課題に関する基礎的知識を理解している。				
評価方法	・ 中間試験 ・ 定期試験	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	生命倫理的課題を発見し、生命倫理、研究倫理の原理と原則を踏まえた上で、多様な視点と立場から問い直すことができる。				
評価方法	・ 中間試験 ・ 定期試験	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接の評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接の評価対象とはしない。しかし、自ら生命倫理的課題を発見する態度を涵養すること。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接の評価対象とはしない。しかし、医療倫理、研究倫理の原理と原則を用いて、事例を判断できるようになることは、公正性に関する事柄だと意識すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1週 倫理とは、生命倫理とは 第2週 自己決定とパターナリズム 第3週 インフォームドコンセント、守秘義務 第4週 安楽死と尊厳死 第5週 脳死と臓器移植 第6週 公衆衛生 第7週 中間のまとめ 第8週 人工妊娠中絶と生殖技術 第9週 人工妊娠中絶と生殖技術に関する諸問題 第10週 遺伝子操作とエンハンスメント 第11週 遺伝子操作とエンハンスメントに関する諸問題 第12週 研究倫理：ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言 第13週 研究倫理：タスキギー研究、ベルモントレポート 第14週 研究倫理：動物実験に関する倫理 第15週 専門職倫理
使用テキスト	適宜配布するスライドのハンドアウトを用いて授業を進めます。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習については、適宜に紹介する生命倫理に関する文献に目を通しておくことが望ましい。復習については、授業内容を振り返りながら、自らの経験やニュースなどで紹介される事例を考察してみるとよい。 参考文献としては、以下の5点を挙げておきます。 ・ トム・L. ビーチャム、ジェイムズ・F. テルドレス『生命医学倫理』麗澤大学出版会、2009年。 ・ Ezekiel J. Emanuel, et al. eds. The Oxford Textbook of Clinical Research Ethics., Oxford University Press, 2008. ・ 市野川容孝編『生命倫理とは何か』平凡社、2002年。 ・ 松井健志監修『相談事例から考える研究倫理コンサルテーション』医歯薬出版、2022年。 ・ 田代志門『みんなの研究倫理入門：臨床研究になぜこんな面倒な手続きが必要なのか』医学書院2020年。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
授業時間外の連絡手段	オフィスパワーに研究室で対応します。曜日・時限等については授業内でお知らせします。

留意事項

デバイスの持参を推奨します。

科目コード	10150	科目ナンバリング	LA10C51K	主な使用言語	日本語
授業名	災害と人間 a				
担当者	川又 啓蔵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜4限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題		

授業の概要

【授業形態ガイドライン レベルⅢ・Ⅱ】同時双方向型

災害・防災・減災について、一般論だけでなく、災害の実例（災害対応を求められる感染症等を含む）、環境（地球・自然環境、科学技術の進歩、経済環境等）の変化や社会事象を通して多角的、かつ、リスクマネジメントの観点・考え方をうけて学修します。

なお、講師自身の実務経験（記者やラジオパーソナリティー等の放送実務、東日本大震災復興関連事業者〔ソフト事業〕、地域づくり研究者〔地域資源・地域づくり・防災など〕、企業経営者）を生かして、次のような内容で授業を進めます。

1. 東日本大震災と福島第一原発事故
講師自身の経験（避難、生活再建、自ら経営する会社の事業再建、原発事故の被災地復興事業や研究等の携わっていること等）を通して授業内容を展開します。
2. 地球環境や社会構造の変化と災害の関係性
地球温暖化や少子高齢化といった、地球環境や社会構造の変化などが災害に及ぼす影響について、復旧・復興を含め内容を展開します。
3. 災害として扱われる感染症
新型コロナや新型インフルエンザ、新興感染症や病虫害、鳥インフルエンザ・豚熱・口蹄疫など、災害級の規模や被害、そして災害と同等の対応を求められる感染症について内容を展開します。
4. 災害と情報
科学・情報技術の進歩が、災害報道や防災減災等にどのような影響・変化を及ぼしたかについて、デマ拡散などのデメリットを含め積極的に論じます。

キーワード

災害、防災、減災、東日本大震災、地球環境、経済、社会、農業、資源、情報、報道、放送、地域資源、地域、生きる力、新型コロナウイルス感染症、感染症、家畜感染症、地震、津波、火災、リスク、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標	災害・防災・減災についての基本的な知識や考え方について、東日本大震災、気候変動との関連が指摘されている近年の災害、災害対応を求められる感染症などをはじめとする実例を通して学び、少子高齢化社会を踏まえた、災害とその復旧復興、災害と自身の関わり等について、多角的かつ主体的に考えることができる。		
評価方法	学期末課題	評価割合	100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標	なお、学期末課題においては、論文等作成の基本的なルール、論理構成や適切な日本語が使われているかなども評価の対象となります。		
評価方法	学期末課題	評価割合	0%

▼学修に主体的に取り組む態度

直接的な評価対象とはしません。
ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の災害体験・経験について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。

評価割合	0%
------	----

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしません。
ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の地域貢献活動、社会参加・協働活動等について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。

評価割合	0%
------	----

▼公正性

直接的な評価対象とはしません。
ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、災害について、客観かつ公平性に即した考察や、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。
また、不適切な引用（いわゆる「コピペ」）等については、厳しく対応します（試験における不正行為への対応に準じます）。

評価割合	0%
------	----

▼その他

授業への参加（出席）は、最低限の条件であり、履修登録者全員が適切に出席していることを前提とするため、原則として、出席確認は実施しません。
主に学期末課題の評価をもとに成績評定を行います。学期末課題は、実際に授業内で論じられた講義内容を基に論述を展開する必要がありますため、出席が不十分な場合、その作成が困難となることもありますので留意してください。

※ここ数年、コロナ対応、DXを活用した非接触の推進など、出席を取るか否かを含め試行錯誤を続けています。そのため、出席を評価として活用するかについては、状況に応じ、「履修登録している学生との協議等を経て」変更する場合があります。

評価割合	0%
------	----

<p>授業計画</p>	<p>【第1回】オリエンテーション・イントロダクション・災害についての概論-1（災害による被災時「なぜ、私たちは助けられるのか？」） 【第2回】災害についての概論-2（災害とは、歴史・法制度・時代とともに変化する定義など） 【第3回】東日本大震災-1（概論、被害の種類別でみた姿【地震・津波】） 【第4回】東日本大震災-2（被害の種類別でみた姿【福島第一原発事故】） 【第5回】東日本大震災-3（復旧復興、実際には困難が多い「生業の復興」） 【第6回】東日本大震災-4（この災害から得られた教訓）、これまでの振り返り 【第7回】地球環境の変化と災害の関係性 【第8回】社会構造の変化と災害の関係性-1（災害により「めくられた」潜在・必然的リスク） 【第9回】社会構造の変化と災害の関係性-2（少子高齢化と災害【復旧・復興を含む】） 【第10回】社会構造の変化と災害の関係性-3（拡大する二次災害・二次被害） 【第11回】社会構造の変化と災害の関係性-4（拡大する社会・経済への影響、被災・避難後の対応と影響） 【第12回】災害級の感染症 【第13回】災害と情報・リスクマネジメント・リスクコミュニケーションと戦略的な災害対応 【第14回】将来に向け戦略的な「災害との向き合い方」と「復旧復興への取り組み方」 【第15回】まとめ</p> <p>※災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。</p>
<p>使用テキスト</p>	<p>校内（教室内）にはフリーw i f i が整備されていますので、D Xへの適応とペーパーレス、I O T環境の活用という観点からも、テキスト（教科書）は使用せず、授業中は、講義内容に応じてインターネットで学修に必要な情報を検索してください。 ※わからない文言、より知りたい事象など、エビデンスとなり得る情報は、信頼性の問題はありませんがインターネット上にあふれています。そうした信頼性の判断や取捨選択のトレーニングを兼ね、ネット上の情報をテキスト（教科書）として活用してください。</p>
<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>インターネット等を通して、災害についての情報収集等、自主学修を行うことが望まれます。</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応します。なお、授業は、視覚的掲示ではなく話的講義が中心です。</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>メール（kawamata_keizou@icc.ac.jp）または、学務部経由を希望します。</p>
<p>留意事項</p>	<p>前記授業内容にも記しましたが、災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。また、履修登録者の各部学科構成等と授業内容の最適化を図るために、授業計画内容を変更する場合があります。</p>

科目コード	10150	科目ナンバリング	LA10C51K	主な使用言語	日本語
授業名	災害と人間 b				
担当者	川又 啓蔵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜6限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題		
授業の概要					
【授業形態ガイドライン レベルⅢ・Ⅱ】同時双方向型					
<p>災害・防災・減災について、一般論だけでなく、災害の実例（災害対応を求められる感染症等を含む）、環境（地球・自然環境、科学技術の進歩、経済環境等）の変化や社会事象を通して多角的、かつ、リスクマネジメントの観点・考え方をうけて学修します。</p> <p>なお、講師自身の実務経験（記者やラジオパーソナリティー等の放送実務、東日本大震災復興関連事業者〔ソフト事業〕、地域づくり研究者〔地域資源・地域づくり・防災など〕、企業経営者）を生かして、次のような内容で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 東日本大震災と福島第一原発事故 講師自身の経験（避難、生活再建、自ら経営する会社の事業再建、原発事故の被災地復興事業や研究等の携わっていること等）を通して授業内容を展開します。 地球環境や社会構造の変化と災害の関係性 地球温暖化や少子高齢化といった、地球環境や社会構造の変化などが災害に及ぼす影響について、復旧・復興を含め内容を展開します。 災害として扱われる感染症 新型コロナや新型インフルエンザ、新興感染症や病虫害、鳥インフルエンザ・豚熱・口蹄疫など、災害級の規模や被害、そして災害と同等の対応を求められる感染症について内容を展開します。 災害と情報 科学・情報技術の進歩が、災害報道や防災減災等にどのような影響・変化を及ぼしたかについて、デマ拡散などのデメリットを含め積極的に論じます。 					
キーワード					
災害、防災、減災、東日本大震災、地球環境、経済、社会、農業、資源、情報、報道、放送、地域資源、地域、生きる力、新型コロナウイルス感染症、感染症、家畜感染症、地震、津波、火災、リスク、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	災害・防災・減災についての基本的な知識や考え方について、東日本大震災、気候変動との関連が指摘されている近年の災害、災害対応を求められる感染症などをはじめとする実例を通して学び、少子高齢化社会を踏まえた、災害とその復旧復興、災害と自身の関わり等について、多角的かつ主体的に考えることができる。				
評価方法	学期末課題	評価割合	100%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	なお、学期末課題においては、論文等作成の基本的なルール、論理構成や適切な日本語が使われているかなども評価の対象となります。				
評価方法	学期末課題	評価割合	0%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の災害体験・経験について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の地域貢献活動、社会参加・協働活動等について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、災害について、客観かつ公平性に即した考察や、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。 また、不適切な引用（いわゆる「コピペ」）等については、厳しく対応します（試験における不正行為への対応に準じます）。					
評価割合	0%				
▼その他					
授業への参加（出席）は、最低限の条件であり、履修登録者全員が適切に出席していることを前提とするため、原則として、出席確認は実施しません。 主に学期末課題の評価をもとに成績評定を行います。学期末課題は、実際に授業内で論じられた講義内容を基に論述を展開する必要があるため、出席が不十分な場合、その作成が困難となることもありますので留意してください。					
※ここ数年、コロナ対応、DXを活用した非接触の推進など、出席を取るか否かを含め試行錯誤を続けています。そのため、出席を評価として活用するかについては、状況に応じ、「履修登録している学生との協議等を経て」変更する場合があります。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>【第1回】オリエンテーション・イントロダクション・災害についての概論-1（災害による被災時「なぜ、私たちは助けられるのか？」）</p> <p>【第2回】災害についての概論-2（災害とは、歴史・法制度・時代とともに変化する定義など）</p> <p>【第3回】東日本大震災-1（概論、被害の種類別でみた姿〔地震・津波〕）</p> <p>【第4回】東日本大震災-2（被害の種類別でみた姿〔福島第一原発事故〕）</p> <p>【第5回】東日本大震災-3（復旧復興、実際には困難が多い「生業の復興」）</p> <p>【第6回】東日本大震災-4（この災害から得られた教訓）、これまでの振り返り</p> <p>【第7回】地球環境の変化と災害の関係性</p> <p>【第8回】社会構造の変化と災害の関係性-1（災害により「めくられた」潜在・必然的リスク）</p> <p>【第9回】社会構造の変化と災害の関係性-2（少子高齢化と災害〔復旧・復興を含む〕）</p> <p>【第10回】社会構造の変化と災害の関係性-3（拡大する二次災害・二次被害）</p> <p>【第11回】社会構造の変化と災害の関係性-4（拡大する社会・経済への影響、被災・避難後の対応と影響）</p> <p>【第12回】災害級の感染症</p> <p>【第13回】災害と情報・リスクマネジメント・リスクコミュニケーションと戦略的な災害対応</p> <p>【第14回】将来に向け戦略的な「災害との向き合い方」と「復旧復興への取り組み方」</p> <p>【第15回】まとめ</p> <p>※災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。</p>
使用テキスト	<p>校内（教室内）にはフリーw i f i が整備されていますので、D Xへの適応とペーパーレス、I O T環境の活用という観点からも、テキスト（教科書）は使用せず、授業中は、講義内容に応じてインターネットで学修に必要な情報を検索してください。</p> <p>※わからない文言、より知りたい事象など、エビデンスとなり得る情報は、信頼性の問題はありませんがインターネット上にあふれています。そうした信頼性の判断や取捨選択のトレーニングを兼ね、ネット上の情報をテキスト（教科書）として活用してください。</p>
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>インターネット等を通して、災害についての情報収集等、自主学修を行うことが望まれます。</p>
障がいのある履修者への対応	<p>可能な限り対応します。なお、授業は、視覚的掲示ではなく話的講義が中心です。</p>
授業時間外の連絡手段	<p>メール（kawamata_keizou@icc.ac.jp）または、学務部経由を希望します。</p>
留意事項	<p>前記授業内容にも記しましたが、災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。また、履修登録者の各部学科構成等と授業内容の最適化を図るために、授業計画内容を変更する場合があります。</p>

科目コード	10150	科目ナンバリング	LA10C51K	主な使用言語	日本語
授業名	災害と人間 。				
担当者	川又 啓蔵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜4限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題		
授業の概要					
【授業形態ガイドライン レベルⅢ・Ⅱ】同時双方向型					
<p>災害・防災・減災について、一般論だけでなく、災害の実例（災害対応を求められる感染症等を含む）、環境（地球・自然環境、科学技術の進歩、経済環境等）の変化や社会事象を通して多角的、かつ、リスクマネジメントの観点・考え方をうけて学修します。</p> <p>なお、講師自身の実務経験（記者やラジオパーソナリティー等の放送実務、東日本大震災復興関連事業者【ソフト事業】、地域づくり研究者【地域資源・地域づくり・防災など】、企業経営者）を生かして、次のような内容で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東日本大震災と福島第一原発事故 講師自身の経験（避難、生活再建、自ら経営する会社の事業再建、原発事故の被災地復興事業や研究等の携わっていること等）を通して授業内容を展開します。 2. 地球環境や社会構造の変化と災害の関係性 地球温暖化や少子高齢化といった、地球環境や社会構造の変化などが災害に及ぼす影響について、復旧・復興を含め内容を展開します。 3. 災害として扱われる感染症 新型コロナや新型インフルエンザ、新興感染症や病虫害、鳥インフルエンザ・豚熱・口蹄疫など、災害級の規模や被害、そして災害と同等の対応を求められる感染症について内容を展開します。 4. 災害と情報 科学・情報技術の進歩が、災害報道や防災減災等にどのような影響・変化を及ぼしたかについて、デマ拡散などのデメリットを含め積極的に論じます。 					
キーワード					
災害、防災、減災、東日本大震災、地球環境、経済、社会、農業、資源、情報、報道、放送、地域資源、地域、生きる力、新型コロナウイルス感染症、感染症、家畜感染症、地震、津波、火災、リスク、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	災害・防災・減災についての基本的な知識や考え方について、東日本大震災、気候変動との関連が指摘されている近年の災害、災害対応を求められる感染症などをはじめとする実例を通して学び、少子高齢化社会を踏まえた、災害とその復旧復興、災害と自身の関わり等について、多角的かつ主体的に考えることができる。				
評価方法	学期末課題	評価割合	100%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	なお、学期末課題においては、論文等作成の基本的なルール、論理構成や適切な日本語が使われているかなども評価の対象となります。				
評価方法	学期末課題	評価割合	0%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の災害体験・経験について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、自身の地域貢献活動、社会参加・協働活動等について考察し、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしません。 ただし、履修者自身が、授業を通して得られた知見（知識や考え方等）を通して、災害について、客観かつ公平性に即した考察や、論理的に自らの所見を表現すること等の成果が、学期末課題等によって認められる場合には、評価の対象とすることがあります。 また、不適切な引用（いわゆる「コピペ」）等については、厳しく対応します（試験における不正行為への対応に準じます）。					
評価割合	0%				
▼その他					
授業への参加（出席）は、最低限の条件であり、履修登録者全員が適切に出席していることを前提とするため、原則として、出席確認は実施しません。 主に学期末課題の評価をもとに成績評定を行います。学期末課題は、実際に授業内で論じられた講義内容を基に論述を展開する必要があるため、出席が不十分な場合、その作成が困難となることもありますので留意してください。					
※ここ数年、コロナ対応、DXを活用した非接触の推進など、出席を取るか否かを含め試行錯誤を続けています。そのため、出席を評価として活用するかについては、状況に応じ、「履修登録している学生との協議等を経て」変更する場合があります。					
評価割合	0%				

<p>授業計画</p>	<p>【第1回】オリエンテーション・イントロダクション・災害についての概論-1（災害による被災時「なぜ、私たちは助けられるのか？」） 【第2回】災害についての概論-2（災害とは、歴史・法制度・時代とともに変化する定義など） 【第3回】東日本大震災-1（概論、被害の種類別でみた姿【地震・津波】） 【第4回】東日本大震災-2（被害の種類別でみた姿【福島第一原発事故】） 【第5回】東日本大震災-3（復旧復興、実際には困難が多い「生業の復興」） 【第6回】東日本大震災-4（この災害から得られた教訓）、これまでの振り返り 【第7回】地球環境の変化と災害の関係性 【第8回】社会構造の変化と災害の関係性-1（災害により「めくられた」潜在・必然的リスク） 【第9回】社会構造の変化と災害の関係性-2（少子高齢化と災害【復旧・復興を含む】） 【第10回】社会構造の変化と災害の関係性-3（拡大する二次災害・二次被害） 【第11回】社会構造の変化と災害の関係性-4（拡大する社会・経済への影響、被災・避難後の対応と影響） 【第12回】災害級の感染症 【第13回】災害と情報・リスクマネジメント・リスクコミュニケーションと戦略的な災害対応 【第14回】将来に向け戦略的な「災害との向き合い方」と「復旧復興への取り組み方」 【第15回】まとめ</p> <p>※災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。</p>
<p>使用テキスト</p>	<p>校内（教室内）にはフリーw i f i が整備されていますので、D Xへの適応とペーパーレス、I O T環境の活用という観点からも、テキスト（教科書）は使用せず、授業中は、講義内容に応じてインターネットで学修に必要な情報を検索してください。 ※わからない文言、より知りたい事象など、エビデンスとなり得る情報は、信頼性の問題はありませんがインターネット上にあふれています。そうした信頼性の判断や取捨選択のトレーニングを兼ね、ネット上の情報をテキスト（教科書）として活用してください。</p>
<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>インターネット等を通して、災害についての情報収集等、自主学修を行うことが望まれます。</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応します。なお、授業は、視覚的掲示ではなく話的講義が中心です。</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>メール（kawamata_keizou@icc.ac.jp）または、学務部経由を希望します。</p>
<p>留意事項</p>	<p>前記授業内容にも記しましたが、災害の発生や時事事象により、授業計画内容を変更する場合があります。また、履修登録者の各部学科構成等と授業内容の最適化を図るために、授業計画内容を変更する場合があります。</p>

科目コード	10152	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	はじめての統計学				
担当者	有澤 正樹				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	月曜5限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	18. その他		

授業の概要

統計学とは、アンケートや観測によって採取された大量のデータの中に存在する法則性を扱う科学的分析方法であり、自然科学、社会科学、人文科学等の分野で広く利用されている。
 例えば教育の分野においては、大勢の学生、生徒、児童に関するデータ（試験の点数かも知れないし、身長や体重などの健康に関するデータ、児童の心理を調べるための調査データかも知れない）を客観的（科学的）に扱っていく上で、統計学は必要不可欠である。
 また経営の分野においては、データの分析に多変量解析（複数のデータを統計的に分析し、その関係性を明らかにする方法）がよく用いられるが、多変量解析を理解するためには、統計学の基礎を十分に理解していなければならない。
 さらに介護福祉や栄養管理の現場においても、日々の変化や成果を客観的に評価し、報告することは大切な仕事のひとつであり、客観的な評価のために統計処理は必要不可欠といえるだろう。
 このように、どのような領域においても、データを客観的・科学的に分析・評価するためには、統計学が必要不可欠といえるのである。
 また、近年ではデータサイエンスに対する急速な需要の高まりにより、その基礎となる統計学への注目度もより一層の高まりを見せている。そこでここでは、どのような領域においても共通する統計学の基礎について、演習（教科書の例題と同様の簡単な課題）を取り入れながら解説する。

キーワード

統計学、分布の特性値（平均、分散、標準偏差...）、確率、分布（二項分布、正規分布、t 分布、 χ^2 分布）、母数の推定、仮説検定、データサイエンス

学位授与方針との関係

▼知識・技能

到達目標	統計学の分析概念を理解し、基本的な統計処理を行うことができる。		
評価方法	課題＋定期試験	評価割合	36%+50% もしくは 0%+100%

▼思考力・判断力・表現力

到達目標	「知識・技能」と合わせて評価する。		
評価方法	課題、定期試験	評価割合	0%

▼学修に主体的に取り組む態度

章末毎に実施する簡単な課題に積極的に取り組み、遅滞なく課題を提出する。（課題がすべて提出されていれば、最低でも 14 点が課題点に加算される。）

評価割合	14% もしくは 0%
------	-------------

▼実践的ボランティア

直接的な評価対象とはしない。

評価割合	0%
------	----

▼公正性

直接的な評価対象とはしないが、課題作成において不正行為があった場合は、減点や失格の対象となるので注意すること。

評価割合	0%
------	----

▼その他

特になし

評価割合	0%
------	----

授業計画	<p>【第01回】 統計学はどのような学問か 【第02回】 標本分布の特性値 1（標本抽出、度数分布表、ヒストグラム）、課題 1 【第03回】 標本分布の特性値 2（平均、分散、標準偏差など）、課題 2 【第04回】 確率と確率分布（二項分布、ポアソン分布） 【第05回】 復習および課題 3 【第06回】 一様分布と正規分布 【第07回】 復習および課題 4 【第08回】 標本平均の分布と母平均の推定 【第09回】 復習および課題 5 【第10回】 t 分布と母平均の推定 【第11回】 復習および課題 6 【第12回】 χ^2 分布と母標準偏差の推定 【第13回】 復習および課題 7 【第14回】 仮説検定 【第15回】 復習および課題 8 定期試験</p>
使用テキスト	鳥居泰彦 『はじめての統計学』 日本経済新聞社、1994年
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>章末に実施する課題が復習のポイントとなっているので、採点返却時の解説と返却後研究室前に常時掲示する模範解答により理解を深めること。 なお、評価方法は次のいずれかによるものとする。 課題 36%＋定期試験 50%＋主体性 14% による総合評価 定期試験 100% のみによる評価1 または 2 による評価の高い方を最終評価とする。従って、定期試験に不安を覚える者は課題をしっかりと抑えておくことが、また、課題が思わしくなかった者は定期試験で挽回することが重要である。</p>
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。
授業時間外の連絡手段	Teams の当該科目チーム内（投稿）、またはメール（maa@icc.ac.jp）、もしくはオフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時限等については UNIPA で確認すること。

留意事項

出席は Teams 内の出席確認フォーム (Forms) から入力していただくため、Teams にアクセス可能なデバイス (スマートフォン等) を携帯すること。また、課題は Teams 上で PDF 形式で掲出され、課題 PDF への直接書き込み (タブレット+スタイラスペン)、または PDF を印刷して直接鉛筆等で記入の後、スマホ等で撮影して作成した画像または PDF を Teams 課題に添付・提出となる (難しい作業ではない)。基本的に課題は授業時間外での作業が中心となるため、スマホ以外のタブレットや PC 等のデバイスは必携ではない。
数学が不得意な者は、四則演算、分数 など、受講までに各自で簡単な復習を行っておくこと。平方根 (ルート) 計算ができる電卓を持参すること。ただし、定期テストではスマホの電卓アプリは利用できない (スマホ持ち込み禁止) ので、物理的な電卓を用意すること。
数学が苦手であっても理解できるように、できるだけ丁寧にわかりやすく解説する。なお、定期試験は教科書・ノート・課題プリント・電卓の持ち込みが可能である。

科目コード	10153	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	宇宙の探究 b				
担当者	野澤 恵				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜5限	履修可能学科等			
関連資格			AL要素	17. 発問と応答	
授業の概要					
宮澤賢治「銀河鉄道の夜」と谷口義明「天文学者が解説する 宮澤賢治『銀河鉄道の夜』と宇宙の旅」をテキストに用いて、童話に隠された最新の天文学について読み解いていきます。これにより、宇宙の新しい姿やなぜ人間が宇宙に興味を持つのかなどを想像できると思います。読み解く順序は、順序は全体の構成上、変更することがあります。また、内容の解釈は一つでないで、皆さんの意見を紹介することを行います。これらを下敷きに、みなさんとの議論が深まり、「銀河鉄道の夜」をより深く味わうことがようではありませんか。宮澤賢治「銀河鉄道の夜」は、インターネット図書館の青空文庫で自由に読むことができます。事前に読んでおきましょう。また、派生した映画など影響がある作品も紹介します。					
キーワード					
銀河鉄道の夜、宇宙、天文、最新天文学、天体现象					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で取り上げたこと、学んだことを80%理解できる				
評価方法	毎回のテキストの解説と解釈などのまとめチェック	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	「銀河鉄道の夜」に対して自分なりの理解したことを解説する				
評価方法	学期末レポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業への参加状況や提出物の提出状況によって評価する。					
評価割合	10%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回 ガイダンス 以下は、第2章『銀河鉄道の夜』を読む、から</p> <p>第2回 P. 71から [2] 午後の授業 その1</p> <p>第3回 P. 71から [2] 午後の授業 その2</p> <p>第4回 P. 108から [3] 家 [4] ケンタウル祭の夜 [5] 天気輪の柱</p> <p>第5回 P. 135 [6] 銀河ステーション その1</p> <p>第6回 P. 135 [6] 銀河ステーション その2</p> <p>第7回 P. 135 [6] 銀河ステーション その3</p> <p>第8回 P. 135 [6] 銀河ステーション その4</p> <p>第9回 P. 135 [6] 銀河ステーション その5</p> <p>第10回 P. 215 [7] 北十字とプリオシン海岸</p> <p>第11回 P. 229 [8] 鳥を捕る人</p> <p>第12回 P. 238 [9] ジョバンニの切符 その1</p> <p>第13回 P. 238 [9] ジョバンニの切符 その2</p> <p>第14回 P. 238 [9] ジョバンニの切符 その3</p> <p>第15回 最終回 第1章 (みなさんの反応により順番等などは変更の可能性があります)</p>
使用テキスト	宮澤賢治「銀河鉄道の夜」、谷口義明「天文学者が解説する 宮澤賢治『銀河鉄道の夜』と宇宙の旅」
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	事前に連絡するテキストの一部の予習を行い、まとめ等を作成してください また、行った講義の復習などをお願いします
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますし、教務、学務に相談してください
授業時間外の連絡手段	教務、学務部等に連絡してください
留意事項	教室に応じた定員としますので、受講者が多すぎるときは初回到に抽選となります。その場合、初回欠席者は追加登録できないので注意してください。

科目コード	10157	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	汎用的スキルA a				
担当者	田原 真人				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜2限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	協働学習、ワーク	
授業の概要					
汎用的スキルAでは、対自己基礎力を扱います。具体的には、なぜ、今、汎用的スキルが必要になってきているのかという時代背景を理解し、感情制御力、自信創出力、行動持続力の3つの力を具体的に伸ばしていく方法について学びます。					
キーワード					
対自己基礎力、感情制御力、自信創出力、行動持続力					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	感情に振り回されるのではなく、感情を自己や他者を理解するためのサインとして活用できるようになる。自信を失うメカニズムや、自信が生まれるメカニズムを理解し、自己や他者の強みや弱みを把握して協力できるようになる。 自ら主体的に活動し、粘り強く達成に向けて行動できるように、取り組み方の工夫ができるようになる。				
評価方法	授業中の課題、レポート課題	評価割合	授業中の課題：80% レポート課題：20%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	不快な感情が生まれても、その原因や構造を洞察し、自己や他者の理解へ繋げ、適切な表現をすることができる。自信を失う状況に直面しても、その原因や構造を洞察し、自分自身を立て直して行動することができる。他者からの指示がなくても、自分の情熱のありかを自覚し、主体的にやるべきことを見出して行動したり、表現したりできる。				
評価方法	授業中の課題、レポート課題	評価割合	授業中の課題：80% レポート課題：20%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
特に評価の対象としない。					
評価割合	なし				
▼実践的ボランティア					
なし					
評価割合	なし				
▼公正性					
なし					
評価割合	なし				
▼その他					
特になし					
評価割合	なし				

授業計画	第1講オリエンテーション第2講社会中心と当事者中心第3講インテリジェントとスマート第4講作業スキルと汎用スキル第5講対自己基礎力とは？第6講感情制御力とは？第7講NVC(非暴力コミュニケーション)ワーク1第8講NVC(非暴力コミュニケーション)ワーク2第9講自信創出力とは？第10講自信を失うメカニズム第11講自己受容のメカニズム第12講行動持続力とは？第13講行動を持続できない原因第14講行動を持続する工夫第15講まとめ ただし、学生の状況に応じて内容等を変更することがある。				
使用テキスト	『出現する参加型社会』 出版社 メタブレーン 著者 田原真人 ISBN-13 : 978-4905239611				
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	必要な資料は、授業中に配布する。				
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応します。学務部へご相談ください。				
授業時間外の連絡手段	学内メールで対応します。				

留意事項

ノートパソコンを持ってきてください。3年次以上で持っていない学生は、相談してください。

科目コード	10157	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	汎用的スキルA b				
担当者	田原 真人				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜3限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素 協働学習、ワーク		
授業の概要					
汎用的スキルAでは、対自己基礎力を扱います。具体的には、なぜ、今、汎用的スキルが必要になってきているのかという時代背景を理解し、感情制御力、自信創出力、行動持続力の3つの力を具体的に伸ばしていく方法について学びます。					
キーワード					
対自己基礎力、感情制御力、自信創出力、行動持続力					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	感情に振り回されるのではなく、感情を自己や他者を理解するためのサインとして活用できるようになる。自信を失うメカニズムや、自信が生まれるメカニズムを理解し、自己や他者の強みや弱みを把握して協力できるようになる。自ら主体的に活動し、粘り強く達成に向けて行動できるように、取り組み方の工夫ができるようになる。				
評価方法	授業中の課題、レポート課題	評価割合	授業中の課題：80% レポート課題：20%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	不快な感情が生まれても、その原因や構造を洞察し、自己や他者の理解へ繋げ、適切な表現をすることができる。自信を失う状況に直面しても、その原因や構造を洞察し、自分自身を立て直して行動することができる。他者からの指示がなくても、自分の情熱のありかを自覚し、主体的にやるべきことを見出して行動したり、表現したりできる。				
評価方法	授業中の課題、レポート課題	評価割合	授業中の課題：80% レポート課題：20%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
特に評価の対象としない。					
評価割合	なし				
▼実践的ボランティア					
なし					
評価割合	なし				
▼公正性					
なし					
評価割合	なし				
▼その他					
特になし					
評価割合	なし				

授業計画	第1講オリエンテーション第2講社会中心と当事者中心第3講インテリジェントとスマート第4講作業スキルと汎用スキル第5講対自己基礎力とは？第6講感情制御力とは？第7講NVC(非暴力コミュニケーション)ワーク1第8講NVC(非暴力コミュニケーション)ワーク2第9講自信創出力とは？第10講自信を失うメカニズム第11講自己受容のメカニズム第12講行動持続力とは？第13講行動を持続できない原因第14講行動を持続する工夫第15講まとめ ただし、学生の状況に応じて内容等を変更することがある。				
使用テキスト	『出現する参加型社会』 出版社 メタブレーン 著者 田原真人 ISBN-13 : 978-4905239611				
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	必要な資料は、授業中に配布する。				
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応します。学務部へご相談ください。				
授業時間外の連絡手段	学内メールで対応します。				

留意事項

ノートパソコンを持ってきてください。3年次以上で持っていない学生は、相談してください。

科目コード	10163	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	食と文化				
担当者	荒田 梨紗				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜4限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	07 発表 17 発問と回答		
授業の概要					
調理学の講義の最大の目的は、栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める食品の加工や調理の方法とその過程を科学的にとらえ、基礎的な加熱操作と非加熱操作の原理を理解し、各操作の要点を把握できるようになることである。調理操作による食品の物性、味、栄養特性および機能性などの変化とともに、味覚の認知のメカニズムや食品の評価手法（官能評価および機器測定等）、調理機器の特性についても解説する。食品の嗜好性および調理性を理解することで、食品をおいしい食物にするための最適な調理条件や、新しい調理方法における品質管理の方法を考えることができるようになる。さらに、多数の人々への食事提供を行う給食の調理への活用、応用を意識して調理学の知識や理論を習得する。また、人間と食べ物の関わりについて、食品の歴史の変遷や食文化の面から学ぶ。以上の学習により、栄養学的、食文化的な視点をもって、食べる人に合わせた献立を作成する知識と技術を習得することを目標とする。					
キーワード					
食文化、食品の調理特性、食品の嗜好性、食事作法					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	食品の調理性や種々の調理操作の要点を理解し、嗜好性の高い食物を作るための調理方法を理解する。				
評価方法	課題・発表	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	1年次の実習や、本講義で得た知識を元に、実際の家庭や給食施設での調理を想定した適切な調理条件を考えることができる。				
評価方法	課題・発表	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果などが試験において認められる場合は、上記の「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。 他の学生の学修に支障をきたすような言動は嚴重注意の対象とする。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
評価対象としない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回：ガイダンス・食文化の領域 第2回：食べ物と嗜好性・おいしさの要因・味覚認知のメカニズムと味の相互作用・調理科学（食品の製造・保存、嗜好性を高める調理について） 第3回：日本の食と文化① 第4回：日本の食と文化② 第5回：日本の食と文化③ 第6回：アジアの食と文化① 第7回：アジアの食と文化② 第8回：欧州の食と文化① 第9回：欧州の食と文化② 第10回：中央アジア・大洋州・アフリカの食と文化 第11回：北米・中南米の食と文化 第12回：グループワーク 第13回：発表会① 第14回：発表会② 第15回：家庭・地域・学校・社会における食育、食事作法（日本料理、西洋料理、中国料理の献立形式と料理の流れ、食器の種類、盛り付け、食事作法）、まとめ</p> <p>受講者数等を考慮し、授業内容を変更する場合があります。 詳しくは、初めに予定表を配布します。</p>
使用テキスト	<p>参考テキスト 江原絢子、石川尚子（2019）、新版 日本の食文化―「和食」の継承と食育―、アイ・ケイ・コーポレーション、東京（ISBN987-4-87492-343-6 C3077） その他、授業時に適宜資料を配布します。 また、授業の中でその他の参考文献を提示します。</p>
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>講義後は、配布資料を読んで復習するとともに、資料にない関連事項について自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。（30分） 学期末にグループ発表を行うので、班で協力して準備を進める。（90分） 参考文献・資料は、授業中に提示します。</p>
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。その後、直接相談しましょう。
授業時間外の連絡手段	メールまたは、オフィスアワーに研究室で対応します。メールアドレスを初回にお知らせします。

留意事項

遅刻や欠席、提出物の遅れは減点の対象となります。

科目コード	10169	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	汎用的スキルC a				
担当者	阿部田 恭子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜2限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	07. 発表 08. 協同学習 13. 役割演技と疑似体験 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
対人基礎力の授業では、コミュニケーションスキル、親和性、協働、統率力などに焦点をあてて学びます。コミュニケーションは、良好な人間関係を構築するのに大切なスキルであり、練習することによって上達します。コミュニケーションスキルを身につけることで、自己表現力が向上し、他者との理解が深まり、円滑な人間関係にも役立つでしょう。さらに、協働、統率力においてもコミュニケーションスキルを磨くことは、個人の成長だけではなく、組織やコミュニティ全体の発展に寄与します。このように対人基礎力を学ぶことにより、就職活動や就職後にも役立つでしょう。授業はペアワーク、グループワークで進めます。					
キーワード					
対人基礎力、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション、親和性、協働、統率力					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で行う対人基礎力の講義と演習を通して事項を習得し、日常で実践することができる。				
評価方法	各回のレポート 300字前後	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容のふりかえりをする。書くことをとおして学んだ内容の整理をし、実践で行うことができる。				
評価方法	上記参照	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、上記の項目「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。他の学生の学習に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不平等で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1回：授業の進め方 第2回：コミュニケーションの基本1 第3回：コミュニケーションの基本2 第4回：コミュニケーションの基本3 第5回：伝えるスキル1 アサーション 第6回：伝えるスキル2 自分の意見を言う 第7回：伝えるスキル3 相手を勇気づける 第8回：人を動かす(統率力) 第9回：企画する(第9回以降は協働) 第10回：企画する 第11回：資料を準備する 第12回：資料を準備する 第13回：発表する 第14回：発表する 第15回：授業のまとめ
使用テキスト	授業で使用する資料は配布する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業後、配布資料について復習するとともに、実際に演習を試みるのが望ましい(10分)。授業時間内で課題レポートが終了しない場合は、家庭学習となる。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学部務等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	学部務へ連絡してください。
留意事項	授業時間内で課題レポートを作成する。PCがあるとよい。

科目コード	10169	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	汎用的スキルC b				
担当者	阿部田 恭子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜3限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	07. 発表 08. 協同学習 13. 役割演技と疑似体験 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
対人基礎力の授業では、コミュニケーションスキル、親和性、協働、統率力などに焦点をあてて学びます。コミュニケーションは、良好な人間関係を構築するのに大切なスキルであり、練習することによって上達します。コミュニケーションスキルを身につけることで、自己表現力が向上し、他者との理解が深まり、円滑な人間関係にも役立つでしょう。さらに、協働、統率力においてもコミュニケーションスキルを磨くことは、個人の成長だけではなく、組織やコミュニティ全体の発展に寄与します。このように対人基礎力を学ぶことにより、就職活動や就職後にも役立つでしょう。授業はペアワーク、グループワークで進めます。					
キーワード					
対人基礎力、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション、親和性、協働、統率力					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で行う対人基礎力の講義と演習を通して事項を習得し、日常で実践することができる。				
評価方法	各回のレポート 300字前後	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容のふりかえりをする。書くことをとおして学んだ内容の整理をし、実践で行うことができる。				
評価方法	上記参照	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、上記の項目「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。他の学生の学習に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不平等で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1回：授業の進め方 第2回：コミュニケーションの基本1 第3回：コミュニケーションの基本2 第4回：コミュニケーションの基本3 第5回：伝えるスキル1 アサーション 第6回：伝えるスキル2 自分の意見を言う 第7回：伝えるスキル3 相手を勇気づける 第8回：人を動かす(統率力) 第9回：企画する(第9回以降は協働) 第10回：企画する 第11回：資料を準備する 第12回：資料を準備する 第13回：発表する 第14回：発表する 第15回：授業のまとめ
使用テキスト	授業で使用する資料は配布する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業後、配布資料について復習するとともに、実際に演習を試みるのが望ましい(10分)。授業時間内で課題レポートが終了しない場合は、家庭学習となる。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学部務等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	学部務へ連絡してください。
留意事項	授業時間内で課題レポートを作成する。PCがあるとよい。

科目コード	10170	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	問題解決演習A				
担当者	菅野 弘久				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜4限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	07. 発表 08. 協同学修 10. 資料調査課題 11. 討論		
授業の概要					
これからの予測困難で不確実な社会において遭遇する諸問題を、分野横断的な知見を総合した解決方法を身につけるために、科目担当者が用意した課題への解決案を導き出す作業を協働して行います。					
キーワード					
問題解決, 分野横断的, 総合知, 不確実性					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	必要な情報を収集・整理するための知識やパソコンスキルを身につけ、それらを活用できる。				
評価方法	授業内課題	評価割合	40%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	資料や事実を論理的に考えて分析し、思考した結果を適切な文章またはプレゼンテーションで表すことができる。				
評価方法	授業内課題およびプレゼンテーション	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業内での課題・作業への取り組み協働的姿勢、また積極的な発言による授業参加が顕著であると認められるときは、これを評価する。					
評価割合	20%				
▼実践的ボランティア					
評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言やレポート課題の記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や厳重注意の対象とする。					
評価割合	0%				
▼その他					
とくになし。					
評価割合	0%				

授業計画	[1] 「茨城の文化財を紹介するメディアをつくる」と [2] 「小学生（または中学生）に地域性（日立・茨城）を意識させる英語教材をつくる」という二つの課題について以下の内容で取り組む。 第1回：課題 [1] について基礎講義・導入 第2回：課題 [1] のグループワーク (1) -役割分担・課題の共有・作業日程 第3回：課題 [1] のグループワーク (2) -作業仮説・資料（情報）収集 第4回：課題 [1] のグループワーク (3) -資料（情報）分析 第5回：課題 [1] のグループワーク (4) -解決案の意見集約 第6回：課題 [1] のグループワーク (5) -成果発表の準備 第7回：課題 [1] のグループ発表と全体ディスカッション 第8回：課題 [2] について基礎講義・導入 第9回：課題 [2] のグループワーク (1) -役割分担・課題の共有・作業日程 第10回：課題 [2] のグループワーク (2) -作業仮説・資料（情報）収集 第11回：課題 [2] のグループワーク (3) -資料（情報）分析 第12回：課題 [2] のグループワーク (4) -解決案の意見集約 第13回：課題 [2] のグループワーク (5) -成果発表の準備 第14回：課題 [2] のグループ発表と全体ディスカッション 第15回：協働での学びについての振り返り（授業の総括）
使用テキスト	とくにテキストは指定せず、講義資料は担当者が準備。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習（授業前）では、グループワークの課題と自分の役割を整理し（90分）、復習（授業後）では翌週の課題にそなえた進捗状況の把握と必要な資料・情報を整理する（120分）。有益な参考書としての役割を担うのは、協働作業で得られる文献や資料、また各種データであり、グループ内の意見交換。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	随時IC-Mail (hiro-kanno@icc.ac.jp) により対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。
留意事項	授業内の課題・作業に積極的に、また同じグループの受講生と協力的に取り組むこと。 未来教養学環の専門科目「未来教養プロジェクト演習Ⅰ-Ⅳ」へ連結する学修内容であることを理解して履修すること。

科目コード	10172	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	問題解決演習C				
担当者	廣水 乃生				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜1限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	8. 協同学修		
授業の概要					
<p>世の中の問題の多くは、人間関係に起因するものである。そこで、このコースは、あらゆる状況で必要となる人間関係に関わる問題解決の多様な視点とスキルを養うことを目的としている。そのためには、多様な考えに触れ、発見的・探究的に活動することが必要である。そこで、学生は毎回多様なテーマの対話を通じて、テーマに沿った新たな視点を学び、深めていく。コースは対話、グループワークを含むさまざまなアクティビティを通じて、問題解決に必要なコミュニケーションスキルも強化する。人間関係にかかる問題解決はいつでもどこでも絶えることのない人類共通のテーマであり、そのスキルを高めることは、生きることや学ぶことや人と関わることなどの喜びに繋がることでもある。授業を通して、自分のことや暮らしのことや社会のことなどを考え、自分の見通しから活動し、振り返ってまた考えるという問題解決の探究を楽しんでもらいたい。</p>					
キーワード					
問題解決、PDCAサイクル、メタ認知、コンセンサス型意思決定、紛争解決、交流分析、アドラー心理学、コミュニティファシリテーション					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	問題解決モデルを理解し、実際に活用することができる。全体像を系統的に理解でき、また新たな情報が加わった時にシステムを再構築できる。利害の衝突や不確実な知識および矛盾が生じる場面で自分の行動の根底にある規範や価値観を整理・理解することができ、また新たな状況に直面した時に規範や価値観を刷新していくことができる。				
評価方法	・レポート・授業中の課題・試験	評価割合	40%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	問題解決場面において、状況を深くとらえ、可能性のある未来やビジョンを考えることができる。そうしてできた将来像に向けてバックキャストिंगで考え、見通しを立て、戦略的な道筋をつくることができる。一方で、これまでの慣習や自分が決めたことに対しても疑問を呈することができ、そうして批判的に考えながらよりよいものを追求していくことができる。				
評価方法	・レポート・授業中の課題・試験	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
複雑な問題に対し、さまざまな立ち位置の求めるものを統合していくような、包括的かつ公正な解決の選択肢を開発することができる。					
評価割合	10%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外における学習支援活動や他の関連する活動における体験が、授業中の発言やレポート課題の記述内容から認められる場合は、内容に応じて上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」あるいは「思考力・判断力・表現力」のいずれかの項目における評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、試験やレポート課題における不正行為や授業中に人権侵害・差別発言など、著しく公平性を欠く言動は注意や減点の対象とする。					
評価割合	0%				
▼その他					
特記事項なし					
評価割合	0%				

授業計画	第1回：オリエンテーション（プログラムと成果・評価方法）・マイクテスト第2回：問題とは何か第3回：なぜもめごとは起きるのか第4回：個人・人間関係・集団のちがいは第5回：集団・組織・コミュニティとは第6回：繰り返し起こる人間関係の問題とは第7回：個人の葛藤解決第8回：集団に現れる葛藤の意味第9回：力の差第10回：自分らしくあること第11回：健全な人間関係とは何か第12回：協力し合う集団とは第13回：NOがなくなるまで話すとき第14回：振り返り・今後のテーマ第15回：まとめ 試験				
使用テキスト	授業時間、始まりに配布する。事前事後でデータも共有する。				
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習のポイント：普段何に興味を持っているか、何気なく気になっていることをメモする。復習のポイント：自分の将来とか自分がこうなりたいとか自分はこういうことが大切だとかを授業の視点で考えてみる。参考資料：必要に応じて授業中に資料を配布する。また、適宜文献を紹介する。				
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので学務部へ相談してください。				
授業時間外の連絡手段	研究室において対応します。対応可能な曜日・時間帯については授業中にお知らせします。FacebookアカウントまたはLINEがあれば、いつでも相談に応じます。				

留意事項

特記事項なし

科目コード	12047	科目ナンバリング	EN20C05K	主な使用言語	英語、日本語
授業名	異文化間コミュニケーション				
担当者	Dzyabko, Yuliya				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜3限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	AL要素 08. 協同学修 11. 討論 16. 振り返り用紙と応答 17. 発問と回答		
授業の概要					
この授業では、異文化間コミュニケーションの基礎となる言語と文化の関係、異文化接触、カルチャーショック、文化の価値観、ステレオタイプなどについて学びます。そして、日本人と英語話者のコミュニケーションの特徴をはじめ、文化の異なる人たち同士の間でミスコミュニケーションが起きないように、コミュニケーションをどのように図れば良いのかを考えながら、実践的な異文化間コミュニケーション能力を高めることを目指します。					
キーワード					
異文化間コミュニケーション、異文化理解、多文化、ダイバーシティ、文化価値観、ステレオタイプ					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	1) 異文化間コミュニケーションの現状と課題を理解することができる。 2) 文化的多様性のメカニズムを明らかにすること。 3) 日本の文化の多様性に気づき、異文化理解を深めることができる。				
評価方法	授業への参加度、ディスカッション、グループワーク、中間試験、期末試験	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	それぞれの文化の違いを尊重しながら、コミュニケーションを図ることができる。				
評価方法	「知識・技能」とあわせて評価する	評価割合	0%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
業への取り組み姿勢、授業への貢献度（発言、質問）を評価対象とする。					
評価割合	40%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回. ガイダンス。 第2回. Communication 第3回. Culture 第4回. Nonverbal Communication 第5回. Communicating Clearly 第6回. Culture and Values 第7回. Culture and Perception 第8回. 中間とりまとめ 第9回. Diversity 第10回. Stereotypes 第11回. Culture Shock 第12回. Culture and Change 第13回. Talking about Japan 第14回. Becoming a Global Person 第15回. 総まとめ 定期試験
使用テキスト	Peter Vincent (2017). Speaking of Intercultural Communication. 南雲堂 (2,090円)
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	教科書と配布資料の読解と課題への取り組みが求められます。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。
留意事項	1) この授業は英語と日本語の両方で行われます。 2) 授業には必ず、教科書と辞書（電子辞書可）を持参してください。 3) 授業中のアクティビティやディスカッションへの積極的な参加を求めます。 4) 履修希望者多数の場合は、人数を調整する可能性があります。

科目コード	12078	科目ナンバリング	EN20C39K	主な使用言語	日本語
授業名	英語文学概論A				
担当者	菅野 弘久				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜5限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	17. 発問と回答		
授業の概要					
イギリス文学を文化的事象のひとつとして、イギリスの歴史・社会・文化との関連から通時的・共時的に捉え、その豊饒な文学的世界について理解を深めることを目標にします。各時代を代表する作家の作品を原文（抜粋）で読んで、その実際を確かめながら授業を進めます。					
キーワード					
イギリス文学, ルネサンス, 古典主義, ロマン主義, モダニズム, 文化史, 観念史					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	古代から現代までのイギリス文学の主要作品について、その内容と文学的価値を時代の文化的影響（関係性）のなかで理解し、それを敷衍して説明できる。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	指定された文学テキストについて、授業で身につけた知識を最大限に活かしながら分析し、その内容を適切な文章で表現できる。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしないが、発展的学修によって得られた知見が学期末試験の記述内容から認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や筆記試験の記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や厳重注意の対象とする。					
評価割合	0%				
▼その他					
とくになし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回「古英語・中英語の文学（15世紀まで）」 [古英語, 中英語, 『ベオウルフ』, 古英詩]</p> <p>第2回「古英語・中英語の文学（15世紀まで）」 [ジェフリー・チョーサー『カンタベリー物語』, ウィリアム・ラングランド]</p> <p>第3回「ルネサンスの文学（15世紀-16世紀）」 [トマス・モア, フィリップ・シドニー, エドマンド・スペンサー]</p> <p>第4回「演劇の時代（16世紀後半）」 [トマス・キッド, クリストファー・マーロウ]</p> <p>第5回「ウィリアム・シェイクスピアの時代（1564-1616）」 [ウィリアム・シェイクスピア]</p> <p>第6回「清教徒革命と共和制（17世紀前半）」 [フランシス・ベーコン, ベン・ジョンソン, 形而上派詩人, 王党派詩人]</p> <p>第7回「王政回復期の文学（17世紀後半）」 [ジョン・ミルトン, ジョン・バニヤン, ジョン・ドライデン]</p> <p>第8回「18世紀の散文, 詩, 演劇」 [ジョナサン・スウィフト, アレキサンダー・ポープ, サミュエル・ジョンソン]</p> <p>第9回「小説の誕生と成長（18世紀）」 [ダニエル・デフォー, サミュエル・リチャードソン, ローレンス・スターン, ジェイン・オースティン]</p> <p>第10回「ロマン主義時代の光と影（19世紀前半）」 [ウィリアム・ブレイク, ウィリアム・ワーズワス, S・T・コールリッジ, P・B・シェリー, ジョン・キーツ]</p> <p>第11回「ヴィクトリア朝の散文と詩（19世紀後半）」 [アルフレッド・テニソン, ロバート・ブラウニング, ジョン・ラスキン, ウォルター・ペイター]</p> <p>第12回「ヴィクトリア朝の小説（19世紀後半）」 [チャールズ・ディケンズ, シャーロット・ブロンテ, エミリー・ブロンテ, オスカー・ワイルド, トマス・ハーディ]</p> <p>第13回「20世紀の詩と演劇（20世紀前半）」 [G・M・ホプキンス, W・B・イエイツ, T・S・エリオット, W・H・オーデン]</p> <p>第14回「20世紀の小説（20世紀前半）」 [ジョセフ・コンラッド, ヴァージニア・ウルフ, ジェームズ・ジョイス, E・M・フォスター, D・H・ロレンス]</p> <p>第15回「戦後の文学（20世紀後半）」 [ディラン・トマス, ジョージ・オーウェル, サミュエル・ベケット, カズオ・イシグロ, イアン・マキューアン]</p> <p>定期試験</p>
使用テキスト	とくにテキストは指定せず、授業資料はすべて担当者が準備。

<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>予習では、シラバスを参照して、授業で取り上げる作家や時代について概要をつかむ(90分)。復習では、資料をもとに授業内容を整理するとともに、興味をもった作家を中心にその作品にふれてみる(はじめは日本語訳、次にできれば原文で)(90分)。 参考書として、まずは次のものを-イギリス文学初心者には読みやすい、ジョン・サザーランド著(河合祥一郎訳)『若い読者のための文学史』(すばる舎、2020年)。イギリス文学史のかくれた名著、齋藤美洲編著『イギリス文学史序説』(中教出版、1978年)。小説家の書いた文学的香りがして写真も豊富な、マーガレット・ドラブル著(奥原宇・丹羽隆子訳)『風景のイギリス文学』(研究社、1993年)。内容が詳細かつ包括的で図版も多く盛り込んだ、バット・ロジャーズ編(櫻庭信之監訳)『図説イギリス文学史』(大修館書店、1990年)。その他の参考文献については、授業中に適宜紹介。</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>随時IC-Mail (hiro-kanno@icc.ac.jp) により対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。</p>
<p>留意事項</p>	<p>この授業は基本的に日本語で行いますが、一部英語も使います。</p>

科目コード	12079	科目ナンバリング	EN20C42K	主な使用言語	日本語
授業名	児童文学（英語圏）				
担当者	菅野 弘久				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜5限	履修可能学科等			
関連資格			AL要素	17. 発問と回答	
授業の概要					
英語圏における児童文学の展開を具体的な作品を読みながら確認します。語学的に正しく作品を読むこと、次に想像力をふくらませながら作品を読むこと、とくにこの2点を意識して読んでいきます。原文で作品を読める語学力を養うとともに、英語圏の児童文学の背景にある歴史や文化についても学んでいきます。					
キーワード					
イギリス文学, 児童文学, 文化史					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	英語圏の児童文学を読んで味わえるための英語力を身につける。児童文学の文化的背景について理解し、それを敷衍して説明できる。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	文学作品を読んで、その主題を文化的・歴史的背景に照らして分析し、その内容を適切な文章で表現できる。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしないが、発展的学修によって得られた知見が学期末試験の記述内容から認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしないが、授業中の発言や筆記試験の記述に人権侵害・差別的発言などの著しく公正性を欠いた言動が見られる場合には、減点や厳重注意の対象とする。					
評価割合	0%				
▼その他					
とくになし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回：児童文学とは何か 第2回：チャールズ・キングズリー『水の子』 第3回：ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』 第4回：ジョージ・マクドナルド『北国のうしろの国』 第5回：ピアトリクス・ポター『ピーター・ラビットのおはなし』 第6回：ケネス・グレーム『たのしい川べ』 第7回：パメラ・L・トラヴァース『風に乗ってきたメアリー・ポピンズ』 第8回：ジェイムズ・マシュー・バリ『ピーター・パンとウェンディ』 第9回：アラン・アレクサンダー・ミルン『クマのプーさん』 第10回：マイケル・ボンド『くまのバディントン』 第11回：フランシス・パーネット『秘密の花園』 第12回：ロアルド・ダール『チョコレート工場の秘密』 第13回：C・S・ルイス『ライオンと魔女』 第14回：J・R・R・トールキン『ホビットの冒険』 第15回：J・R・R・トールキン『指輪物語』 定期試験
使用テキスト	とくにテキストは指定せず、授業資料はすべて担当者が準備。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習では授業で読むテキストの当該箇所を、辞書を使って語学的に不明な点をなくしておくこと（90分）。復習では解説した語彙・表現を整理して使えるようにすること（90分）。またできるだけ児童文学作品を読む機会（日本語訳で可）を増やすこと。参考書として、瀬田貞二・猪熊葉子・神宮輝夫『英米児童文学史』（研究社、1971）、谷本誠剛『児童文学入門』（研究社、1995）、日本イギリス児童文学会編『英米児童文学ガイド』（研究社、2001）。その他の参考文献については、授業中に適宜紹介。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	随時IC-Mail（hiro-kanno@icc.ac.jp）により対応しますが、必要に応じてオフィスアワーに研究室での個別面談にも応じます。
留意事項	この授業は基本的に日本語で行いますが、一部英語も使います。

科目コード	12132	科目ナンバリング	EN20C06K	主な使用言語	英語、日本語
授業名	英語学概論C				
担当者	Dzyabko, Yuliya				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜3限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	05 既時応答 11 討論 17 発問と回答		
授業の概要					
この授業では、国際共通語としての英語でのコミュニケーションについて理解を深める。特に、意味論や語用論の分野の視点から、英語でのコミュニケーションにおける話し手の意図する意味とその解釈のメカニズムについて学習する。 まず初めに、グローバル化する世界における英語の役割について学ぶ。次に、語の意味、意味関係、文脈上の意味、話し手の意図、話し手と聞き手との関係や文化的背景などに注目し、様々な英語の会話や文章を分析しながら、日本語・英語の使用上の違いを明らかにする。					
キーワード					
国際英語論、意味論、語用論、意味、文脈、話し手の意図、会話分析					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	1. 英語学の諸領域のうち、「国際英語論」、「意味論」、「語用論」の基礎を学習する。 2. 日本語・英語の使用上の違いについて理解し、英語の会話に関する授業指導に活かす。				
評価方法	授業への参加度・宿題（Moodleを利用して）、中間・期末試験により総合的に判断して評価します。	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	英語の会話や文章を分析しながら、日本語・英語の使用上の違いの理解を深めます。				
評価方法	授業への参加度、宿題（Moodleを利用して）、中間・期末試験により総合的に判断して評価します。	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
	「知識・技能」と合わせて評価します。				
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
	直接的な評価対象とはしない。				
評価割合	0%				
▼公正性					
	直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。				
評価割合	0%				
▼その他					
	特になし。				
評価割合	0%				

授業計画	第1回：世界共通語としての英語（1）（グローバル化する世界における英語の役割について） 第2回：世界共通語としての英語（2）（国際英語論、世界の英語変遷について） 第3回：意味論とは何か？（語の意味、意味関係について） 第4回：語用論とは何か？（意味論と語用論の関係、文脈上の意味、話し手の意図について） 第5回：会話の含意（1）（言外の意味、協調の原理について） 第6回：会話の含意（2）（会話の格率、ヘッジ表現について） 第7回：直示（人称的直示、空間的直示、時間的直示について） 第8回：指示（指示表現、話し手の目的、話し手の信念について） 第9回：中間テスト 第10回：前提（1）（話し手の想定、命題について） 第11回：前提（2）（前提のタイプ、前提トリガーについて） 第12回：発話行為（1）（J.L.オースティンの発話高理論、発話行為の構成、遂行発話について） 第13回：発話行為（2）（J.R.サールの発話行為理論について） 第14回：フェイスとポライトネス（1）（社会的距離、権力距離、言語使用域について） 第15回：フェイスとポライトネス（2）（ネガティブ・フェイス、ポジティブ・フェイス、フェイスを脅かす行為・フェイスを保つ行為について）まとめ 期末テスト				
使用テキスト	必要な資料を授業中に配布します。				
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習・復習 1. Moodle上の課題を行う。 2. 講義中に配布した資料の内容を復習する。 参考文献 1. George Yule (1996). Pragmatics. Oxford University Press. 2. 『ことばと発話状況—語用論への招待』(2000) (オックスフォード言語研究叢書 ジョージ・ユール著、高司 正夫翻訳、リーベル出版)。 3. O'Keeffe Anne, Glancy Brian & Adolphs Svenja (2019). Introducing Pragmatics in Use (2nd edition). Routledge. 4. 『Meaning in Language: An Introduction to Semantics and Pragmatics』(2011) (Alan Cruse 著、Oxford University Press 出版)。 				
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。				
授業時間外の連絡手段	メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。				

留意事項

授業には必ず、辞書（電子辞書可）を持参してください。

科目コード	12158	科目ナンバリング	EN10C03K	主な使用言語	英語、日本語
授業名	コミュニケーション概論				
担当者	Dzyabko, Yuliya				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜3限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	05 既時応答 11 討論 17 発問と回答		
授業の概要					
この授業では、コミュニケーションという概念をわかりやすく紹介します。まず、コミュニケーションのメカニズムが理解できるように言語学的な理論を紹介します。次に、文化とコミュニケーションや社会とコミュニケーションというテーマを取り上げ、言語と文化の関係、異文化接触、日本人と英語話者のコミュニケーションの特徴、社会生活におけるコミュニケーションなどについて説明します。最後に、説得的コミュニケーションを基本とする要因、コミュニケーション・スタイル、コミュニケーションの丁寧さなどに注目していきます。					
キーワード					
コミュニケーション、ことばとコミュニケーション、非言語コミュニケーション、コミュニケーションと文化、コミュニケーションと社会					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	コミュニケーション学の基礎（コミュニケーションとは何か、文化・社会とコミュニケーションの関係など）について学習します。				
評価方法	授業への参加度・宿題（Moodleを利用して）、中間・期末試験により総合的に判断して評価します。	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	英語を用いて自己実現ができるように、コミュニケーションを構成する言語、文化、社会的な背景についての知識を深めます。				
評価方法	授業への参加度・宿題（Moodleを利用して）、中間・期末試験により総合的に判断して評価します。	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
「知識・技能」と合わせて評価します。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中において差別的な発言など著しく公正性を欠く行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1週: Introduction 第2週: What is Communication 第3週: Verbal Communication 第4週: Nonverbal Communication I 第5週: Nonverbal Communication II 第6週: Culture and Communication I 第7週: Culture and Communication II 第8週: Culture and Communication III 第9週: 理解確認（中間テスト） 第10週: Society and Communication I 第11週: Society and Communication II 第12週: Society and Communication III 第13週: Media, Technology and Communication 第14週: Informative and Persuasive Communication 第15週: 総まとめ 期末テスト
使用テキスト	特にありません。必要な資料を授業中に配布します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習・復習 1. Moodle上の課題を行う。(30分) 2. 講義中に配布した資料を読むこと。(30分) 参考文献 1. 岡野雅雄(編著)(2008)『わかりやすいコミュニケーション学：基礎から応用まで』三和書籍 2. 辻大介, 是永 論, 関谷 直也(2014)『コミュニケーション論をつかむ』有斐閣
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まず学務部に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	メールでの連絡を行います。またオフィスアワーには研究室で対応します。
留意事項	授業には必ず辞書（電子辞書可）を持参してください。

科目コード	12165	科目ナンバリング	EN10C04K	主な使用言語	日本語・英語
授業名	ホスピタリティ論				
担当者	澤井 萌				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜4限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	08. 協同学修 11. 討論 16. 振り返り用紙と応答 17. 発問と回答		
授業の概要					
<p>「ホスピタリティ」は、いわゆるホスピタリティ産業だけに関係する概念ではなく、私たちが日々の暮らしのなかで大切にしなければならない「相手を思いやる気持ち」と深く関係している考え方です。本授業の前半では、幅広い意味でのホスピタリティの概念を学び、中盤では、さまざまな事例に触れ、そして後半では、ホスピタリティの適用と実践について、学んでいきます。授業は、ワークシートを用いた受講生間でのディスカッションを交えながら、実務家教員の民間企業での経験を共有しながら、進めていきます。</p>					
キーワード					
ホスピタリティ、おもてなし、サービス、ホスピタリティ産業					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	①ホスピタリティの意味・役割・価値について理解し、自分の言葉で説明することができる ②観光業におけるホスピタリティのあり方について自分の考え方を持つことができる				
評価方法	課題・レポート	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	①ホスピタリティについての自らの考えを持ち、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。 ②ホスピタリティについての自らの考えを持ち、日常生活・社会生活のなかで、行動に移すことができる。 ③クラスメートの意見に傾聴し、その内容の概ね80%を理解することができる。				
評価方法	ディスカッションへの参加・発言・フィードバック (2回) ミニツッパーパーによる授業へのフィードバック	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業への取り組み姿勢、授業への貢献度（発言、質問）を評価対象とする。					
評価割合	10%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動の実践により深められた知見等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ホスピタリティとは何か 3. ホスピタリティと文化（表出の仕方） 4. 「おもてなし」と「ホスピタリティ」茶道の精神と茶室の仕掛け 5. ディスカッション：ホスピタリティの国別ランキング 6. ホスピタリティとホスピタリティ産業 ① 7. ホスピタリティとホスピタリティ産業 ② 8. ホスピタリティと観光業 9. ホスピタリティと訪日旅行（市場分析） 10. ホスピタリティと訪日旅行（ケーススタディ） 11. 訪日旅行とおもてなしの英語 ① 12. 訪日旅行とおもてなしの英語 ② 13. ポストコロナのホスピタリティ 14. ディスカッション：ホスピタリティ産業の課題 15. まとめ
使用テキスト	<p>飯島 好彦 他 著『ホスピタリティ産業論』、創成社（2021年） ISBN:978-4-7944-2592-8</p> <p>地域の観光人材のインバウンド対応能力強化研修 英語テキスト初級 https://inboundkenshu.com/assets/pdf/training_materials/english_text_beginner.pdf</p>
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>予習については、各授業時に指示します。教科書の学習範囲を読み、指示する課題（ワークシート）に取り組んでから、授業に出席する必要があります。（120分）</p> <p>授業で使用するパワーポイントスライドは、UNIPA(or/and Microsoft Teams)に掲載します。</p> <p>授業後の復習では、スライドを参考にしながら、自分のノートをまとめ（120分）、レポート課題に備えてください。また、日頃から、講義内容に関連する新聞記事やニュース、ドキュメンタリー番組などに注目し、批判的に読む・見ること、で、「ホスピタリティ」に対する自分なりの考えをもつように努めてください。</p> <p>参考文献等は、授業内で紹介します。</p>
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。
留意事項	c. この授業は英語と日本語の両方で行われる。

科目コード	12180	科目ナンバリング	EN20C08E	主な使用言語	英語と日本語
授業名	グローバルイングリッシュ				
担当者	野田 知子				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜4限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	07. Presentation 08. Group work 16. Reflection paper		
授業の概要					
This course aims to understand various aspects of World Englishes such as pronunciation, syntax, vocabulary, grammar, etc. dealing with audio and visual materials. Also, students will be able to learn cultural aspects of English spoken in many parts of the world so that they will broaden their inter-cultural understanding.					
キーワード					
World Englishes, Globalization, International languages, inter-cultural understanding					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	Students will be able to understand the characteristics of World Englishes, such as pronunciation, syntax, vocabulary, grammar, etc. Also, they will be able to recognize them by reading and listening to World Englishes.				
評価方法	Presentation Assignment	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	Students will be able to recognize the characteristics of World Englishes spoken in many parts of the world. Also, they will find the materials by themselves to deepen their understandings of World Englishes and express their ideas.				
評価方法	Presentation Assignment	評価割合	30%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
Active engagement in class activities and discussions Completion of weekly tasks Students will be able to keep control of their learning by themselves by reflecting on their learning, especially regarding listening skills. Students will be able to actively engage in class by cooperating with their classmates in speaking and listening tasks assigned in pairs, small groups, or individually.					
評価割合	20%				
▼実践的ボランティア					
Active engagement with the course materials, activities, and assignments is required. Students will be able to monitor their progress through reflection and control their learning.					
評価割合	0%				
▼公正性					
Students are expected to be fair and respectful to one another. Also, they must demonstrate integrity and honesty in all their work.					
評価割合	0%				
▼その他					
Not applicable					
評価割合	0%				

授業計画	第01回: Course Overview, Introduction 第02回: Chapter 1 India 第03回: Chapter 2 Philippines 第04回: Chapter 3 Thailand 第05回: Review, Presentation 第06回: Chapter 4 Vietnam 第07回: Chapter 5 Korea 第08回: Chapter 7 Italy 第09回: Chapter 8 Denmark 第10回: Review, Presentation 第11回: Chapter 10 Turkey 第12回: Chapter 12 South Africa 第13回: Chapter 13 Brazil 第14回: Chapter 14 Peru 第15回: Review, Presentation, Course Wrap-up
使用テキスト	Berklin, S. & Kobayashi, M. (2021). World Adventures. KINSEIDO.
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	Students are required to work on pre- and post-tasks. Pre-class reading - approximately 1 hour Post-class reflection and review - approximately 1 hour Complete homework and assignments by the due date. Post your reflection after every class. 参考文献: 大石晴美 (編) (2023) 「World Englishes入門-グローバルな英語世界への招待」 昭和堂.
障がいのある履修者への対応	Students with special needs will receive any necessary help. Please contact the Office of Student Affairs first.
授業時間外の連絡手段	During the office hours or by email. The details will be announced in the first class.

留意事項

- This class will be taught in both English and Japanese.
- Online platforms such as Microsoft Teams, Google Classroom, or Padlet will be used for announcements, communication, assignment distribution, and submission.
- Please bring a portable electronic device that can connect to the Internet (laptop computer, tablet, or smartphone).

科目コード	13028	科目ナンバリング	PE11C02K	主な使用言語	日本語
授業名	児童文化I Pe				
担当者	宮崎 麻子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜3限	履修可能学科等			
関連資格			AL要素	17. 発問と回答	
授業の概要					
<p>「児童文化」とは何か、そのことばの概念や歴史、児童文化がもたらす意義などを学ぶ。また絵本・児童文学などの作品を具体的に考察して、子ども文化に親しみ、その特性とは何かについて学ぶ。 その上で、子どもをとりまく社会・文化の状況や内包する問題を検討して、子どもがすこやかに主体的に育つことへの知見を深めてゆく。</p>					
キーワード					
児童文学、絵本、昔話、わらべうた、童謡、唱歌、あそびうた、アニメーション、子ども観					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	1) 子どもが出会う児童文化財（絵本・童謡・遊び・児童文学）を鑑賞・再体験することができる。 2) 児童文化のゆたかな世界への理解を深めると共に、保育者としての感性を磨き、想像力を養うことができる。				
評価方法	授業態度とリアクションペーパー	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	「文化」の視点から子どもと社会（世界）とのかかわりを探り、時代が子どもにどのようなまなざしを向けているか理解して、説明できるようになる。				
評価方法	学期末の課題執筆	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
<p>講義形式ではあるが、小課題の執筆と発表、製作なども行う。 絵本の読み聞かせや遊び歌などでは、実技を行うため、授業への積極的な参加姿勢が求められる。上記の項目「知識・技能」の評価対象とすることがある。</p>					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
<p>直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がリアクションペーパーや課題の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。</p>					
評価割合	0%				
▼公正性					
<p>直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や課題執筆等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や注意の対象となるので注意すること。</p>					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション／「児童文化」とは何か 2. 絵本_1)／ブックスタートと赤ちゃん絵本 3. 絵本_2)／物語と読書・レオ・レオニの作品 4. 絵本_3)／表現の広がり・老いや死をテーマにした絵本 5. 絵本_4)／バリアフリー絵本・グループ活動（発表） 6. 昔話と子どもの成長 7. おもちゃ／子どもと遊び・おもちゃづくり 8. 子どもの歌／わらべうた・日本の童謡史 9. 児童文学／児童文学入門・物語の魅力（サンタクロースって本当にいるの） 10. 児童文学／英米の作品_1) ビーターラビットとポター『ミスポター』鑑賞 11. 児童文学／英米の作品_2) ポター振り返りとイギリス児童文学 12. 児童文学／英米の作品_3) くまのプーさんとミルン 13. 児童文学／日本の作品_つながる世界と児童文学の特質 14. 子どもと現代／ショーン・タン（ロストシング・アライバル・エリック）・文字なし絵本と物語創作 15. まとめ／「児童文化」のあした
使用テキスト	授業内で適宜プリントを配布
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業前には、絵本や昔話、児童文学の作品をなるべくたくさん読むことが望ましい。 授業後は、授業資料等を復習して知識の定着をはかるとともに、関連作品を通読・鑑賞して所見メモ等を作成することが望ましい。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	初回の授業にてお知らせする。
留意事項	<p>【2023-2024年度入学生】 【2022 年度以前の入学生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能ならデバイスを持参すること（必携ではない） →初回にデバイスの扱いについて、説明する予定。

科目コード	13030	科目ナンバリング	PE11C03K	主な使用言語	日本語
授業名	言語教育I Pe				
担当者	渡邊 洋子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜4限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	02 模擬実践 07 発表 08 共同学修 10 資料調査課題 11 討論		
授業の概要					
○授業は実践的な内容で進められます。 ○義務教育課程に必要な「発表」、「話すこと・聞くこと」等の力をつけるために、どのようなアプローチが考えられるか、体験的に学べる授業となっています。 ○「言語教育I」は、特に口頭での発表を取り上げます。 なお、実務経験を生かし、学び手に確実に力のついていく模擬実践、発表練習のあり方、共同学修、討論の仕方をともに探究していく授業となります。					
キーワード					
発表、群読、韻文、散文、グループディスカッション、仲間から学ぶ。					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	聴き手に伝わる「発表」、「話すこと」、「聞くこと」、「群読」をするために必要な要素を理解している。 例 声の抑揚、内容の取り出し方、まとめ方、その時の思いを伝えることの重要性等。 また、発表内容（韻文や散文）の的確な理解と解釈がなされること。 学び合いのための発表内容精選力を培うこと。				
評価方法	○授業・発表準備の姿勢 ○授業・発表時の態度 ○発表題材の選択 ○発表内容 ○発表へのコメント ○リアクションペーパー	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	○師範発表や、アドバイス、仲間の発表、前回までの自分の発表を振り返り比較することにより、自分の発表の良さ、特徴等を言葉で的確に表現することができる。 ○発表題材を検討し、伝えたい内容を精選することができる。 ○師範発表や、アドバイス、仲間の発表、前回までの自分の発表を振り返り、比較することにより、聴き手に伝わる発表をするためにどのようにしたらよいか、実践的に学び、仲間の発表の変化を適切に評価することができ、自分の発表の質の変化を言葉で表現することができる。				
評価方法	○授業・発表準備の姿勢 ○授業・発表時の態度 ○発表題材・内容 ○発表へのコメント ○リアクションペーパー	評価割合	70%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
○より良い発表のあり方について、自ら検討し、準備・練習に積極的に取り組んでいる。また、それにより、回数を追う毎に発表が上達している。 ○義務教育過程において、どのような方法をとれば、子どもたちがより良い発表の仕方を確実に習得していけるか、自分自身や仲間の学び方、上達の状況を参考にしながらその方法論を検討することができる。					
評価割合	授業・発表の準備や練習、発表の状況などに重なる部分が多いため、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の評価に含める。 0%				
▼実践的ボランティア					
○授業を円滑に進めるため、またより充実したものにするため、まわりの履修者に声を掛け、協力を促している。 ○この授業の履修者が相互にコミュニケーションをとり、お互いの考え方・思い・経験から積極的に学び合っている。					
評価割合	授業・発表準備や練習、姿勢などに重なる部分が多いため、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の評価に含める。 0%				
▼公正性					
義務教育課程において求められる、「だれとでも」、「いつでも」を基本的な姿勢として、公平・公正に履修者どうしが関われる環境づくりに配慮している。					
評価割合	授業・発表準備や練習、姿勢などに重なる部分が多いため、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の評価に含める。 0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第01回 ガイダンス・好きな言葉を紹介しよう①準備・発表練習 第02回 好きな言葉を紹介しよう②グループ内で発表・発表内容を磨こう。 第03回 好きな言葉を紹介しよう③発表しよう。群読に挑戦しよう①グループ決め・練習しよう。 第04回 群読に挑戦しよう②発表しよう。 第05回 韻文を紹介しよう～和歌・短歌・俳句の世界①～ 概要説明・資料づくり・発表練習 第06回 韻文を紹介しよう～和歌・短歌・俳句の世界②～ 発表1番～5番 第07回 韻文を紹介しよう～和歌・短歌・俳句の世界③～ 発表6番～10番 第08回 韻文を紹介しよう～詩①～ 概要説明・資料づくり・発表練習 第09回 韻文を紹介しよう～詩②～ 発表1番～5番 第10回 韻文を紹介しよう～詩③～ 発表6番～10番 第11回 散文を紹介しよう① 概要説明・資料づくり・発表練習 第12回 散文を紹介しよう② 発表1番～5番 第13回 散文を紹介しよう③ 発表6番～10番 第14回 グループディスカッションをしよう① 概要説明・準備 第15回 グループディスカッションをしよう② 振り返り 全体のまとめ
使用テキスト	授業で使用する資料は基本的にはこちらで用意し、配布いたします。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	○授業の終わりに、次回までに行う課題について説明いたします。作品選び、資料の準備、発表の練習、グループでの打ち合わせ、振り返り等を行ってください。 ○中学校・高等学校で使用した『国語便覧』等がありましたら、第5回～第13回までご持参ください。 ○『群読をつくる』 家本芳郎 高文研
障がいのある履修者への対応	履修者の状況に合わせて、学びが充実するよう個別対応をいたします。そのためにも、まずは学務部等にご連絡ください。
授業時間外の連絡手段	メールでの対応を行います。初回に連絡先を提示いたします。
留意事項	○教職履修者対応の授業となっておりますが、他学科の学生のみなさんにも役立つ内容になっています。「前に立って発表するのが苦手」という方も力をつけられる授業です。よい機会にしてください。 ○受講人数や学年、受講学生の状況によって、授業計画を変更する場合があります。

科目コード	13031	科目ナンバリング	PE12C03K	主な使用言語	日本語
授業名	言語教育II Pe				
担当者	渡邊 洋子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜5限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	02 模擬実践 07 発表 08 共同学修 10 資料調査課題 18 文章表現		
授業の概要					
○【授業形態ガイドライン・レベルⅢ】遠隔授業（同時双方向型） ○【授業形態ガイドライン・レベルⅡ】面接授業で行います。 ○授業は実践的な内容で進められます。 ○義務教育課程で必要な「文章表現」、「書くこと」等の力をつけるために、どのようなアプローチが考えられるか、体験的に学べる授業となっています。 ○「言語教育Ⅱ」は、特に文章での表現活動を取り上げます。 なお、実務経験を生かし、学び手に確実に力がついていく模擬実践、文章表現指導のあり方、共同学修の方法を探究していきます。また、書くことを厭わない学び手を育てるためにはどうしたらよいかをともに検討していく授業を行います。					
キーワード					
文章表現指導、描写表現指導、登場人物の性格を考える、「会話」、シナリオ制作、仲間から学ぶ。					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	読み手に伝わる「文章」、「シナリオ」、「絵本」を作成するために必要な要素を理解している。 例 「は」と「が」の違い、「自然描写」「情景描写」「心情描写」「心理描写」等の違い、「会話」の役割、「登場人物の性格づけ」等の知識理解。 「シナリオ」作成のための知識理解。				
評価方法	○講義内容の理解度 ○授業や文章表現への準備の姿勢 ○書いた文章の内容 ○仲間の文章へのコメント ○リアクションペーパー	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	○サンプルやアドバイス、仲間の文章、前回までの自分の文章を振り返り比較することにより、自分の文章の良さ、特徴等を言葉で的確に表現することができる。 ○サンプルやアドバイス、仲間の文章、前回までの自分の文章を振り返り比較することにより、読み手に伝わる文章表現をするためにどのようにしたらよいか、実践的に学び、仲間の文章の変化を適切に評価することができ、自分の文章の質の変化を言葉で表現することができる。 ○書くことを厭わない文章表現指導の方法を検討することができる。				
評価方法	○書いた文章に講義内容がどれだけ反映されているか。 ○視点・観点に基づいた文章表現の練習が効果的に進められているか。 ○書かれた文章内容 ○仲間の文章へのコメント ○リアクションペーパー	評価割合	70%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
○より良い文章表現のあり方について、自ら検討し、準備・練習に積極的に取り組んでいる。また、それにより、回数を追う毎に書いた文章の質が向上している。 ○サンプルや仲間の文章から積極的に学び取り、自分の作品に効果的に反映させている。 ○義務教育過程において、どのような方法をとれば、子どもたちが書くことを厭わず、しかも書く力を確実に習得していけるか、自分自身や仲間の学び方、質の向上の状況を参考にしながらその方法論を検討することができる。					
評価割合	授業・書く準備、書いた内容、授業に臨む姿勢などに重なる部分が多いため、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の評価に含める。				
	0%				
▼実践的ボランティア					
○授業を円滑に進めるため、またより充実したものにするため、まわりの履修者に声を掛け、協力を促している。 ○この授業の履修者が相互にコミュニケーションをとり、お互いの考え方・思い・経験から積極的に学び合っている。					
評価割合	授業・書く準備、書いた内容、授業に臨む姿勢などに重なる部分が多いため、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の評価に含める。				
	0%				
▼公正性					
義務教育課程において求められる、「だれとでも」、「いつでも」を基本的な姿勢として、公平・公正に履修者どうしが関われる環境づくりに配慮している。					
評価割合	授業・書く準備、書いた内容、授業に臨む姿勢などに重なる部分が多いため、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の評価に含める。				
	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第01回 ガイダンス・「は」と「が」の違いを考えよう。</p> <p>第02回 一枚の絵からストーリーを創ろう① サンプルを読みながら書き方を学び、絵を選ぼう。</p> <p>第03回 一枚の絵からストーリーを創ろう② 実際に書いてみよう。</p> <p>第04回 一枚の絵からストーリーを創ろう③ 仲間の作品から学び合おう。</p> <p>第05回 シナリオを書こう① サンプルを読みながら書き方を学び、書きたいテーマや内容を考えよう。</p> <p>第06回 シナリオを書こう② 構想を練ろう。</p> <p>第07回 シナリオを書こう③ あらすじ・下書き・意見交換をしよう。</p> <p>第08回 シナリオを書こう④ 照明・音・背景等も書き込もう。</p> <p>第09回 シナリオを書こう⑤ 仕上げをしよう。</p> <p>第10回 シナリオを書こう⑥ 仲間の作品から学び合おう。</p> <p>第11回 絵本を創ろう① サンプルから学び、世界に一冊の本としてテーマや内容を考えよう。</p> <p>第12回 絵本を創ろう② 構想を練ろう。</p> <p>第13回 絵本を創ろう③ 「説明と描写」・「オノマトペ」・「会話」・「人物の性格」などを工夫しながら一冊の絵本にまとめよう。</p> <p>第14回 絵本を創ろう④ 仕上げをしよう。</p> <p>第15回 絵本を創ろう⑤ 仲間の作品から学び合おう。全体のまとめ</p>
使用テキスト	授業で使用する資料は基本的にはこちらで用意し、配布いたします。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	○授業の終わりに、次回までに行う課題について説明いたします。テーマ選び、内容の精選、書き進め、振り返り等を行ってください。
障がいのある履修者への対応	履修者の状況に合わせて、学びが充実するよう個別対応をいたします。そのためにも、まずは学務部等にご連絡ください。
授業時間外の連絡手段	メールでの対応を行います。初回に連絡先を提示いたします。
留意事項	<p>○教職履修者対応の授業となっておりますが、他学科の学生のみなさんにも役立つ内容になっています。「書くのが苦手」という方も力をつけられる授業です。よい機会にしてください。</p> <p>○受講人数や学年など、受講学生の状況によって、授業計画を変更する場合があります。</p>

科目コード	13125	科目ナンバリング	PC20C15K	主な使用言語	日本語
授業名	発達障害学 Pc				
担当者	久保 愛恵				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜2限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	03. 実験・実技・体験 04. 課題解決 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
幼児教育の場において特別な支援が必要とされる障害の中から、代表的なものをいくつか取り上げ、その障害の特性について事例を紹介しながら各心理機能の基礎的事柄と共に概説する。具体的には、知能や認知機能に関わる障害(知的障害、学習障害、注意欠陥多動性障害)、運動行為に関わる障害(発達性協調運動障害)、社会性やコミュニケーションに関わる障害(自閉症スペクトラム障害)などを取り上げる。					
キーワード					
特別支援教育, 発達障害, 心理機能					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	様々な発達障害の基礎的事柄を理解する。				
評価方法	学期末課題	評価割合	70%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	個に応じた支援の在り方についての知識を応用することができる。				
評価方法	コメントペーパー	評価割合	30%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接の評価対象とはしない。ただし、毎回の授業での発表や課題において、自主学修によって得た知見や経験が見られる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接の評価対象とはしない。ただし、授業外での学校ボランティアなどの実際に発達障害児と関わる機会を自ら設け、その内容が授業終了時に回収するコメントペーパーなどに記載されていた場合、思考力・判断力・表現力に加点する。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中のグループディスカッションや筆記試験の記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 発達障害とは何か? 3 知的障害とは何か?①知的発達・認知発達 4 知的障害とは何か?②知的発達障害の原因 5 知的障害とは何か?③支援 6 自閉症スペクトラム障害とは何か?①社会性発達の基礎的事柄 7 自閉症スペクトラム障害とは何か?②自閉スペクトラム症について 8 自閉症スペクトラム障害とは何か?③支援 9 注意欠如多動性障害とは何か?①注意欠如多動性障害について 10 注意欠如多動性障害とは何か?②支援 11 限局性学習障害とは何か?①限局性学習障害について 12 限局性学習障害とは何か?②支援 13 運動障害とは何か①運動発達の基礎的事柄 14 運動障害とは何か②発達性協調運動障害について 15 まとめ 16 試験
使用テキスト	適宜配布するスライドのハンドアウトを用いて授業を進める。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習については、初回に紹介する発達障害児・者全般に関係する文献に目を通しておくことが望ましい。復習については、授業内で配布する資料を用いて、重要語句の内容をまとめておくこと。 参考文献：発達障害の子どもの心と行動がわかる本、田中康雄 監修、株式会社 西東社。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については第1回目にお知らせします。
留意事項	特になし。

科目コード	13554	科目ナンバリング	PE11C04K	主な使用言語	日本語
授業名	地域社会研究I Pe				
担当者	鈴木 克彦				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜2限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	08 : 協同学習 09 : 実地調査 17 : 発問と回答		
授業の概要					
<p>私たちは、地域社会に様々な形で関わり合いながら生活をしている。この授業は、その地域社会に見られる自然や地形、歴史や産業、文化、街づくりなどの諸事象について、本学を中心とした日立市の南部地域の観察や茨城県の事象をもとに解説し、地域の見方や考え方ができるようになることを目的とする。また、地域調査も実施する中で、小中学校における社会科教育及び総合的な学習の時間、生涯教育や社会教育に資するための基本的知識を習得できるようにする。</p>					
キーワード					
地域の見方・考え方 地形図 地域の歴史と文化 地域調査 地域社会研究各論 社会科等における地域教材開発					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ地域社会の自然や地形歴史、産業、文化などの諸事象の見方・考え方及び地域調査の方法について身につけることができる。				
評価方法	レポート 学期末筆記試験など	評価割合	70%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	地域における諸事象について具体的に説明し、地域社会が抱える課題について自分の考えを述べるができる。				
評価方法	レポート 学期末筆記試験など	評価割合	30%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の課題回答において意欲的・探究的な内容については、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の課題回答において意欲的・探究的な内容については、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回・オリエンテーション 第2回：地域社会研究の意義と活用 第3回：地域社会の学校教育への応用 第4回：地域社会の社会教育への応用 第5回：地域社会研究の意義と活用の振り返り及び地形図と地図記号 第6回：地形図の読み方と利用—三角点と水準点、道標など— 第7回：現地観察—大学、大塚駅周辺— 第8回：地形の形成—河川地形、海岸地形— 第9回：日立市の地形の特色—海岸段丘、日本最古の地層— 第10回：地形図の読み方の振り返り及び地域調査と資料収集 第11回：地域の史跡を調べる—日立市南部地区を例に— 第12回：現地観察—日立市南部地区の史跡— 第13回：地域の歴史を調べる—日立市を例に— 第14回：地域の交通史を調べる—茨城県を例に— 第15回：地域の近現代史を調べる—日立市を例に— 学期末試験</p>
使用テキスト	資料は講師が用意する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	ふだんから、自分の住む地域に見られる地形や歴史、文化、産業の様子などについて関心を高め、見聞を広めるようにすること。配布資料をきちんと読んでおくこと。
障がいのある履修者への対応	できるだけ対応するので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	講師控室で対応します。曜日時間等については、初回時に連絡します。
留意事項	授業時間内に本学周辺の地区を野外観察します。(前期2回、後期2回予定) その際は歩きやすい服装で対応願います

科目コード	13555	科目ナンバリング	PE12C04K	主な使用言語	日本語
授業名	地域社会研究II Pe				
担当者	鈴木 克彦				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜2限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	08:協同学習 09:実地調査 17:発問と回答		
授業の概要					
<p>私たちは、地域社会に様々な形で関わり合いながら生活をしている。この授業は、その地域社会に見られる自然や地形、歴史や産業、文化、街づくりなどの諸事象について、本学を中心とした日立市の南部地域の観察や茨城県の事象をもとに解説し、地域の見方や考え方ができるようになることを目的とする。また、地域調査も実施する中で、小中学校における社会科教育及び総合的な学習の時間、生涯教育や社会教育に資するための基本的知識を習得できるようにする。</p>					
キーワード					
地域の見方・考え方 地形図 地域の歴史と文化 地域調査 地域社会研究各論 社会科等における地域教材開発					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ地域社会の自然や地形歴史、産業、文化などの諸事象の見方・考え方及び地域調査の方法について身につけることができる。				
評価方法	レポート 学期末筆記試験など	評価割合	70%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	地域における諸事象について具体的に説明し、地域社会が抱える課題について自分の考えを述べるができる。				
評価方法	レポート 学期末筆記試験など	評価割合	30%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の課題回答において意欲的・探究的な内容については、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティアスム					
直接的な評価対象とはしない。ただし、毎回の課題回答において意欲的・探究的な内容については、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回：地域社会研究の各論1ー地域の活性化を目指す地域社会研究ー</p> <p>第2回：地域社会研究の各論2ーまちづくり論と社会参画ー</p> <p>第3回：地域社会研究の各論3ー地域コミュニティーー</p> <p>第4回：地域社会研究の各論4ー環境と防災、各論の振り返りー</p> <p>第5回：地域の文化財とその保護</p> <p>第6回：身近な地域の文化・民俗調査の方法</p> <p>第7回：「常陸風土記」にみる日立地方の姿</p> <p>第8回：泉が森付近の野外観察ーイトヨの里、泉神社（「常陸風土記」等）ー</p> <p>第9回：日立風流物やささらの歴史と現状</p> <p>第10回：身近な地域の社会基盤整備について</p> <p>第11回：現地観察ー森山浄水場見学ー</p> <p>第12回：日立市及び茨城県の産業構造の見方</p> <p>第13回：日立市及び茨城県の産業構造1ー農林水産業ー</p> <p>第14回：日立市及び茨城県の産業構造2ー鉱工業ー</p> <p>第15回：日立市及び茨城県の産業構造3ー商業、地域の産業構造の振り返りー</p> <p>学期末試験</p>
使用テキスト	資料は講師が用意する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	ふだんから、自分の住む地域に見られる地形や歴史、文化、産業の様子などについて関心を高め、見聞を広めるようにすること。配布資料をきちんと読んでおくこと。
障がいのある履修者への対応	できるだけ対応するので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	講師控室で対応します。曜日時間等については、初回時に連絡します。
留意事項	授業時間内に本学周辺の地区を野外観察します。（前期2回、後期2回予定）その際は歩きやすい服装で対応願います

科目コード	13562	科目ナンバリング	PE10C13K	主な使用言語	日本語
授業名	特別支援教育 Pe				
担当者	椎木 久夫				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	月曜1限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	16振り返り用紙と応答		
授業の概要					
【特例期間中の授業形態】課題研究型 通常の学級に在籍している発達障害をはじめとする様々な障害により特別な支援を必要とする児童を取り上げ、これまでの実務経験から得た学びと知見を活かし各障害の特性や学習の過程と支援の方法について理解を進める。さらに、「個別の指導計画」や「通級による指導」、「特別支援教育コーディネーター」など小中学校における特別支援教育の制度・教育課程の基礎的事柄に加え、障害はないが特別な教育的ニーズのある児童の学習上・生活上の困難と支援について理解を深める。					
キーワード					
特別支援教育・発達障害・個別の指導計画・個別の教育支援計画・特別支援教育コーディネーター・自閉症スペクトラム障害（ASD）					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	小学校における特別支援教育制度の基礎的事柄を理解することにより、個別の教育的ニーズに対応するための基本的知識を身につける。				
評価方法	提出レポート	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	通常の学級に在籍している発達障害等により特別な支援を必要とする児童の特性と基礎的支援方法について理解する。				
評価方法	提出レポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的評価対象としない。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的評価対象としない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的評価対象としない。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	【第1回】本講座の達成目標と授業概要 インクルーシブ教育の理念について 【第2回】小学校における特別支援教育について～通級による指導及び自立活動 【第3回】「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」作成及び評価の実際 【第4回】特別支援コーディネーター及び関係機関・家庭との連携 【第5回】注意欠如多動性障害(ADHD)のある児童の理解と支援 【第6回】自閉症スペクトラム障害(ASD)のある児童の理解と支援(1)自閉症・広汎性発達障害 【第7回】自閉症スペクトラム障害(ASD)のある児童の理解と支援(2)アスペルガー症候群 【第8回】情緒障害や言語障害のある児童の理解と支援 【第9回】限局性学習障害(LD)のある児童生徒の理解と支援 【第10回】軽度知的障害のある児童の理解と支援 【第11回】病弱児の理解と支援及び二次障害(心身症・不登校)を示した児童への対応 【第12回】感覚障害(視覚障害・聴覚障害)のある児童の理解と支援 【第13回】運動障害(肢体不自由・発達性強固運動障害)のある児童の理解と支援 【第14回】母国語や貧困の問題に伴う特別な教育的ニーズのある児童への支援 【第15回】まとめ 定期試験
使用テキスト	特に使用しない。関連する資料を印刷・配布する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	・次回授業に関する課題の事前調査レポート (参考資料) 1 小学校学習指導要領(文部科学省 平成29年3月) 2 湯浅恭正(編)「よくわかる特別支援教育」 ミネルバ書房
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応する。
授業時間外の連絡手段	メール及び研究室において対応する。
留意事項	特になし

科目コード	14142	科目ナンバリング	CC20C12K	主な使用言語	日本語
授業名	東洋史				
担当者	松浦 史明				
基本情報					
年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜2限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	16 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
この講義では、中国など東アジア地域の歴史だけでなく、広大なアジア世界における交流の歴史を読み解いていく。「東洋」の歴史の流れと、その背景にある地域間交流から、「東洋」の多様さを感じてもらいたい。					
キーワード					
歴史、アジア、交流史、文化史、宗教の受容と変容					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	「東洋」とは何か、おおまかな歴史の流れ、「東洋」の見方などの基本的な事柄を理解する。				
評価方法	リアクションペーパーの内容	評価割合	40%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	歴史を学び、語る際の視点や課題について自分なりの意見を構築し、歴史の楽しさや今を生きるヒントについて考えを深め、自分の言葉で表現できるようになる。				
評価方法	期末レポート	評価割合	60%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
上記の項目「知識・技術」の評価対象に含める。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象に含める。					
評価割合	0%				
▼公正性					
上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象に含める。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：「東洋」と「アジア」：地域を分ける視点 第3回：中国とその周辺：「東洋」のイメージ 第4回：宗教と交流：仏教の来た道 第5回：アジアの王と神 第6回：唐と宋：交流史の視点でみる中国史 第7回：海と陸のシルクロード：行き交う人・モノ・情報 第8回：海域アジア史の世界：海から見た歴史 第9回：東洋史のなかのイスラーム：巨大信仰圏の誕生 第10回：モンゴル帝国：つながる世界 第11回：西欧世界とアジア：大航海時代とは何だったのか 第12回：アジアの植民地化 第13回：「東洋」の誕生：オリエンタリズムと私たち 第14回：世界史のなかの東洋史：グローバル・ヒストリーが目指すもの 第15回：「東洋史」のこれから
使用テキスト	適宜授業中に配布する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	東洋史の大まかな流れ・用語については授業前に各自で勉強しておく（90分）。授業後は、講義内容について復習するとともに、関連事項について自主学習を通じ知見を深めることが望ましい（90分）。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応する。
授業時間外の連絡手段	IC-UNIPAまたはメール（pt120873tu@jindai.jp）
留意事項	提出されたリアクションペーパーのいくつかについて、次の授業で応答の時間を設ける。

科目コード	14147	科目ナンバリング	CC20C11K	主な使用言語	日本語・英語・ドイツ語
授業名	西洋史				
担当者	中田 潤				
基本情報					
年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	月曜2限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	振り返り用紙と応答		
授業の概要					
ヨーロッパの歴史をドイツに焦点をあてることによって経済的・政治的・社会的な側面から具体的に検討していく。ここで取り上げられた歴史における諸側面と現代社会の相互比較を行うことによって、現代社会の歴史的位相と構造的な特質について考えていく。こうした作業には、現代の日本社会（少子高齢化・女性の社会参加・地域社会の衰退・近隣諸国との不平等々）が抱える様々な問題の本質とその解決策を考える上で、多くのヒントが含まれているはずだ。					
キーワード					
ヨーロッパ, ナショナリズム, 大衆社会, 平和, 公共圏, フランス, イギリス, ドイツ, オーストリア, イタリア					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	(1) ヨーロッパの歴史を理解できるようになる (2) ヨーロッパ史を学ぶことによって歴史学の研究方法、研究視角の基礎を身につける (3) 基礎的な文献を利用して歴史学的な考察を行い、それを論理的な文章で表現することができる				
評価方法	毎回の授業時に知識の確認のためにレスポンス・シートの提出を求める。	評価割合	40%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	(1) ヨーロッパの歴史を理解できるようになる (2) ヨーロッパ史を学ぶことによって歴史学の研究方法、研究視角の基礎を身につける (3) 基礎的な文献を利用して歴史学的な考察を行い、それを論理的な文章で表現することができる				
評価方法	総合的な思考力を確認するために期末レポートを課します。	評価割合	60%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
20分以上の遅刻は出席として認めません。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象としない。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	1. ガイダンス：「ヨーロッパ」とはなにか 2. ローマ帝国・フランク王国・キリスト教 3. 神聖ローマ帝国・ハンザ 4. 啓蒙主義：中世から近世へ 5. フランス革命とナポレオンの衝撃 6. 19世紀から20世紀初頭のヨーロッパ国際関係 7. 総力戦としての第一次世界大戦とアメリカ合衆国の台頭 8. 古典的現代としての戦間期のヨーロッパ社会：公共圏の変容 9. ナチス・ドイツ 10. 第二次世界大戦と「ホロコースト」 11. 戦後秩序の模索とヤルタ（ポツダム）体制 12. 冷戦の始まりと「脱植民地化」の時代 13. デタントと新しい社会運動の時代 14. ドイツにおける「過去の克服」 15. ペレストロイカと新たな世界秩序
使用テキスト	教科書は使用しない。講義に際して資料を配付する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	毎回の講義で資料を配信するので、ダウンロードの上確認すること。また、授業後のレスポンス・シートについても、提出を怠らないこと。 参考文献として以下のものを挙げておく 中田 潤『ドイツ「緑の党」史：価値保守主義・左派オルタナティブ・協同主義的市民社会』（吉田書店 2023） 玉木俊明『ヨーロッパ繁栄の19世紀史：消費社会・植民地・グローバリゼーション』（筑摩書房 2018） Fulbrook, Mary（高田有現、高野淳訳）『ドイツの歴史』（創土社 2005）
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので担当者に直接お話しください。
授業時間外の連絡手段	メールあるいはTeamsのチャネルでの連絡は随時受け付けます。
留意事項	特になし

科目コード	14155	科目ナンバリング	CC10B05K	主な使用言語	日本語
授業名	歴史学A				
担当者	藤野 真拳				
基本情報					
年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜2限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	17 発問と回答 08 協同学修		
授業の概要					
この授業では江戸時代から幕末維新期までの歴史を「近世社会の異文化交流」というテーマで講義します。高校日本史水準の知識を確認しながら、最新学説を交えながら深く学んでいく授業です。日本の歴史は、異文化との対峙なかで展開していきました。授業ではこれらの事例を学びながら、「文化交流」の実践に不可欠な歴史的な視点や思考を手に入れてみましょう。					
キーワード					
近世史、四つの口、朝鮮通信使、地図、攘夷論					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けた基本的な知識について、概ね80%の事項を暗記し解答することができる。				
評価方法	学期末 筆記試験	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で解説を受けた歴史の基本的な流れや評価について、論理的にかつ簡潔に自らの言葉で論述することができる。				
評価方法	学期末 筆記試験	評価割合	70%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。 他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。講義の妨害等が極めて悪質なものと認められた場合には、評価割合にかかわらず単位認定の対象外とする。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接の評価対象とはしない。講義中の教員からの発問や実践指示（史料読解）に積極的に取り組む。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回： ガイダンス-「近世日本の異文化接触」- 第2回： 江戸時代の対外関係と「鎖国」① -戦国時代の南蛮貿易とキリシタン政策- 第3回： 江戸時代の対外関係と「鎖国」② -四つの口と管理貿易体制の確立- 第4回： 江戸時代の対外関係と「鎖国」③ -日本型華夷秩序- 第5回： 江戸時代の対外関係と「鎖国」④ -朝鮮通信使の概略- 第6回： 江戸時代の対外関係と「鎖国」⑤ -朝鮮通信使と北関東- 第7回： 江戸時代の対外関係と「鎖国」⑥ -朝鮮通信使と雨森芳洲- 第8回： 中間まとめ 第9回： 日本図から読み解く自他認識① -地図が作られることの意味- 第10回： 日本図から読み解く自他認識② -美術品から実用品へ- 第11回： 幕末の対外危機と「海防」論① -「幕末」への展開- 第12回： 幕末の対外危機と「海防」論② -水戸学- 第13回： 幕末の対外危機と「海防」論③ -攘夷論と開国論- 第14回： 幕末の対外危機と「海防」論④ -徳川政権における積極開国論- 第15回： まとめ ※学期末テスト
使用テキスト	授業で使用する資料はすべてユニパまたはチームスで共有するので、事前に自前のノートPCにダウンロードまたは印刷して授業に臨んで下さい。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	各回ごとの参考文献をレジюмеに記載する。 全体の流れを知りたい場合は『詳説日本史研究』（山川出版社、2017年）を参照し復習してください。（90分）
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーで対応します。曜日・時限等は初回に知らせます。
留意事項	特になし。

科目コード	14172	科目ナンバリング	CC30C09K	主な使用言語	日本語
授業名	観光地理学				
担当者	薄井 晴				
基本情報					
年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜5限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	07. 発表 (presentation) 17. 発問と回答 (questioning and answers)	
授業の概要					
<p>当授業は、『旅行業務取扱管理者』試験における観光地理の対策講座です。観光業界に就職するには、国家試験である『旅行業務取扱管理者』に合格し、当該資格を取得しておくことが望ましいです。</p> <p>当授業では、『国内旅行業務取扱管理者』の試験を見据えた暗記と模擬テストに特化した内容になります。日本国内における膨大な数の観光地や観光イベントの概略、位置、イベント開催時期などを、暗記せねばなりません。試験対策のため、暗記が中心となります。『旅行業務取扱管理者』の取得を目指す学生に、受講してもらいたいと思います。</p>					
キーワード					
旅行業務取扱管理者, 観光地理, 観光資源					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学習した観光地理に関する事項をおおむね80%は暗記し、回答することができる。また、習得した知識をもとに、他者に伝えられることができる。				
評価方法	中間試験・期末試験	評価割合	80%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	『旅行業務取扱管理者』試験に出題される問題を正確に解くことができる。				
評価方法	中間試験・期末試験	評価割合	20%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
特になし					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
特になし					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしません。ただし課題・期末試験等において不正行為や剽窃などが見受けられた場合、授業中の私語や他の受講者に迷惑をかける行為を行った場合、著しい減点や嚴重注意を行います。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (資格試験内容と学習視点の説明) 2. 主要観光地の学習 (1) : 北海道 3. 主要観光地の学習 (2) : 北東北 4. 主要観光地の学習 (3) : 南東北 5. 主要観光地の学習 (4) : 北関東 6. 主要観光地の学習 (5) : 南関東 7. 中間試験 8. 主要観光地の学習 (6) : 東海地方 9. 主要観光地の学習 (7) : 甲信越地方 10. 主要観光地の学習 (8) : 北陸地方 11. 主要観光地の学習 (9) : 近畿地方 12. 主要観光地の学習 (10) : 中国地方 13. 主要観光地の学習 (11) : 四国地方 14. 主要観光地の学習 (12) : 九州北部 15. 主要観光地の学習 (13) : 九州南部
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学、高校などで使用した地図帳や、昭文社の『旅地図 (日本)』など、地名や観光資源が調べられる地図帳がある場合は持参すること。 ・ 『国内観光地理サブノート (第13版)』 株式会社JTB総合研究所
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の学習内容は、最低でも1時間をかけて予習・復習を繰り返す。 ・ 授業の最終目標は、暗記学習のみならず、自分の頭で観光地を理解・説明できることです。そのため、通常の講義に加えて、授業課題を通じて、観光地を「自分で調べる」機会を重視します。 ・ 毎回の詳細な授業内容は、事前に連絡します。 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ U-CAN『旅行業務取扱管理者 観光資源 (国内・海外) ポケット問題集&要点まとめ』ユーキャン学び出版 ・ 『旅地図 日本』昭文社
障がいのある履修者への対応	まずは教務部窓口にご相談ください。
授業時間外の連絡手段	Eメール (usui_haru@icc.ac.jp) にて対応します。
留意事項	特になし

科目コード	14188	科目ナンバリング	CC10B03K	主な使用言語	日本語
授業名	社会学A				
担当者	勝山 紘子				
基本情報					
年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜5限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
社会学は、社会の仕組みを考える学問です。人間は生きる上で必ずなんらかの集団に属し、共同体を形成しています。人間が属し、結びつくあらゆる関係性と場を社会と呼びます。この社会において、さまざまな仕組みが構築され、文化や経済が形成されます。この授業では社会学の基礎を学び、社会の仕組みを知るとともに、具体的な世界情勢や出来事についての解釈の方法を身に着けます。					
キーワード					
人間と社会、個人と集団、家族、性、労働、消費					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	社会学の基礎概念を学び、社会の仕組みを様々な観点から理解する。				
評価方法	授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。	評価割合	40%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で得た知識をもとに、ヨーロッパの絵画芸術について理解・考察し、自己の所見を論理的かつ簡潔に表現することができる。				
評価方法	授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業内での質問や発表など、その内容に学修の成果が認められる場合には評価の対象とします。					
評価割合	10%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度、筆記試験の記述等において、人権侵害、差別、不正などの行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 社会学とは何か 第2回 社会学の歴史 (1) 第3回 社会学の歴史 (2) 第4回 社会と「私」 (1) -個人と集団、自我と他者 第5回 社会と「私」 (2) -社会的人間と社会集団 第6回 家族と社会 (1) -家族のあり方と変容 第7回 家族と社会 (2) -DV、ケア、新しい家族の形 第8回 出生前診断について 第9回 性と社会 (1) -ジェンダーとセクシュアリティ 第10回 性と社会 (2) -多様化する性のあり方と東京オリンピック 第11回 労働と産業-AIと人間の共存可能性と日本人の働き方 第12回 消費行動と社会-マクドナルド化する社会とわたしたち 第13回 デジタルメディアと社会学 第14回 環境と社会学-高度経済成長と公害問題 第15回 振り返りと総括
使用テキスト	篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』、晃洋書房、2016年発行、2200円＋税。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	【予習】毎回の授業に関わる箇所について、テキストをよく読んでください。 【復習】授業で得た知見を整理し、学期末の試験に向けてノート等にまとめておいてください。 【参考文献および資料】授業内に指示します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対処します。まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。
留意事項	日頃から、テレビのニュースや新聞、インターネット等で世の中の動きについて情報収集し、社会の動向を意識することを習慣化してください。その際、ひとつのニュースに関してひとつの情報だけに頼るのではなく、異なる観点からの報道にも気を配って、多角的なものの見方をするよう心がけてください。

科目コード	14189	科目ナンバリング	CC10B04K	主な使用言語	日本語
授業名	社会学B				
担当者	勝山 紘子				
基本情報					
年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜5限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
社会学は、社会の仕組みを考える学問です。人間は生きる上で必ずなんらかの集団に属し、共同体を形成しています。人間が属し、結びつくあらゆる関係性と場を社会と呼びます。この社会において、さまざまな仕組みが構築され、文化や経済が形成されます。この授業では社会学の基礎を学び、社会の仕組みを知るとともに、具体的な世界情勢や出来事についての解釈の方法を身に着けます。					
キーワード					
人間と社会、教育、多文化共生、地域社会、宗教、医療					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	社会学の基礎概念を学び、社会の仕組みを様々な観点から理解する。				
評価方法	授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。	評価割合	40%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	社会学について得た知識をもとに、社会の諸現象について理解・考察し、自己の所見を論理的かつ簡潔に表現することができる。				
評価方法	授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業内での質問や発表など、その内容に学修の成果が認められる場合には評価の対象とします。					
評価割合	10%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度、筆記試験の記述等において、人権侵害、差別、不正などの行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 教育と社会学 (1) -教育と社会学、日本の教育 第3回 教育と社会学 (2) -共同体主義と教育、ドイツの教育 第4回 逸脱行動と逸脱者 第5回 世界における移民・難民問題 第6回 多文化共生社会を考える-映画『クラッシュ』① 第7回 多文化共生社会を考える-映画『クラッシュ』② 第8回 格差について-階級と階層、格差社会 第9回 地域と社会-社会集団としてのコミュニティとアソシエーション 第10回 グローバリゼーションとエスニシティ 第11回 宗教と社会 (1) -世界の宗教と日本人 第12回 宗教と社会 (2) -新興宗教と宗教2世の問題 第13回 医療と社会 (1) -病氣と医療 第14回 医療と社会 (2) -社会学からみた医療 第15回 振り返り
使用テキスト	篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』、晃洋書房、2016年発行、2200円＋税。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	【予習】毎回の授業に関わる箇所について、テキストをよく読んでください。 【復習】授業で得た知見を整理し、学期末の試験に向けてノート等にまとめておいてください。 【参考文献および資料】授業内に指示します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対処します。まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。
留意事項	日頃から、テレビのニュースや新聞、インターネット等で世の中の動きについて情報収集し、社会の動向を意識することを習慣化してください。その際、ひとつのニュースに関してひとつの情報だけに頼るのではなく、異なる観点からの報道にも気を配って、多角的なものを見方をするよう心がけてください。

科目コード	14190	科目ナンバリング	CC10B06K	主な使用言語	日本語
授業名	歴史学B				
担当者	藤野 真拳				
基本情報					
年次	カリキュラムにより 異なります。	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜2限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	17 発問と回答 08 協同学修	
授業の概要					
この授業では明治時代の歴史を「文明開化と対外戦争」というテーマで講義します。高校日本史水準の知識を確認しながら、最新学説を交えてより深く学んでいく授業です。明治初期からはじまる日本の近代化は、文明開化という光の側面と対外戦争という陰の側面をもちながら進んで行きました。授業ではこれらの事例を学びながら、これからの多文化共生社会において不可欠な歴史的な視点や思考を手に入れてみましょう。					
キーワード					
文明開化、岩倉使節団、翻訳、征韓／台論、日清戦争					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けた歴史事例の基本的な知識について、概ね80%の事項を暗記し解答することができる。				
評価方法	学期末 筆記試験	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で解説を受けた歴史事例の基本的な流れや評価について、論理的にかつ簡潔に自らの言葉で論述することができる。				
評価方法	学期末 筆記試験	評価割合	70%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。 他の学生の学修に支障をきたすような迷惑な行為がみられた場合には、嚴重注意の対象とする。講義の妨害等が極めて悪質なものと認められた場合には、評価割合にかかわらず単位認定の対象外とする。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接の評価対象としない。講義中の教員からの発問や実践指示（史料読解）に積極的に取り組んでください。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回： ガイダンス-文明開化と対外戦争- 第2回： 明治維新期の対外関係と「開国」-幕末の対外論からはじめる明治の対外関係- 第3回： 岩倉使節団と文明開化① -岩倉使節団の派出- 第4回： 岩倉使節団と文明開化② -岩倉使節団と留守政府- 第5回： 岩倉使節団と文明開化③ -岩倉使節団と木戸孝允- 第6回： 岩倉使節団と文明開化④ -岩倉使節団と伊藤博文- 第7回： 岩倉使節団の帰国と対外関 -征韓論と征台論- 第8回： 征韓論と征台論の行方① -明治六年政変- 第9回： 征韓論と征台論の行方② -江華島事件- 第10回： 近代化と翻訳語① -翻訳することの意味について- 第11回： 近代化と翻訳語② -翻訳語の今昔- 第12回： 日清戦争① -日清戦争についての先行研究- 第13回： 日清戦争② -日清戦争開戦にいたる軍の動向- 第14回： 日清戦争③ -開戦経緯と日清戦の意味について- 第15回： まとめ ※定期試験
使用テキスト	授業で使用する資料はすべてユニパまたはチームスで共有するので、事前に自前のノートPCにダウンロードまたは印刷して授業に臨んで下さい。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	各回ごとの参考文献をレジюмеに記載する。 全体の流れを知りたい場合は『詳説日本史研究』（山川出版社、2017年）を参照し予習・復習を行って下さい（90分）。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーで対応します。曜日・時限等は初回に知らせます。
留意事項	特になし。

科目コード	14204	科目ナンバリング	CC20C09K	主な使用言語	日本語
授業名	民俗学				
担当者	清水 博之				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜4限	履修可能学科等			
関連資格	AL要素		16. 振り返りと応答		

授業の概要

民俗学は「内省の学」ともいわれています。私たちの生活の中で伝えられてきたさまざまな事象を掘り下げて考察し、現代を生きる私たち自身の思考や行動の根源を探求しようとする学問です。この授業のテーマは、民俗学という学問を通して「日本人とは何か」を解明することです。具体的には、私たちが日常生活の中で経験するさまざまな物事を民俗学ならではの視点と方法で考究します。

とはいっても、民俗学は私たちが日頃から当たり前と思っていることの本来の意味を解き明かしてくれる身近な学問でもあります。自分自身の幼い頃からの経験を思い出しながら楽しく学修しましょう。授業では、毎回テーマに沿って講義をしますが、時には履修生と質疑応答をすることもあります。茨城県内はもとより、日本のみならず海外のさまざまな民俗事象も紹介します。

なお、毎回の授業終了後にはリアクションペーパーを課します。これらは成績評価の対象となります。

キーワード

日本民俗学、柳田國男、内省の学、日本人、沖縄、移民、口承伝承、通過儀礼、年中行事、祭り・行事、婚姻、つきあい、学校の怪談、生と死、カミとホトケ

学位授与方針との関係

▼知識・技能			
到達目標	民俗学の基本的な知識と考え方を理解して、説明することができる。		
評価方法	授業への参加態度や貢献度（発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など）およびリアクションペーパー、定期試験（期末レポートに代替する場合があります）などにより総合的に評価する。	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。		
評価方法	授業への参加態度や貢献度（発言の回数や内容、課題へ取り組む姿勢など）およびリアクションペーパー、定期試験（期末レポートに代替する場合があります）などにより総合的に評価する。	評価割合	50%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な評価対象とはしない。ただし自主的な学修によって自身の知見に追加された成果などが発表やリアクションペーパーの内容から認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティアリズム			
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動などの実践により深められた知見などが筆記試験（リアクションペーパー・期末レポートなどを含む）の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第01回】 オリエンテーション：民俗学への招待 【第02回】 民俗の心を探る（民俗学史） 【第03回】 装飾と入れ墨 【第04回】 沖縄の民俗 【第05回】 移民の民俗 【第06回】 マチとムラの祭り 【第07回】 学校の怪談 【第08回】 結婚と親戚 【第09回】 通過儀礼と俗信 【第10回】 墓参りと先祖供養 【第11回】 地区のつきあい・職場のつきあい 【第12回】 ムラの過疎化 【第13回】 コンビニで知る年中行事 【第14回】 あの世への旅立ちといのちの誕生 【第15回】 まとめ：日本人とは <p>定期試験（期末レポートに代替する場合があります）</p>
使用テキスト	<p>※ 諸般の事情により、日程や内容を変更する場合があります。</p> <p>特になし。</p>

<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>【予習】 1時間以上 ・あらかじめ、当日の授業テーマについて主体的に学修しておく。 【復習】 1時間以上 ・毎回の授業後に課されるリアクションペーパーは、成績評価の対象なので必ず期限内に提出する。 ・定期試験（期末レポートに代替する場合があります）に備えて授業で取り上げた事柄をノートなどにまとめる。 【参考文献】 ・市川秀之・中野紀和・篠原徹・常光徹・福田アジオ編著『はじめて学ぶ民俗学』ミネルヴァ書房、2015年、2,800円＋税 ・その他の参考文献については、授業時に紹介する。 【資料】 ・その都度、配布する。</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応します。まずは、学務部に連絡してください。</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>基本的にIC-UNIPAとIC-mailを使用します。 履修生は、IC-mailの着信が直ちに分かるようにスマートフォンの設定をしてください。 IC-UNIPAによる連絡なども必ず読んでください。</p>
<p>留意事項</p>	<p>授業終了後に作成するリアクションペーパーは、定期試験（期末レポートに代替する場合があります）とともに成績評価の対象になります。しっかりと取り組んで期限までに必ず提出してください。</p>

科目コード	14206	科目ナンバリング	CC20C13K	主な使用言語	日本語
授業名	日本史A				
担当者	藤野 真拳				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜3限	履修可能学科等			
関連資格			AL要素	14、輪読活動	
授業の概要					
<p>明治初期の文明開化期の思想について「明六社」という言論結社を事例に学びます。 「明六社」は高校日本史で学ぶ用語として登場しますが、そこに集まった人々やその思想についてまでは深く学びません。 そこでこの授業では「明六社」に集った人々の経歴や思想背景について学び、その上で彼らが『明六雑誌』に書いた論説を講読していきます。 これによって中学地歴・高校日本史の教職において必要な、歴史について史料を用いて解説できる能力を養成します。</p>					
キーワード					
明治維新、文明開化、明六社、福澤諭吉、加藤弘之、西周、中村正直、阪谷素					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けた歴史の基本的な理念・思想・歴史についておおむね理解している。				
評価方法	学期末試験	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で読んだ『明六雑誌』の論説を適切に理解し、解説できる。				
評価方法	学期末試験	評価割合	70%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象としないが、『明六雑誌』の講読の際には積極的な参加と歴史的な文章を読む力を養ってもらいたい。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象としないが、『明六雑誌』の講読の際には積極的な参加と歴史的な文章を読む力を養ってもらいたい。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不平等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や 嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：明六社前史①—江戸時代の学問の発達（朱子学・陽明学）— 第3回：明六社前史②—江戸時代の学問の発達（徂徠学）— 第4回：明六社前史③—江戸時代の学問の発達（国学）— 第5回：明六社前史④—江戸時代の学問の発達（洋学）— 第6回：明六社結成①—文明開化期の思想について— 第7回：明六社結成②—明六社に集った人々— 第8回：西周と「愛敵論」—輪読①— 第9回：阪谷素と「尊異説」—輪読②— 第10回：福澤諭吉と「学者職分論」—輪読③— 第11回：森有礼と「妻妾論」I—輪読④— 第12回：森有礼と「妻妾論」II—輪読⑤— 第13回：西周と「国民気風論」—輪読⑥— 第14回：中村正直と「人民の性質を改造する説」—輪読⑦— 第15回：まとめ ※学期末試験
使用テキスト	授業で使用する資料はすべてユニパまたはチームスで共有するので、各自で印刷やダウンロードをして授業に臨むこと。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業後に理解が及ばなかった点を参考文献等を通して学習する（90分） 参考文献は授業内で指示する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。
留意事項	日本史の知識よりも日本語の読解力のほうが要求される授業です。

科目コード	14207	科目ナンバリング	CC20C14K	主な使用言語	日本語
授業名	日本史B				
担当者	藤野 真拳				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜3限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	10、資料調査課題 14、輪読活動		
授業の概要					
五力条誓文の発布から帝国議会開院、大日本帝国憲法発布までの歴史を学びます。江戸時代までの政治のあり方を変え西洋的な政治体制を作りあげようとした時代が、明治初期という時代です。憲法や国会といった現代にも続く政治システムの基盤がどのように作りあげられていったのかを、当時の史料を輪読しながら学んでいきます。					
キーワード					
明治維新、五力条誓文、漸次立憲政体樹立の詔、明治14年政変、自由民権運動、帝国議会、大日本帝国憲法					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けた歴史の基本的な理念・思想・歴史についておおむね理解している。				
評価方法	学期末試験	評価割合	20%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で解説を受けた歴史の基本的な理念・思想・歴史についておおむね理解し論述できる。				
評価方法	学期末試験	評価割合	80%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象としないが、史料の輪読の際には積極的な活動参加を求める。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象としないが、史料の輪読の際には積極的な活動参加を求める。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし人権侵害、差別、不正等の行為で著しく公正性を欠く場合は、減点や 嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：幕末の徳川政権と「言路洞開」 第3回：幕末の徳川政権と立憲主義への志向 第4回：西周「議題草案」を読む 第5回：明治日本の立憲主義国家への途① 第6回：明治日本の立憲主義国家への途② 第7回：憲法とは何か 第8回：行政と議会 第9回：天皇と立憲君主 第10回：権利・義務とは何か 第11回：明治憲法の憲法制定①—大久保利通の立憲主義思想— 第12回：明治憲法の憲法制定②—元老院の国憲草案と岩倉具視— 第13回：明治憲法の憲法制定③—伊藤博文の憲法調査— 第14回：近代日本の立憲主義①—井上毅の立憲主義思想と大日本帝国憲法の発布— 第15回：近代日本の立憲主義②—大日本帝国憲法と教育勅語の関係— 学期末試験
使用テキスト	授業で使用するレジュメや資料はすべてユニバやチームスを使って事前に共有するので、自前のノートPCなどにダウンロードまたは印刷して授業に臨むこと。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業後に理解が及ばなかった点を参考文献等を通して学習する（90分） 参考文献は授業内で指示する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応します。曜日・時限等については初回にお知らせします。
留意事項	特になし。

科目コード	14219	科目ナンバリング	CC20C23K	主な使用言語	日本語
授業名	ヨーロッパの歴史と文化B				
担当者	勝山 紘子				
基本情報					
年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜4限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	講義		
授業の概要					
<p>芸術家は独自の目でその時代のひとびとや世界を見つめ、描き出します。この授業では、西洋絵画の大きな流れをおさえながら、とりわけ19世紀初頭から第二次大戦期までのドイツ絵画の変容を追い、社会的背景とともに理解することを目的とします。前半は、12、13世紀の旧約聖書、新約聖書を主題とした宗教画に始まり、20世紀のイズムの絵画まで、ヨーロッパにおける絵画芸術の変遷をたどります。後半はドイツの絵画にスポットを当て、第一次世界大戦から第二次世界大戦前までの社会的状況を確認しながら、戦時下における芸術のあり方について考えます。</p>					
キーワード					
ヨーロッパ 新約聖書 旧約聖書 ドイツ 第一次世界大戦 第二次世界大戦 ラファエル前派 ウィーン分離派 退廃芸術 表現主義					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	ヨーロッパの歴史的背景を把握し、絵画芸術の表現様式と画家の思想について理解できる。				
評価方法	授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	ヨーロッパの絵画芸術の表現様式と画家の思想について理解・考察し、自己の所見を論理的かつ簡潔に表現することができる。				
評価方法	授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業内での質問や発表など、その内容に学修の成果が認められる場合には評価の対象とします。					
評価割合	適宜				
▼実践的ボランティア					
特になし。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度、筆記試験の記述等において、人権侵害、差別、不正などの行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 絵画芸術の変遷①-旧約聖書の世界 第3回 絵画芸術の変遷②-新約聖書と宗教画 第4回 絵画芸術の変遷③-ギリシャ神話と描かれる神々 第5回 近代絵画の幕開け①-19世紀ロマン主義と写実主義 第6回 近代絵画の幕開け②-印象主義からイズムの絵画へ 第7回 ウィーン分離派-世紀転換期のクリムト 第8回 1920年代のドイツ絵画①-第一次世界大戦とグロス 第9回 1920年代のドイツ絵画②-オットー・ディックスと痛む身体 第10回 ナチスとディズニー-ヒトラーの愛したディズニーアニメ 第11回 ナチスの絵画略奪 第12回 退廃芸術とは何か-優性人種理論と芸術 第13回 退廃芸術展と大ドイツ芸術展 第14回 迫害される芸術家たち-絵画嵐と表現主義 第15回 まとめと振り返り
使用テキスト	毎回、パワーポイントの資料をTeamsにアップします。それ以外の資料は授業内で指示します。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業中に指示します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対処します。まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	mailまたはオフィスパワーに対応します。
留意事項	特になし

科目コード	14248	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	地誌				
担当者	薄井 晴				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜4限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	07. 発表 (presentation) 15. レポート指導 (correcting guidance) 16. 振り返り用紙と応答 (reflection paper) 17. 発問と回答 (questioning and answers)		
授業の概要					
地誌学とはある特定の地域が有する性格を総合的に究明する学問です。当授業では、国内外における様々な地域の自然、産業（農林水産業、鉱工業、サービス業など）、風土、人口などを総合的に学習できる機会を提供していく予定です。地誌学を学ぶことで複雑な現代の社会を様々な視点から見ていきましょう。					
なお、当授業では、与えられた資料（例：地図、航空写真、景観写真、地域統計、新聞記事）を参照しながら地域的性格を考察し、文章を記述する機会を積極的に設ける予定です。					
キーワード					
地誌学、地域、地域的性格、地域統計					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学習した知識に関する事項をおおむね80%は正確に回答することができる。 また、習得した知識をもとに、特定の地理的現象に関して、表現して伝えられる技能を身につける。				
評価方法	課題・期末試験	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	習得した知識をもとに、試験や課題において論理的、かつ端的に考察して表現できる。				
評価方法	課題・期末試験	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
上記の項目に含みます					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
特になし					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしません。ただし、授業中の私語や著しく公正性を欠く言動やカンニング・剽窃行為等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となる場合があるので注意してください。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	1. ガイダンス（地誌学とは何か） 2. 地図の読図と解釈 3. 地誌学の学問的視点(1)：景観論 4. 地誌学の学問的視点(2)：地域論 5. 日本の地域像 6. 北海道地方の地誌 7. 東北地方の地誌 8. 関東地方の地誌 9. 茨城県の地誌 10. 中部地方の地誌 11. 近畿地方の地誌 12. 中国・四国の地誌 13. 九州・沖縄地方の地誌 14. 地域調査(1)：地域統計の閲覧と利用 15. 地域調査(2)：現地での景観観察と聞き取り調査
使用テキスト	中学、高校などで使用した地図帳がある場合は持参をお勧めします
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	講義で扱う地域に関して、中学や高校の地理科などで学習した内容、代表的な地名など（例：都市、地形、交通機関）を予習しておくことをお勧めします。 授業の学習内容は、最低でも1時間をかけて復習すること。
障がいのある履修者への対応	まずは教務部窓口にご相談ください。
授業時間外の連絡手段	Eメール (usui_haru@icc.ac.jp) で対応します
留意事項	社会科の教員免許取得希望者は受講を勧めます。

科目コード	14249	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	法学 a				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜1限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>社会のルール(規範)である法の役割と機能を理解することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法というと、私たち自身を規律する印象が強いため、これに違反すると処罰せられる、できるだけ関係しないことが望ましい対象だ、と思われるかもしれませんが、法とは、私たちの権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たち自身の約束なのです。したがって、法を守ること、これに従うことは当然のことであり、処罰を受けることや、損害の賠償を命じられることなどは、約束違反に対する制裁であり、法を遵守するための担保手段にすぎません。しかし一方、法を守るとは、このように法に消極的に違反しない事のみならず、法違反のあった場合には、裁判に典型的なように、これを積極的に主張することも含んでいるのです。以上のことについて、この授業では、私たちの生活に深く関わっている刑法や民法を通じて学んでいきます。法の理解の基礎について説明しますので、今後、憲法などを履修予定の方には履修を強くお勧めしますので、是非ご検討ください。</p>					
キーワード					
法、権利、自由、刑法、罪刑法定主義、刑事訴訟法、法定手続、民法(財産法)、意思主義、契約、民法(家族法)、法の下での平等					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	社会における法の存在を認識し、その機能や役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	民法や刑法などの身近な法律をめぐり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。					
評価割合	5%				
▼実践的ボランティア					
該当なし					
評価割合	0%				
▼公正性					
法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。					
評価割合	5%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 法とは何か 3 法の種類と存在形式 4 法の段階的構造 5 罪刑法定主義 6 犯罪の成立要件 I 7 犯罪の成立要件 II 8 刑事手続の基本原理 9 裁判手続の基本構造 10 民法の基本構造 I 11 民法の基本構造 II 12 財産関係と法 I 13 財産関係と法 II 14 家族関係と法 I 15 家族関係と法 II 16 定期試験
使用テキスト	上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第5版〕(成文堂)2500円+税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分でなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	14249	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	法学 b				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜2限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>社会のルール(規範)である法の役割と機能を理解することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法というと、私たち自身を規律する印象が強いため、これに違反すると処罰せられる、できるだけ関係しないことが望ましい対象だ、と思われるかもしれません。しかし、法とは、私たちの権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たち自身の約束なのです。したがって、法を守ること、これに従うことは当然のことであり、処罰を受けることや、損害の賠償を命じられることなどは、約束違反に対する制裁であり、法を遵守するための担保手段にすぎません。しかし一方、法を守るとは、このように法に消極的に違反しない事のみならず、法違反のあった場合には、裁判に典型的なように、これを積極的に主張することも含んでいるのです。以上のことについて、この授業では、私たちの生活に深く関わっている刑法や民法を通じて学んでいきます。法の理解の基礎について説明しますので、今後、憲法などを履修予定の方には履修を強くお勧めしますので、是非ご検討ください。</p>					
キーワード					
法、権利、自由、刑法、罪刑法定主義、刑事訴訟法、法定手続、民法(財産法)、意思主義、契約、民法(家族法)、法の下での平等					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	社会における法の存在を認識し、その機能や役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	民法や刑法などの身近な法律をめぐり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
社会において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身に付ける。					
評価割合	5%				
▼実践的ボランティア					
該当なし					
評価割合	0%				
▼公正性					
法をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較考量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。					
評価割合	5%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 法とは何か 3 法の種類と存在形式 4 法の段階的構造 5 罪刑法定主義 6 犯罪の成立要件 I 7 犯罪の成立要件 II 8 刑事手続の基本原理 9 裁判手続の基本構造 10 民法の基本構造 I 11 民法の基本構造 II 12 財産関係と法 I 13 財産関係と法 II 14 家族関係と法 I 15 家族関係と法 II 16 定期試験
使用テキスト	上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔第5版〕(成文堂)2500円+税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分でなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	15005	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	サステナビリティ入門				
担当者	廣水 乃生				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜2限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	8. 協同学修	
授業の概要					
<p>このコースは、これからすべての人が健全で健康に生きる上で不可欠となる『サステナビリティに関する情報を適切に理解、解釈して活用する資質・能力』（以下、サステナビリティリテラシー）を発展させることを目的とする。そのためには、受講生自らが関心のあるテーマを通じてサステナビリティリテラシーがどのように影響するかを発見的・探究的に活動することが必要である。そこで、この授業では、地図としてサステナビリティリテラシーの概観を共有した上で現代社会に関する構造を多面的に提示し、受講生が関心のあるテーマを選び出し、テーマに関連する調査や活動を形成していき、それを全体に共有したり、フィードバックをもらったりしながら、主体的・探究的にリテラシーを高めてもらう。なお、授業では、テーマが決められない場合でもリテラシーを高めていけるように、様々なインタラクティブな体験プログラムを用意している。サステナビリティは人類共通のテーマであり、そのリテラシーを高めることは、生きることや学ぶことや人と関わることなどの喜びに繋がることでもある。まずサステナビリティを通じて、自分のことや暮らしのことや社会のことなどを考え、自分の見通しから活動し、振り返ってまた考えるという探究を楽しんでもらいたい。</p>					
キーワード					
サステナビリティ、SX（サステナビリティトランスフォーメーション）、SDGs、地域循環共生圏、地域共生社会、サーキュラーエコノミー、コモン（コモンズ）、地域づくり、事業づくり					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	サステナビリティの多岐に渡る分野の全体像を系統的に理解でき、また新たな情報が加わった時にシステムを再構築できる。サステナビリティにかかる領域には利害の衝突やトレードオフ、不確実な知識および矛盾があり、そのような中でも自分の行動の根底にある規範や価値観を整理・理解することができ、また新たな状況に直面した時に規範や価値観を刷新していくことができる。またこういった考えなどを交渉やチーム作りなどで共有し、コミュニケーションしていくことができる。				
評価方法	・レポート・授業中の課題・試験	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	サステナビリティの観点から未来やヴィジョンを考えることができ、人に伝えることができる。そうしてできた将来像に向けてバックキャストで考え、見通しを立て、戦略的な道筋をつくることできる。一方で、これまでの慣習や自分が決めたことに対しても疑問を呈することができ、そうして批判的に考えながらよりよいものを追求していくことができる。				
評価方法	・レポート・授業中の課題・試験	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
サステナビリティの観点から、地域のコミュニティや（グローバルな）社会における自分の役割を振り返り、自分の行動に継続的に動機付けし続け、自分の気持ちや願いを取り扱うことができる。また複雑な問題に対し、上記の到達目標を統合していくような、包括かつ公正な解決の選択肢を開発することができる。これらを行動して実現していく道のりにおいて他者との協働は欠かせず、心理的安全性を形成したり、共感、デリゲーション、フィードバックなどのコミュニケーションで大切なことを意識して、協働関係を形成していくことができる。					
評価割合	30%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業外における学習支援活動や他の関連する活動における体験が、授業中の発言やレポート課題の記述内容から認められる場合は、内容に応じて上記の項目「学修に主体的に取り組む態度」あるいは「思考力・判断力・表現力」のいずれかの項目における評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、試験やレポート課題における不正行為や授業中に人権侵害・差別発言など、著しく公平性を欠く言動は注意や減点の対象とする。					
評価割合	0%				
▼その他					
特記事項なし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション（プログラムと成果・評価方法）・マイクエスト策定第2回：サステナビリティとは第3回：今、世界に何が起きているのか第4回：お金が何を生み出したか第5回：孤立孤独が進む先進国は本当に進んでいるのか第6回：続く未来への抜け道はあるのか第7回：他者を尊重するとき、自分は尊重できているか第8回：誰か力を合わせるためには（プロジェクトチーム形成）第9回：プロジェクトセッション1・環境第10回：プロジェクトセッション2・社会第11回：プロジェクトセッション3・経済第12回：プロジェクトセッション4・統合第13回：プロジェクト発表会第14回：プロジェクト振り返り・マイクエスト今後のテーマ第15回：まとめ 試験</p>				
使用テキスト	授業時間、始まりに配布します。事前事後でデータも共有します。				
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>予習のポイント： 普段何に興味を持っているか、何気なく気になっていることをメモする。 復習のポイント： 自分の将来とか自分がこうなりたいとか自分はこういうことが大切だとかを授業の視点で考えてみる。 参考文献・資料等： 参考資料： 必要に応じて授業中に資料を配布する。また、適宜文献を紹介する。</p>				

障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので学務部へ相談してください。
授業時間外の連絡手段	研究室において対応します。対応可能な曜日・時間帯については授業中にお知らせします。FacebookアカウントまたはLINEがあれば、いつでも相談に応じます。
留意事項	特記事項なし

科目コード	20003	科目ナンバリング	WP10C19K	主な使用言語	日本語
授業名	生命と倫理				
担当者	銭谷 秋生				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜5限	履修可能学科等			
関連資格	AL要素		11. 討論		
授業の概要					
<p>今日、人間の生命の尊重は社会のもっとも基本的な規範となっています。しかし、重大な犯罪を犯した者を死刑に処することや望まない妊娠を中止することなどは、一定の条件のもとで認められています。さらに、動物の生命を奪い食することもごく普通になされています。こうしたことは、生命の尊重という社会規範と整合するものなのでしょうか。そもそもなぜ、犯罪者でも胎児でも家畜でもない、そういう人間の生命だけが尊重の対象になるのでしょうか。さらに、生命をもち様々な活動を行う人間のその「人生」にそもそも意味とあったものがあるのでしょうか。</p> <p>この講義では、このような問題意識のもと、生命の処遇をめぐる現代の倫理的諸問題を考察します。</p>					
キーワード					
命の尊重、動物の権利、死刑、代理出産、安楽死、人生の意味					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で説明を受けた「生命の処遇をめぐる現代の問題」の内容をよく理解し、解答することができる。				
評価方法	学期末筆記試験による。	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で取り上げたトピックスについて、自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的に自らの所見を表現できる。				
評価方法	同上	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主学修によって得られた知見の拡大や深化が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただしヴォランティア活動等の実践により深められた知見が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となる。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>【進め方】 毎回、講義内容に関して学生同士の討議を行う。</p> <p>【内容】</p> <p>第1回：生命と倫理をめぐる今日の状況 第2回：動物にも権利を認めるべきか (1) 第3回：動物にも権利を認めるべきか (2) 第4回：死刑制度は存続させるべきか (1) 第5回：死刑制度は存続させるべきか (2) 第6回：死刑制度は存続させるべきか (3) 第7回：人工妊娠中絶は認められるか (1) 第8回：人工妊娠中絶は認められるか (2) 第9回：結合双生児の分離手術をめぐる 第10回：代理出産を法的に認めてよいか (1) 第11回：代理出産を法的に認めてよいか (2) 第12回：人生に意味はあるのか (1) 第13回：人生に意味はあるのか (2) 第14回：人生に意味はあるのか (3) 第15回：安楽死をどう考えればいいのか</p> <p>学期末試験</p>
使用テキスト	特定のテキストは使用しない。授業で使用する資料はすべて印刷・配布する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間学生同士の討議を導入するので、自分の考えをしっかりとまとめる。 ・資料に関連した事項について自主学修を通して知見を深めることが望ましい。 ・参考資料は多岐にわたるので、適宜授業の中で紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	授業の前後の時間に対応します。曜日・時限等は初回にお知らせします。
留意事項	特になし。

科目コード	20004	科目ナンバリング	WP10C20K	主な使用言語	日本語
授業名	人間と哲学				
担当者	銭谷 秋生				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜5限	履修可能学科等			
関連資格	AL要素		17. 発問と回答		
授業の概要					
この講義では、哲学の世界で探求されている代表的な問いを取り上げ、それを腑分けしながら、哲学的に考える筋道を提示します。主として取り上げる問いは、例えば「知るとはどのようなことか」や「時間はどこを流れているのか」あるいは「善や悪はどこにあるのか」といった、我々の知識や経験の構造を問題にする問いです。問いそのものは古典的ですが、できるだけ現代の哲学者たちの思索を参照して考察を進めます。					
キーワード					
真理と実在、知識論、懐疑論、時間論、善悪の存在論					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で説明を受けた「哲学的に考える筋道」をよく理解し、解答することができる。				
評価方法	学期末の筆記試験による。	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で取り上げたトピックスについて、自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的に自らの所見を表現できる。				
評価方法	同上	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主学修によって得られた知見の拡大や深化が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただしヴォランティア活動等の実践により深められた知見が学期末試験の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言や筆記試験の記述等において、公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となる。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回：イントロダクション。（哲学は何を問題とする学問なのか）</p> <p>第2回：この現実私が見ている夢ではないとどうやって言えるのか。（懐疑論からの挑戦）</p> <p>第3回：この現実は何ものが見ている夢ではないとどうやって言えるのか。</p> <p>第4回：真理の実在論と反実在論の対立</p> <p>第5回：何かを「知る」とはどのようなことか(1)。（正当化された真なる信念という定義）</p> <p>第6回：何かを「知る」とはどのようなことか(2)。（観念論の挑戦）</p> <p>第7回：何かを「知る」とはどのようなことか(3)。（観念論論駁）</p> <p>第8回：何かを「知る」とはどのようなことか(4)。（ゲティア問題）</p> <p>第9回：何かを知るとはどのようなことか(5)。（知識の因果説）</p> <p>第10回：時間はどこを流れているのか(1)。（時間は実在的か）</p> <p>第11回：時間はどこを流れているのか(2)。（時間は心のなかにあるのか）</p> <p>第12回：時間はどこを流れているのか(3)。（世界の言語的把握と時間の成立）</p> <p>第13回：善悪の存在論(1)。（道徳的反実在論）</p> <p>第14回：善悪の存在論(2)。（道徳的実在論）</p> <p>第15回：善悪の存在論(3)。（善悪はどこにあるのか）</p> <p>学期末試験</p>
使用テキスト	特定のテキストは使用しない。毎回プリントを配布し、それに沿って進める。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、次の回の資料をあらかじめ配布するので、分からない用語などを調べる。 ・資料に関連した事項について自主学修を通して知見を深めることが望ましい。参考文献として次の一点を推薦する。 <p>『現代哲学』門脇俊介著、産業図書(2002)</p>
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、先ずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	授業の前後の時間に対応します。曜日・時限等は初回にお知らせします。
留意事項	特になし。

科目コード	20006	科目ナンバリング	WP10C21K	主な使用言語	日本語
授業名	人権と教育				
担当者	古屋 等				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	月曜2限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
<p>「義務教育」とは何でしょうか。子どもが学校に行かなくてはならない義務、と誤解されていませんか。子どもは学習の主体であり、自ら学ぶ権利があります。ですが、何を学ぶかは未知ですから、教育を受ける主体としての親が必要になります。すなわち、学校に行かせるのは親の義務なのです。しかし、親の職業や家庭の経済状況などにより、就学機会にも格差が生じかねないため、国が授業料を負担したり、教科書を無償提供したりして、財政的な支援により子どもを含めた家庭を支援しています。その一方、このような教育の機会均等は、一定限度の教育成果の獲得も必要とすると解釈されて、教育内容について国は、学習指導要領や教科書検定などを通じて介入する権限があると理解しています。その結果、家庭を中心とした私的な営みであった教育は、公教育の導入によって公的な営みに転化しており、さらに、地域に身近な分権的な作用を離れて、国を中心とした集権的な作用へと変容しています。そのような関係の中で、子どもや親と国（地方公共団体）を仲介していく教師にはどのような役割が期待されているのでしょうか。これから教員を目指そうとする皆さんと一緒に考えていきたいと思います。</p>					
キーワード					
憲法第26条、教育の機会均等、学習権、教育を受けさせる義務、親（教師）の教育権、国の教育権、教育委員会、学習指導要領、教科書検定、いじめ、不登校、少年法、児童虐待					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	学ぶ主体としての子どもの自由を法的にいかに保障するのか、また、権利の主体として子どもの意思をいかに尊重するべきなのかを、憲法の人権論や子どもの権利条約を通じて理解するとともに、教育をめぐる法制度と子ども、親および地域住民との関係について認識できる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	教育制度や教育法制を子どもを中心に理解できるとともに、教育の主体としての親の役割や地域住民との協働のあり方について自己の意見を持つことができる。				
評価方法	小テスト、期末テスト	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
教育において生じる問題について関心を持ち、その原因を追究し、法的な知識に基づいて解決する態度を身につける。					
評価割合	5%				
▼実践的ボランティアム					
該当なし					
評価割合	0%				
▼公正性					
教育をめぐる当事者の権利や利益を公平に尊重し、相互の主張や利害を比較衡量した上で、双方が理解できる適切な解決を導くことができる。					
評価割合	5%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 教育をめぐる法源 3 憲法と教育基本法 4 子どもと人権尊重 5 子どもの権利条約 6 学校の種類と設置者 7 教職員の服務・義務 8 いじめの背景と要因 9 いじめの防止と対策 10 不登校をめぐる動き 11 不登校児童生徒支援 12 親権と児童虐待防止 13 児童虐待の防止対策 14 教員免許と教員養成 15 全体まとめ 16 定期試験
使用テキスト	古田薫・山下晃一編著『法規で学ぶ教育制度』（ミネルヴァ書房）2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分でなかったところは、繰り返し復習をしておいください。
障がいのある履修者への対応	対応可
授業時間外の連絡手段	第1回目のガイダンスで説明する電子メールにて連絡
留意事項	座席の指定はありませんが、板書や配布の便宜のため、できるだけ前方に座ってください。私語は禁止していますので、質問以外の場合は、授業に集中してください。

科目コード	20013	科目ナンバリング	WP10C16K	主な使用言語	日本語
授業名	社会学 a				
担当者	勝山 紘子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜4限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
社会学は、社会の仕組みを考える学問です。人間は生きる上で必ずなんらかの集団に属し、共同体を形成しています。人間が属し、結びつくあらゆる関係性と場を社会と呼びます。この社会において、さまざまな仕組みが構築され、文化や経済が形成されます。この授業では社会学の基礎を学び、社会の仕組みを知るとともに、具体的な世界情勢や出来事についての解釈の方法を身に着けます。					
キーワード					
人間と社会、家族、性、環境、災害、教育、逸脱行動					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	社会学の基礎概念を学び、社会の仕組みを様々な観点から理解する。				
評価方法	授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	社会学について得た知識をもとに、社会の諸現象について理解・考察し、自己の所見を論理的かつ簡潔に表現することができる。				
評価方法	授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業内での質問やディスカッションなど、積極的に参加すること。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度、筆記試験の記述等において、人権侵害、差別、不正などの行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 ガイダンス・社会学とは何か 第2回 社会学の歴史 (1) 第3回 社会学の歴史 (2) 第4回 社会と「私」 (1) -個人と集団、自我と他者 第5回 社会と「私」 (2) -社会的人間と社会集団 第6回 家族と社会 (1) -家族のあり方と変容 第7回 家族と社会 (2) -結婚と出産 第8回 性と社会 (1) -ジェンダーとセクシュアリティ 第9回 性と社会 (2) -教育・スポーツ・労働とジェンダー 第10回 不平等と格差 -一億総中流意識にみる日本の格差意識 第11回 労働と産業 -未来の仕事と働き方 第12回 消費と社会 -消費行動とマクドナルド化 第13回 コミュニティと地域社会 第14回 宗教と社会 -世界の宗教と日本人の宗教観 第15回 振り返りと統括
使用テキスト	篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』、晃洋書房、2016年発行、2200円＋税。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	【予習】毎回、授業の前日までに授業用資料をパワーポイントでUNIPAにアップします。各自ダウンロードして目を通しておいてください。 【復習】授業で得た知見を整理し、学期末の課題レポートに向けてノート等にまとめておいてください。 【参考文献および資料】授業内に指示します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対処します。まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。
留意事項	日頃から、テレビのニュースや新聞、インターネット等で世の中の動きについて情報収集し、社会の動向を意識することを習慣化してください。その際、ひとつのニュースに関してひとつの情報だけに頼るのではなく、異なる観点からの報道にも気を配って、多角的なものを見方をするよう心がけてください。

科目コード	20013	科目ナンバリング	WP10C16K	主な使用言語	日本語
授業名	社会学 b				
担当者	勝山 紘子				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜4限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
社会学は、社会の仕組みを考える学問です。人間は生きる上で必ずなんらかの集団に属し、共同体を形成しています。人間が属し、結びつくあらゆる関係性と場を社会と呼びます。この社会において、さまざまな仕組みが構築され、文化や経済が形成されます。この授業では社会学の基礎を学び、社会の仕組みを知るとともに、具体的な世界情勢や出来事についての解釈の方法を身に着けます。					
キーワード					
人間と社会、家族、性、環境、災害、教育、逸脱行動					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	社会学の基礎概念を学び、社会の仕組みを様々な観点から理解する。				
評価方法	授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	社会学について得た知識をもとに、社会の諸現象について理解・考察し、自己の所見を論理的かつ簡潔に表現することができる。				
評価方法	授業への参加態度、毎回の授業でのリアクションペーパーの記述内容、および学期末課題レポートにより総合的に評価します。	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業内での質問やディスカッションなど、積極的に参加すること。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度、筆記試験の記述等において、人権侵害、差別、不正などの行為で著しく公平性を欠く場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 ガイダンス・社会学とは何か 第2回 社会学の歴史 (1) 第3回 社会学の歴史 (2) 第4回 社会と「私」 (1) -個人と集団、自我と他者 第5回 社会と「私」 (2) -社会的人間と社会集団 第6回 家族と社会 (1) -家族のあり方と変容 第7回 家族と社会 (2) -結婚と出産 第8回 性と社会 (1) -ジェンダーとセクシュアリティ 第9回 性と社会 (2) -教育・スポーツ・労働とジェンダー 第10回 不平等と格差 -一億総中流意識にみる日本の格差意識 第11回 労働と産業 -未来の仕事と働き方 第12回 消費と社会 -消費行動とマクドナルド化 第13回 コミュニティと地域社会 第14回 宗教と社会 -世界の宗教と日本人の宗教観 第15回 振り返りと統括
使用テキスト	篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』、晃洋書房、2016年発行、2200円＋税。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	【予習】毎回、授業の前日までに授業用資料をパワーポイントでteamsにアップします。各自ダウンロードして目を通しておいてください。 【復習】授業で得た知見を整理し、学期末の課題レポートに向けてノート等にまとめておいてください。 【参考文献および資料】授業内に指示します。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対処します。まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに対応します。曜日、時間は初回授業でお知らせします。
留意事項	日頃から、テレビのニュースや新聞、インターネット等で世の中の動きについて情報収集し、社会の動向を意識することを習慣化してください。その際、ひとつのニュースに関してひとつの情報だけに頼るのではなく、異なる観点からの報道にも気を配って、多角的なものを見方をするよう心がけてください。

科目コード	20015	科目ナンバリング	WP10C23K	主な使用言語	日本語
授業名	生活と政治				
担当者	林 寛一				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	月曜2限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
この授業は、中学校社会科教員を志望する学生のために特別に用意された科目です。講義の具体的内容は以下の原則に則したものととなります。					
中学校学習指導要綱と中学校社会科教科書の内容に沿ったかたちで講義内容が設定され、授業が進められます。また、受講生が将来中学校の社会科授業を担当することを想定して、「公民」の範囲内の、主に国内外の政治について、教員として必要な基礎的な知識の修得と考え方について講義します					
キーワード					
教職、中学校社会科、公民、現代社会、福祉国家、民主政治、政策過程、世論とマスメディア、地方自治、グローバル化					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ基本的な知識・技能について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。				
評価方法	学期末筆記試験又は課題・レポート	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修等によって得た知識や経験を踏まえて考察し、かつ論理的又は簡潔に自らの所見を表現できる。				
評価方法	学期末筆記試験又は課題・レポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が、学期末筆記試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末筆記試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や学期末筆記試験等の記述において、人権侵害・差別的な発言など著しく公正性に欠ける言動等があった場合は、減点や嚴重処分の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 民主政治の起源 (1) 第3回 民主政治の起源 (2) 第4回 民主政治の変容 第5回 福祉と政治 第6回 民主政治の様々な仕組み 第7回 選挙 第8回 議会と政党 (1) 第9回 議会と政党 (2) 第10回 政策過程と官僚・利益集団 第11回 世論とマスメディア 第12回 地方自治 (1) 第13回 地方自治 (2) 第14回 グローバル化 (1) 第15回 グローバル化 (2) 定期試験
使用テキスト	川出良枝・谷口将紀編『政治学 (第2版)』東京大学出版会、2022年。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業前は、その回のテーマのわからない用語を調べておくこと (60分)。 授業後は、その回の授業について復習するとともに、関連事項についても自主学修を通じて知見を深めることが望ましい (60分)。 参考文献および参考資料については、必要に応じて、その回の授業で伝える。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますが、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	初回の授業等でお知らせします。
留意事項	特になし

科目コード	21033	科目ナンバリング	WP20C10K	主な使用言語	日本語
授業名	ジェンダー福祉論				
担当者	吉田 滋				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜4限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	10 資料調査課題 11 討論 16 振り返り用紙と応答 17 発問と回答		
授業の概要					
ジェンダーやフェミニズムとは何かという基本的な概念を明らかにしたうえで、例えば平塚らいてう対与謝野晶子論争などの母性論争も含めて、現在の男女共同参画社会や、出生前診断問題などの最新の話題まで取り扱う。					
キーワード					
フェミニズム ジェンダー 男女同権 男尊女卑 男女共同社会					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	近年、世界的に女性の社会進出が進んできている。日本でも男女共同参画という言葉に代表されるような考え方が政策や制度の中に取り入れられつつある。しかし、雇用や賃金の面に代表して見られるように男女の格差は歴然と存在している。福祉においても女性と男性との違いは考慮されていたとは言えない。日常生活の中でもありきたりに存在しながら見過ごされているジェンダー化された規範や知識を問い直すことで、新しい福祉社会のあり方を考える力を身に着ける。				
評価方法	試験	評価割合	80%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	男性中心社会である現在の問題点や改善点についてジェンダー視点からの提言や考察が出来るようになる。				
評価方法	試験	評価割合	10%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
毎回配布するリアクションペーパーの記述や出席により評価する。					
評価割合	10%				
▼実践的ボランティア					
特になし					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接の評価対象とはしないが、授業中の態度やリアクションペーパーの記述内容などで極端な人権侵害、反社会的発言、行為、反社会福祉的な言動行為がみられた場合は、減点や嚴重注意の対象となりうる。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	【01回】オリエンテーション 【02回】ジェンダーという言葉の概念。男らしさ、女らしさとは何か。フェミニズムとその歴史。 【03回】教育とジェンダー格差1 大学と女性、リケ女 【04回】教育とジェンダー格差2 良妻賢母教育、平塚対与謝野論争 【05回】就職とキャリア形成1 ガラスの天井問題、就職活動、挫折と活躍、 【06回】就職とキャリア形成2 障害を持つ女性 【07回】結婚1 独身キャリアウーマン、寿退社 【08回】結婚2 結婚制度の終焉 【09回】妊娠、出産、子育て 【10回】性別分業 【11回】主婦と奥様家事労働を考える、パート主婦問題、女性と派遣労働、同一労働同一賃金、日本型雇用制度と女性差別、終身雇用と女性 【12回】ジェンダー平等とは何か。 【13回】世界の女性の権利保障1 【14回】世界の女性の権利保障2世界の面白法律編 【15回】総まとめ及びジェンダーと性について。 【16回】テスト				
使用テキスト	テキストは指定しないが適宜講義の中で紹介する。 講義は毎回オリジナルの資料を配布する。				
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	講義の中で取り上げる話題や、キーワードで挙げた事柄などの方法に注意して、普段から問題意識や疑問を持ってもらいたい。				
障がいのある履修者への対応	可能な限り配慮を行う。事前に学務部へ相談しておくこと。				
授業時間外の連絡手段	初回の授業で連絡先等を周知する。				

留意事項

毎回オリジナルの資料を配布するのでファイリングしておくこと。
コロナのためにリモートになった場合は、双方向型の講義を行う。
事前に t e a m s への登録を済ませておくこと。

科目コード	21049	科目ナンバリング	WP20C19K	主な使用言語	日本語
授業名	障害者・障害児心理学				
担当者	望月 珠美				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜2限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	10 資料調査課題 14 輪読活動 16 振り返り用紙と応答 17 発問と回答		
授業の概要 障害児・障害者とともにその家族に対する支援の充実、今日の社会における重要な課題のひとつである。本講では、障害児・者をめぐる心理社会的課題の達成に向けて、権利性の遵守にもとづき、各障害の特性とニーズに応じた心理的支援の実際について理解を深めることをめざす。					
キーワード ICF ICD DSM BPSモデル 多職種連携					

学位授与方針との関係			
▼知識・技能			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各障害特性について正しく記述できる。 BPSモデルに基づき障害児・者をめぐる心理社会的課題について記述できる。 障害児・者支援における心理職の機能と役割についての確に記述できる。 多職種との連携協働の重要性と具体についての確に記述できる。 		
評価方法	課題への取り組み 期末レポート	評価割合	50%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	講義で取り上げられた内容について、関係する社会課題や自己の経験を含めて総合的、科学的かつ倫理的な観点をもって正しく表現することができる。		
評価方法	課題への取り組み 期末レポート	評価割合	50%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、主体的な学修によって自身の知見に加味された成果等が学期末試験等の記述内容に認められる場合には、「知識・技術」や「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることができる。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティアム			
直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見が小レポートや期末試験等の記述内容に認められる場合には、「知識・技術」や「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることができる。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、人権や多様な価値観に対する配慮を著しく欠く表現については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし。			
評価割合	0%		

授業計画	01 オリエンテーション 02 障害とは何か、障害観の変遷と今日的課題 03 保育・教育現場における障害児への対応 04 知的障害の理解と支援 05 発達障害の理解と支援（1） 06 発達障害の理解と支援（2） 07 身体障害の理解と支援（1） 08 身体障害の理解と支援（2） 09 精神障害の理解と支援（1） 10 精神障害の理解と支援（2） 11 保護者・きょうだいへの支援 12 就労をめぐる支援 13 高齢と障害 14 地域社会と障害 15 まとめ 期末試験
使用テキスト	本郷一夫・大伴潔編著（2022年）公認心理師スタンダードテキストシリーズ⑬障害者・障害児心理学、下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫監修、ミネルヴァ書房、2400円。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習：使用テキストを用いて各授業回の内容に該当する部分に予め目を通し、テーマの概要や用語について把握しておくこと。読み方や意味の理解が不十分な用語や知識については各自で調べ、確認をしておくこと（例えば、人体の構造、各種法律など）。 復習：使用テキストや配布資料を用いて授業内容を復習する。あわせて、授業内容を発展させ、茨城県や在住する地域社会の統計資料や自治体の取り組みなどについて調べるにより地域の課題や特性に対する理解とともに社会的資源の現状についての知見を深めることにつなげたい。 将来、公認心理師をめざす学生は次の書籍もあわせて活用することを推奨する。 柘植雅義・石倉健二・野口和人・本田秀夫編（2020）公認心理士師の基礎と実践13、野島一彦・繁樹算男監修、遠見書房、2600円。
障がいのある履修者への対応	ニーズに応じた多様な支援を行います。まずは授業担当者もしくは学務部にご相談ください。

授業時間外の連絡手段	原則としてオフィスアワーに担当者研究室（大学6号館4階6415研究室）で対応します。オフィスアワーの詳細についてはUNIPAでご確認ください。緊急時は、学務部にご連絡ください。
留意事項	なし。

科目コード	21061	科目ナンバリング	WP20C26K	主な使用言語	日本語
授業名	社会病理学				
担当者	渡邊 健蔵				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜3限	履修可能学科等			
関連資格	AL要素		振り返り用紙と回答		
授業の概要					
本講義では、社会病理学の基礎をふまえ、身近にある様々な社会病理現象について扱い、具体的に学ぶ。心理学のみならず、社会学の視点を取り入れ、より広い視野で物事を考える力を身に付けることで、心理臨床にいかせるようにする。					
キーワード					
社会病理, 心理学, 社会学					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	社会病理の心理社会的な要因を理解し、それを社会全体の問題として捉えられる。また、それぞれの社会病理現象の特徴、課題を説明できる。				
評価方法	レポート	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	社会病理について、多角的に自分の考えを述べ、今後の社会参加のあり方について問い直すことができる。				
評価方法	レポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、講義内容について関心を持ち、主体的に学ぶ姿勢は学生として望ましい。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度等において著しく公平性を欠く場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	1. 社会病理学とその理論 2. 自殺 3. いじめ 4. 不登校 5. ひきこもり 6. 児童虐待 7. DV 8. 摂食障害 9. アルコール依存症 10. うつ 11. 認知症 12. 統合失調症 13. 視聴覚教材を用いた授業 (1) 14. 視聴覚教材を用いた授業 (2) 15. まとめ
使用テキスト	特になし。講義で使用する資料は全てこちらで印刷し配布する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習：予告した次回の授業内容について、調べておくことが望ましい。 復習：授業後、配布資料について復習し、知見を深めておくことが望ましい。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	最初の講義でお知らせするメールアドレスにご連絡ください。何かありましたら個別に対応します。
留意事項	特になし。

科目コード	21063	科目ナンバリング	WP22C06K	主な使用言語	日本語
授業名	心理福祉特講B				
担当者	渡邊 健蔵				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜3限	履修可能学科等			
関連資格	AL要素		振り返りシートと応答		
授業の概要					
本講義では、社会心理学及び犯罪心理学の観点から、反社会的行動や多様な犯罪への理解を深めることを目的とする。特に加害者及び被害者の心理を中心に学んでいく。					
キーワード					
社会心理, 犯罪心理, 加害者及び被害者の心理					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	社会心理学及び犯罪心理学の観点から、様々な反社会的行動や犯罪について理解できる。また、それぞれの現象の特徴や心の働きについて説明できる。				
評価方法	レポート	評価割合	70%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	様々な反社会的行動や犯罪における加害者及び被害者の心理を理解し、自身の興味・関心を有するテーマについて、自分自身の考えを多角的に述べるができる。				
評価方法	レポート	評価割合	30%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、講義内容について関心を持ち、疑問を持って考え、主体的に学ぶ姿勢をもつことが望ましい。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や態度等において著しく公正性を欠く場合には、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 反社会的行動をもたらす認知の歪み (1) 3. 反社会的行動をもたらす認知の歪み (2) 4. いじめ (1) 5. いじめ (2) 6. 殺人 (1) 7. 殺人 (2) 8. パーソナリティ障害 (1) 9. パーソナリティ障害 (2) 10. パーソナリティ障害 (3) 11. 視聴覚教材を用いた授業 (1) 12. 視聴覚教材を用いた授業 (2) 13. ストーカー 14. 性依存症 15. まとめ
使用テキスト	特になし。講義で使用する資料は全てこちらで印刷し配布する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習：予告した次回の授業内容について、調べておくことが望ましい。 復習：授業後、配布資料について復習し、知見を深めておくことが望ましい。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	最初の講義でお知らせするメールアドレスにご連絡ください。何かありましたら、個別に対応します。
留意事項	特になし。

科目コード	21092	科目ナンバリング	WP20C28K	主な使用言語	日本語
授業名	愛と死の人間学				
担当者	佐々木 徹				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜3限	履修可能学科等			
関連資格			AL要素	18. その他	

授業の概要

この授業での「人間学」とは「哲学的人間学」(Philosophical Anthropology)のことである。さて、愛といえば、エロスとアガペーがよく知られている。エロスは価値追求的な愛で、アガペーは無償の愛だと説明される。前者はギリシア的で、後者はキリスト教的であるとも言われる。しかしながらキリスト教においてアガペーはエロスを導きながら包み、一般に人間においてはエロスとアガペーは分かちがたく交錯している。エロスとアガペーの間はどのようにになっているのだろうか。これは決して経験科学だけで解明できる問題ではない。エロスとアガペーの交錯するところ、結節点としての死があると言えよう。哲学はエロスの営みとして、プラトンによって「死の訓練」とされた。キリスト教では、イエス・キリストの十字架上の死と復活において、アガペーたる神の愛の貫徹が説かれる。哲学的に思索し宗教的真理を探究する「人間」に焦点を定めて言うならば、エロスは死へと向かい、アガペーは死から始まると考えられる。我々が人間であることの条件、即ち「人間らしさとは何か」と問われた際の答えが、「知性と意志と情緒において愛をわきまえ知ること」であるなら、それは人間である自らが死にゆく存在者であることの自覚に支えられている。死の自覚を介して、我々は愛の奥深さを知り、愛は個人的にも社会的にもエロスとアガペーの双方向に連関しながら展開していく。これが、人間の真の歴史形成であろう。根源的な意味において人間であることとはいかなる事であるのか、あるいは人間として死んで愛することはいかなる事であるのかを考える。

講義時に、しばしば受講者の質問を募る。

キーワード
愛と死、深淵と超越、根源、宗教と哲学

学位授与方針との関係

▼知識・技能			
到達目標	授業を通して得た、哲学的人間学を軸とする際の西洋思想の知識を覚え、活用できる。		
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	25%
▼思考力・判断力・表現力			
到達目標	愛と死の問題を通して、人間存在の深淵あるいは根源に迫って思索し、それを論理的に表現できる。		
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	75%
▼学修に主体的に取り組む態度			
直接の評価対象とはしないが、定期試験の論述問題で、主体的、意欲的に独創的な考察をしている場合、評価される場合がある。			
評価割合	0%		
▼実践的ボランティア			
評価対象とはしない。しかしこの講義の内容は当然、受講者の日々の生活に深いところがかかわることであるのは明白であろう。			
評価割合	0%		
▼公正性			
直接の評価対象とはしないが、授業時や試験で著しい人権侵害や差別の主張などがある場合、減点や嚴重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。			
評価割合	0%		
▼その他			
特になし			
評価割合	0%		

授業計画	第1回： 導入・哲学的人間学・・・なぜ「人間」を問うのか 第2回： 名前と顔・ヘブライズムにおける人間 第3回： 古代ギリシアにおける人間 (1)・・・人間への問いの始まり 第4回： 古代ギリシアにおける人間 (2)・・・ソクラテス 第5回： 古代ギリシアにおける人間 (3)・・・プラトン 第6回： 死生観の涵養・・・プラトン哲学を手掛かりとして 第7回： 古代ギリシアにおける人間 (4)・・・アリストテレス 第8回： 愛の両極性・・・キリスト教の中世におけるエロスとアガペー 第9回： 近代的人間の自覚 (1)・・・近代の世界像における人間 第10回： 近代的人間の自覚 (2)・・・デカルト 第11回： 近代的人間の自覚 (3)・・・パスカル 第12回： 近代的人間の自覚 (4)・・・思想における近代の確立とイギリス経験論 第13回： 近代的人間の自覚 (5)・・・哲学的人間論としてのカント哲学とドイツ観念論 第14回： 現代人の愛と死 (1)・・・現代の哲学的人間学 (シェラーを中心として) 第15回： 現代人の愛と死 (2)・・・現代の哲学的人間学 (シェラーを中心として) 定期試験
使用テキスト	授業時にプリントを配布する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	やさしいものでよいかから、正式な哲学書に慣れ親しんでいると講義が理解しやすくなると思われる。又、日常の些細なことの中にも問題を見つけ、それにこだわって粘り強く考え続ける習慣を持つことも大切である。参考文献などは、適宜指示する。
障がいのある履修者への対応	真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部などに相談してください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーなどで担当者が直接対応したり、IC-UNIPAの掲示やメールで連絡したりする。

留意事項

誠実な態度で授業に臨むこと。

科目コード	21107	科目ナンバリング	WP10C27K	主な使用言語	日本語
授業名	人間観と倫理A				
担当者	佐々木 徹				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜4限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	18. その他	
授業の概要					
<p>おそらく現代は、倫理の危機を迎えている時代であると言える。近代の様々な問題を解決できないまま、我々は21世紀の時代を生活している。近代思想の反省を通じて倫理思想の基本を確認し、人間の問題を捉えなおす。そして、倫理の再生について考察し、我々の将来への希望を開く道を探る。</p> <p>授業時に、しばしば受講者から質問を募る。</p>					
キーワード					
他者、個人と社会、民主主義の母体としての批判精神					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	講義で得た知識を概ね覚え、自ら主体的に倫理の問題について思索できる。				
評価方法	定期筆記試験。	評価割合	25%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	人間倫理の諸問題についてに自らの思索を、論理的にまとめ上げ、文章で表現できる。				
評価方法	定期筆記試験。	評価割合	75%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接の評価対象とはしないが、試験の論述問題で、主体的、意欲的に独創的な論究を展開した場合は、評価対象となることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
評価対象とはしないが、講義内容が、受講者の日々の歩みに直接かかわることでもあるのは明白であろう。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接の評価対象とはしないが、授業時や試験で、人間倫理に反する著しい人権侵害や差別の主張などがある場合、減点や嚴重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は、『履修要覧』の規定に基づいて対処する。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回： 導入（倫理的存在者としての人間） 第2回： 日本の哲学（東洋と西洋・思想の風土性） 第3回： 「他者」との遭遇 第4回： 社会と個人（人間存在の社会性） 第5回： 人間存在は間柄的か？（和辻倫理学の検討） 第6回： 人権の思想 第7回： ホッブズにおける人間と国家 第8回： 人間の尊厳と国家（あるいは近代の悲運としての国家） 第9回： ナチズムはなぜ生まれたか 第10回： 倫理の危機を乗り越えて平和を構築すること（フロイトを超えて） 第11回： 自我の自覚（私が私であること） 第12回： 実存の世界（キルケゴールなど） 第13回： フォイエルバッハにおける人間、マルクスにおける人間の歴史 第14回： サルトルにおける〈実存と人類〉から諸宗教の〈世界倫理〉へ 第15回： 人類の将来に向かう倫理の再生 定期試験
使用テキスト	授業時にプリントを配布する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	やさしいものでよいかから、正式な哲学書、倫理学書に慣れ親しんでおくことと理解が深まる。人間を抑圧している問題の解決をめぐる、新たな次元が見えてくるまで粘り強く思索し続ける習慣を持つこと。参考文献等は授業時に指示する。
障がいのある履修者への対応	真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部などに相談してください。
授業時間外の連絡手段	オフィスパワーで担当者が直接対応したり、IC - UNIPAの掲示やメールで連絡したりする。
留意事項	誠実な態度で授業に臨むこと。

科目コード	21108	科目ナンバリング	WP10C28K	主な使用言語	日本語
授業名	人間観と倫理B				
担当者	佐々木 徹				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜4限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	18. その他	
授業の概要					
人間の倫理の問題について考察するにあたり、まず人間存在の外側に中心をずらして、そこから根源的な次元を探るという方途を取る。人間と緊密に関係している、生きている人間の外側の中心とは、環境、死者、動物、そして神などである。具体的事例を通して、人間とその倫理に関する哲学的考察の基本を学ぶ。現代の人間の問題について反省し、希望の将来へとつなげる倫理学の構築を考える。講義時に、しばしば受講者から質問を募る。					
キーワード					
共生、環境保護、平和の構築、生と死					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	講義から得た、倫理の諸問題に関する知識を概ね体得し、自分で考える際の素材にできる。				
評価方法	定期筆記試験	評価割合	25%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	倫理について主体的に思索し、それを論理的に文章で表現できる。				
評価方法	定期筆記試験	評価割合	75%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接の評価対象とはしないが、試験の論述問題で、主体的、意欲的に、独創的な思索を展開する場合は、評価の対象となる場合がある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
評価の対象とはしない。しかし、講義内容が受講者の日々の歩みに直接関連することは明白であろう。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接の評価対象とはしないが、授業や試験で、人間の倫理に反する著しい人権侵害や差別の主張などがある場合、減点や嚴重注意の対象となる。カンニングなどの不正行為は『履修要覧』の規定に基づいて対処する。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回： 導入（人間の真の幸福とは何か） 第2回： 宮沢賢治におけるテクノボー（利他の境涯） 第3回： 人間中心主義からの真の脱却（ニーチェを超えて） 第4回： 森の生活と倫理（環境破壊を阻止するために） 第5回： アイヌ民族の生活と倫理（アニミズムの倫理に学ぶ） 第6回： 呪術と科学（科学の権限と限界、我々の時代の世界象） 第7回： 学術の倫理と技術開発の問題 第8回： 原子力と人類（核兵器の廃絶に向かって） 第9回： 人間存在の歴史性と自然性 第10回： 身体現象学と<魂>の所在 第11回： いのちの尊厳について考える（生命倫理に関連して） 第12回： 生の向こう側からの声（死者の未来・生者の歴史的責任） 第13回： 動物の幸福（野生動物、ペット、実験動物などをめぐって） 第14回： 宗教と倫理はいかに関係するか 第15回： 倫理学の再構築と神中心的キリスト教倫理 定期試験
使用テキスト	授業時にプリントを配る。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	やさしいものでよいかから、正式な哲学書、倫理学書に慣れ親しんでいると理解が深まる。自己中心、自分の周囲中心、人間中心の習慣から離れて考え続けることをやってみると、新しい次元が開けてくるかもしれない。参考文献等は、授業時に指示する。
障がいのある履修者への対応	真摯な対応を心掛けたいが、まずは学務部などに相談してください。
授業時間外の連絡手段	IC-UNIPAの掲示やメールで連絡したり、オフィスアワーで担当者が直接対応したりする。
留意事項	誠実な態度で授業に臨むこと。

科目コード	21115	科目ナンバリング	WP20C01K	主な使用言語	日本語
授業名	社会福祉発達史A				
担当者	田家 英二				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜3限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>欧米における社会福祉の発達過程についてふれることを通して、その先駆的な歴史の流れから、社会福祉の思想の変遷を学び、社会福祉における普遍的な思想や原理を理解する。社会福祉について時代背景を踏まえた理解を深め、その問題点や解決策を探る。</p> <p>授業資料は原則UNIPAで提供し、その資料を読んで理解する。情報端末の活用可。</p> <p>質問は、授業終了時に受け付ける。必要に応じて、映像資料なども活用する。</p> <p>授業内容の理解度を確認するために授業内課題を出し、提出を求める。</p> <p>評価は、授業内課題（レポート）で行う。</p>					
キーワード					
エリザベス救貧法、新救貧法、慈善組織化運動、セツルメント運動、ベヴァリッジ報告					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	社会的事象の歴史的な見方や考え方を修得することができる。 社会福祉の歴史的展開過程を探究し、その発展の要因を考察することができる。				
評価方法	授業内課題で評価。	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	社会福祉が、どのような社会状況のもとで、どのように成立し、いかに展開してきたかを知ることにより、現状を分析し、未来の展望を試みることができる。 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	授業内課題で評価。	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業内課題の記述内容において、自主的な学修及びそれによる成果が認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。 あまりにも受講態度の悪いものや他の受講生の迷惑となる行為を行う場合は減点や厳しい注意対象となる場合がある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により講義で得られた知見等がより深められ、それがレポートや期末試験等の記述内容から認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価の上で考慮される。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。課題レポートの記述においては社会的倫理に合う公正性に十分留意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	【前期】 資料をUNIPAで提供します。質問は、メールでも受け付けます。 第1回：ガイダンスおよび社会福祉における歴史的研究の意義と課題 第2回：イギリスの社会福祉のあゆみ（1）中世社会の慈善事業 第3回：イギリスの社会福祉のあゆみ（2）キリスト教の慈善事業 第4回：イギリスの社会福祉のあゆみ（3）救貧法の成立 第5回：イギリスの社会福祉のあゆみ（4）新救貧法の成立 第6回：イギリスの社会福祉のあゆみ（5）社会事業の成立 第7回：イギリスの社会福祉のあゆみ（6）福祉国家と社会福祉の展開と福祉改革 第8回：アメリカの社会福祉のあゆみ（1）植民地時代の救貧体制から社会保障の成立まで 第9回：アメリカの社会福祉のあゆみ（2）専門社会事業の確立 第10回：アメリカの社会福祉のあゆみ（3）第二次世界大戦後の社会福祉と福祉権運動 第11回：スウェーデン・デンマークの社会福祉と社会保障制度 第12回：西欧の歴史と人物、そして福祉（1） 第13回：西欧の歴史と人物、そして福祉（2） 第14回：西欧の歴史と人物、そして福祉（3） 第15回：西欧の歴史と人物、そして福祉のまとめ 適宜、授業内課題の提出を求める
	授業資料はUNIPAで提供します。
使用テキスト	
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習：各回のテーマについて予め参考文献の関連事項を読んでおくとう理解が深まります。(90分) 復習：配付された資料にでているキーワードを中心に関連項目について調べたり、さらに自主的に関連文献を読んでノートにまとめるなど能動的学修を進めてください。(90分) 参考文献：室田保夫編著『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房、2013年 右田紀久恵、高沢武史、古川孝順編『社会福祉の歴史-政策と運動の展開-』（新版）有斐閣選書、2012年 その他、授業時に随時紹介します。
障がいのある履修者への対応	合理的配慮を行いますので、まずは学務部等に相談してください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応致します。来校ができない場合は、メールで対応します。

留意事項

【課題に対するフィードバック方法】
授業内課題にコメントをする。

科目コード	21116	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	社会福祉発達史B				
担当者	田家 英二				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜3限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
わが国の社会福祉の歴史について、前史としての古代社会や封建社会の動向から、近代社会以降、さらに戦前と戦後の時代的変遷とその特徴を検討することで、社会福祉について時代的背景を踏まえた理解を深め、その問題点や解決策を探る。 授業資料は原則UNIPAで提供し、その資料を読んで理解する。情報端末の活用可。 質問は、授業終了時に受け付ける。必要に応じて、映像資料なども活用する。 授業内容の理解度を確認するために授業内課題を出し、提出を求める。 評価は、授業内課題（レポート）で行う。					
キーワード					
恤救規則、救護法、社会福祉三法と社会福祉事業法、社会福祉六法					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	社会的事象の歴史的な見方や考え方を修得することができる。 社会福祉の歴史的展開過程を探究し、その発展の要因を考察することができる。				
評価方法	授業内課題で評価する	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	社会福祉が、どのような社会状況のもとで、どのように成立し、いかに展開してきたかを知ることにより、現状を分析し、未来の展望を試みることができる。 授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	授業内課題で評価する	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業内課題の記述内容において、自主的な学修及びそれによる成果が認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。 あまりにも受講態度の悪いものや他の受講生の迷惑となる行為を行う場合は減点や厳しい注意対象となる場合がある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により講義で得られた知見等がより深められ、それがレポートや期末試験等の記述内容から認められる場合は、上記の項目「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の評価の上で考慮される。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。授業内課題の記述においては社会的倫理に適合する公正性に十分留意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	【後期】 第1回：古代から中世社会の慈善救済 第2回：前期・後期封建社会と慈善救済 第3回：明治維新と公的救済制度（恤救規則） 第4回：社会事業の成立と展開（救護法） 第5回：社会事業から戦時厚生事業へ 第6回：戦後改革期の社会福祉 第7回：福祉三法の成立 第8回：社会福祉事業法と福祉の近代化 第9回：福祉六法体制 第10回：高度経済成長期の社会福祉 第11回：低成長期と福祉見直し論から現代社会福祉 第12回：日本の社会福祉と人物（1） 第13回：日本の社会福祉と人物（2） 第14回：日本の社会福祉と人物（3） 第15回：日本のソーシャルワークの歴史 適宜、授業内課題の提出を求める。
	授業資料はUNIPAで提供します。
使用テキスト	
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習：各回のテーマについて予め参考文献の関連事項を読んでおくとう理解が深まります。(90分) 復習：配付された資料にでているキーワードを中心に関連項目について調べたり、さらに自主的に関連文献を読んでノートにまとめるなど能動的学修を進めてください。(90分) 参考文献：室田保夫編著『人物でよむ社会福祉の思想と理論』 ミネルヴァ書房、2010年 右田紀久恵、高沢武史、古川孝順編『社会福祉の歴史-政策と運動の展開-』（新版）有斐閣選書、2012年 その他、授業時に随時紹介します。
障がいのある履修者への対応	合理的配慮を行いますので、まずは学務部等に相談してください。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応致します。来校できない場合は、メールで対応します。

留意事項

【課題に対するフィードバック方法】
授業内課題にコメントをする。

科目コード	21123	科目ナンバリング	WP10C29K	主な使用言語	日本語
授業名	福祉心理学				
担当者	望月 珠美				
基本情報					
年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜4限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	10 資料調査課題 11 討論 14 輪読活動 16 振り返り用紙と応答 17 発問と回答		
授業の概要					
<p>ノーマライゼーション、ストレングス、エンパワメントなど社会福祉の重要理念を土台とした上で、社会的弱者、マイノリティとしてその権利性が著しく阻害されてきた児・者、その家族や集団に対する心理的支援の現状と課題について学ぶ。</p> <p>具体的には、児童虐待、高齢者虐待、障害児・者や認知症高齢者、貧困・自死・自殺等にかかわる事例を用いながら、それぞれのニーズや課題を把握し対応するための各種心理的技法とともにチームアプローチ、多職種多機関連携の実際についての学びを通して心理専門職従事者に求められる役割や機能について理解する。</p>					
キーワード					
社会福祉 心理社会的課題 虐待 障害 認知症 多職種連携					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉をめぐる重要概念について正しく理解している。 ・人権の尊重を旨とする各種関連法および制度について正しく理解している。 ・今日の福祉現場における心理社会的課題について理解している。 				
評価方法	課題への取り組み 期末レポート	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	講義で扱った内容について、学修や体験を通して得られた知見に基づいて科学的に考察し、倫理的かつ端的に自らの考えを表現することができる。				
評価方法	課題への取り組み 期末レポート	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、主体的な学修によって自身の知見に加味された成果等が小レポートや学期末試験の記述内容に認められる場合には、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティアム					
直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見が小レポートや期末試験等の記述内容により認められる場合には、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、人権や多様な価値観に対する配慮を著しく欠く表現については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 社会福祉の変遷と今日的課題 3. 人間理解とアタッチメント 4. 家族の理解と支援 5. 社会的養護の意味と課題 6. 貧困家庭への支援 7. 児童虐待（1） 8. 児童虐待（2） 9. 自死自殺をめぐる（1） 10. 自死・自殺をめぐる（2） 11. 障害、疾病の理解と支援 12. 高齢期の理解と対応（1） 13. 高齢期の理解と対応（2） 14. 多職種連携による支援 15. まとめ
使用テキスト	<p>渡部純夫・本郷一夫編著（2021年）公認心理師スタンダードテキストシリーズ⑩福祉心理学，下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫監修，ミネルヴァ書房，2400円。</p>
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>社会との関連が深い領域学習となるため、日頃から新聞やニュースを通じて社会の動向に対する関心と理解を高めておくこと。</p> <p>予習：使用テキストを用いて各授業回の内容に該当する部分に予め目を通し、テーマの概要や用語について把握しておくこと。読み方や意味の理解が不十分な用語については予め調べ、確認しておく（例えば、障害名や疾患名、各種法律、その他読み方が分からない漢字など）。</p> <p>復習：使用テキストや配布資料を用いて授業内容を復習する。あわせて授業内容を発展させ、茨城県や在住する地域社会の統計資料や自治体の取り組みなどについて自主的に調べるなどして知見を深めることが望ましい。</p> <p>将来、公認心理師をめざす学生は次の書籍もあわせて活用することを推奨する。</p> <p>中島健一編（2018年）福祉心理学，公認心理師の基礎と実践17，野島一彦・繁樹算男監修，遠見書房，2600円。</p>

障がいのある履修者への対応	ニーズに応じた多様な支援を行います。まずは授業担当者もしくは学務部にご相談ください。
授業時間外の連絡手段	原則としてオフィスアワーに担当者研究室（大学6号館4階6415研究室）で対応します。オフィスアワーの詳細についてはUNIPAでご確認ください。緊急時は、学務部にご連絡ください。
留意事項	なし

科目コード	21131	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	学習・言語心理学				
担当者	生駒 忍				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜6限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	16 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
【授業形態ガイドライン・レベルⅢ、レベルⅡ】遠隔授業（オンデマンド型） 基礎的な条件づけから、社会的学習、行動療法、学校の中の学びといった発展的領域までの学習心理学と、言語の獲得と発達、対人コミュニケーションなどを扱う言語心理学を学ぶ。					
キーワード					
学習、言語、発達、環境、コミュニケーション					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で扱った学習心理学ならびに言語心理学の主要な内容について、8割程度を目安に理解し解答することができる。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	各回の講義で扱った内容について、自主学修によって得た知識や日常経験と合わせて考察し、客観的にまとめることができる。				
評価方法	振り返り用紙	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。 ただし、講義中にミニ課題等を行うので、主体的に参加し体感的に理解を深められることを求める。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>【第1回】 学習心理学の考え方 心理学における「学習」のとらえ方を大まかにつかむ。</p> <p>【第2回】 レスポンデント条件づけ(1) 理論 条件づけの基礎的な考え方や実験手法を理解する。</p> <p>【第3回】 レスポンデント条件づけ(2) 応用 臨床現場にレスポンデント条件づけを応用する手法を理解する。</p> <p>【第4回】 オペラント条件づけ(1) 強化と弱化 自発的な行動を変える方法をつかむ。</p> <p>【第5回】 オペラント条件づけ(2) 複雑な行動の学習 オペラント条件づけの発展的な理解を深める。</p> <p>【第6回】 オペラント条件づけ(3) 応用行動分析 臨床現場にオペラント条件づけを応用する手法を理解する。</p> <p>【第7回】 模倣と観察学習 他者からの影響について、学習心理学の考え方からとらえる。</p> <p>【第8回】 非連合学習 原始的な学習とされる馴化と鋭敏化について知る。</p> <p>【第9回】 言語獲得(1) 乳幼児のコミュニケーション 人生早期における音声を通じたかかわりから言語獲得への流れをとらえる。</p> <p>【第10回】 言語獲得(2) 音声言語とその障害 発話や聴解の能力とその障害について、心理学から理解を深める。</p> <p>【第11回】 言語獲得(3) 書記言語とリテラシー 読み書きの能力や機能について理解する。</p> <p>【第12回】 言語的コミュニケーション ことばを用いての対人コミュニケーションについて考える。</p> <p>【第13回】 教育とことば 学校教育における言語と学習のかかわりについて理解を深める。</p> <p>【第14回】 社会と状況の中での学びとコミュニケーション 社会的な学習やコミュニケーションについて、心理学から考える。</p> <p>【第15回】 学習・進化・文化 人間が持っていることばの本質や意味について考える。</p>
使用テキスト	<p>テキスト指定なし 講義プリントを配布します。</p>
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>授業前に、各回のテーマに関して書籍等で概要を把握しておく。 授業後に、配付プリント等に基づき復習を行うと共に、講義で取り上げた事項について自主学修を進める事が望ましい。</p>
障がいのある履修者への対応	<p>合理的配慮に務めるので、先だって学務部等に相談すること。</p>

授業時間外の連絡手段	電子メールにて対応します。
留意事項	特になし

科目コード	21143	科目ナンバリング	WP11C08K	主な使用言語	日本語
授業名	高齢者福祉Ⅰ				
担当者	池田 幸也				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜2限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	16振り返り用紙と応答 17発問と回答		
授業の概要					
前期の「高齢者福祉Ⅰ」では、高齢者に関する理解を中心に高齢者を取り巻く社会情勢の理解を深め、高齢者福祉の発展過程をたどる。高齢者福祉に関わる法制度の体系を学ぶ。これらをもとに高齢者の生活実態を踏まえた、家族や地域社会の現状を理解し、介護サービスの実際の理解を深める。さらに介護保険制度の現状について、自ら考察できるように講義を進める。本講義に引き続き、後期開講の「高齢者福祉Ⅱ」を継続して履修することが望ましい。					
キーワード					
老人福祉法、介護保険法、認知症、ケアプラン					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で触れた介護保険や高齢者福祉に関する諸制度について、概ね80%の事項を理解し、回答することが出来る。				
評価方法	試験	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	試験	評価割合	20%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
講義終了後に、毎回リアクションペーパーの提出を求める。提出の内容において、主体的な学修の成果が認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とする。					
評価割合	20%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象としない。ただし、その知見等がレポート課題などに活かされていると認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象としない。しかし、授業中の発言や筆記試験の記述等において著しく人権を損害するもの、ソーシャルワークの重んじる価値を損なうものである場合には、減点や嚴重注意の対象となる。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第01回】 授業オリエンテーション、高齢者の定義と特性 【第02回】 高齢化率と高齢社会 【第03回】 日本の高齢化の特徴と課題 【第04回】 高齢者の生活実態 【第05回】 高齢者世帯の特徴と課題 【第06回】 家族介護の現状と課題 【第07回】 高齢者観の変遷 【第08回】 社会福祉前史と高齢者福祉 【第09回】 老人福祉法の誕生から在宅福祉への移行 【第10回】 介護保険制度の誕生と地域包括ケアシステムの構築 【第11回】 高齢者福祉の理念 【第12回】 介護保険制度と財政 【第13回】 介護認定の仕組みと介護保険事業計画 【第14回】 地域支援事業 【第15回】 介護保険サービスの体系 前期のまとめ 試験
使用テキスト	専門科目2『最新・社会福祉士養成講座 高齢者福祉』 編集 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟、発行所 中央法規出版株式会社 ISBN978-4-8058-8245-0
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習に際しては、介護保険法におけるサービス体系について中心的に確認をする。授業後には、配布した資料を中心に自主的な学修を進めることが望ましい。参考資料は、講義の中で必要に応じて適宜紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
授業時間外の連絡手段	曜日・時限等については初回にお知らせします。
留意事項	教科書に基づいて講義を進めるので、購入して毎時間持参すること。

科目コード	21144	科目ナンバリング	WP12C06K	主な使用言語	日本語
授業名	高齢者福祉II				
担当者	池田 幸也				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜2限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	16振り返り用紙と応答 17発問と回答		
授業の概要					
<p>前期開講の「高齢者福祉I」の履修し単位を修得した者を対象に高齢者福祉論を展開する。高齢者を取り巻く社会情勢を踏まえて 高齢者福祉の発展過程をたどる。老人福祉法や介護保険制度などを中心に高齢者福祉に関わる法制度の体系を学ぶ。これらを踏まえて、高齢者介護の実際に対する理解を深め、介護保険サービスの内容と今後の課題について自ら考察できるように講義を進める。</p>					
キーワード					
老人福祉法、介護保険法、認知症、ケアプラン					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で触れた介護保険や高齢者福祉に関する諸制度について、概ね80%の事項を理解し、回答することが出来る。				
評価方法	試験	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	試験	評価割合	20%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
<p>講義終了後に、毎回リアクションペーパーの提出を求める。提出の内容において、主体的な学修の成果が認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とする。</p>					
評価割合	20%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象としない。ただし、その知見等がレポート課題などに活かされていると認められる場合には、【思考力・判断力・表現力】の評価の対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象としない。しかし、授業中の発言や筆記試験の記述等において著しく人権を損害するもの、ソーシャルワークの重んじる価値を損なうものである場合には、減点や嚴重注意の対象となる。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>【第01回】 高齢者保健福祉の法体系 【第02回】 老人福祉法 【第03回】 高齢者医療確保法 【第04回】 高齢者虐待防止法 【第05回】 バリアフリー法 【第06回】 高齢者住まい法 【第07回】 高齢者雇用安定法 【第08回】 育児・介護休業法 【第09回】 市町村独自の高齢者支援 【第10回】 高齢者と家族等の支援における関係機関の役割 【第11回】 高齢者と家族等の支援における関連する専門職等の役割 【第12回】 高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割 【第13回】 家族の介護負担軽減と就労支援 【第14回】 高齢者虐待や近隣トラブルがある高齢者への対応 【第15回】 地域包括ケアシステムにおける居宅・認知症高齢者 まとめ 試験</p>
使用テキスト	<p>専門科目2『最新・社会福祉士養成講座 高齢者福祉』編集 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟、発行所 中央法規出版株式会社 ISBN978-4-8058-8245-0</p>
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>予習に際しては、介護保険法におけるサービス体系について中心的に確認をする。授業後には、配布した資料を中心に自主的な学修を進めることが望ましい。参考資料は、講義の中で必要に応じて適宜紹介する。</p>
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
授業時間外の連絡手段	曜日・時限等については初回にお知らせします。
留意事項	<p>* 講義は前期開講の「高齢者福祉I」を履修し単位を修得した者を対象に開講する。 * 教科書に基づいて講義を進めるので、購入して毎時間持参すること。</p>

科目コード	21147	科目ナンバリング	WP20C08K	主な使用言語	日本語
授業名	社会保障I				
担当者	藤島 稔弘				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜1限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題 11. 討論 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
現代社会における生活と社会保障の関わりについて解説していきます。特に、社会保障の現状・体系・歴史的経緯など基本的な枠組みと医療保険制度と介護保険制度を中心としたテーマについて取り扱う。わが国で生じている医療、介護に関わる社会課題を取り上げながら、その制度の現状と課題について学びます。					
キーワード					
社会保障、医療保険、介護保険					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けた社会保障の基本的な理念・歴史・機能・構造について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。				
評価方法	ワークシート 小テスト 期末試験	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	レポート 期末試験	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回：現代社会と社会保障 第2回：社会保障の範囲と対象 第3回：社会保障の役割と意義 第4回：社会保障の方法 第5回：社会保障の史的展開(1) 社会保障前史 第6回：社会保障の史的展開(2) 社会保障の拡充 第7回：社会保障の史的展開(3) 社会保障の再編と全世代型社会保障 第8回：医療保険(1) 国民医療費 第9回：医療保険(2) 加入と被扶養者 第10回：医療保険(3) 保険診療と診療報酬制度 第11回：医療保険(4) 保険給付 第12回：医療保険(5) 海外の医療保障制度 第13回：介護保険(1) 介護認定とケアマネジメント 第14回：介護保険(2) 介護給付と予防給付 第15回：介護保険(3) 地域支援事業
使用テキスト	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新・社会福祉士養成講座 社会保障』中央法規(最新版)
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	【予習・復習】 ・授業終了時に事前課題を提示する場合があります、次回までに取り組んで参加すること。 【参考資料等】 ・『厚生労働省 保険と年金の動向 2022/2023』厚生労働統計協会
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応します。
留意事項	特になし。

科目コード	21148	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	社会保障II				
担当者	藤島 稔弘				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜1限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題 11. 討論 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
現代社会における生活と社会保障の関わりについて解説していきます。特に、年金保険、労働者災害補償保険、雇用保険、社会手当を中心としたテーマについて取り扱う。わが国で生じている社会問題の現状について考える機会を提供し、今後の社会保障制度のあり方について考えます。					
キーワード					
社会保障、所得保障、年金保険、労働者災害補償保険、雇用保険、社会手当					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けた社会保障の基本的な理念・歴史・機能・構造について、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。				
評価方法	ワークシート 小テスト 期末試験	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	レポート 期末試験	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加させた成果などがレポートの記述内容により認められた場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動などの実践により深められた知見等が記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言やワークシートなどの記述などにおいて人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動や不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第1回：社会保障の財政(1) 社会保障給付費と社会支出 第2回：社会保障の財政(2) 社会保障の財源 第3回：年金保険(1) 年金制度の沿革 第4回：年金保険(2) 年金制度へ加入と負担 第5回：年金保険(3) 高齢期の年金給付と在職老齢年金 第6回：年金保険(4) 障害・遺族年金 第7回：年金保険(5) 年金財政と世代間格差 第8回：年金保険(6) 企業年金と個人年金 第9回：労働者災害補償保険(1) 労災の責任の負担 第10回：労働者災害補償保険(2) 労働災害の現状と給付 第11回：労働者災害補償保険(3) 過労死・精神疾患の認定と給付 第12回：雇用保険(1) 失業の現状と高齢雇用 第13回：雇用保険(2) 介護・育児休業の現状と支援 第14回：雇用保険(3) 長期失業と求職者支援制度 第15回：社会手当：子どもと所得保障
使用テキスト	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新・社会福祉士養成講座 社会保障』中央法規(最新版)
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	【予習・復習】 ・授業終了時に事前課題を提示する場合があります、次回までに取り組んで参加すること。 【参考資料等】 ・『厚生労働省 指標増刊 保険と年金の動向 2022/2023』厚生労働統計協会
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、授業担当者に相談すること。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応します。
留意事項	特になし。

科目コード	21155	科目ナンバリング	WP20C11K	主な使用言語	日本語
授業名	ファミリーソーシャルワーク論I				
担当者	吉田 滋				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜4限	履修可能学科等			
関連資格			AL要素	特になし。	
授業の概要					
<p>ソーシャルワークの実践的な課題と現状について、主として学校をキーワードにそれに関連した基本的な社会福祉の用語、理論を学びながら、スクールソーシャルの現場で起きている現実課題を可能な範囲でやさしく解説していきます。対象は児童分野だけではなく、高齢、障害、貧困、外国人とさまざまな分野に及びます。 日本で今起きているソーシャルワークの現実について学びます。</p>					
キーワード					
家族福祉、ファミリー、児童福祉、引きこもり、不登校、スクールソーシャルワーク					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	課題を抱えている家庭への支援の現状を理解し、問題解決に必要なとされる知識や技能について理解し、対応可能な総合的知識を習得する。				
評価方法	期末試験を行う。	評価割合	80		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	講義の中で具体的支援事例についての演習を行い、それについての支援を自ら記述できる。				
評価方法	期末試験を行う。	評価割合	10		
▼学修に主体的に取り組む態度					
毎回オリジナルの資料を配布し、リアクションペーパーを記述してもらうことで学習態度や積極性を評価する。					
評価割合	10				
▼実践的ボランティア					
特になし。					
評価割合	0				
▼公正性					
直接の評価対象とはしないが、授業中の態度やリアクションペーパーの記述内容などで極端な人権侵害、反社会的発言、行為、反社会的な言動行為がみられた場合は、減点や厳重注意の対象となりうる。					
評価割合	0				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0				

授業計画	<p>【01回】オリエンテーション 【02回】社会的養護における家族支援の意義と課題 1 社会的養護と家族責任、家族支援における新たな視点・実践 【03回】家族論と家族を支援するための基礎知識 1 家族の定義、家族の形態と家族の歴史 【04回】家族論と家族を支援するための基礎知識 2 家族の機能、現代家族の特徴 【05回】家族論と家族を支援するための基礎知識 3 家族を理解するための理論 【06回】家族のアセスメントと支援計画 1 家族アセスメントの要点・基本、ジェノグラム、エコマップ 【07回】家族のアセスメントと支援計画 2 ケースストーリーのまとめかた、実際例、家族支援計画の作成と合意 【08回】児童福祉施設における子どものケアと家族支援 1 子どもの気持ち、子どもへの説明、子どもの描く家族への思い 【09回】児童福祉施設における子どものケアと家族支援 2 SWと家族との関係、子どもと家族の交流支援、家族引き取りの支援、不適切な家庭引き取りの防止 【10回】家族療法、家族療法で用いられる主な支援ツール、考え方、社会的養護における適用の基本と留意点 【11回】虐待ケースにおける家族支援プログラム。虐待ケースの増加と家族支援。 【12回】家族支援の基本と展開過程 1。家族支援の基本、家族支援の展開過程。 【13回】家族支援の基本と展開過程 2。乳児院で行う家族支援、児童養護施設で行う家族支援。 【14回】家族支援の基本と展開過程 3。児童心理治療施設で行う家族支援、児童自立支援施設で行う家族支援、母子生活支援施設で行う家族支援。 【15回】まとめ 前期末テスト</p>
使用テキスト	『家族支援と子育て支援ファミリーソーシャルワークの方法と実践（やさしくわかる社会的養護5）（やさしくわかる社会的養護シリーズ）』相澤仁編集、宮島清編集、明石書店。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	講義の中で興味のある部分や知らない分野については徹底的に専門所を読むなどして知識を身に着けること。可能な限り当日の記憶のあるうちに行って欲しい。 日ごろから福祉に関する報道に留意しどのような支援がされていたのか、されなかったのか注意してほしい。 参考文献等については講義の中で随時紹介していく。
障がいのある履修者への対応	可能な限りの対応をするので、事前に学務部に相談しておくこと。
授業時間外の連絡手段	連絡方法等については初回に指示する。
留意事項	毎回オリジナルの資料を配布するので、散逸しないようにファイルしておくこと。 コロナのためにリモートになった場合は双方向型の授業を行う。 事前にteamsへの参加登録を済ませておくこと。

科目コード	21156	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	ファミリーソーシャルワーク論II				
担当者	吉田 滋				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜4限	履修可能学科等			
関連資格			AL要素	特になし。	
授業の概要					
<p>ソーシャルワークの実践的な課題と現状について、主として学校をキーワードにそれに関連した基本的な社会福祉の用語、理論を学びながら、スクールソーシャルワークの現場で起きている現実課題を可能な範囲でやさしく解説していきます。対象は児童分野だけではなく、高齢、障害、貧困、外国人とさまざまな分野に及びます。 日本で今起きているソーシャルワークの現実について学びます。</p>					
キーワード					
家族福祉、ファミリー、児童福祉、引きこもり、不登校、スクールソーシャルワーク					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	課題を抱えている家庭への支援の現状を理解し、問題解決に必要なとされる知識や技能について理解し、対応可能な総合的知識を習得する。				
評価方法	期末試験を行う。	評価割合	80		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	講義の中で具体的支援事例についての演習を行い、それについての支援を自ら記述できる。				
評価方法	期末試験を行う。	評価割合	10		
▼学修に主体的に取り組む態度					
毎回オリジナルの資料を配布し、リアクションペーパーを記述してもらうことで学習態度や積極性を評価する。					
評価割合	10				
▼実践的ボランティア					
特になし。					
評価割合	0				
▼公正性					
直接の評価対象とはしないが、授業中の態度やリアクションペーパーの記述内容などで極端な人権侵害、反社会的発言、行為、反社会的な言動行為がみられた場合は、減点や厳重注意の対象となりうる。					
評価割合	0				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. スクールソーシャルワーカーに必要な知識。 2. スクールソーシャルワーク活動に向けた準備。 3. スクールソーシャルワーク活動における留意点。 4. スクールソーシャルワーク活動に使う用紙等の実際。 5. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例1 発達障害。 6. スクールソーシャルワーク活動の実際事例2 自殺念慮。リストカット。 7. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例3 生活保護。 8. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例4 引きこもり、不登校。 9. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例5 外国籍児童。生徒。 10. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例6 児童虐待。 11. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例7 家庭崩壊。 12. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例8 貧困からの進学。 13. スクールソーシャルワーク活動の実際 事例9 非行。 14. スクールソーシャルワーカーの行う研修。 15. 現場で起きていること。 16. 期末試験。
使用テキスト	『家族支援と子育て支援ファミリーソーシャルワークの方法と実践（やさしくわかる社会的養護5）（やさしくわかる社会的養護シリーズ）』相澤仁編集、宮島清編集、明石書店。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	講義の中で興味のある部分や知らない分野については徹底的に専門所を読むなどして知識を身に着けること。可能な限り当日の記憶のあるうちに行きたくしたい。 日ごろから福祉に関する報道に留意しどのような支援がされていたのか、されなかったのか注意してほしい。 参考文献等については講義の中で随時紹介していく。
障がいのある履修者への対応	可能な限りの対応をするので、事前に学務部に相談しておくこと。
授業時間外の連絡手段	連絡方法等については初回に指示する。
留意事項	毎回オリジナルの資料を配布するので、散逸しないようにファイルしておくこと。 コロナのためにリモートになった場合は双方向型の授業を行う。 事前にteamsへの参加登録を済ませておくこと。

科目コード	21158	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	刑事司法と福祉B				
担当者	高橋 活夫				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	講義
曜日・時間	木曜1限	履修可能学科等	E Pe Pc G W F M		
関連資格	教職 社福士 福祉心理	AL要素	17. 発問と回答		
授業の概要					
<p>子ども（少年）や障害者、高齢者、女性など社会的弱者が関係する犯罪事件が、毎日のように報道されています。この授業では、罪を犯した社会的弱者の社会復帰支援や制度について学んでいきます。また、社会的弱者は犯罪被害に遭うことも多く、司法や福祉が連携しながら対応していく重要性について学んでいきます。理解を深めるために、社会的弱者の関係する犯罪事件の具体的ケースを通して、支援の課題や問題点について考えていきます。</p>					
キーワード					
司法臨床 人間行動科学 立ち直り 環境調整 社会復帰 連携 権利 責任能力 日本型福祉社会					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	<p>①少年法と少年犯罪を取り巻く課題について理解します。 ②医療観察制度と社会的偏見について理解します。 ③高齢者・障害者の社会復帰支援と被害支援について理解します。 ④女性や子どもの暴力被害支援について理解します。</p>				
評価方法	学期末筆記試験、課題レポート	評価割合	70%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	<p>授業で取り上げた各テーマに関する知識を自ら深め、それを筋道立てて論述することができます。そして、実務現場で求められている内容について、要点を押さえた論理力、さらに表現する力（口頭での説明、文章化）を身につけるようにします。</p>				
評価方法	学期末筆記試験、課題レポート	評価割合	30%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
<p>直接の評価対象にはしませんが、主体的な修習による深まりが、課題レポートや試験に認められた場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがあります。</p>					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
<p>直接の評価対象にはしませんが、ボランティア活動などによって獲得された考えや理解が、課題レポートや試験に認められた場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象にすることがあります。</p>					
評価割合	0%				
▼公正性					
<p>直接の評価対象にはしませんが、先入観、偏見に基づく差別的言動や記述については注意します。そして話し合いたいと思います。それを通じて学び、深め、成長につなげてほしいと考えます。</p>					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第1回：オリエンテーション～司法と福祉～ 第2回：少年司法 第3回：少年の施設内処遇 第4回：少年事件と実名報道 第5回：少年事件と死刑判決 第6回：精神障害者と医療観察制度 第7回：精神障害者と事件報道 第8回：高齢者・障害者の犯罪・非行 第9回：犯罪に巻き込まれる障害者 第10回：高齢者の犯罪と福祉 第11回：アディクションを抱える人と刑事司法 第12回：犯罪被害者等支援 第13回：女性等の暴力被害支援 第14回：子ども虐待と刑事事件 第15回：まとめと今後の課題 定期試験</p>
使用テキスト	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座「10 刑事司法と福祉」』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集、中央法規、2021年、2500円＋税
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>授業前には、次回取り上げるテキストのテーマや配布資料を読み、分からない用語や個所を明らかにしておいてください。授業後は、分からなかったところについて明らかにし、質問してください。分からないままにしないでください。</p> <p>普段から子ども（少年）や障害者、高齢者、女性などに関する犯罪事件に関心を持ち、調べてください。</p> <p>参考文献は以下のものです。</p> <p>『自閉症裁判 レッサーバンダ帽の「罪と罰」』佐藤幹夫、朝日文庫、2008年、1100円＋税 『刑務所しか居場所のない人たち』山本謙司、大月書店、2018年、1500円＋税 『少年法入門』廣瀬健二、岩波新書、2021年、902円 『記者がひもとく「少年」事件史』川名壮志、岩波新書、2022年、860円＋税 その他参考文献を、授業で提示します。</p>
障がいのある履修者への対応	障がいに応じて可能な限り適切に対応します。
授業時間外の連絡手段	講師室をおたずねください。曜日・時間等については、最初の講義の際にお伝えします。

留意事項

特になし

科目コード	21165	科目ナンバリング	WP11C09K	主な使用言語	日本語
授業名	福祉教育論I				
担当者	望月 珠美				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜1限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	07 発表 08 協同学修 10 資料調査課題 16 振り返り用紙と応答 17 発問と回答		
授業の概要					
福祉教育の現状と課題およびその背景にある社会的諸問題について、国内外における歴史の変遷とともに具体的事例を用いながら学ぶ。					
キーワード					
人権教育 生活教育 実践教育 市民教育 協働 ファシリテーター					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	福祉教育の現状と課題を国内外における歴史的経緯や実践例に基づいて具体的に説明することができる。				
評価方法	小レポート 期末レポート	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	福祉教育をファシリテートする際に求められる基本的知識、技能、倫理について理解している。				
評価方法	小レポート 期末レポート	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、主体的な学修によって自身の知見に加味された成果等が学期末レポートの記述内容に認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見が小レポートや期末レポート等の記述内容により認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、人権や多様な価値観に対する配慮を著しく欠く表現や剽窃、著作権の侵害に類する行為については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	01 オリエンテーション 02 福祉教育の歴史1（戦前） 03 福祉教育の歴史2（戦後から現在） 04 諸外国における福祉教育の取り組み 05 福祉教育の理念 06 福祉教育の構造 07 現代社会と福祉教育 08 福祉教育の目的 09 事例に学ぶ福祉教育の内容1（幼児、親子教室） 10 事例に学ぶ福祉教育の内容2（児童） 11 事例に学ぶ福祉教育の内容3（青年） 12 事例に学ぶ福祉教育の内容4（成人 生涯学習） 13 事例に学ぶ福祉教育の内容5（企業研修） 14 事例に学ぶ福祉教育の内容6（地域社会） 15 まとめ 期末試験
使用テキスト	坂野貢（2006）福祉教育のすすめ、ミネルヴァ書房、2500円。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習：各授業回の内容に該当する部分に予め目を通し、各回のテーマの概要や用語について把握しておくこと。読み方や意味の理解が不十分な用語については各自で調べ、確認しておく。 復習：配布資料等を用いて授業内容を復習する。あわせて、授業内容を発展させ、在住する地域社会や自治体の取り組みなどについて自主的に学習し、知見を深めることが望ましい。
障がいのある履修者への対応	ニーズに応じた多様な支援を行います。まずは授業担当者もしくは学務部にご相談ください。
授業時間外の連絡手段	原則としてオフィスアワーに担当者研究室（大学6号館4階6415研究室）で対応します。オフィスアワーの詳細についてはUNIPAでご確認ください。緊急時は、学務部にご連絡ください。

留意事項

福祉教育論Ⅱとあわせて履修することが望ましい。

科目コード	21166	科目ナンバリング	WP12C07K	主な使用言語	日本語
授業名	福祉教育論II				
担当者	望月 珠美				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜1限		履修可能学科等		
関連資格			AL要素	03 体験 07 発表 08 協同学修 10 資料調査課題 16 振り返り用紙と応答 17 発問と回答	
授業の概要					
福祉教育論Iにおける学修をふまえ、参加者を主体とした福祉教育をファシリテート、実践する模擬体験を行う。模擬体験では、自ら福祉教育実践プログラムを立案し、その実演と評価を通して福祉社会の創造のために福祉教育が担う役割と可能性、さらにはその実践に求められる知識、技術、倫理について応用実践的観点から学ぶ。あわせて、それらの学びを自らの職業選択や職業適性について主体的に検討する職業指導の機会とする。					
キーワード					
人権教育 生活教育 実践教育 市民教育 協働 ファシリテーター 福祉教育実践プログラム 職業指導					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	人権教育、生活教育、市民教育、実践教育といった多様な側面を持つ福祉教育の特性を活かした教材教具の作成を通して、福祉教育に関する知識、技術、倫理観の定着と向上を図る。				
評価方法	レポート 発表	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	福祉教育に関する学びを踏まえ、専門知識、技術、および倫理の体現を通して福祉教育をファシリテートする基本的な力を獲得する。				
評価方法	レポート 発表	評価割合	50%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に加味された成果等が模擬実践や学期末レポートの記述内容に認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見が小レポートや期末レポート等の記述内容により認められる場合には、「思考力・判断力・表現力」の豊かさ、的確さの対象として評価に加えることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な数値に還元される評価対象としては扱わない。ただし、人権や多様な価値観に対する配慮を著しく欠く表現や剽窃、著作権の侵害に類する行為については減点の対象とし、「思考力・判断力・表現力」の評価に反映されるので十分に注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	01 オリエンテーション 02 福祉教育実践プログラムの構造的理解 03 発達段階と目的設定 04 方法論の検討 05 評価の在り方と方法 06 「きょうどう」の重要性 07 先行事例に学ぶプログラム作成のポイント 08 実践プログラムの作成1（目的と評価） 09 実践プログラムの作成2（方法の検討） 10 実践プログラムの作成3（内容と展開） 11 実践プログラムの作成4（評価） 12 実践プログラムの発表と評価1 13 実践プログラムの発表と評価2 14 福祉教育ファシリテーターの職能と適性（職業指導を含む） 15 まとめ一全体の振り返りと今後の課題一
	期末試験
使用テキスト	坂野貢（2006）福祉教育のすすめ、ミネルヴァ書房、2500円。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	予習：使用テキストを用いて各授業回の内容に該当する部分に予め目を通し、各回のテーマの概要や用語について把握しておくこと。読み方や意味の理解が不十分な用語については各自で調べ、確認しておく。 復習：使用テキストや配布資料を用いて授業内容を復習する。あわせて、授業内容を発展させ、在住する地域社会や自治体の取り組みなどについての自主学修を通じ知見を深めることが望ましい。
障がいのある履修者への対応	ニーズに応じた多様な支援を行います。まずは授業担当者もしくは学務部にご相談ください。
授業時間外の連絡手段	原則としてオフィスアワーに担当者研究室（大学6号館4階6415研究室）で対応します。オフィスアワーの詳細についてはUNIPAでご確認ください。緊急時は、学務部にご連絡ください。

留意事項

なし

科目コード	21178	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	医学概論				
担当者	大平 裕子				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	月曜1限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	なし		
授業の概要					
社会福祉士として必須とされる人体の解剖生理学ならびに臨床上の各疾患とその病態生理・疾患成立機序を正しく理解すること、また難病疾患、高次脳機能障害、ICF、リハビリテーションなど、特に重要となる分野にも触れながら解説して行きます。					
キーワード					
人体の正常解剖生理学。疾患と病態生理学。難病疾患。高次脳機能障害。ICF。リハビリテーション。					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	人体の健常解剖生理学の病態生理学を知り、社会福祉士として、患者さまに対する妥当的対応とその意義を正しく理解出来ること。				
評価方法	前期試験100点満点のうち、9割相当の配当点で評価する	評価割合	90%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	社会福祉士として患者様に対応する上で、難病疾患や高次脳機能障害、ICFの考え方や対象としてのとらえ方や判断力を持つこと。				
評価方法	前期試験100点満点のうち、1割相当の配当点で評価する	評価割合	10%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業の出席状況や出席票問題正答率、課題提出物の態度から総合的に評価する。					
評価割合	10%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>1) 前期15回の講義内容</p> <p>1回 ガイダンス・一般臨床医学の概要</p> <p>2回 人体の構造・機能：人体の構造と機能</p> <p>3回 人体の構造・機能：各器官と機能</p> <p>4回 人体の構造・機能：各器官と機能</p> <p>5回 人体の構造・機能：成長と老化</p> <p>6回 現代社会と疾病：先天性疾患・生活習慣病・メタボリック症候群</p> <p>7回 現代社会と疾病：悪性腫瘍・感染症</p> <p>8回 現代社会と疾病：神経疾患・精神疾患・難病</p> <p>9回 高齢者と身体変化：加齢に伴う身体変化・高齢者に多くみられる疾患</p> <p>10回 リハビリテーション医療の概要：理念・対象</p> <p>11回 リハビリテーション医療の概要：関連職種・分類と今後の課題</p> <p>12回 精神保健学：精神障害の診断と対応</p> <p>13回 精神保健学：ライフサイクルにおける精神保健・職場における精神保健・わが国の精神保健対策</p> <p>14回 講義の振り返り・過去問の解説</p> <p>15回 講義の振り返り・過去問の解説</p> <p>別16回 定期試験(100点満点)</p>
使用テキスト	教科書1) 『人体の構造と機能及び疾病』第4版 (弘文堂) 責任編集=朝元美利
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	講義内容の振り返りをしてください、その内容をもとに試験を出題します。
障がいのある履修者への対応	授業履修前に学務部に連絡、相談して下さい。授業内では、可能な限り対応を行いません。
授業時間外の連絡手段	学務部へ問い合わせください。
留意事項	社会福祉士を希望する学生や、福祉系の学びを深めたい学生は、aクラスを履修ようにしてください。公認心理士を希望する学生や、心理系の学びを深めたい学生は、bクラスを履修ようにしてください。

科目コード	41041	科目ナンバリング	MA21B02K	主な使用言語	日本語
授業名	マーケティング論I				
担当者	澤端 智良				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜4限		履修可能学科等		
関連資格		AL要素	11討論、16振り返り用紙と応答、17発問と回答		
授業の概要					
企業が事業を維持していくためには継続的に顧客を獲得することが必要であり、マーケティングはその意味で企業活動において極めて重要な役割を担っている。この授業では教科書を活用しながらマーケティングの基礎概念・理論について解説する。マーケティング実務経験に基づき、具体例や身近な商品やサービスの例なども用いながら、できるだけ理解しやすいように説明する。					
キーワード					
マーケティング概念の変遷、消費者理解、STP、Product、Price、Promotion、Place					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説したマーケティングの基礎的な概念および理論を正しく理解し、マーケティングとは何か、企業経営の中でどのような位置づけを占め、各実行段階でどのような方法を用いるものなのかについても説明できる。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	40%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で学んだマーケティングの基礎的な概念・理論を用い、企業の実際のマーケティング活動について解釈・分析し、論理的に説明できる。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業期間内に複数回実施する予定のレポートや課題に取り組み滞りなく提出すること。また、教員からの問いかけ等に対しては、自らの考えを整理し積極的に発言・発表すること。講義形式中心で進めていくが、授業時間中は私語を慎むこと。マーケティングに関する基礎的な概念や理論を扱うため、学習意欲がありマーケティングに関心のある学生のみ履修してください。					
評価割合	20%				
▼実践的ボランティアム					
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1回：イントロダクション 第2回：マーケティングとはなにか 第3回：消費者の行動 第4回：購買意思決定の影響要因 第5回：マーケティング・リサーチ 第6回：経営環境の把握 第7回：セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング 第8回：製品と製品ミックス 第9回：新製品開発 第10回：価格の設定 第11回：戦略的価格 第12回：プロモーションの理解 第13回：プロモーションの手段 第14回：マーケティング・チャネル / メーカーと流通 第15回：まとめ 定期試験
使用テキスト	黒岩健一郎・水越康介 著『マーケティングをつかむ [第3版]』有斐閣、2023年、2,200円＋税。 【注意】2023年発行の [第3版] を使います。入手の際は書名や「版」をよく確認し、間違えないように注意してください。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	事前にテキストの該当箇所に目を通し、内容を理解しておくこと（60分）。また、授業後は学習した内容を振り返ったうえで、テキストのケースや演習問題等に取組むことが望ましい（60分）。その他、別途資料を提示した際などは、事前に必ず目を通したうえで授業に参加すること。課題が出された場合は、切までに提出すること。参考文献などは必要に応じて授業の中で随時紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については授業内で案内する。
留意事項	①「学期末定期試験」と、②「授業期間中に複数回課す予定の課題（ミニ・レポート類等）」とを総合して評価する。 授業中に簡単なアンケートやワーク等を課すこともあるが、一人一人がしっかりと取り組み、意見を求められた場合には自らの考えを発言できるようにすること。なお、授業期間内に課したレポート類については、授業のなかで全体に対しフィードバックを行う。 BYOD導入に伴い、講義資料はUNIPA等へアップすることとし原則として紙では配布しない。手元に資料が必要な場合はデバイスを持参するなど各自で対応して下さい。

科目コード	41042	科目ナンバリング	MA22C03K	主な使用言語	日本語
授業名	マーケティング論II				
担当者	田口 尚史				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜2限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題 17. 発問と回答		
授業の概要					
1950年代に体系化された伝統的なマーケティングの理論枠組みは、その後、1970年代にはソーシャル・マーケティング、さらには1980年代以降、サービス・マーケティング、リレーションシップ・マーケティング、生産財マーケティングへとその領域を拡張してきた。最近では、グローバル化の進展やインターネットの普及によって、グローバル・マーケティングやデジタル・マーケティングといった領域も台頭している。本科目では、そのような拡張されたマーケティング領域について解説する。					
キーワード					
戦略的マーケティング、経営資源、マーケティングの拡張					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けたマーケティングの拡張領域に関する基本的な理論枠組みについて、概ね80%の事項を暗記し、解答することができる。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、実際の企業活動を観察し、参考文献等を参照しながら考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	70%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第01回 インTRODクシヨン 第02回 基本戦略 第03回 製品ライフサイクル戦略 第04回 市場地位別戦略 第05回 事業領域と成長戦略 第06回 資源展開 第07回 ブランド 第08回 関係性マーケティング 第09回 サービス・マーケティング 第10回 生産財マーケティング 第11回 グローバル・マーケティング 第12回 ソーシャル・マーケティング 第13回 デジタル・マーケティング 第14回 サービス・ドミナント(S-D) ロジック 第15回 まとめ
使用テキスト	黒岩健一郎・水越康介 著『マーケティングをつかむ [第3版]』有斐閣, 2023年, ISBN: 978-4641177321, 2,420円 (税込み)。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業時に配布したレジュメは、ファイル等で大切に保管し、毎回の授業に持参すること。参考文献等は、適宜、授業中に紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。
留意事項	特になし。

科目コード	41043	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	流通システム論				
担当者	田口 尚史				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜2限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題 17. 発問と回答		
授業の概要					
我々の日常生活は、無意識に流通と深く関わっている。消費者の消費行動や消費文化は、流通が下支えている。そこで本科目では、わが国の流通システムを構成しているさまざまな小売業態について観察し、過去から現在への変遷を辿りながら、それらの小売業態の特徴を理解する。また、流通システムは時代の流れと共に常に変化していることから、小売業態だけでなく卸売業者や取引慣行も含めて、それらがどのように変化していくのか、担当教員の実務経験を活かしながら将来を展望する。					
キーワード					
流通システム、流通フロー、卸売業者、小売業者、業態					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	わが国の流通に関する理論的枠組みを理解できる。具体的には、主要な業態を概観した上で、わが国の流通構造の変化を理解できる。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	わが国の流通構造の背景や流通を取り巻く現在のマクロ環境を踏まえた上で、さまざまな小売業態の将来のあるべき姿を描いたり、今後の流通構造の変化を見通したりすることができる。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	70%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第01回 流通とは 第02回 百貨店と総合スーパー 第03回 食品スーパーとコンビニエンス・ストア 第04回 ディスカウント・ストアとSPA 第05回 商店街とショッピングセンター 第06回 小売業態とは何か 第07回 小売を支えるロジスティクス 第08回 インターネット技術と新しい小売業態 第09回 小売を支える卸 第10回 流通構造とその変容 第11回 日本的取引慣行 第12回 小売を中心とした取引慣行 第13回 売買集中の原理と品揃え形成 第14回 商業とまちづくり 第15回 製販連携の進展
使用テキスト	石原武政・竹村正明・細井謙一 編著『1からの流通論(第2版)』碩学舎、2018年、ISBN: 978-4502283611、2,640円(税込み)。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	テキストの他、適宜、参考資料としてプリントを配布する。授業時に配布したプリントは、ファイル等で大切に保管し、毎回の授業に持参すること。参考書等は、適宜、授業中に紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初めに案内する。
留意事項	特になし。

科目コード	41044	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	流通経営論				
担当者	田口 尚史				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	金曜2限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題 17. 発問と回答		
授業の概要					
小売業は、流通構造の末端に位置し、消費者の嗜好や購買行動の変化に柔軟に適合していくことで成長し続けている。小売業者は、新たな業態の開発のために、常に、立地、マーチャンダイジング、プロモーションといったマーケティング・ミックスを調整している。本科目では、前半では小売業の業態開発に関する理論的枠組みについて概説し、後半では近年の新しい小売業態とビジネス・モデルについて考察する。					
キーワード					
小売業態、リテール・マネジメント、マーチャンダイジング、サプライチェーン					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けた小売業経営に関する基本的な理論枠組みについて、概ね80%の事項を理解し説明することができる。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	30%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、特定の小売業態を観察し、参考文献等を参照しながら考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	学期末レポート	評価割合	70%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学修によって自身の知見に追加された成果等が学期末レポートの記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な調査対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等がグループ討議や発表の中で認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	第01回 流通フローと流通機関 第02回 小売業態の進化 第03回 立地選択と出店戦略 第04回 仕入活動の管理 第05回 インストア・プロモーション 第06回 延期と投機の原理 第07回 POSシステム 第08回 サプライチェーン・マネジメント 第09回 小売業の商品開発 第10回 小売業の海外進出 第11回 ドラッグストア 第12回 均一価格店 第13回 BtoC-ECとオムニチャネル 第14回 デジタル・プラットフォーム 第15回 まとめ
使用テキスト	テキストは使用しない。毎回、レジュメを配布する。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	前期の流通システム論を同時に履修することを推奨する。授業時に配布するレジュメは、ファイル等で大切に保管し、毎回の授業に持参すること。参考文献等は、適宜、授業時に配布するレジュメの中で紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については初回に案内する。
留意事項	特になし。

科目コード	41047	科目ナンバリング	MA10C02K	主な使用言語	日本語
授業名	入門簿記論				
担当者	栗原 正樹				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜1限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	11. 討論		
授業の概要					
簿記の学習のみならず企業活動自体に馴染みの無い学生に、簿記会計の学習を通じて企業の成り立ちなどを理解してもらうことを目的として講義を行う。地中海沿岸の商業都市で中世に誕生した複式簿記の歴史は500年を遥かに超えるが、その原理・仕組みは今も、その生成当初となんら変わらない。簿記会計を通して企業活動の仕組みを理解することで、経営学など他の科目を学習する意味や目的が理解できるようになり、他の科目との学習の相乗効果を発揮させることも意識している。また、学問の体系的な理解と合わせ、この授業では、担当教員の実務経験に基づき、さらに実務との関係も理解出来るように指導を行う。なお、複式簿記の原理と一連の手続きなど複式簿記の基本・基礎を着実に、かつ、体系的に学び確実な理解ができるように授業を進めていく。そのために、当初に、複式簿記の原理・仕組みを明らかにしてから、基本的かつ重要な個別的項目における取引の簿記処理について演習問題を含めて、具体的、実践的に学習する。また、理解を確実にするために、必要に応じてミニテストを行う。					
キーワード					
簿記、会計、財務会計、管理会計、経営					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことができる。				
評価方法	学期末試験	評価割合	90%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で学んだこと、問いかげられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのではなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。				
評価方法	学期末試験	評価割合	10%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしないが、授業内での発言や発表等を思考力・判断力・表現力の評価として扱う場合がある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
特になし					
評価割合	0%				
▼公正性					
特になし					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第01回 企業の活動と簿記会計のかかわり 第02回 簿記の対象・目的と基本的要素1 第03回 簿記の対象・目的と基本的要素2 第04回 勘定口座と元帳 第05回 帳簿と財務諸表1 第06回 帳簿と財務諸表2 第07回 仕訳と転記 第08回 商品売買取引の基礎的処理と記帳-その1 第09回 商品売買取引の基礎的処理と記帳-その2 第10回 現金・預金の基礎的処理と記帳(基礎) 第11回 手形取引 第12回 債権・債務の基礎的処理と記帳1 第13回 債権・債務の基礎的処理と記帳2 第14回 決算の考え方と有価証券 第15回 総まとめ-複式簿記一巡の手続 定期試験
使用テキスト	レジュメを使用する。Teamsに事前にアップロードするので、各自でそれをダウンロードして使用する。なお、紙媒体又はタブレット等の資料形態は各自の自由とする。 ただし、スマホで閲覧しながらの履修はメモをとることが難しいため学習効果の観点から推奨しない。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。なお、復習は必須である。簿記の学習は積み重ねであり、日々の継続的な復習が重要な学問であるため、1回の授業に対して、最低90分は復習しないと、授業についていくことは難しい。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。
留意事項	電卓を用意すること。現在持っているものでよいが、新たに入手する場合には、はがきサイズのものの方がよい。価格は高いものでなくてもかまわない。講義中に、電卓についても改めて説明するので、事前に購入してきて必要はない。カード式は計算が遅くなるしミスが少なくないので、薦められない。 なお、授業中に課題の提出を受ける場合には、次の授業においてコメントを行う。

科目コード	41048	科目ナンバリング	MA10C03K	主な使用言語	日本語
授業名	基礎簿記論				
担当者	栗原 正樹				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	水曜1限	履修可能学科等			
関連資格	AL要素		11. 討論		
授業の概要					
<p>入門簿記論の内容を踏まえ、簿記の学習のみならず企業活動自体に馴染みの無い学生に、簿記会計の学習を通じて企業の成り立ちなどを理解してもらうことを目的として講義を行う。理解できるようになり、他の科目との学習の相乗効果を発揮させることも意識している。また、学問の体系的な理解と合わせ、この授業では、担当教員の実務経験に基づき、さらに実務との関係も理解出来るように指導を行う。なお、複式簿記の原理と一連の手続きなど複式簿記の基本・基礎を着実に、かつ、体系的に学び確実な理解ができるように授業を進めていく。そのために、当初に、複式簿記の原理・仕組みを明らかにしてから、基本的かつ重要な個別的項目における取引の簿記処理について演習問題を含めて、具体的、実践的に学習する。また、理解を確実にするために、必要に応じてミニテストを行う。</p>					
キーワード					
簿記、会計、財務会計、管理会計、経営					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことが出来る。				
評価方法	学期末試験	評価割合	90%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのではなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。				
評価方法	学期末試験	評価割合	10%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしないが、授業内での発言や発表等を思考力・判断力・表現力の評価として扱う場合がある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
特になし					
評価割合	0%				
▼公正性					
特になし					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第01回 入門簿記論の復習 ～複式簿記一巡の手順～ 第02回 その他の期中取引 1 第03回 その他の期中取引 2 第05回 決算整理 1 第06回 決算整理 2 第07回 決算整理 3 第08回 決算整理 4 第09回 決算整理 5 第10回 決算整理 6 第11回 決算整理 7 第12回 決算整理 8 第13回 決算整理 9 第14回 精算表の作成 第15回 総まとめ 定期試験
使用テキスト	レジュメを使用する。Teamsに事前にアップロードするので、各自でそれをダウンロードして使用する。なお、紙媒体又はタブレット等の資料形態は各自の自由とする。ただし、スマホで閲覧しながらの履修はメモをとることが難しいため学習効果の観点から推奨しない。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける。なお、復習は必須である。簿記の学習は積み重ねであり、日々の継続的な復習が重要な学問であるため、1回の授業に対して、最低90分は復習しないと、授業についていくことは難しい。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。
留意事項	電卓を用意すること。現在持っているものでよいが、新たに入手する場合には、はがきサイズのものがよい。価格は高いものでなくてもかまわない。講義中に、電卓についても改めて説明するので、事前に購入してきておく必要はない。カード式は計算が遅くなるしミスが少なくないので、薦められない。なお、授業中に課題の提出を受ける場合には、次の授業においてコメントを行う。

科目コード	41049	科目ナンバリング	MA20C10K	主な使用言語	日本語
授業名	応用簿記論				
担当者	竹内 翼				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜2限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	16, 17		

授業の概要

本講義では、財務会計の基礎となる商業簿記を学習します。日本商工会議所主催簿記検定2級（商業簿記）水準の複式簿記の構造に慣れ、知識を身につけることを目的とします。会計は、企業活動において経営成績及び財政状態を報告するためのツールです。日商簿記3級水準の修得者や講義受講者を対象に、企業活動への理解を深めるため貸借対照表・損益計算書から説明される内容や役割を、複式簿記を通じて理解します。

複式簿記の記帳技術は様々ありますが、本講義では仕訳を習得することを第一とします。仕訳習得を重視する理由は、取引を分類して帳簿に記載する1つ1つの積み上げが正確な財務諸表の作成に繋がるためです。講義は、テキストに沿って各取引の解説を行い、その都度、基本問題を解く形で進めていきます。簿記は、講義を聞くだけでは修得できず問題演習を通じて理解度が高まるので、積極的に問題を解くことを推奨します。

※授業計画は、授業の進行状況や学生の理解度に応じて変更する場合があります。
 ※実際の日商簿記検定2級では、工業簿記も試験範囲となっているため、合格を目標とする場合は別途工業簿記を学習することが望ましいです。
 ※元銀行員・税理士業務での実務経験を活かし、必要に応じて会計・税務・経営の事例を紹介しながら理解を深めていきます。

キーワード

簿記一巡、財務諸表、損益計算書、貸借対照表、銀行勘定調整表、売掛金、受取手形、電子記録債権、電子記録債務、三分法、売上原価対立法、返品、値引、割引、割戻、割引、役務収益、役務原価、売買目的有価証券、満期保有目的債券、子会社株式及び関連会社株式、その他有価証券

学位授与方針との関係	
▼知識・技能	
到達目標	財務会計の基礎となる商業簿記を学習し、日商簿記2級（商業簿記）水準の複式簿記の構造に慣れ、知識を身につけることを目標とする。経済的に複雑な取引であっても、簡単に仕訳ができる技能を身につける。
評価方法	記帳方式による学期末試験
評価割合	70%
▼思考力・判断力・表現力	
到達目標	財務諸表のうち貸借対照表・損益計算書から説明される内容・役割を、複式簿記を通じて理解する。仕訳習得を通じて、取引を分類して帳簿に記載する判断力を養う。また、1つ1つの仕訳を記帳するとどの様な結果になるか思考できることを目標とする。
評価方法	記帳方式による学期末試験
評価割合	30%
▼学修に主体的に取り組む態度	
直接的な評価対象とはしないが、授業内での発言や発表等を「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする場合がある。	
評価割合	0%
▼実践的ボランティア	
直接的な評価対象とはしないが、自身の活動等により深められた知見等が授業内や学期末試験等を通じて認められる際には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする場合がある。	
評価割合	0%
▼公正性	
直接的な評価対象とはしないが、講義を通じて著しく公正性を欠く言動・不正行為があった際は、減点や嚴重注意の対象となる場合がある。	
評価割合	0%
▼その他	
特になし	
評価割合	0%

授業計画	【第01回】 ガイダンス、簿記一巡の手続と財務諸表 【第02回】 現金預金と債権の譲渡 【第03回】 手形 【第04回】 有価証券 【第05回】 その他の債権・債務 【第06回】 商品売買①-三分法等 【第07回】 商品売買②-契約資産と契約負債等 【第08回】 固定資産①-有形固定資産等 【第09回】 固定資産②-無形固定資産、投資その他の資産等 【第10回】 引当金 【第11回】 収益と費用 【第12回】 リース会計 【第13回】 決算①-決算整理等 【第14回】 決算②-財務諸表の作成等 【第15回】 総括 定期試験
使用テキスト	編著者 渡部裕巨他『検定簿記講義／2級商業簿記〔2023年度版〕』『検定簿記ワークブック／2級商業簿記』 ※なお、新年度版が出版された場合には、新年度版を購入すること。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	事前にテキストの閲覧を行い、講義後に復習を実施する必要がある。比重は復習におくのがよい。講義を通じて得た理解が忘却する前に問題を解くことが肝要である。 標準的には、復習60分が目安となる。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。

授業時間外の連絡手段	必要に応じて、授業時にお知らせします。
留意事項	電卓を必ず用意すること。可能であればサイレントタッチで12桁表示の本格的なものが望ましい。

科目コード	41050	科目ナンバリング	MA20C11K	主な使用言語	日本語
授業名	会社簿記論				
担当者	竹内 翼				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜2限	履修可能学科等			
関連資格			AL要素	16, 17	
授業の概要					
<p>本講義では、財務会計の基礎となる商業簿記を学習します。前期の「応用簿記論」に引き続き、日本商工会議所主催簿記検定2級（商業簿記）水準の複式簿記の構造に慣れ、知識を身につけることを目的とします。応用簿記論が各種取引を取り扱っていたことに対し、「会社簿記論」では、株式会社における純資産、本支店会計、連結会計など組織構造が複雑になる取引を取り扱います。応用簿記論に引き続き、講義では仕訳を習得することを重視しますが、会社法等の法制度への理解や組織構造への理解も必要となります。社会環境の高度化に伴い、企業を取り巻く環境が複雑になっているためです。講義は、テキストに沿って各取引の解説を行い、その都度、基本問題を解く形で進めていきます。簿記は、講義を聞くだけでは修得できず問題演習を通じて理解度が高まるため、積極的に問題を解くことを推奨します。</p> <p>※授業計画は、授業の進行状況や学生の理解度に応じて変更する場合があります。 ※実際の日商簿記検定2級では、工業簿記も試験範囲となっているため、合格を目標とする場合は別途工業簿記を学習することが望ましいです。 ※元銀行員・税理士業務での実務経験を活かし、必要に応じて会計・税務・経営の事例を紹介しながら理解を深めていきます。</p>					
キーワード					
純資産、会社設立、開業、増資、合併、剰余金の処分、配当金、資本準備金、利益準備金、繰越利益剰余金、法人税、住民税及び事業税、消費税等、為替差損益、税効果会計、連結会計					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	前期の「応用簿記論」に引き続き、日本商工会議所主催簿記検定2級（商業簿記）水準の複式簿記の構造に慣れ、知識を身につけることを目標とする。				
評価方法	記帳方式による学期末試験	評価割合	70%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	株式会社特有の純資産、本支店会計、連結会計など組織構造が複雑になる取引を仕訳で理解する。また、このような仕訳を通して、株式会社のしくみまで理解できるようになる。結果として財務諸表の数値を読める思考力が身につく。				
評価方法	記帳方式による学期末試験	評価割合	30%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしないが、授業内での発言や発表等を「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする場合がある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしないが、自身の活動等により深められた知見等が授業内や学期末試験等を通じて認められる際には、「思考力・判断力・表現力」の評価対象とする場合がある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしないが、講義を通じて著しく公正性を欠く言動・不正行為があった際は、減点や厳重注意の対象となる場合がある。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	【第01回】 ガイダンス、株式会社の純資産①-意義、設立・開業 【第02回】 株式会社の純資産②-増資、剰余金の処分等 【第03回】 株式会社の純資産③-会社の合併、株主資本以外の純資産 【第04回】 税金①-法人税、住民税および事業税 【第05回】 税金②-消費税等の処理 【第06回】 外貨建取引 【第07回】 税効果会計 【第08回】 本支店会計①-意義、本支店間取引の処理等 【第09回】 本支店会計②-本支店会計における決算手続 【第10回】 連結会計①-意義、資本連結 【第11回】 連結会計②-非支配株主持分等 【第12回】 連結会計③-連結会社間取引の処理等 【第13回】 連結会計④-連結精算表 【第14回】 連結会計⑤-連結財務諸表の作成 【第15回】 総括 定期試験
使用テキスト	編著者 渡部裕巨他『検定簿記講義／2級商業簿記〔2023年度版〕』『検定簿記ワークブック／2級商業簿記』（前期科目「応用簿記論」と同一のテキストを使用） ※なお、新年度版が出版された場合には、新年度版を購入すること。 事前にテキストの閲覧を行い、講義後に復習を実施する必要がある。比重は復習におくのがよい。講義を通じて得た理解が忘却する前に問題を解くことが肝要である。 標準的には、復習60分が目安となる。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡して下さい。
授業時間外の連絡手段	必要に応じて、授業時にお知らせします。

留意事項

電卓を必ず用意すること。可能であればサイレントタッチで12桁表示の本格的なものが望ましい。

科目コード	41051	科目ナンバリング	MA21C03K	主な使用言語	日本語
授業名	財務会計論I				
担当者	栗原 正樹				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	月曜2限	履修可能学科等			
関連資格	AL要素		11. 討論		
授業の概要					
この授業では、会計を「①いまだのように行われているのか」「②なぜそのように行われているのか」「③今後もそれで良いのか」という3つの視点から捉え、考えていく。現実の世界において会計がどのようなルールに従って行われているのか、まずはそれを知ることが大切であるが、そのルールが今後も同じままであるとは限らない。現在の会計を取り巻く環境は激動の時代であり、会計も日々変化している。このような時代にあっては、ルールを暗記するような方法では対応できない。今あるルールをじっくりと見つめ、なぜこのようなルールになったのか、これからどう変わっていくのかを考え、自らの理性で変化を先取りする力が重要である。この授業では、基礎知識の習得はもとより、担当教員の実務経験を踏まえ、変化を先取りする力を身に付けるとともに、実践的に有用な能力を養成するための指導を行う。そのため、授業中は学生に徹底的に考えることを求め、必要に応じて発言を求めていく。					
キーワード					
財務会計、国際会計、IFRS					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことができる。				
評価方法	学期末試験	評価割合	80%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で学んだこと、問いかけられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのでもなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。				
評価方法	学期末試験	評価割合	10%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業内での発言や発表等に基づき評価する。					
評価割合	10%				
▼実践的ボランティア					
特になし					
評価割合	0%				
▼公正性					
特になし					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	[第01回] 財務会計の機能と制度会計 [第02回] 財務諸表の作成手続① [第03回] 財務諸表の作成手続② [第04回] 財務諸表の作成手続③ [第05回] 会計の歴史の変遷 [第06回] 企業会計の基準の役割 [第07回] 損益会計① [第08回] 損益会計② [第09回] 損益会計③ [第10回] 損益会計④ [第11回] 棚卸資産① [第12回] 棚卸資産② [第13回] 有形固定資産① [第14回] 有形固定資産② [第15回] 有形固定資産③ 定期試験
使用テキスト	レジュメを使用する。Teamsに事前にアップロードするので、各自でそれをダウンロードして使用する。なお、紙媒体又はタブレット等の資料形態は各自の自由とする。ただし、スマホで閲覧しながらの履修はメモをとることが難しいため学習効果の観点から推奨しない。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける(90分)。授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい(90分)。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。
留意事項	なし

科目コード	41052	科目ナンバリング	MA22C04K	主な使用言語	日本語
授業名	財務会計論II				
担当者	栗原 正樹				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	月曜2限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	11. 討論		
授業の概要					
この授業では、会計を「①いまだのように行われているのか」「②なぜそのように行われているのか」「③今後もそれで良いのか」という3つの視点から捉え、考えていく。現実の世界において会計がどのようなルールに従って行われているのか、まずはそれを知ることが大切であるが、そのルールが今後も同じままであるとは限らない。現在の会計を取り巻く環境は激動の時代であり、会計も日々変化している。このような時代にあっては、ルールを暗記するような方法では対応できない。今あるルールをじっくりと見つめ、なぜこのようなルールになったのか、これからどう変わっていくのかを考え、自らの理性で変化を先取りする力が重要である。この授業では、基礎知識の習得はもとより、担当教員の実務経験を踏まえ、変化を先取りする力を身に付けるとともに、実践的に有用な能力を養成するための指導を行う。そのため、授業中は学生に徹底的に考えることを求め、必要に応じて発言を求めている。					
キーワード					
財務会計、国際会計、IFRS					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で学んだ知識について、主要な項目を理解し、用語を使いこなすことができる。				
評価方法	学期末試験	評価割合	80%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で学んだこと、問いかげられた内容について、単なる思い込みでも、他者の意見に流されるのではなく、自分で主体的に考え、自らの所見を表現することができる。				
評価方法	学期末試験	評価割合	10%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業内での発言や発表等に基づき評価する。					
評価割合	10%				
▼実践的ボランティア					
特になし					
評価割合	0%				
▼公正性					
特になし					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	[第01回] 前期の復習と整理① [第02回] 前期の復習と整理② [第03回] 前期の復習と整理③ [第04回] 固定資産① [第05回] 固定資産② [第06回] 固定資産③ [第07回] 負債総論 [第08回] 引当金① [第09回] 引当金② [第10回] 財務諸表① [第11回] 財務諸表② [第12回] 財務会計の概念フレームワーク① [第13回] 財務会計の概念フレームワーク② [第14回] まとめ① [第15回] まとめ② 定期試験
使用テキスト	レジュメを使用する。Teamsに事前にアップロードするので、各自でそれをダウンロードして使用する。なお、紙媒体又はタブレット等の資料形態は各自の自由とする。ただし、スマホで閲覧しながらの履修はメモをとることが難しいため学習効果の観点から推奨しない。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業前に、その回のテーマについて自分なりに調べ、授業がより深い学びとなるように心がける(90分)。授業後、授業の内容について自分なりに検討し、他者と討論を行い、理解を深めることが望ましい(90分)。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	研究室に在室中は随時対応。その他授業中に指示します。
留意事項	授業中に提出を受けた課題については、次の授業でコメントします。

科目コード	41085	科目ナンバリング	MA20C19K	主な使用言語	日本語
授業名	公共経営特講				
担当者	野口 通				
基本情報					
年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	月曜4限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	10. 資料調査課題 16. 振り返り用紙と応答		
授業の概要					
<p>本授業は、公共経営の中で重要な位置を占める地方行政について実践的な視点から学ぶ「実践的_{地方行政論}」である。地方自治体がどのような課題に対しどのように政策を立案し実施しているのか、その過程で直面する困難をどう乗り越えているのかなどを具体的に学ぶ。実例としては、担当者の経験の他、今の動きを捉えた新聞記事などを取り上げる。何が行われているかという事実を知るだけでなく、なぜそのようなことが行われているのかの理解を重視する。また、自ら地域振興のための課題を分析し具体的な対応策について考える機会を提供する。</p> <p>なお、授業担当者は長年茨城県庁の最前線において、新規事業の企画・実践を含む様々な業務に携わってきた。その実務経験を活かし、授業を進めていく。</p>					
キーワード					
地方行政、地方自治体、公共、地方自治法、首長、議会、地方公務員、税、財政、計画、共創、地域振興、街づくり					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けた地方行政の仕組みや自治体の実践例について、基本的な事項を理解し説明することができる。				
評価方法	授業後のレポート	評価割合	40%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見や経験を踏まえて考察し、自らの所見を明確に表現することができる。				
評価方法	授業後のレポート、学期末レポート	評価割合	60%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、調査や考察等に時間をかけるなど、自主的な学修に積極的に取り組んだことが学期末レポートなどにより認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象になり得る。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティアリズム					
直接的な評価対象とはしない。ただし、地域におけるボランティア活動等により、本授業のテーマに関わる実践的な知見が深まっていることが学期末レポートなどにより認められる場合は、「思考力・判断力・表現力」の評価対象になり得る。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業の進行や他の学生の学習を妨げる言動、差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や厳重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション：本授業のテーマ。「公共」、「地域振興」について。 2 地方行政基礎知識(1)：組織、首長と議会、税・財政 3 地方行政基礎知識(2)：法律、権限、国と地方の関係 4 地方行政基礎知識(3)：自治体共通の課題 5 自治体の今-新聞記事から考える(1)：観光、地元産品 6 自治体の今-新聞記事から考える(2)：街づくり 7 自治体の今-新聞記事から考える(3)：産業振興(企業誘致、ベンチャー育成を含む) 8 自治体の今-新聞記事から考える(4)：交通問題 9 自治体の今-新聞記事から考える(5)：人口減少、少子化・高齢化対策 10 自治体の今-新聞記事から考える(6)：教育、文化 11 仕事の進め方：問題把握から対応策立案・実行、チェックまで 12 計画行政：計画の必要性、様々な計画、計画の立て方 13 地域振興について：地域振興とはどういうことか。何をすればいいのか(今行われていることは適切か、十分か)。 14 自分が首長/議員/自治体職員だったら：特定の地域について、自分なら今何をすべきか考える 15 まとめ：これからの地方行政。地域をもっと元気にするために
使用テキスト	<p>※順番や一部の内容は変わることがあります。</p> <p>授業で使用する資料は原則としてPDFで配信する。</p>
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	<p>予習：随時、自ら調べたり考えたりすることが望ましい事項を伝え、参考資料がある場合は提示するので、それらに基づき準備の上、授業に臨んで欲しい。</p> <p>復習：授業内容を振り返り、自分が予め考えたことについて補足、修正等があるか考えて欲しい。</p> <p>参考文献：地方自治について理解を深めたい学生には、次の書籍を勧める。</p> <p>曾我謙悟『日本の地方政府』中央公論新社、2019</p> <p>大森彌・大杉寛『これからの地方自治の教科書 改訂版』第一法規株式会社、2021</p>
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	メールで対応します。アドレスは初回の授業でお知らせします。
留意事項	デバイスの持参を推奨します。

科目コード	41114	科目ナンバリング	MA10B03K	主な使用言語	日本語
授業名	行政学				
担当者	林 寛一				
基本情報					
年次	1年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜2限	履修可能学科等			
関連資格			AL要素	16. 振り返り用紙と応答	
授業の概要					
この授業では、国と地方の行政の特徴を理解する上での必要最低限の基礎的知識を身に付けますが、単に知識の修得だけではなく、その知識を活かして国と地方の行政上の諸問題について自ら考えたり、一歩踏み込んで分析したりする力を身につけることを目指しています。「地方行政学」が、文字通り、地方の行政に特化して授業を行います。この「行政学」は、国の行政を中心に授業を展開します。					
キーワード					
国家公務員、内閣制度、中央省庁、官僚制、行政改革、予算編成、地方財政、大都市行政、広域行政、行政責任					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説を受けた行政学の基本的な知識・技能について、概ね80%の事項を理解し、解答することができる。				
評価方法	学期末筆記試験又は課題・レポート	評価割合	60%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱った内容について、自主学修によって得た知識や経験をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現できる。				
評価方法	学期末筆記試験又は課題・レポート	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
直接的な評価対象とはしない。ただし、自主的な学習によって自身の知見に追加された成果等が学期末筆記試験等の記述内容により認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。					
評価割合	0%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただし、ボランティア活動等の実践により深められた知見等が学期末筆記試験等の記述内容により認められる場合は、上記項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることもある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や学期末筆記試験等の記述において人権侵害・差別的な発言など著しく公正性を欠け言動やカンニング等の不正行為があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	第1回：行政学とはどのような学問か（授業概要説明を含む） 第2回：国家公務員について 第3回：内閣制度について 第4回：中央省庁一制度・意思決定・役割 第5回：予算編成について 第6回：官民関係の見直し 第7回：中央地方関係について 第8回：地方財政と三位一体改革 第9回：大都市行政と広域行政 第10回：官僚制論について 第11回：行政責任について 第12回：日本の行政システム 第13回：行政学説史ーアメリカを中心に 第14回：社会科学としての行政学 第15回：まとめ 定期試験
使用テキスト	真淵勝『行政学案内（第3版）』慈学社、2022年。
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	授業前には、その回のテーマのわからない用語を調べておくこと（60分）。 授業後、その回の授業について復習するとともに、関連事項についても自主学修を通じて知見を深めることが望ましい（60分）。 参考文献及び参考資料については、必要に応じて、その回の授業で伝える。又は配付資料等に掲載する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応しますが、まずは学務部等に連絡してください。
授業時間外の連絡手段	初回の授業でお知らせします。
留意事項	特になし

科目コード	41130	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	マーケティングコミュニケーション論				
担当者	澤端 智良				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	木曜6限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	07発表、11討論、16振り返り用紙と応答、17発問と回答		
授業の概要					
<p>マーケティング・コミュニケーションとは、広告・広報・セールスプロモーション・イベント・ブランドコミュニティなど、企業が顧客との関係性構築のために行う活動全般を指す。企業にとって、顧客とのあらゆる接点をいかにマネジメントするかは、事業の成否に大きく影響するようになってきている。</p> <p>本科目では、マーケティング・コミュニケーションに関する基礎的な概念や理論を学ぶことで、企業・消費者双方の立場からマーケティング・コミュニケーションの役割や機能を理解することを目標に講義を進めていく。広告をはじめとする様々なプロモーション手段の理解に加え、マーケティング活動全般の視点から企業のコミュニケーション活動を評価・分析できるようになることを目指す。</p>					
キーワード					
コミュニケーション、顧客接点、広告、広報、セールス・プロモーション					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	授業で解説した「マーケティング・コミュニケーション」に関する概念や理論について正しく理解し説明することができる。				
評価方法	定期試験	評価割合	40%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で学習した「マーケティング・コミュニケーション」に関する基礎的な概念・理論を用いて、企業の広告・販促活動等の事例を分析し、論理的に説明できる。				
評価方法	定期試験	評価割合	40%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
授業期間内に複数回実施する予定のレポートや課題に取り組み、提出すること。					
評価割合	20%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。ただしボランティア活動等の実践により深められた知見等が認められる場合は、上記の項目「思考力・判断力・表現力」の評価対象とすることがある。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし授業中の発言等において人権侵害・差別的発言など著しく公正性を欠く言動があった場合は、減点や嚴重注意の対象となるので注意すること。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし					
評価割合	0%				

授業計画	<p>【第1回】 ガイダンス：マーケティング・コミュニケーションとは何か</p> <p>【第2回】 広告とは何か：広告の定義と種類／広告の機能と役割</p> <p>【第3回】 広告と社会志向・社会倫理</p> <p>【第4回】 広報・パブリシティ／セールス・プロモーション</p> <p>【第5回】 デジタル・マーケティング・コミュニケーションとPESOモデル</p> <p>【第6回】 何をどのように伝えるか：コンセプトとコピーワーク</p> <p>【第7回】 マーケティングコミュニケーションの設計・計画と効果測定</p> <p>【第8回】 マーケティング・コミュニケーションの実務&minus;：広告会社や「宣伝部」の仕事</p> <p>【第9回】 マーケティング・コミュニケーションによる市場創造</p> <p>【第10回】 ブランドとマーケティング・コミュニケーション</p> <p>【第11回】 ブランド・コミュニティ &minus;：顧客との関係性構築</p> <p>【第12回】 コーポレート・コミュニケーション／BtoBブランディング</p> <p>【第13回】 コミュニケーション・メディアとしての企業博物館</p> <p>【第14回】 アートプレイス &minus;：企業は芸術支援から何を得的のか</p> <p>【第15回】 地域プロモーション／全体のまとめ</p> <p>期末試験</p>
使用テキスト	特定の教科書は使用しない。授業で使う資料はPDFにしてUNIPA等へアップする（授業で使用するスライド等は特別な場合を除き紙では配布はしない）
予習・復習のポイントと参考文献・資料等	次回授業のテーマやキーワードについて参考文献やWeb等で調べ、事前に大まかな内容を理解しておくこと（60分）。また、授業後は学習した内容を振り返り理解しておくこと（60分）。その他、別途資料を配布した際などは、事前に必ず目を通したうえで授業に参加すること。参考文献や資料等は、必要に応じ 授業内で適宜紹介する。
障がいのある履修者への対応	可能な限り対応するので、まずは学務部等に連絡すること。
授業時間外の連絡手段	オフィスアワーに研究室で対応する。曜日・時間等については授業内で案内する。
留意事項	<p>授業期間内に複数回課す「レポート類」やと期末試験を総合して評価する。講義形式を中心に進めていくが、授業中に簡単なワークなどに取り組んでもらうこともある。その際は積極的に議論に参加をし、発言・発表を求められた場合はきちんと対応すること（参加意欲を持った学生のみ履修して欲しい）。</p> <p>なお、授業実施期間内に提出締切が設定されたレポート課題については、授業のなかで全体に対しフィードバックを行う。</p> <p>BYOD導入に伴い、講義資料はUNIPA等へアップすることとし、原則として紙では配布しない。手元に資料が必要な場合はデバイスを持参するなど各自で対応すること。</p>

科目コード	41133	科目ナンバリング		主な使用言語	日本語
授業名	中小企業経営論				
担当者	権名 則夫				
基本情報					
年次	2年	単位数	2単位	授業形式	
曜日時限	火曜5限	履修可能学科等			
関連資格		AL要素	17. 発問と回答		
授業の概要					
日本経済の基盤を支える中小企業について、その現状、課題、および潜在力を多角的に理解する。特に、成長戦略、DX・GX、イノベーション、グローバル化、事業承継などの今日的論点を学ぶ。さらに、産業活性化の観点で注目を集めるスタートアップについて概観する。これらを通じて、中小企業のさまざまな課題に対して主体的に解決策を見出すことができるための基礎力を身につけることを到達目標とする。					
キーワード					
中小企業経営 事業承継 スタートアップ					

学位授与方針との関係					
▼知識・技能					
到達目標	中小企業の現状・課題・潜在力を、授業で解説を受けた概念・枠組みを用いて理解し、概ね80%適確に解答することができる。				
評価方法	学期末筆記試験	評価割合	50%		
▼思考力・判断力・表現力					
到達目標	授業で扱う概念・枠組みを用いて、課題となる事例を分析し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。				
評価方法	レポートおよびプレゼンテーション	評価割合	30%		
▼学修に主体的に取り組む態度					
出席状況を含めた授業態度。発表・発言などで積極的に授業に貢献した場合は10%程度の加点を行う。					
評価割合	20%				
▼実践的ボランティア					
直接的な評価対象とはしない。					
評価割合	0%				
▼公正性					
直接的な評価対象とはしない。ただし、授業中の発言や小テスト・レポートの記述等において人権侵害・差別的発言など著しく公平性を欠く言動やカンニング等の不正行為があった場合には、減点や厳重注意の対象となる。					
評価割合	0%				
▼その他					
特になし。					
評価割合	0%				

授業計画	<p>第01回 ガイダンス データで見る日本の中小企業（中小企業白書のデータを俯瞰し、大企業との比較および産業構造の視点から中小企業の特徴を把握する）</p> <p>第02回 中小企業の戦後の歩みと政策（戦後の中小企業の発展を1980年代までと1990年代以降に分けて整理し、あわせて中小企業政策の変遷をおさえる）</p> <p>第03回 中小企業の存立原理（大企業の規模の経済的範囲外、不完全競争、企業・事業のライフサイクルとディスラプターとしての新興企業など、中小企業の存立を説明する経済学的視座を整理する。さらに大企業との取引関係についても触れる）</p> <p>第04回 職場としての中小企業（経営者のインセンティブ、従業員の賃金・待遇、専門化と多能工化、独立などに関して大企業との比較を踏まえて中小企業の特徴を整理する）</p> <p>第05回 中小企業の金融（収益性、財務体質、取引先との資金繰り関係、銀行との関係、公的金融支援、フィンテックの役割、経営者保証などを取り上げる）</p> <p>第06回 中小企業の事例 製造業編（大田区・東大阪などの産業クラスター、海外展開などの紹介を予定）</p> <p>第07回 中小企業の事例 非製造業編（大店法・フランチャイズシステムなど外部環境の整理と事例紹介を予定）</p> <p>第08回 中小企業と社会課題（DX、GX、待遇、少子高齢化、グローバル化、イノベーションなどの諸点で中小企業に期待されることを整理する）</p> <p>第09回 事業承継I（過剰債務ないし後継者難に直面する中小企業の現状を理解し、廃業・事業譲渡<M&A>・EBOなどの選択肢を整理する）</p> <p>第10回 事業承継II（事業承継を促進する助言・金融・法務などの事業者を紹介し、事業承継を成長戦略にすえる企業を分析する）</p> <p>第11回 スタートアップI（スタートアップを定義し、その今日の特徴を整理する。次にスタートアップの成長ステージを整理し、内外のユニコーンと呼ばれる企業を紹介する）</p> <p>第12回 スタートアップII（スタートアップをサポートするエコシステムを紹介し、スタートアップで一般的に考えられるビジネスモデルキャンパスの考え方を学ぶ）</p> <p>第13回 新興企業事例I（上場に至りさらに成長を続ける企業を事例にビジネスモデルキャンパスを適用して分析し、その成功要因や重要なKPIを抽出する；2020等を予定）</p> <p>第14回 新興企業事例II（第14回に続き、メルカリ等を分析する予定）</p> <p>第15回 中小企業の将来展望、まとめ、Q&A</p> <p>授業計画は授業の進度に応じて変更することがあります。</p>				
使用テキスト	<p>特定のテキストを使用しません。毎回レジュメ・資料を用意します。中小企業庁による中小企業白書は基本文献として適宜熟読してください。</p> <p>https://www.chusho.meti.go.jp/pamflat/hakusyo/index.html</p>				

<p>予習・復習のポイントと参考文献・資料等</p>	<p>予習においては、レジュメに目を通し疑問点などを整理して授業に臨んでください。 復習においては、講義のまとめを随時していただくとともに、課題がある場合は都度期限までに提出してください。</p> <p>参考文献 『よくわかる中小企業』関智宏編著 ミネルヴァ書房 2020年 『中小企業・スタートアップを読み解く 伝統と革新、地域と世界』加藤厚海 福嶋路 宇田忠司著 有斐閣ストウディア 2023年 『21世紀中小企業論 多様性と可能性を探る 第4版』渡辺幸雄 小川正博 黒瀬直宏 向山雅夫著 有斐閣アルマ 2022年 『日本の中小企業 少子高齢化時代の起業・経営・承継』関満博著 中公新書 2017年</p>
<p>障がいのある履修者への対応</p>	<p>可能な限り対応しますので、まずは学務部等に連絡してください。</p>
<p>授業時間外の連絡手段</p>	<p>オフィスアワーに対応します。連絡方法は初回の授業でお知らせします。</p>
<p>留意事項</p>	<p>日頃から経済ニュースに触れ、気になる企業に出会った場合は深掘りするように心がけてください。</p>